

Hitachi Navigation Platform

ナビゲーション プラットフォーム 導入から運用
まで

解説・手引・文法・操作書

3021-3-023-30

前書き

■ 対象製品

P-2943-4PA4 Hitachi Navigation Platform 10-50 (適用 OS : Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2, Windows Server 2016)

P-2943-4VA4 Hitachi Navigation Platform for Developers 10-50 (適用 OS : Windows 7 x64, Windows 8 x64, Windows 8.1 x64, Windows 10 x64)

P-292C-4PBL JP1/Navigation Platform 11-50 (適用 OS : Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2, Windows Server 2016)

P-292C-4VBL JP1/Navigation Platform for Developers 11-50 (適用 OS : Windows 7 x64, Windows 8 x64, Windows 8.1 x64, Windows 10 x64)

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, Cosminexus, HiRDB, JP1, uCosminexus は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Borland のブランド名および製品名はすべて、米国 Borland Software Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

iOS は、Apple Inc. の OS 名称です。IOS は、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

RSA および BSAFE は、米国 EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、および Intel Core は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>
This product includes software developed by Andy Clark.

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

This product includes software developed by Daisuke Okajima and Kohsuke Kawaguchi (<http://relaxngcc.sf.net/>).

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>).

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by the Java Apache Project for use in the Apache JServ servlet engine project (<http://java.apache.org/>).

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Eclipse は、開発ツールプロバイダのオープンコミュニティである Eclipse Foundation, Inc.により構築された開発ツール統合のためのオープンプラットフォームです。

HITACHI
Inspire the Next

株式会社 日立製作所



本製品は、米国 EMC コーポレーションの RSA BSAFE(R)ソフトウェアを搭載しています。



■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		製品名	
Active Directory		Microsoft(R) Active Directory	
Internet Explorer	Internet Explorer 8	Windows(R) Internet Explorer(R) 8	
	Internet Explorer 9	Windows(R) Internet Explorer(R) 9	
	Internet Explorer 10	Windows(R) Internet Explorer(R) 10	
	Internet Explorer 11	Windows(R) Internet Explorer(R) 11	
Windows	Windows 7	Windows 7 x64	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise(64 ビット版)
			Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional(64 ビット版)
			Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate(64 ビット版)
	Windows 8	Windows 8 x64	Windows 8 Enterprise (64 ビット版)
			Windows 8 Pro(64 ビット版)
	Windows 8.1	Windows 8.1 x64	Windows(R) 8.1 Enterprise(64 ビット版)
			Windows(R) 8.1 Pro(64 ビット版)
	Windows 10	Windows 10 x64	Windows(R) 10 Enterprise (64 ビット版)
			Windows(R) 10 Pro (64 ビット版)
	Windows Server 2008 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard	

表記		製品名
Windows	Windows Server 2012	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
	Windows Server 2012 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
	Windows Server 2016	Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard

■ 発行

2017年11月 3021-3-023-30

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2014, 2017, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3021-3-023-30) Hitachi Navigation Platform 10-50, Hitachi Navigation Platform for Developers 10-50, JP1/Navigation Platform 11-50, JP1/Navigation Platform for Developers 11-50

追加・変更内容	変更箇所
ナビゲーション プラットフォームを運用するために推奨するマシンスペックと設定を変更しました。	3.3.1
Web ブラウザと OS の組み合わせで、Mobile Safari の OS のバージョンを変更しました。	3.3.3
Mobile Safari の設定に関する注意事項を変更しました。	3.3.4(5)
Mobile Safari の操作に関する注意事項を追加しました	3.3.4(6)
ナビゲーション プラットフォームのディレクトリ構成に Elastic を追加しました。	3.5.3
バージョンアップをするための条件に、ダッシュボードサーバを停止した状態を追加しました。	3.8.1
バージョンアップの対象に、次のデータを追加しました。 <ul style="list-style-type: none">ダッシュボード機能のアクセスユーザ管理ファイルダッシュボードサーバのメモリ容量の設定ナビゲーションプラットフォームに関連するタスク	3.8.2
バージョンアップ対象データのバックアップ手順に、次の内容を追加しました。 <ul style="list-style-type: none">ダッシュボードサーバのメモリ容量の設定のバックアップ方法ナビゲーションプラットフォームに関連するタスクのバックアップ方法	3.8.3(1)
バージョンアップ対象データのリストア手順に、ダッシュボード機能のアクセスユーザ管理ファイルのリストア方法を追加しました。	3.8.3(11)
バージョンアップ手順に、ダッシュボードサーバのメモリ容量を再設定する方法を追加しました。	3.8.3(14)
バージョンアップ手順に、ナビゲーションプラットフォームに関連するタスクの設定をリストア方法を追加しました。	3.8.3(15)
システム全体をバックアップする手順に、次の内容を追加しました。 <ul style="list-style-type: none">ダッシュボードサーバのメモリ設定のバックアップ方法ナビゲーションプラットフォームに関連するタスクのバックアップ方法	5.2.2
システム全体をリストアする手順に、次の内容を追加しました。 <ul style="list-style-type: none">ダッシュボードサーバのメモリ設定のバックアップ方法ナビゲーションプラットフォームに関連するタスクのバックアップ方法	5.2.5

追加・変更内容	変更箇所
バックアップしたデータをリストアする（同じマシンに再構築する場合、ユーザプラグインを使用していないとき）手順に、次の内容を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードサーバのメモリ設定のバックアップ方法 ナビゲーションプラットフォームに関連するタスクのバックアップ方法 	5.2.6
バックアップしたデータをリストアする（同じマシンに再構築する場合、ユーザプラグインを使用しているとき）手順に、次の内容を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードサーバのメモリ設定のバックアップ方法 ナビゲーションプラットフォームに関連するタスクのバックアップ方法 	5.2.7
ダッシュボード機能をセットアップ時の状態に復元する手順を追加しました。	5.2.9
操作ログの解析にダッシュボード機能を利用する場合の説明を追加しました。	5.4, 5.4.4, 10.3
ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) に、次のプロパティを追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> ucnp.setup.server.dashboard.storage.http.port ucnp.setup.server.dashboard.storage.transport.tcp.port ucnp.setup.server.dashboard.web.server.port ucnp.setup.server.dashboard.web.userid ucnp.setup.server.dashboard.web.password 	8.3.1, 8.3.3(24), 8.3.3(25), 8.3.3(26), 8.3.3(27), 8.3.3(28), 付録 D.1, 付録 D.2
サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) に、次のプロパティを追加します。 <ul style="list-style-type: none"> NPDASHBOARDANLTIME 	8.4.1, 8.4.3(3)
ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) に、次のプロパティを追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> ucnp.base.server.dashboard.link.display 	8.5.1, 8.5.3(65), 付録 D.1, 付録 D.2, 付録 D.3
リンクの表示文字列を設定するときの文字数の説明を変更しました。	8.7.2
次のコマンドを追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> npdashboardremoveolddata コマンド（解析情報削除） npdashboardsetstoragememory コマンド（ストレージメモリ設定変更） npuploadoplog コマンド（操作ログのアップロード） 	9.1.1, 9.4, 9.5, 9.21
npdatabackup コマンド（環境回避）でバックアップされるデータに、ダッシュボード機能のアクセスユーザ管理ファイルを追加しました。	9.6
トラブルシュート情報の 1 次資料としてデフォルトで取得される情報に、次の内容を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードサーバの設定ファイル ダッシュボードサーバのログファイル 	9.16
トラブルシュート情報の 2 次資料としてデフォルトで取得される情報に、次の内容を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードサーバのレジストリの一覧 	9.16

追加・変更内容	変更箇所
<p>ナビゲーション プラットフォームで使用するポート番号に、次の番号を追加しました。</p> <ul style="list-style-type: none">• 24705(TCP) ダッシュボードストレージサービスの HTTP ポート番号• 24706(TCP) ダッシュボードストレージサービスのノード間通信のポート番号• 24707(TCP) ダッシュボード Web サービスの HTTP ポート番号	<p>付録 B.1</p>

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、次に示すプログラムプロダクトの概要、機能、およびシステムへの導入から運用までの作業について説明したものです。

- Hitachi Navigation Platform
- Hitachi Navigation Platform for Developers
- JP1/Navigation Platform
- JP1/Navigation Platform for Developers

■ 表記について

このマニュアルでは、上記プログラムプロダクトの名称を次のように表記しています。

表記	プログラムプロダクト名	
ナビゲーション プラットフォーム	Navigation Platform	Hitachi Navigation Platform
		JP1/Navigation Platform
	Navigation Platform for Developers	Hitachi Navigation Platform for Developers
		JP1/Navigation Platform for Developers

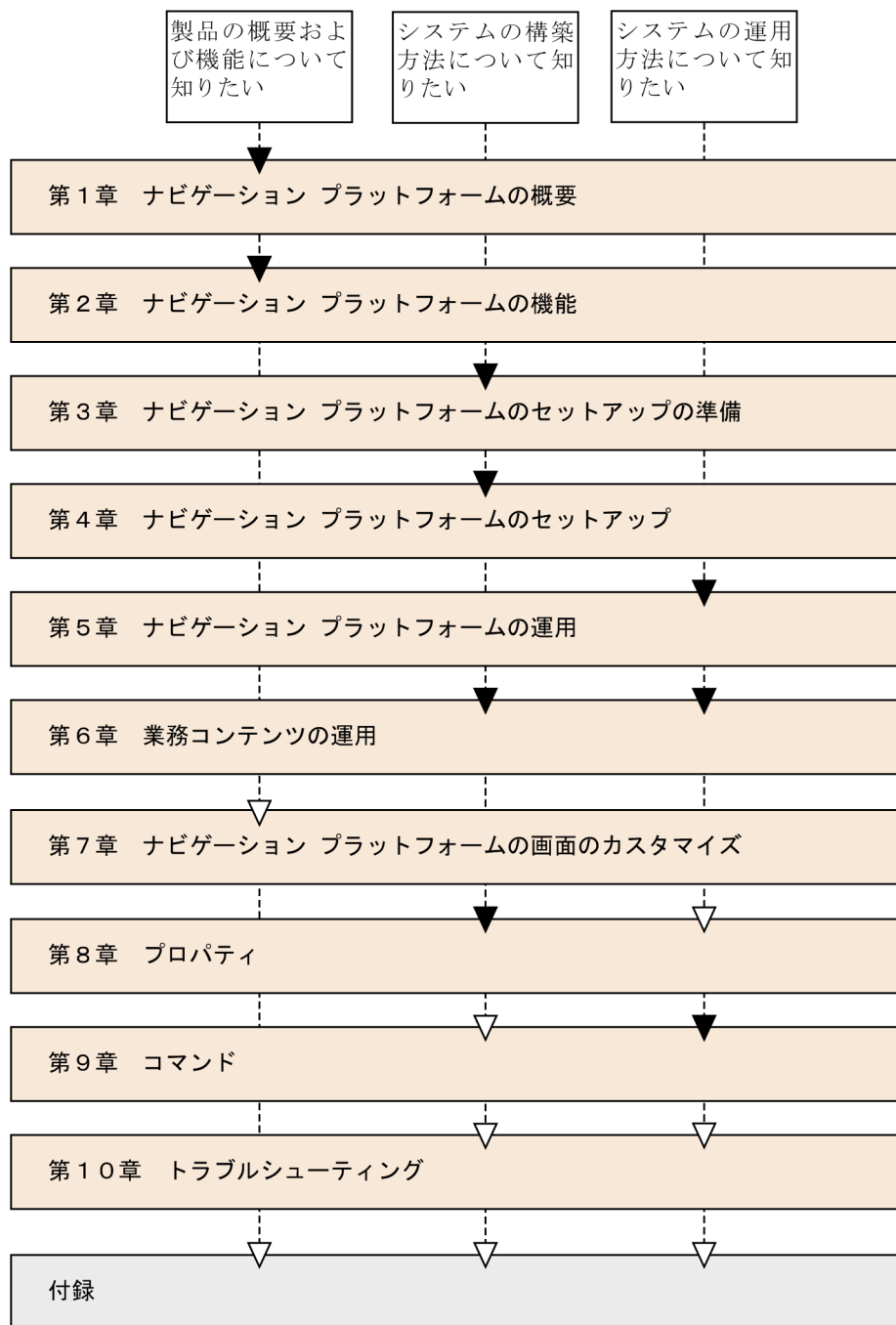
■ 対象読者

このマニュアルは、ナビゲーション プラットフォームをシステムに導入、運用するユーザを対象としています。ナビゲーション プラットフォームをシステムに導入、運用するユーザは、次に示す知識を持っていることを前提としています。

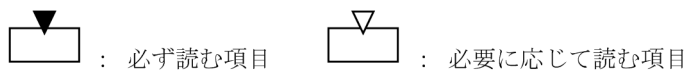
- Windows のシステム管理に関する知識
- ディレクトリサーバ (Active Directory) の基本的な知識

■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて次の個所をお読みいただくことをお勧めします。



(凡例)



■ このマニュアルの画面や操作の説明で使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用して画面や操作を説明しています。

記号	説明
< >	キーボードのキーを表します。

記号	説明
[]	ダイアログ名、メニュー項目名、ボタン名、および画面に表示されている項目名を表します。
[] - []	-の前に示したメニューから、-の後ろのメニューを選択することを表します。
文字列	文字列が斜体になっている項目は、可変の文字列を表します。

■ このマニュアルのコマンドおよび URL の説明で使用している記号

このマニュアルのコマンドおよび URL の説明で使用する記号について次に示します。

記号	説明
	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」を意味します。
[]	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。
△	半角スペースであることを示します。
...	直前の値を繰り返すことを示します。

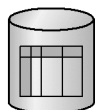
■ 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

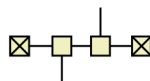
●サーバ



●データベース



●バス型のLAN



目次

前書き	2
変更内容	6
はじめに	9

第1編 概要編

1	ナビゲーションプラットフォームの概要	19
1.1	ナビゲーションプラットフォームとは	20
1.1.1	製品の特長	20
1.1.2	製品体系	23
1.2	導入から運用までの作業の概要	24
1.2.1	作業の流れ	24
1.2.2	ナビゲーションプラットフォームの環境ごとの作業内容	26
2	ナビゲーションプラットフォームの機能	28
2.1	業務コンテンツの利用と作成	29
2.1.1	業務実行画面でできること	29
2.1.2	業務編集画面でできること	31
2.1.3	ナビゲーションプラットフォームの画面にアクセスするためのURL	32
2.1.4	基本URLに指定できるパラメタ	35
2.1.5	ナビゲーションプラットフォームにログインするためのIDとパスワード	38
2.2	外部プログラムとの連携	40
2.2.1	システムプラグイン	40
2.2.2	ユーザプラグイン	42

第2編 構築編

3	ナビゲーションプラットフォームのセットアップの準備	45
3.1	セットアップまでの流れ	46
3.2	システム構成	47
3.2.1	システム構成の検討	47
3.2.2	認証サーバ導入の検討	48
3.2.3	システム構成例	48
3.3	システム構築の前提条件	53
3.3.1	ナビゲーションプラットフォームで使用するマシンの推奨マシンスペック	53
3.3.2	ナビゲーションプラットフォームで使用できるユーザ認証の種類	54

3.3.3	ナビゲーション プラットフォームで使用できる Web ブラウザ	55
3.3.4	Web ブラウザを操作するときの注意事項	56
3.4	システムの見積もり	60
3.4.1	データベースサーバの容量の見積もり	60
3.4.2	操作ログのファイル容量の見積もり	60
3.4.3	中断再開プラグインを使用する場合の容量の見積もり	62
3.5	ナビゲーション プラットフォームのインストール	64
3.5.1	インストール前に確認すること	64
3.5.2	新規インストール手順	65
3.5.3	ナビゲーション プラットフォームのディレクトリ構成	66
3.6	ナビゲーション プラットフォームのバージョンアップ	68
3.7	Hitachi Navigation Platform 10-00 より前からバージョンアップする場合	69
3.7.1	バージョンアップ前に確認すること	69
3.7.2	バージョンアップできるデータ	70
3.7.3	バージョンアップ手順	72
3.7.4	バージョンアップ後に確認すること	77
3.8	Hitachi Navigation Platform 10-00 以降からバージョンアップする場合	79
3.8.1	バージョンアップ前に確認すること	80
3.8.2	バージョンアップできるデータ	80
3.8.3	バージョンアップ手順	81
3.8.4	バージョンアップ後に確認すること	90
3.9	修正パッチの適用手順	91
3.10	ナビゲーション プラットフォームのアンインストール	92
3.10.1	Windows の機能を使ってナビゲーション プラットフォームをアンインストールする	92
3.10.2	日立総合インストーラを使ってナビゲーション プラットフォームをアンインストールする	93
4	ナビゲーション プラットフォームのセットアップ	94
4.1	セットアップ前に確認すること	95
4.2	Active Directory によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備	96
4.3	JP1/Base によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備	97
4.3.1	ナビゲーション プラットフォームで使用できる JP1 資源グループ	97
4.3.2	ナビゲーション プラットフォームで使用できる JP1 権限レベル	98
4.3.3	JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせ	99
4.3.4	JP1 ユーザの登録手順	101
4.3.5	サービス起動順序の設定手順	102
4.4	セットアップ手順	103
4.5	アンセットアップ前の注意点	106
4.6	アンセットアップ手順	107
4.7	セットアップ後の作業の流れ	108

第3編 運用編

5 ナビゲーション プラットフォームの運用 111

- 5.1 システムの起動と停止 112
 - 5.1.1 コマンドを実行してナビゲーション プラットフォーム (システム) を起動する 112
 - 5.1.2 コマンドを実行してナビゲーション プラットフォーム (システム) を停止する 113
 - 5.1.3 ナビゲーション プラットフォーム (システム) を起動または停止するための Windows サービス 114
- 5.2 バックアップとリストアの必要性 116
 - 5.2.1 バックアップするタイミングとデータについて 116
 - 5.2.2 システム全体をバックアップする 117
 - 5.2.3 業務コンテンツだけをバックアップする 118
 - 5.2.4 リストアするタイミングとデータについて 118
 - 5.2.5 システム全体をリストアする (ほかのマシンに再構築する場合) 118
 - 5.2.6 バックアップしたデータをリストアする (同じマシンに再構築する場合で、ユーザプラグインを使用していないとき) 120
 - 5.2.7 バックアップしたデータをリストアする (同じマシンに再構築する場合で、ユーザプラグインを使用しているとき) 121
 - 5.2.8 業務コンテンツだけをリストアする 122
 - 5.2.9 ダッシュボード機能をセットアップ時の状態に復元する 123
- 5.3 データベースの運用 125
 - 5.3.1 データベースの利用状況の確認 126
 - 5.3.2 データベースの拡張 126
 - 5.3.3 データベースの再編成 126
- 5.4 業務コンテンツの操作ログの運用 128
 - 5.4.1 操作ログの内容 129
 - 5.4.2 操作ログの出力先, 面数, サイズ 133
 - 5.4.3 複数の実行環境の操作ログ解析結果をまとめて表示する 134
 - 5.4.4 操作ログの解析にダッシュボード機能を利用する 135
- 5.5 監査ログとは 141
 - 5.5.1 監査ログを取得するための設定 141
 - 5.5.2 監査ログに出力される項目 141
 - 5.5.3 監査ログが出力されるタイミング 143
 - 5.5.4 監査ログの出力形式と出力例 144
 - 5.5.5 監査ログの出力先, 面数, サイズ 144
 - 5.5.6 監査ログの見積もり 145
 - 5.5.7 監査ログに出力されるメッセージ一覧 147
- 5.6 中断情報の運用 148
 - 5.6.1 中断情報の見積もり 148

- 5.6.2 中断情報の削除 149
- 5.7 セットアップ後にホスト名を変更する 150
- 5.8 IP アドレスの変更手順 151
- 5.9 Active Directory の接続パスワードを変更した場合の設定変更の流れ 152
- 5.9.1 統合ユーザ管理のコンフィグレーションファイル (ua.conf) の変更手順 152
- 5.9.2 uCosminexus Portal Framework 設定の変更手順 (Portal Manager で設定する場合) 152
- 5.9.3 uCosminexus Portal Framework 設定の変更手順 (設定ファイルで設定する場合) 154
- 5.10 システム管理者の変更手順 156
- 5.11 業務コンテンツの上限数を増やす手順 157
- 5.12 プロパティファイルを編集する手順 158
- 5.13 ほかの JP1 製品と連携するための設定 159
- 5.13.1 JP1/IM の設定条件 159
- 5.13.2 JP1/AO の設定条件 160
- 5.13.3 JP1 連携プラグインを使用するためのユーザプロパティファイルの設定 160
- 5.13.4 JP1 イベント情報と業務コンテンツを関連づける 161
- 5.13.5 JP1 イベント情報関連づけファイルの項目と形式 161
- 5.13.6 ほかの JP1 製品からナビゲーション プラットフォームを呼び出すための URL 163
- 5.14 同時にログインしているユーザ数を確認する 164

6 業務コンテンツの運用 165

- 6.1 業務コンテンツの作成から運用までに必要な作業 166
- 6.1.1 プラグインやカスタム画面を使用しない場合に必要な作業 166
- 6.1.2 プラグインやカスタム画面を使用する場合に必要な作業 169
- 6.2 業務コンテンツへのアクセス権の設定 (ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合) 173
- 6.2.1 アクセス権の種別と設定範囲 (ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合) 174
- 6.2.2 アクセス権の種別と実行できる操作 (ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合) 174
- 6.2.3 標準アクセス権限とは 175
- 6.2.4 アクセス権設定時の注意事項 (ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合) 176
- 6.2.5 旧バージョンのアクセス権との互換性 177
- 6.2.6 [アクセス権限] 画面の項目 (ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合) 177
- 6.3 業務コンテンツへのアクセス権の設定 (JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合) 181
- 6.3.1 アクセス権の種別と設定範囲 (JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合) 181
- 6.3.2 アクセス権の種別と実行できる操作 (JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合) 181
- 6.3.3 アクセス権設定時の注意事項 (JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合) 182
- 6.3.4 JP1 資源グループの運用時の注意事項 183
- 6.4 業務コンテンツのアクセス管理の流れ (ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合) 184
- 6.4.1 アクセス権グループを作成する手順 184
- 6.4.2 アクセス権グループの定義内容を変更する手順 187

- 6.4.3 アクセス権グループを削除する手順 189
 - 6.4.4 アクセス権グループのエクスポートとインポート 191
 - 6.4.5 アクセス権グループの作成例 192
 - 6.5 業務コンテンツのエクスポートとインポート 194
 - 6.5.1 業務コンテンツのエクスポート 194
 - 6.5.2 業務コンテンツのインポート 195
 - 6.6 開発環境で作成したファイルの適用 196
 - 6.6.1 開発環境から受け取るファイル 196
 - 6.6.2 開発環境から受け取ったファイルを新規に適用する手順 197
 - 6.6.3 開発環境から受け取ったファイルを更新する手順 198
 - 6.6.4 開発環境から受け取ったファイルを削除する手順 199
 - 6.7 ユーザプラグイン（入出力）の更新 202
 - 6.7.1 ユーザプラグイン（入出力）を更新する 202
 - 6.7.2 [プラグインパーツ更新] 画面（更新対象の選択）の項目 203
 - 6.7.3 [プラグインパーツ更新] 画面（更新処理中）の項目 204
 - 6.7.4 [プラグインパーツ更新] 画面（更新処理完了）の項目 205
 - 6.7.5 更新対象の項目 207
 - 6.8 検索性データの更新 208
 - 6.9 業務コンテンツで使用する静的ファイルの管理 209
 - 6.9.1 業務編集画面から静的ファイルを格納する場合のファイル管理 209
 - 6.9.2 Web サーバのディレクトリに直接静的ファイルを格納する場合のファイル管理 210
 - 6.9.3 業務コンテンツをエクスポートまたはインポートする場合の注意事項 210
- 7 ナビゲーション プラットフォームの画面のカスタマイズ 211**
- 7.1 プロパティの設定による画面のカスタマイズ 212

第4編 リファレンス編

8 プロパティ 213

- 8.1 設定が必要なプロパティファイル 214
- 8.2 プロパティファイルの記述形式 215
 - 8.2.1 プロパティファイルを記述する際の注意事項（サービスプロパティファイルの場合） 215
 - 8.2.2 プロパティファイルを記述する際の注意事項（サービスプロパティファイル以外の場合） 215
 - 8.2.3 エスケープシーケンスの指定 216
- 8.3 ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の設定 218
 - 8.3.1 ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) のプロパティ一覧 218
 - 8.3.2 ユーザセットアッププロパティファイルの格納先 219
 - 8.3.3 ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ詳細 220
- 8.4 サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) の設定 228
 - 8.4.1 サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) のプロパティ一覧 228

- 8.4.2 サービスプロパティファイルの格納先 228
- 8.4.3 サービスプロパティファイルの詳細 228
- 8.5 ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の設定 230
- 8.5.1 ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) のプロパティ一覧 230
- 8.5.2 ユーザプロパティファイルの格納先 234
- 8.5.3 ユーザプロパティファイルのプロパティ詳細 234
- 8.6 ユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) の設定 275
- 8.6.1 ユーザメッセージプロパティファイルの格納先 275
- 8.6.2 ユーザメッセージプロパティファイルの記述例 276
- 8.7 ユーザラベルプロパティファイル (ucnp_label_user.properties) の設定 278
- 8.7.1 ユーザラベルプロパティファイルの格納先 278
- 8.7.2 ユーザラベルプロパティファイルの記述例 278

9 コマンド 280

- 9.1 コマンドの概要 281
- 9.1.1 コマンド一覧 281
- 9.1.2 全コマンド共通の注意事項 282
- 9.2 npaclexport コマンド (アクセス権グループのエクスポート) 283
- 9.3 npconvertoplog コマンド (操作ログファイル名変更) 287
- 9.4 npdashboardremoveolddata コマンド (解析情報削除) 290
- 9.5 npdashboardsetstoragememory コマンド (ストレージメモリ設定変更) 292
- 9.6 npdatabackup コマンド (環境退避) 294
- 9.7 npdatarestore コマンド (環境復元) 297
- 9.8 npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート) 299
- 9.9 npextendrdarea コマンド (データベースの拡張) 305
- 9.10 npimport コマンド (業務コンテンツのインポート) 306
- 9.11 nppddbst コマンド (データベースの利用状況確認) 315
- 9.12 nppubexport コマンド (公開版業務コンテンツのエクスポート) 317
- 9.13 nppubimport コマンド (公開版業務コンテンツのインポート) 318
- 9.14 npreorg コマンド (データベース再編成) 319
- 9.15 npsetup コマンド (セットアップ) 320
- 9.16 npsnapshotlog コマンド (トラブルシューティング情報の収集) 322
- 9.17 npstart コマンド (起動) 326
- 9.18 npstop コマンド (停止) 327
- 9.19 npunsetup コマンド (アンセットアップ) 328
- 9.20 npupdatesearchdata コマンド (検索用データの更新) 329
- 9.21 npuploadoplog コマンド (操作ログのアップロード) 332

第5編 トラブルシューティング編

10 トラブルシューティング 334

- 10.1 インストール, セットアップ中に発生するトラブル 335
 - 10.1.1 ファイアウォールでブロックされているというメッセージが表示された場合の対処 335
 - 10.1.2 セットアップ後に起動エラーが発生する場合の対処 335
- 10.2 運用開始後に発生するトラブル 337
- 10.3 ダッシュボード機能を利用中に発生するトラブル 338
 - 10.3.1 ダッシュボードサーバの起動または停止に失敗した場合の対処 338
 - 10.3.2 操作ログの解析情報の収集に失敗した場合の対処 338
- 10.4 トレースファイルの出力先 340

付録 341

- 付録 A 検索の対象となる項目 342
- 付録 B ポート番号一覧 345
 - 付録 B.1 ナビゲーション プラットフォームのポート番号 345
 - 付録 B.2 ファイアウォールの通過方向 346
- 付録 C 制限値一覧 347
 - 付録 C.1 ナビゲーション プラットフォームのインストール時の制限値 347
 - 付録 C.2 ナビゲーション プラットフォームの運用時の制限値 347
 - 付録 C.3 業務コンテンツの運用時の制限値 348
- 付録 D バージョンアップ時に確認が必要なプロパティ一覧 353
 - 付録 D.1 バージョンアップ時に確認が必要なプロパティ (uCosminexus Navigation Platform の場合) 353
 - 付録 D.2 バージョンアップ時に確認が必要なプロパティ (JP1/Integrated Management - Navigation Platform の場合) 362
 - 付録 D.3 バージョンアップ時に確認が必要なプロパティ (Hitachi Navigation Platform の場合) 368
- 付録 E このマニュアルの参考情報 370
 - 付録 E.1 関連マニュアル 370
 - 付録 E.2 このマニュアルでの表記 371
 - 付録 E.3 英略語 372
 - 付録 E.4 KB (キロバイト) などの単位表記について 372
- 付録 F 用語解説 373

索引 379

1

ナビゲーション プラットフォームの概要

この章では、最初にナビゲーション プラットフォームの特長、製品体系、およびナビゲーション プラットフォームを導入・構築してから運用するまでに必要な作業の概要を説明します。

1.1 ナビゲーション プラットフォームとは

ナビゲーション プラットフォームとは、業務の流れと操作手順を可視化するための製品です。分散した手順書を一つにまとめたり、個人が持っている知識・ノウハウを組織で共有したりして、正確かつ効率良く業務を実施できるようにします。

例えば、担当者の判断が必要とされる次のような業務に、ナビゲーション プラットフォームを導入すると、作業の効率・精度が上がるのが期待できます。

- お客様からの問い合わせ対応
- 帳票の処理
- システムの運用管理、監視

システムの運用管理、監視の業務について考えてみると、障害や利用者からの問い合わせに対して、だれが対応しても速やかに問題を解決する必要があります。しかし、担当者のスキルや経験によって対応に差が出てしまうことも少なくありません。

このような業務にナビゲーション プラットフォームを適用すると、担当者の経験や勘に任されていた部分が可視化され、担当者によって作業の質や効率にばらつきが出るのを抑えられます。また、操作のログを記録できるため、どの作業にどれくらいの時間が掛かっているか、ミスの起きやすい作業は何かなど、業務の見直しや分析に役立てることもできます。

1.1.1 製品の特長

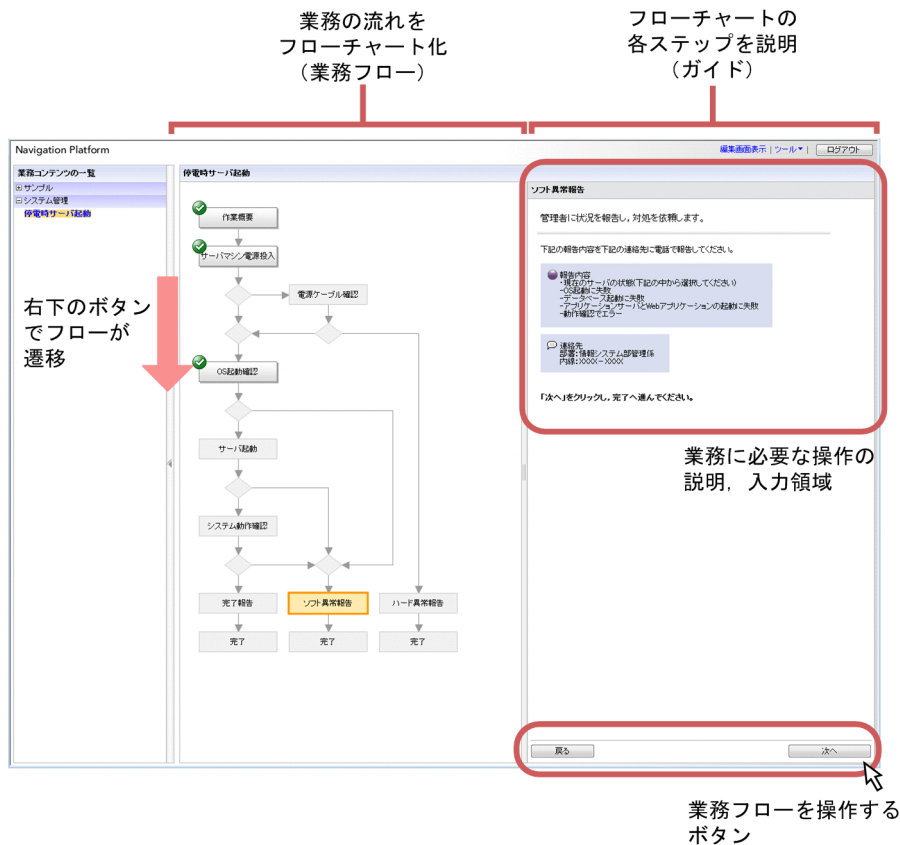
ナビゲーション プラットフォームの特長を次に示します。

(1) 直感的な操作で業務を実行できる

ナビゲーション プラットフォームでは、業務の流れをフローチャート形式で表示できます。また、フローチャートの各ステップに必要な作業を順番にガイド表示できます。ナビゲーション プラットフォームの利用者は、フローチャートに沿って Web ブラウザ上で操作するだけで、正確かつ効率良く業務を実行できます。

ナビゲーション プラットフォームの操作の概要を次に示します。

図 1-1 ナビゲーション プラットフォームの操作の概要



ナビゲーション プラットフォームの画面に表示される業務情報のうち、フローチャートの部分を業務フロー、フローチャートの各ステップに必要な作業を説明する部分をガイドといいます。

(2) プログラミングなしで画面を作成できる

ナビゲーション プラットフォームの画面に表示される業務情報 (業務フローおよびガイド) のことを業務コンテンツといいます。業務コンテンツは、編集用の画面を Web ブラウザ上で操作することで作成できます。編集用のパレットからパーツを選択して、業務フローおよびガイドに配置していきます。

業務の流れや作業手順に変更が発生しても、軽微な変更であれば、編集用の画面で業務フローの配置やガイドの説明を見直すことで手軽に対応できます。

(3) 外部プログラムと連携できる

ナビゲーション プラットフォームが提供する API を使用してユーザプラグインを開発すれば、Web サービスの呼び出しや業務データベースへのアクセスなど、任意の外部プログラムと連携できます。

また、ナビゲーション プラットフォームが提供する既成のシステムプラグインを利用すれば、画面上で簡単な設定をするだけで、ほかの JP1 製品を使ったシステムとも連携できます。

システムプラグインで連携できる JP1 製品

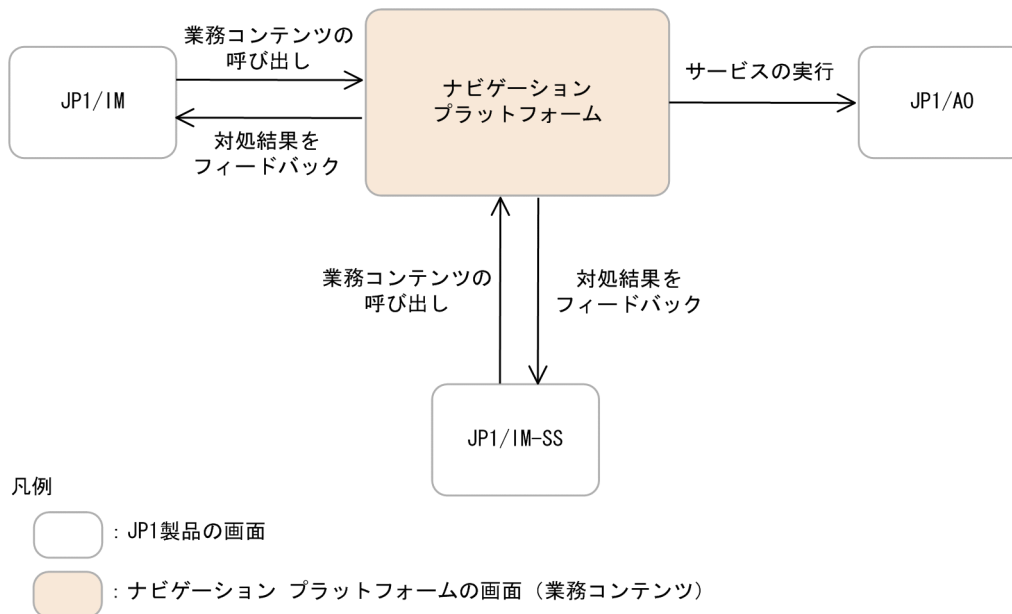
- JP1/Integrated Management - Manager 10-10 以降 (以降, JP1/IM-M と呼ぶ)

- JP1/Integrated Management - View 10-10 以降（以降、JP1/IM-V と呼ぶ）
- JP1/Integrated Management - Service Support 10-10 以降、JP1/Service Support 11-00 以降（以降、JP1/IM-SS と呼ぶ）
- JP1/Automatic Operation 10-52 以降（以降、JP1/AO と呼ぶ）

なお、JP1/IM-M と JP1/IM-V を総称して JP1/IM と呼びます。

システムプラグインを使ってナビゲーション プラットフォームとほかの JP1 製品とが連携するケースの概要を次に示します。

図 1-2 ほかの JP1 製品との連携の概要



システムプラグインを使うことで、ほかの JP1 製品が持つイベント情報を相互に引き継げるようになります。ほかの JP1 製品の画面からナビゲーション プラットフォームの業務コンテンツを呼び出したり、業務コンテンツの操作結果のデータを JP1 製品に引き継いでフィードバックしたりできるため、障害対応などの業務のスピードや正確さが増します。

このマニュアルでの参照箇所

ほかの JP1 製品と連携する場合は、次の箇所も参照してください。

- [4.3 JP1/Base によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備]
- [5.13 ほかの JP1 製品と連携するための設定]
- [6.3 業務コンテンツへのアクセス権の設定 (JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合)]

また、JP1 製品との連携に必要なプラグインパーツについては、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

1.1.2 製品体系

ナビゲーションプラットフォームで構築する環境は3種類あります。ナビゲーションプラットフォームを利用して業務を実行する**実行環境**、および業務コンテンツを作成する**編集環境**は必須です。また、プラグインを開発する場合、プラグインを開発する**開発環境**が必要です。

ここでは、3種類の環境に対応する製品について説明します。

実行環境で使用する製品

Navigation Platform

編集環境で使用する製品

Navigation Platform

開発環境で使用する製品

Navigation Platform for Developers

Navigation Platform for Developers は、Navigation Platform の機能を含みます。開発環境が編集環境を兼ねることもできます。

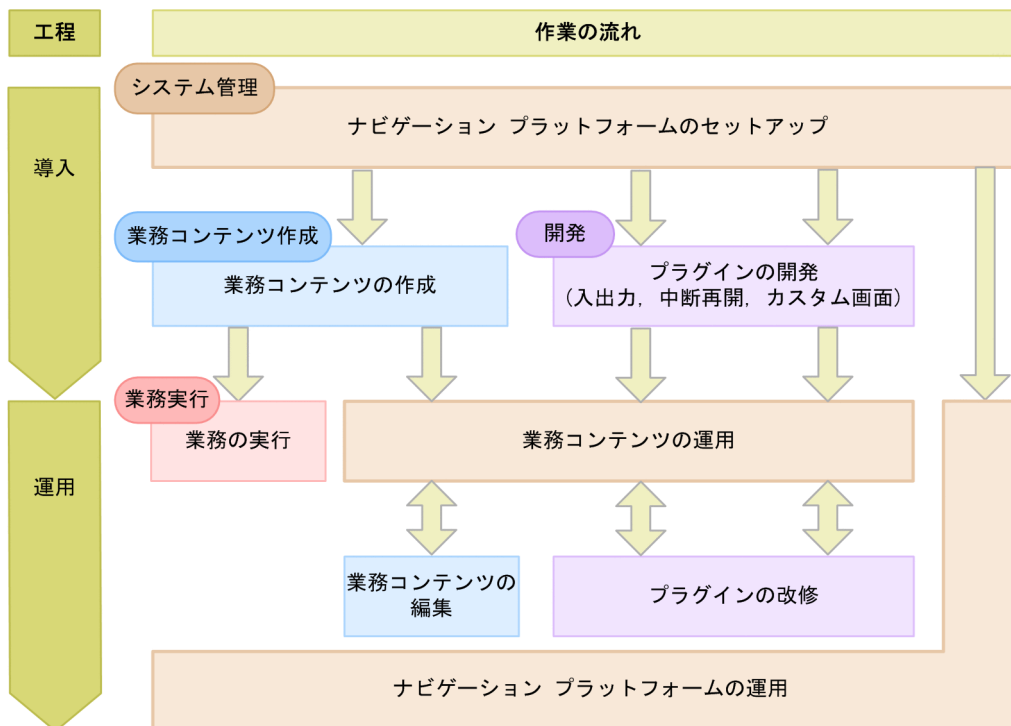
1.2 導入から運用までの作業の概要

この節では、導入から運用までの作業の流れ、およびナビゲーションプラットフォームの環境ごとの作業内容について説明します。

1.2.1 作業の流れ

ナビゲーションプラットフォームを業務に導入してから運用するまでの間に必要な作業の流れを次に示します。

図 1-3 導入から運用までの作業の流れ



図に示した作業の概要について説明します。

(1) システム管理

システム管理の概要を説明します。

作業内容

システム管理の作業を次に示します。システム管理の詳細は、「第2編 構築編」および「第3編 運用編」を参照してください。

- ナビゲーションプラットフォームのセットアップ
ナビゲーションプラットフォームをシステムにインストールしてセットアップします。また、前提ソフトウェアであるディレクトリサーバを構築します。

- ナビゲーション プラットフォームの運用
ナビゲーション プラットフォームをセットアップしたシステムを運用します。
- 業務コンテンツの運用
編集環境で作成した業務コンテンツを実行環境に適用して公開したり、開発環境で開発したプラグインやカスタム画面を編集環境と実行環境に適用したりします。
また、ユーザ認証を利用している場合は、どの利用者に見せるための業務コンテンツなのかをあらかじめ検討します。検討結果に基づき、業務コンテンツ作成時にアクセス権グループも作成、設定します。

作業を実施する環境

実行環境、編集環境、開発環境のすべてで実施します。

作業を実施するユーザ

Windows の Administrator 権限、およびナビゲーション プラットフォームのシステム管理者権限を持つユーザが実施します。

システム管理の作業を実施するユーザのことを、ナビゲーション プラットフォームのマニュアルではシステム管理者といいます。

(2) 業務コンテンツ作成

業務コンテンツ作成の概要を説明します。

作業内容

業務コンテンツ作成の作業を次に示します。業務コンテンツ作成の詳細は、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

- 業務コンテンツの作成
- 作成した業務コンテンツの編集

作業を実施する環境

編集環境で実施します。編集環境へは Web ブラウザ経由でアクセスします。

作業を実施するユーザ

業務コンテンツに対して管理者または編集者のアクセス権を持つユーザが実施します。

業務コンテンツに対して管理者のアクセス権を持つユーザのことを、ナビゲーション プラットフォームのマニュアルではコンテンツ管理者といいます。また、編集者のアクセス権を持つユーザのことは、コンテンツ編集者といいます。

(3) 開発

開発の概要を説明します。

作業内容

開発の作業を次に示します。開発の詳細は、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。

- プラグイン（入出力、中断再開、カスタム画面）の開発と改修

作業を実施する環境

開発環境で実施します。

作業を実施するユーザ

Windows の Administrator 権限を持つユーザが実施します。

(4) 業務実行

業務実行の概要を説明します。

作業内容

業務コンテンツを操作しながら、業務を実行します。業務実行の詳細は、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

作業を実施する環境

実行環境で実施します。実行環境へは Web ブラウザ経由でアクセスします。

作業を実施するユーザ

業務を実行するユーザのことを、ナビゲーション プラットフォームのマニュアルでは利用者といいます。

1.2.2 ナビゲーション プラットフォームの環境ごとの作業内容

ナビゲーション プラットフォームの実行環境、編集環境、開発環境のそれぞれで実施する作業項目を次に示します。

表 1-1 ナビゲーション プラットフォームの環境ごとの作業内容

項番	作業内容		実行環境	編集環境	開発環境
1	システム管理	ナビゲーション プラットフォームのセットアップ	○	○	○
2		ナビゲーション プラットフォームの運用	○	○	○
3		業務コンテンツの運用	○	○	○
4	業務コンテンツ作成	業務コンテンツの作成	×	○	○
5		業務コンテンツの編集	×	○	○
6	開発	プラグインの開発と改修 (入出力、中断再開、カスタム画面)	×	×	○
7	業務実行		○	○	△

(凡例)

○：実施できます。

△：動作テストとして実施できます。

×：実施できません。

2

ナビゲーション プラットフォームの機能

ナビゲーション プラットフォームでは、業務コンテンツを利用したり、作成したりするための画面を提供しています。また、プラグインを使用することで、外部プログラムと連携したり、画面の機能を拡張したりできます。

この章では、これらの機能について説明します。

2.1 業務コンテンツの利用と作成

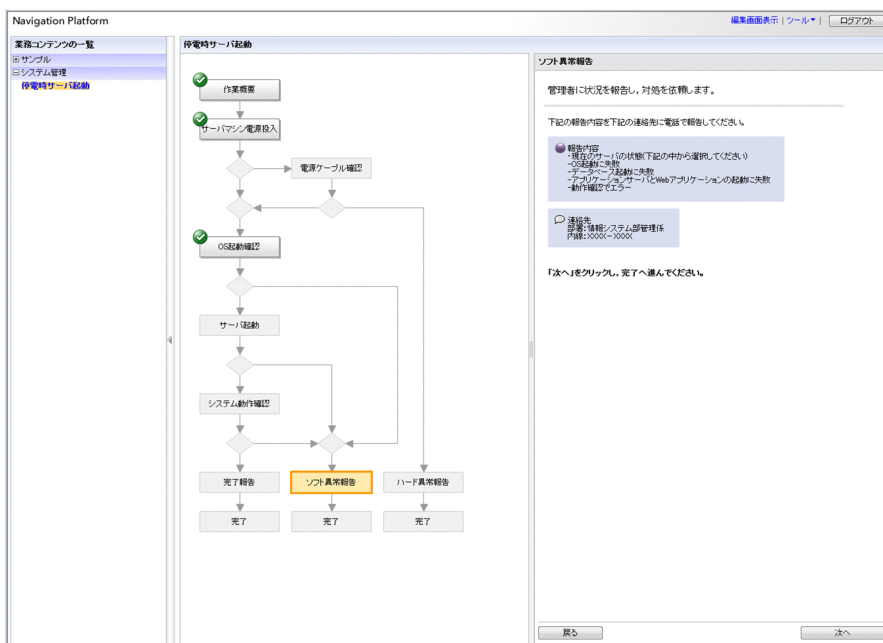
業務コンテンツを利用するには、Web ブラウザから**業務実行画面**を操作します。また、業務コンテンツを作成するには、Web ブラウザから**業務編集画面**を操作します。

なお、業務実行画面と業務編集画面の見映えはカスタマイズできます。カスタマイズの方法および例については、「7. ナビゲーション プラットフォームの画面のカスタマイズ」を参照してください。

2.1.1 業務実行画面でできること

業務実行画面を次に示します。

図 2-1 業務実行画面



注

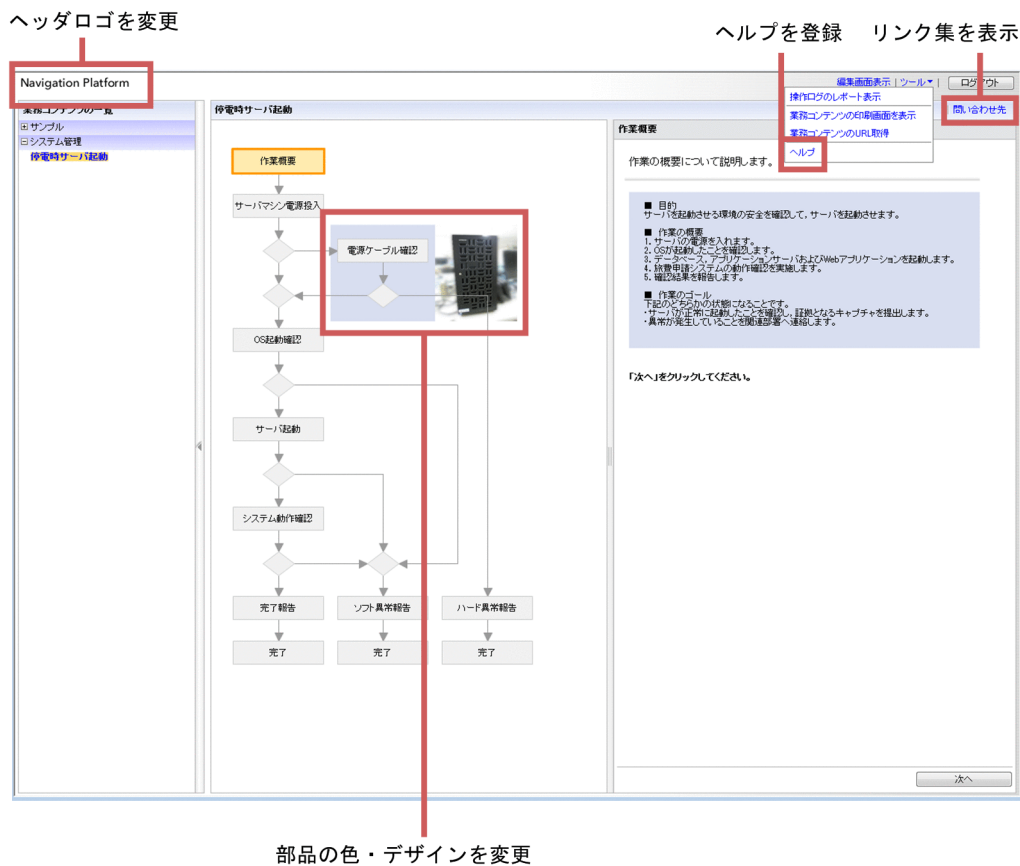
構築時の設定によって、メニューや業務フローを非表示にできます。

業務実行画面では次のことができます。

- 業務フローを参照して、業務の手順を理解する
- ガイドに表示される説明を参照しながら、業務を実行する
- JP1 イベント情報などのデータをナビゲーション プラットフォームの画面に表示しながら、業務を実行する（システムプラグインを使用する場合）
- 外部プログラムで必要なデータをナビゲーション プラットフォームの画面上で入力しながら、業務を実行する（ユーザプラグインを開発して連携する場合）
- 業務コンテンツを検索する
- レポート画面を使って業務を分析する

業務実行画面は、用途に合わせてカスタマイズできます。業務実行画面のカスタマイズ例を次に示します。

図 2-2 業務実行画面のカスタマイズ例



- ヘッダロゴ、部品の色・デザイン、メニュー領域、ヘッダのリンクを変更する
ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) のプロパティを変更することで、例えばヘッダのロゴや業務フローに表示される部品の色・デザインを変更できます。さらに、業務に関するヘルプをリンクとしてヘッダに表示させることもできます。
ユーザプロパティファイルの設定については、「[8.5 ユーザプロパティファイル \(ucnp_user.properties\) の設定](#)」を参照してください。
- Web サイトへのリンク集を表示する
業務の実行時によく参照する Web サイトがある場合、関連リンクを設定することで、Web サイトへのリンク集を表示できます。関連リンクの設定方法については、マニュアル「ナビゲーションプラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

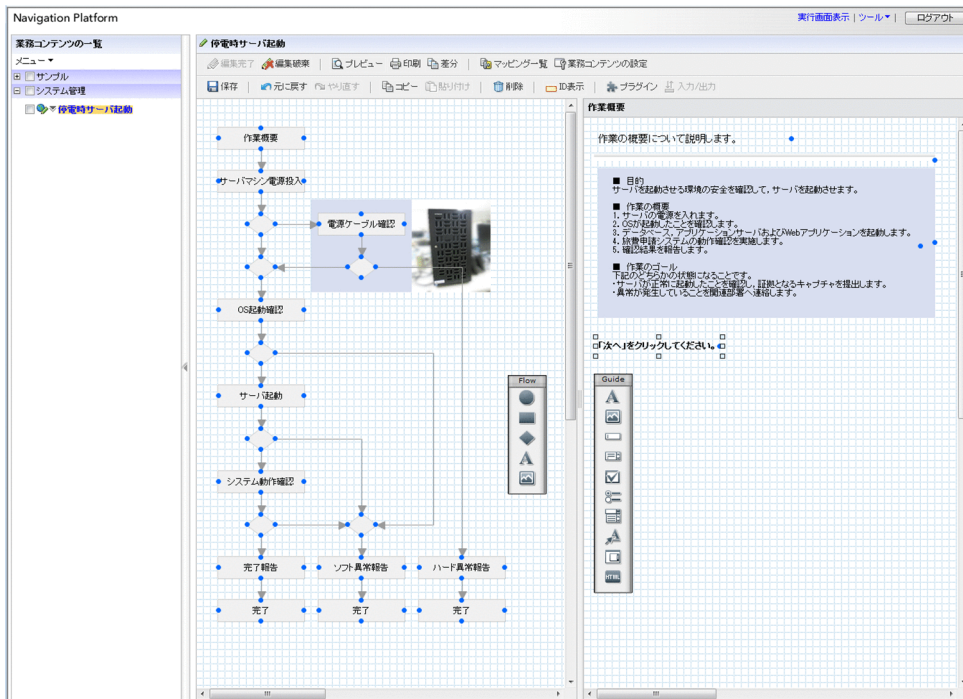
参考

- ナビゲーションプラットフォームのログイン画面も、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の設定によってカスタマイズできます。
- 業務実行画面から独立した新規画面を開発して、業務実行画面と連携して使用することもできます。

2.1.2 業務編集画面でできること

業務編集画面を次に示します。

図 2-3 業務編集画面



業務編集画面では次のことができます。

- 業務コンテンツを新規に作成する
- 作成した業務コンテンツを変更，複製，削除する
- 業務コンテンツにアクセス権を設定する
- プラグインと業務コンテンツを関連づける（プラグインを使用する場合）
- Web サイトへのリンク集を作成，表示する
- 業務コンテンツを利用者に公開する
- 公開されている業務コンテンツを非公開にする
- 業務コンテンツの公開を予約する
- 業務コンテンツの公開予約を削除する
- 業務コンテンツの版を管理する
- 業務コンテンツの変更点を確認する

参考

業務編集画面も業務実行画面と同様にユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) のプロパティを変更することで、カスタマイズできます。ユーザプロパティファイルの設定につ

いては、「[8.5 ユーザプロパティファイル \(ucnp_user.properties\) の設定](#)」を参照してください。

2.1.3 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL

業務コンテンツを操作するために、Web ブラウザからナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするときに必要な URL について説明します。

ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL は、基本 URL とパラメタから構成されています。パラメタの指定は任意です。基本 URL にパラメタを指定すると、特定の業務コンテンツに直接アクセスしたり、ナビゲーション プラットフォームを終了するときのボタンの種別を選択したりできます。

注意事項

ほかの JP1 製品からナビゲーション プラットフォームを呼び出すために設定する URL には、ここで説明する URL は使用できません。「[5.13.6 ほかの JP1 製品からナビゲーション プラットフォームを呼び出すための URL](#)」を参照してください。

ディレクトリサーバを使用しないシステム構成の場合、基本 URL 中にあるシングルサインオンのパスワードのパラメタを指定する必要はありません。

(1) 業務実行画面にアクセスするための基本 URL

次に示す URL を使用すると、[編集画面表示] メニューが表示されないため、利用者は業務コンテンツを変更できません。業務コンテンツを利用するだけのユーザ（業務編集画面を使用しないユーザ）には、ここで説明する URL を通知してください。

ナビゲーション プラットフォームのログイン画面からアクセスする場合

パラメタを指定するかどうかで、基本 URL が異なります。パラメタの指定については、「[2.1.4 基本 URL に指定できるパラメタ](#)」を参照してください。

- パラメタを指定しないとき

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/
```

- パラメタを指定するとき

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/TitlePortlet/portlet/ucnp/pane/-440b4408440g55S76Z2i/layout_id/default/tab_id/-440b4408440g55S76Z2i
```


Cosminexus の統合ユーザ管理フレームワークを利用してシングルサインオンする場合

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/PLoginUser?  
com.cosminexus.admin.auth.name=ユーザID&com.cosminexus.admin.auth.password=パスワード
```

注意事項

この URL で業務実行画面にアクセスする場合、POST メソッドを指定することを推奨します。GET メソッドを指定した場合、ユーザ ID およびパスワードがクエリとして URL の一部になるため、Web サーバのログなどに痕跡が残ってしまいます。

可変値について説明します。

- **ホスト名**
ナビゲーション プラットフォームがインストールされている J2EE サーバマシンのホスト名または IP アドレスです。
- **ポート番号**
ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port プロパティの指定値 (ナビゲーション プラットフォームがインストールされている Web サーバのポート番号) です。ユーザセットアッププロパティファイルについては、「[8.5 ユーザプロパティファイル \(ucnp_user.properties\) の設定](#)」を参照してください。
- **ユーザ ID**
シングルサインオンに使用するユーザ ID です。HTTP リクエストの com.cosminexus.admin.auth.name パラメタに設定しておく必要があります。
- **パスワード**
シングルサインオンに使用するユーザ ID に対応するパスワードです。HTTP リクエストの com.cosminexus.admin.auth.password パラメタに設定しておく必要があります。

(2) 業務編集画面にアクセスするための基本 URL

次に示す URL を使用すると、ログイン後に業務編集画面が表示されます。

ナビゲーション プラットフォームのログイン画面からアクセスする場合

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/TitlePortlet/portlet/ucnp/  
pane/-440b4408440g55S76Z2i/layout_id/default/tab_id/-440b4408440g55S76Z2i?  
start_editor=true&open_editor=true
```

Cosminexus の統合ユーザ管理フレームワークを利用してシングルサインオンする場合

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/PLoginUser?  
com.cosminexus.admin.auth.name=ユーザID&com.cosminexus.admin.auth.password=パスワード  
&start_editor=true&open_editor=true
```

注意事項

この URL で業務編集画面にアクセスする場合、POST メソッドを指定することを推奨します。GET メソッドを指定した場合、ユーザ ID およびパスワードがクエリとして URL の一部になるため、Web サーバのログなどに痕跡が残ってしまいます。

可変値について説明します。

- **ホスト名**
ナビゲーション プラットフォームがインストールされている J2EE サーバマシンのホスト名または IP アドレスです。
- **ポート番号**
ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port プロパティの指定値 (ナビゲーション プラットフォームがインストールされている Web サーバのポート番号) です。ユーザセットアッププロパティファイルについては、「第 4 編 リファレンス」を参照してください。
- **ユーザ ID**
シングルサインオンに使用するユーザ ID です。HTTP リクエストの com.cosminexus.admin.auth.name パラメタに設定しておく必要があります。
- **パスワード**
シングルサインオンに使用するユーザ ID に対応するパスワードです。HTTP リクエストの com.cosminexus.admin.auth.password パラメタに設定しておく必要があります。

(3) カスタム画面 (新規画面) にアクセスするための基本 URL

次に示す URL を使用すると、ログイン後にカスタム画面 (新規画面) が表示されます。

ナビゲーション プラットフォームのログイン画面からアクセスする場合

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/action/Plain/portlet/ucnp/pane/-440b4408440g44Kw440r4408440X/layout_id/default/url/L2FkcG9ydGxldHMvdWNUcC9qc3Avdmlldy9Sb290SWZyYW1lLmpzcA--?ucnpUserId=カスタム画面プラグイン名
```

Cosminexus の統合ユーザ管理フレームワークを利用してシングルサインオンする場合

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/PLoginUser?com.cosminexus.admin.auth.name=ユーザID&com.cosminexus.admin.auth.password=パスワード&ucnpUserId=カスタム画面プラグイン名
```

注意事項

- シングルサインオンでカスタム画面にアクセスする場合、POST メソッドを指定することを推奨します。GET メソッドを指定した場合、ユーザ ID およびパスワードがクエリとして URL の一部になるため、Web サーバのログなどに痕跡が残ってしまいます。
- カスタム画面にアクセスするための URL には、必ず ucnpUserData パラメタを使ってデータを受け渡すようにしてください。ucnpUserData パラメタ以外でデータを受け渡すことはできません。

可変値について説明します。

- **ホスト名**
ナビゲーション プラットフォームがインストールされている J2EE サーバマシンのホスト名または IP アドレスです。
- **ポート番号**
ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port プロパティの指定値 (ナビゲーション プラットフォームがインストールされている Web サーバのポート番号) です。ユーザセットアッププロパティファイルについては、「第 4 編 リファレンス」を参照してください。
- **カスタム画面プラグイン名**
カスタム画面プラグインのひな形生成時に、プラグイン情報プロパティファイルの userplugin.name キーに指定した値です。
編集環境および実行環境の場合は、userplugin.name キーの指定値についてカスタム画面を開発したユーザに確認してください。
- **ユーザ ID**
シングルサインオンに使用するユーザ ID です。HTTP リクエストの com.cosminexus.admin.auth.name パラメタに設定しておく必要があります。
- **パスワード**
シングルサインオンに使用するユーザ ID に対応するパスワードです。HTTP リクエストの com.cosminexus.admin.auth.password パラメタに設定しておく必要があります。

2.1.4 基本 URL に指定できるパラメタ

基本 URL にパラメタを指定する場合の形式、および指定できるパラメタの種類について説明します。

(1) 基本 URL に指定できるパラメタの形式

基本 URL に指定するときの形式

基本 URL?パラメタ名 1=パラメタの値[[&パラメタ名 2=パラメタの値]…]

基本 URL とパラメタは「?」で、パラメタとパラメタは「&」で連結します。「&」で連結することで、複数のパラメタを指定できます。

基本 URL の末尾にパラメタを追加すると、ログイン後に最初に表示する画面を変更できます。また、プラグインやカスタム画面と連携できるようになります。

なお、次の場合は基本 URL にすでにパラメタが含まれているため、基本 URL とパラメタの接続には「?」でなく「&」を指定してください。

- 業務編集画面にアクセスする場合

- カスタム画面にアクセスする場合
- Cosminexus の統合ユーザ管理フレームワークを利用してシングルサインオンする場合

(2) 基本 URL に指定できるパラメタの一覧

基本 URL に指定できるパラメタを次に示します。指定できるパラメタの種類は画面ごとに異なります。

表 2-1 基本 URL に指定できるパラメタ

パラメタ名	パラメタの値	説明	使用可否		
			業務実行画面	業務編集画面	カスタム画面 (新規画面)
contentId	業務コンテンツ ID	<p>指定した ID を持つ業務コンテンツを直接開きます。編集可能または読み取り専用のどちらの状態でも開くかは、指定した業務コンテンツの状態によって異なります。</p> <p>業務コンテンツ ID の大文字と小文字は区別されます。業務コンテンツ ID は業務編集画面のメニューから取得します。業務編集画面のメニューについては、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。</p> <p>また、業務実行画面に [URL 取得] メニューが表示されている場合、メニューを選択すると、contentId に業務コンテンツ ID が指定された URL を取得できます。業務実行画面に [URL 取得] メニューを表示させるには、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.geturl.link.display プロパティに [true] を指定する必要があります。ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) については、[8.5 ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の設定] を参照してください。</p>	○	○	×
open_editor	true	<p>ログイン後に業務編集画面を直接開きます。</p> <p>このパラメタを省略すると、ログイン後に業務実行画面が表示されます。[編集画面表示] メニューをクリックすることで業務編集画面へ遷移します。</p>	×	○	×
start_editor	true	<p>[編集画面表示] メニュー / [実行画面表示] メニューを表示します。このパラメタを指定すると、業務実行画面と業務編集画面を切り替えられるようになります。</p> <p>このパラメタは、実行環境では使用できません。</p>	○	○	×

パラメタ名	パラメタの値	説明	使用可否		
			業務実行画面	業務編集画面	カスタム画面 (新規画面)
ucnpCloseBtn*	close_only	画面を閉じるボタンの種別を指定します。 「close_only」を指定すると、クリックしてもログアウトをしないで画面を閉じる、[閉じる] ボタンが表示されます。	○	○	×
	logout_close	画面を閉じるボタンの種別を指定します。 「logout_close」を指定すると、クリックしたときにログアウトをしてから画面を閉じる、[閉じる] ボタンが表示されます。	○	○	×
	logout	画面を閉じるボタンの種別を指定します。 「logout」を指定すると、クリックしたときにログアウトをしてからログイン画面に遷移する、[ログアウト] ボタンが表示されます。	○	○	×
ucnpOptions	ユーザプラグイン (入出力プラグイン または中断再開プラグイン) で利用する値	<p>パラメタの値をプラグインの処理で利用します。URI で使用できない文字をパラメタの値として使用する場合は、必要に応じて URL エンコードした値を指定してください。プラグインで利用する値は、プラグインを開発したユーザに問い合わせてください。</p> <p>また、このパラメタの値をプラグインで利用する方法の詳細は、マニュアル「ナビゲーションプラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。</p> <p>このパラメタに指定できる文字および長さは次のとおりです。</p> <p>指定できる文字</p> <p>ASCII 文字。ただし、ASCII コード 0x00～0x1F および 0x7F の文字は除きます。</p> <p>指定できる値の長さ</p> <p>文字列長 (URL エンコードした文字列長) が 1,024 文字以内の文字列。1,024 文字を超えた場合、トレースファイルに KDCZ10306-W メッセージが出力され、1,024 文字を超えた文字列が無効となります。</p>	○	×	×
ucnpUserData	カスタム画面 (新規画面) で利用する値	<p>パラメタの値をカスタム画面 (新規画面) の処理で利用します。</p> <p>利用する値は、新規画面を開発したユーザに問い合わせてください。また、このパラメタの値を新規画面で利用する方法の詳細は、マニュアル「ナビゲーションプラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。</p>	×	×	○

パラメタ名	パラメタの値	説明	使用可否		
			業務実行画面	業務編集画面	カスタム画面 (新規画面)
ucnpUserPageId	カスタム画面プラグイン名	ログイン後にカスタム画面 (新規画面) を表示します。	×	×	○

(凡例)

- ：使用できます。
- ×

注※

- ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.close.button.setting プロパティでも、画面を閉じるボタンの種類を設定することができます。また、ユーザプロパティファイルでは、ボタンを表示しないように設定することもできます。URL のパラメタとユーザプロパティファイルの両方でボタンの種類を指定した場合は、URL のパラメタでの指定が有効になります。
- ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.client.confirm.page.unload.enable プロパティに「true」を指定している場合で、このパラメタを使用するときは、ユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) の KDCZ00146-W の内容も見直してください。ユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) の詳細については、「[8.6 ユーザメッセージプロパティファイル \(ucnp_message_user.properties\) の設定](#)」を参照してください。

(3) パラメタを指定した URL の例

URL に指定するパラメタの組み合わせ例を次に示します。

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/TitlePortlet/portlet/ucnp/pane/-440b4408440g55S76Z2i/layout_id/default?open_editor=true&ucnpCloseBtn=logout_close&contentId=業務コンテンツのID
```

2.1.5 ナビゲーション プラットフォームにログインするための ID とパスワード

ナビゲーション プラットフォームにシステム管理者としてログインするための ID は、ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.system.admin.userids プロパティの指定値 (デフォルトは user1) です。

ユーザ認証に Active Directory を使用している場合は、ucnp.setup.server.system.admin.userids プロパティの指定値に対応するパスワードが必要になります。わからないときは、Active Directory の管理者

にパスワードを確認してください。なお、ユーザ認証を利用していない環境でセットアップしている場合は、パスワードの入力は不要です。

ユーザ認証に JP1/Base を使用している場合は、次の条件を満たす JP1 ユーザの ID とパスワードが必要になります。JP1 ユーザの ID とパスワードは JP1/Base の管理者に確認してください。

- JP1/Base に登録されている
- ナビゲーション プラットフォームにアクセスする権限が与えられている

2.2 外部プログラムとの連携

外部プログラムと連携してデータの入出力を制御する業務コンテンツを作成するには、プラグインが必要です。ナビゲーションプラットフォームで使用できるプラグインには、次の種類があります。

- システムプラグイン（プログラム開発が不要）
- ユーザプラグイン（プログラム開発が必要）

JP1 製品以外の外部プログラムやデータベースなどとデータをやり取りしたい場合は、ユーザプラグインの開発が必要です。また、入力データを一時保存する機能を追加したい場合も、ユーザプラグインが必要になります。

2.2.1 システムプラグイン

システムプラグインとは、ナビゲーションプラットフォームが提供しているプラグインパーツであり、プログラム開発は不要です。システムプラグインには、次の種類があります。

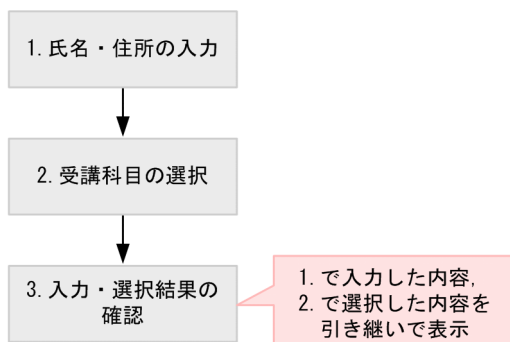
- データストアプラグイン
- JP1 連携プラグイン

なお、このマニュアルでは、データの入出力を制御するプラグインを総称して、入出力プラグインと呼ぶ場合もあります。

(1) データストアプラグインの処理と動作イメージ

データストアプラグインを使用すると、業務コンテンツ内のデータの入出力を制御して、利用者が入力または選択した値をほかのノードに引き継いで表示することができます。データストアプラグインを使用した業務コンテンツの例を次に示します。

図 2-4 データストアプラグインを使用した業務コンテンツの例



凡例

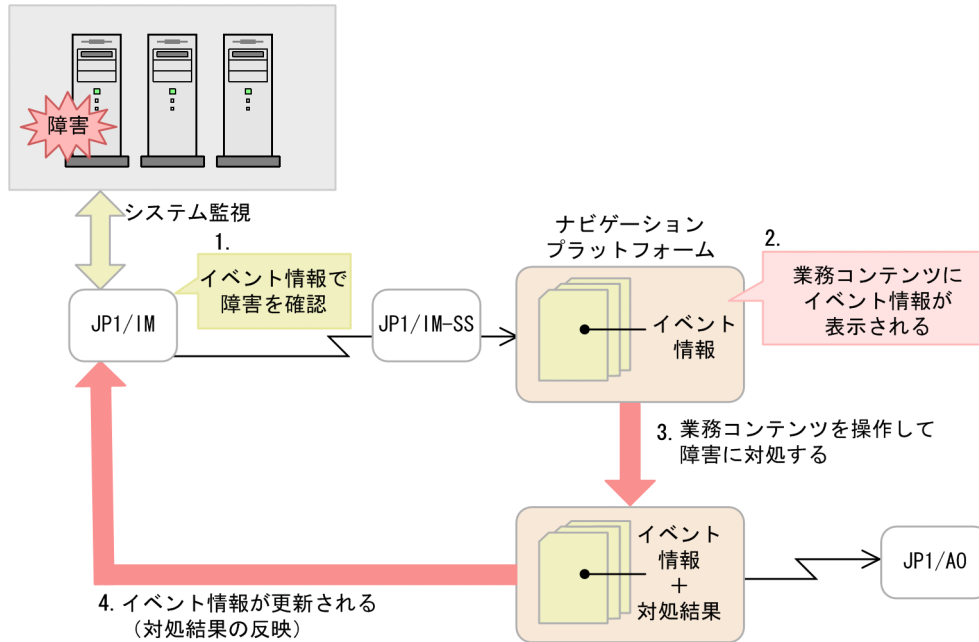
 : ノード

この例では、各ノードにデータストアプラグインを配置しておくことで、1.と2.の入力データが3.に引き継がれて出力・表示されます。

(2) JP1 連携プラグインの処理と動作イメージ

JP1 連携プラグインを使用すると、外部システムにあるほかの JP1 製品とナビゲーションプラットフォームの業務コンテンツを連携できます。ほかの JP1 製品と連携した場合の業務の流れを次に示します。

図 2-5 ほかの JP1 製品と連携した場合の業務の流れ



凡例

→ : 画面の呼び出し

○ : JP1製品の画面

□ : ナビゲーションプラットフォームの画面 (業務コンテンツ)

この図は、次のような業務の流れを表しています。

1. JP1/IM の画面で障害の発生を確認する
2. 障害への対処方法を調べるために JP1/IM または JP1/IM-SS の画面から業務コンテンツを呼び出す
3. 業務コンテンツを操作することで、障害への対処が完了する
業務コンテンツから JP1/AO の画面を呼び出すことで、さらに効率的な対処ができる場合もあります。
4. 障害への対処が完了したという情報が JP1/IM の画面に反映される

なお、JP1 製品以外の外部プログラムやデータベースなどとデータをやり取りしたい場合は、ユーザプラグインの開発が必要です。

2.2.2 ユーザプラグイン

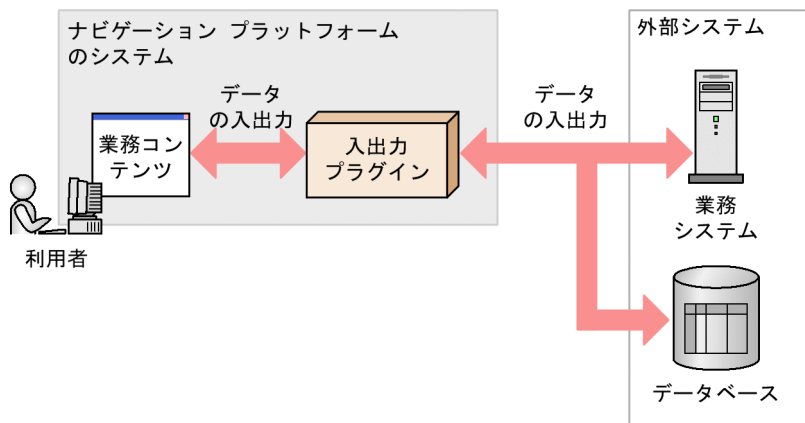
ユーザプラグインとは、ナビゲーションプラットフォームが提供する API を使用して開発するプラグインです。ユーザプラグインには、次の種類があります。

- 入出力プラグイン
システムプラグインでは制御できない、任意の外部プログラムとの間のデータの入出力を制御します。
- 中断再開プラグイン
利用者が業務実行画面で入力した情報を一時保存して、業務を再開したときに一時保存した情報を復元するためのプラグインです。中断再開プラグインを開発すると、利用者が業務の途中にほかの業務を参照したり、ログアウトしたりしても、一時保存した状態から業務を再開できるようになります。
- カスタム画面プラグイン
カスタム画面プラグインは、新規画面を開発するためのプラグインです。ログイン後にナビゲーションプラットフォームの画面のほかに、独自に作成した別画面（カスタム画面）を表示できるようになります。

(1) 入出力プラグイン（ユーザプラグイン）の処理と動作イメージ

入出力プラグイン（ユーザプラグイン）の概要を次に示します。

図 2-6 入出力プラグイン（ユーザプラグイン）の概要



入出力プラグイン（ユーザプラグイン）と連携すると、次のような処理ができます。

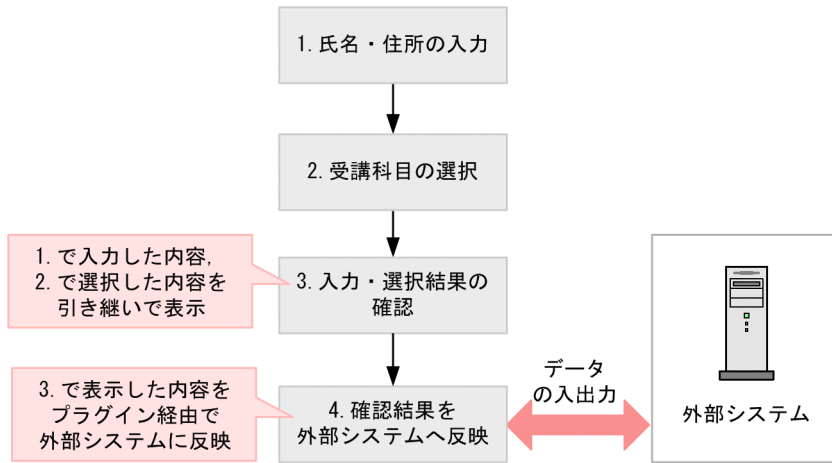
- 業務フローの工程と工程の間で、データの受け渡しをする
- ガイドに入力した値をデータベースへ登録する

例えば、次のような流れの業務があるとします。

1. 契約内容の変更
2. 変更内容の確認

1. 契約内容の変更でガイドに入力した値を，2. 変更内容の確認でガイドに表示させたい場合に，入出力プラグイン（ユーザプラグイン）とガイドを関連づけます。入出力プラグイン（ユーザプラグイン）とガイドを関連づけた場合の業務実行画面の動作イメージを次に示します。

図 2-7 入出力プラグイン（ユーザプラグイン）とガイドを関連づけた場合の業務実行画面の動作イメージ



凡例

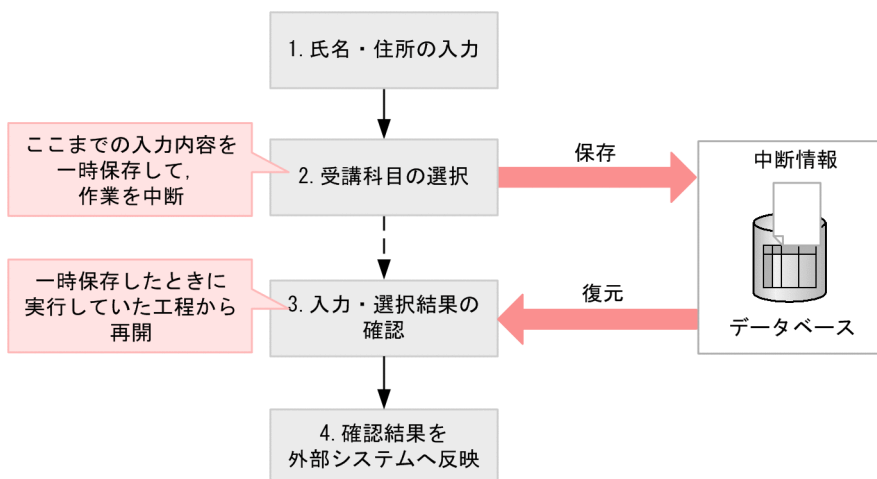
□ : ノード

入出力プラグイン（ユーザプラグイン）を使用するには，プラグインを開発することのほかに，業務編集画面で入出力プラグインとガイドを関連づける操作が必要です。この作業の詳細は，マニュアル「ナビゲーションプラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

(2) 中断再開プラグイン（ユーザプラグイン）の動作イメージ

中断再開プラグインを使用した場合の業務実行画面の動作イメージを次に示します。

図 2-8 中断再開プラグインを使用した場合の業務実行画面の動作イメージ



凡例

□ : ノード

利用者は、業務実行画面の右上にある [一時保存] ボタンをクリックすることで、入力した情報を保存できます。業務を再開するときは、次に示す情報（中断情報）が復元されます。

- **一時保存したときに実行していた工程**

一時保存したときに実行していた工程が、実行中の工程として復元されます。また、実行中の工程が表示されるように、業務フローが自動的にスクロール^{※1} されます。

- **直接遷移できる工程^{※2}**

クリックして直接遷移できる工程の状態が復元されます。

- **ガイドに入力した情報**

各工程のガイドに入力した情報が復元されます。

注※1

ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.client.autoscroll プロパティが true の場合に、自動的にスクロールされます。

注※2

ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.client.directjump.enable プロパティが true の場合に、直接遷移できるノードが表示されます。

中断再開プラグインを使用するには、プラグインを開発することのほかに、次の作業が必要です。なお、括弧内には、詳細についての参照先を示しています。

- 中断情報の容量を見積もる（「3.4.3 中断再開プラグインを使用する場合の容量の見積もり」を参照）
- 次のユーザプロパティを設定する（「8.5 ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の設定」を参照）
 - 必須：ucnp.base.client.suspend.enable（中断再開プラグインの使用有無）
 - 任意：ucnp.base.client.viewer.confirm.discardinput.enable（入力情報の破棄確認ダイアログの表示有無）
- 業務コンテンツまたはユーザを追加、変更したときに、中断情報を運用する（「5.6 中断情報の運用」を参照）

3

ナビゲーション プラットフォームのセットアップの準備

この章では、ナビゲーション プラットフォームのインストール手順とアンインストール手順を説明します。また、インストール前に確認・検討する必要があることやバージョンアップについても説明します。

3.1 セットアップまでの流れ

ナビゲーション プラットフォームには、業務コンテンツを作成するための編集環境および開発環境と、業務コンテンツを公開するための実行環境があります。

ここでは、各環境のセットアップまでの流れを説明します。括弧内は、詳細についての参照先を示しています。

1. 必須：システム構成の検討，確認 (3.2)
2. 必須：前提条件の確認 (3.3)
3. 必須：データベースサーバの容量の見積もり (3.4.1)
4. 任意：中断再開プラグインを使用する場合の容量の見積もり (3.4.3)
5. 必須：ナビゲーション プラットフォームの新規インストール (3.5.1, 3.5.2)

3.2 システム構成

ナビゲーション プラットフォームのシステムは、次の要素から構成されています。

- ナビゲーション プラットフォームをセットアップするサーバマシン
- Web ブラウザ経由でナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするクライアントマシン
- ユーザ認証用のサーバマシン

参考

ユーザ認証用の製品および Web ブラウザはナビゲーション プラットフォームに同梱されていません。別途用意してください。

サーバマシンおよびクライアントマシンの推奨スペック、使用できる Web ブラウザとユーザ認証用の製品については、「[3.3 システム構築の前提条件](#)」を参照してください。

3.2.1 システム構成の検討

ナビゲーション プラットフォームをセットアップするサーバマシンには、実行環境（業務実行画面）、編集環境（業務編集画面）、および開発環境の 3 種類があります。編集環境または開発環境で作成した業務コンテンツに対して、利用者がアクセスするサーバマシンが実行環境です。そのため、システム構成を決める場合は、次のような点を検討する必要があります。

- プラグインやカスタム画面の開発が必要かどうか
- 業務コンテンツを作成するユーザの人数※
- 業務コンテンツをメンテナンス（変更）するユーザの人数※
- 業務コンテンツを操作する利用者の人数※
- 業務コンテンツを iPad で操作するかどうか
- ほかの JP1 製品と連携するかどうか（JP1 連携プラグインの利用有無）
- 業務コンテンツのアクセス管理（認証サーバによるユーザ認証の利用有無）

注※

サーバ 1 台当たりの利用者数は、最大 300 人としてください。

このような点を考慮した場合の例については、「[3.2.3 システム構成例](#)」を参照してください。

3.2.2 認証サーバ導入の検討

認証サーバの導入は任意です。利用者数が少なく、特定の利用者しかいない場合は、認証サーバのない構成にすることもできます。不特定多数の利用者が業務コンテンツを利用する場合は、認証サーバを導入してユーザ管理することを推奨します。

3.2.3 システム構成例

ナビゲーションプラットフォームのシステム構成例のパターンを次に示します。

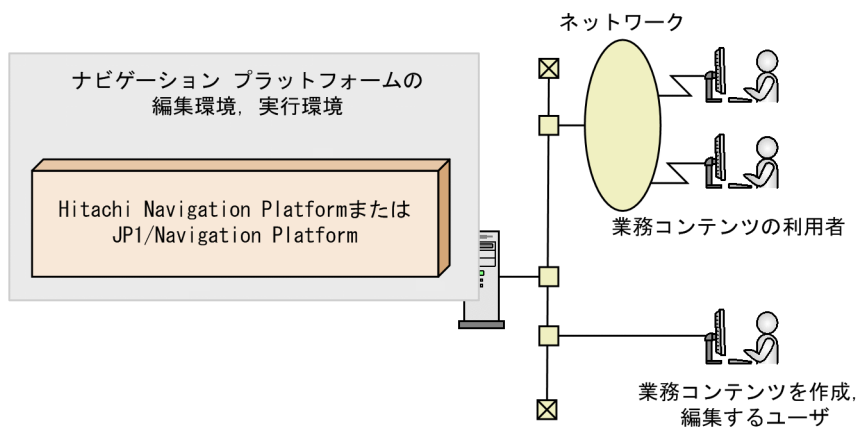
参考

- ここで紹介する構成例に当てはまらない構成にしたい場合は、弊社までお問い合わせください。なお、このマニュアルでは、開発環境、編集環境、および実行環境をそれぞれ1台のマシンで構成すること（「(4) プラグインやカスタム画面を開発する場合」の構成）を前提に説明しています。
- iPad 向け業務コンテンツとそれ以外の業務コンテンツでは、最適な状態で利用するための設定値が異なるユーザプロパティがあります。そのため、業務コンテンツを iPad で操作するユーザーがいる場合は、iPad での表示に最適な設定で構築した、専用の実行環境を用意することを推奨します。

(1) システム管理者の業務コンテンツ運用作業を軽減したい場合

システム管理者の業務コンテンツ運用作業を軽減するためには、編集環境が実行環境を兼ねるシステム構成を推奨します。

図 3-1 システム構成例（編集環境が実行環境を兼ねる場合）

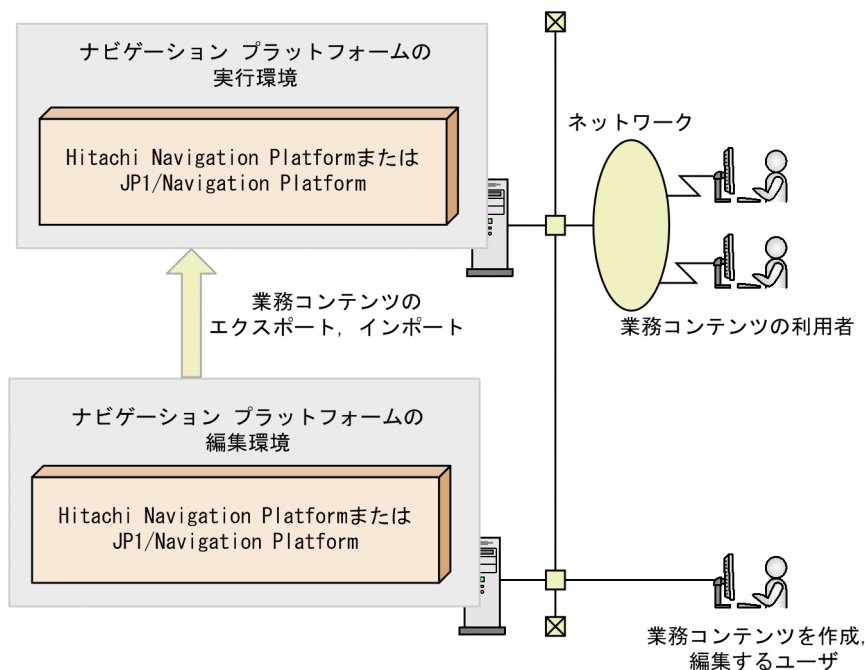


編集環境と実行環境を1台のサーバマシンで運用する場合、編集環境で作成した業務コンテンツを実行環境にエクスポートする作業が不要になるため、システム管理者の作業を軽減できます。一方、同時にアクセスする利用者が多いとサーバの負荷が大きくなるなどの注意点もあります。

(2) 編集ミスによって利用者に影響が出ることを防止したい場合

業務コンテンツを作成する際の編集ミスがそのまま利用者に公開されないようにするためには、編集環境と実行環境を分けるシステム構成を推奨します。

図 3-2 システム構成例（編集環境と実行環境を分ける場合）

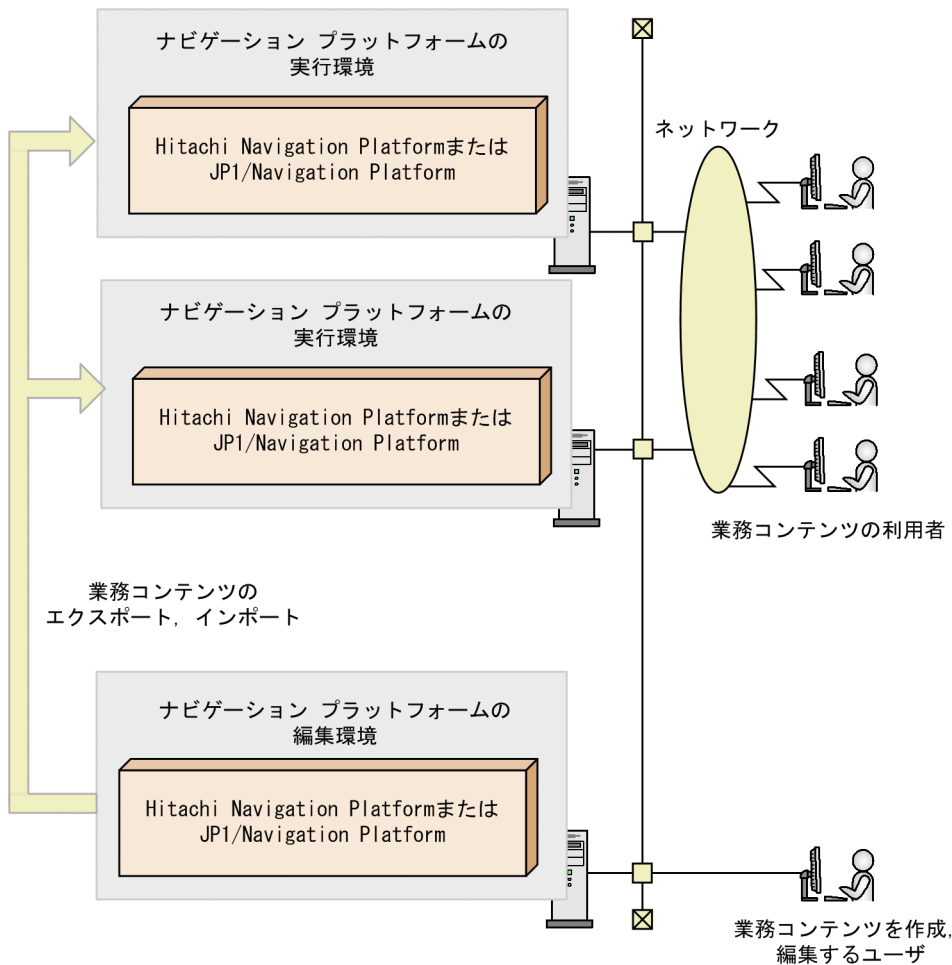


編集環境と実行環境を別のサーバマシンで運用する場合、編集環境で作成した業務コンテンツをエクスポートし、実行環境にインポートする必要があります。そのため、誤って利用者が使用中の業務コンテンツを非公開または削除してしまうなどの編集ミスがあっても、実行環境に影響はありません。

(3) システムの負荷を分散したい場合

システムの負荷を分散するためには、実行環境を複数のサーバに分けるシステム構成を推奨します。

図 3-3 システム構成例（複数の実行環境がある場合）

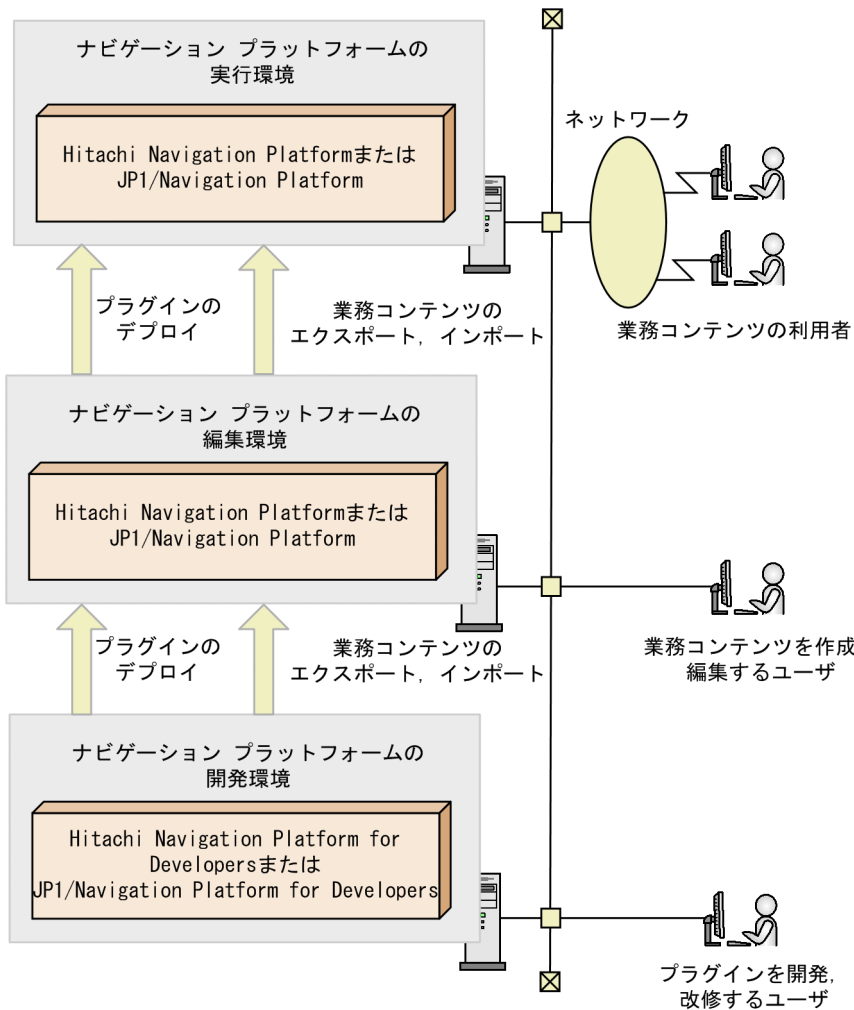


「(2) 編集ミスによって利用者に影響が出ることを防止したい場合」の構成を応用して、実行環境を複数のサーバマシンで運用することもできます。この構成の場合、サーバの負荷軽減が期待でき、システムの可用性も高まります。なお、実行環境が複数ある場合、編集環境で作成した業務コンテンツをエクスポートし、すべての実行環境にインポートする必要があります。

(4) プラグインやカスタム画面を開発する場合

プラグインやカスタム画面を開発するためには、開発環境を含むシステム構成を推奨します。

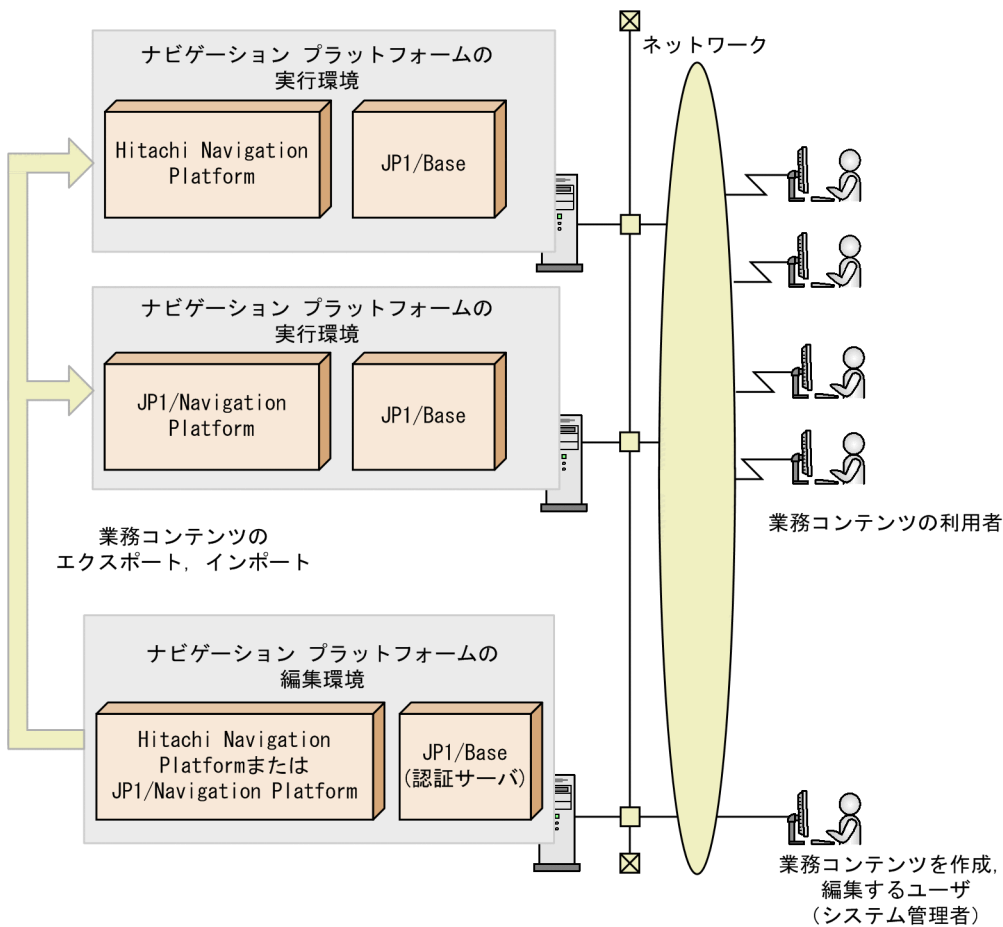
図 3-4 システム構成例（開発環境がある場合）



ユーザプラグインを使用した高度な業務コンテンツを作成する場合は、ユーザプラグインを開発するための開発環境が必要です。開発環境で開発されたユーザプラグインは、まず編集環境へデプロイします。さらに、編集環境で作成した業務コンテンツを実行環境にインポートするタイミングで、実行環境にもユーザプラグインをデプロイする必要があります。

(5) ほかの JP1 製品と連携する場合

図 3-5 システム構成例（ほかの JP1 製品と連携する場合）



JP1 連携プラグインを使用するためには、JP1/Base によるユーザ認証が必須です。

複数の編集環境または実行環境がある場合は、各環境に JP1/Base をインストールする必要がありますが、認証サーバは 1 台を共用できます。「[図 3-5 システム構成例（ほかの JP1 製品と連携する場合）](#)」の図の場合、編集環境の JP1/Base を認証サーバとしているため、実行環境の JP1/Base は編集環境の認証サーバを利用してユーザ認証を実行します。

ナビゲーション プラットフォームが利用できる JP1/Base のバージョンなどについては、「[3.3.2 ナビゲーション プラットフォームで使用できるユーザ認証の種類](#)」を参照してください。また、JP1/Base のユーザ認証機能および認証サーバの詳細については、マニュアル「[JP1/Base 運用ガイド](#)」を参照してください。

また、JP1 製品が稼働する OS の言語は、ナビゲーションプラットフォームの実行環境、編集環境の OS と同じ言語にすることを推奨します。

JP1 製品が稼働する OS の言語が、ナビゲーションプラットフォームの実行環境、編集環境の OS の言語と異なる場合、連携するデータの文字コードは ASCII にしてください。ASCII 以外の文字コードを利用した場合、文字化けする場合があります。

3.3 システム構築の前提条件

ナビゲーション プラットフォームのシステムを構築するときの前提条件について説明します。

3.3.1 ナビゲーション プラットフォームで使用するマシンの推奨マシンスペック

ナビゲーション プラットフォームを運用するために推奨するマシンスペックと設定を次に示します。

実行環境, 編集環境用サーバマシンの推奨スペック※1

CPU: インテル Corei5 2GHz 以上

メモリ: 2GB 以上※2

ハードディスク: 26GB 以上※3

開発環境用マシンの推奨スペック※1

CPU: インテル Corei5 2GHz 以上

メモリ: 3GB 以上※4

ハードディスク: 26GB 以上※3

クライアントマシンの推奨スペック※1

CPU: インテル Core2 Duo 3GHz 以上

メモリ: 1GB 以上

ハードディスク: 1GB 以上

デバイス (iOS の場合): iOS10 をサポートする iPad※5

注※1

ここに示したマシンスペックには、ナビゲーション プラットフォームの運用に必要なスペック以外は含まれていません。最終的なマシンスペックを決定するときは、推奨スペックに OS 稼働などに必要なスペックを追加してください。

注※2

ダッシュボード機能を利用する場合、必要なハードディスク容量は操作ログの容量によって変わります。操作ログの容量の 2 倍のハードディスク容量を追加で見積もってください。

ダッシュボード機能を利用する場合に必要なメモリ容量の見積もりについては、「[5.4.4\(2\) ダッシュボード機能を利用するときのメモリ容量の見積もり](#)」を参照してください。メモリ容量の変更については、「[5.4.4\(7\) ダッシュボードサーバのストレージサービスで必要なメモリ容量の変更](#)」を参照してください。

操作ログのアップロードを利用する場合は、一時領域としてさらに操作ログ容量と同じハードディスク容量の追加が必要になります。操作ログのアップロードについては「[5.4.4\(5\) 操作ログのアップロード](#)」を参照してください。

注※3

想定するナビゲーションプラットフォームの運用によって、操作ログのファイル容量が増加することがあります。必要に応じて操作ログのファイル容量の分だけ、ハードディスク容量を増やしてください。ナビゲーションプラットフォームの運用と操作ログのファイル容量の関係については、「[3.4.2 操作ログのファイル容量の見積もり](#)」を参照してください。

注※4

開発環境ではデバッグを実行するため、実行環境または編集環境よりも大きなメモリ容量が必要です。

注※5

ナビゲーションプラットフォームにアクセスするために利用できる接続モードは、Wi-Fi だけです。

推奨する設定

- 各マシンの画面の色は 24 ビット以上を推奨します。24 ビット未満の場合、画面の色にむらが出る場合があります。
- 各マシンのシステムフォントのサイズは「標準」に設定してください。システムフォントのサイズを「標準」以外に設定している場合、予期しない個所で文字列が改行されるなど、正常に表示されないおそれがあります。
- 「システムアカウント」の「地域と言語の設定」は、「現在のユーザー」と同じにしてください。「地域と言語の設定」が異なる場合、トレースファイルが正常に出力されないおそれがあります。

3.3.2 ナビゲーションプラットフォームで使用できるユーザ認証の種類

ユーザ認証を利用している環境でナビゲーションプラットフォームを運用する場合、ディレクトリサーバまたは JP1/Base の認証サーバが必要になります。なお、ナビゲーションプラットフォームは、ユーザ認証を利用しない環境でも運用できます。

(1) ディレクトリサーバによるユーザ認証

ディレクトリサーバによるユーザ認証には、OS に付属している Active Directory を使用します。

ポイント

ユーザ認証を利用しない環境で運用する場合は、ログイン画面でのパスワードの入力が不要になります。業務コンテンツを作成したり削除したりする権限の有無は、ログイン時に入力したユーザ ID によって決まります。システム管理者以外のユーザにも業務コンテンツを編集させたい場合の対処を次に示します。

- システム管理者用のユーザ ID を複数のユーザで共有する
システム管理者用のユーザ ID は、セットアップ時に作成するプロパティファイルで指定できます。該当するプロパティの詳細については、「[8.3.3\(5\) システム管理者 ID \(ucnp.setup.server.system.admin.userids\)](#)」を参照してください。

- システム管理者がアクセス権グループを作成して、ほかのユーザのユーザ ID にコンテンツ管理者とコンテンツ編集者の権限を与える

権限の種類やアクセス権グループの作成手順については、「6.2 業務コンテンツへのアクセス権の設定 (ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合)」と「6.4 業務コンテンツのアクセス管理の流れ (ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合)」を参照してください。

(2) JP1/Base によるユーザ認証

JP1/Base によるユーザ認証を使用する場合は、次の製品が必要です。

- JP1/Base 10-50 以降

ナビゲーション プラットフォームをインストールしたサーバマシンに、JP1/Base 10-50 以降もインストールしてください。サーバマシンが複数ある場合は、それぞれのサーバマシンに JP1/Base 10-50 以降が必要になります。ただし、認証サーバとして設定が必要なサーバマシンは 1 台だけです。複数のサーバマシンが 1 台の認証サーバを利用できます。

JP1 連携プラグインを使用するときは、JP1/Base によるユーザ認証が必須となります。また、JP1 ユーザに JP1 権限と JP1 資源グループを設定することで、業務コンテンツへのアクセス権を設定することもできます。JP1 権限と JP1 資源グループについては、「6.3 業務コンテンツへのアクセス権の設定 (JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合)」を参照してください。

3.3.3 ナビゲーション プラットフォームで使用できる Web ブラウザ

ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするクライアントマシンで使用できる Web ブラウザと OS の組み合わせを次に示します。なお、Web ブラウザには、必ず最新の更新プログラムを適用してください。また、Windows OS で使用する Web ブラウザは、Internet Explorer 11 を推奨します。

表 3-1 使用できる Web ブラウザと OS

Web ブラウザ名	OS
Internet Explorer 8	Windows 7
Internet Explorer 9	Windows 7
Internet Explorer 10	Windows 7, Windows 8
Internet Explorer 11	Windows 7, Windows 8.1, Windows 10
モバイル用の Safari (以降, Mobile Safari と呼ぶ)	iOS 10.3

注 Internet Explorer の開発者ツールで操作した場合の動作は保証しません。また、Internet Explorer 10, Internet Explorer 11 の Modern インタフェースには対応していません。

3.3.4 Web ブラウザを操作するときの注意事項

OS と Web ブラウザの設定、操作に関する注意事項を示します。

(1) Internet Explorer の設定に関する注意事項

- 更新プログラムは、最新のものを適用してください。
- ナビゲーション プラットフォームを使用するときは、Web ブラウザの文字サイズを「中」以下に設定することを推奨します。文字サイズを「中」より大きくすると、Web ブラウザに表示される文字が欠けるおそれがあります。
- Web ブラウザのインターネット一時ファイルの設定は「自動的に確認する」を推奨します。「自動的に確認する」以外に設定すると、画像が正常に表示されないおそれがあります。
- Web ブラウザの [互換表示] ボタンは無効にしてください。有効にすると、画面の表示が崩れることがあります。
- Web ブラウザの操作中に、一部のスクリプトが動作しない場合があります。この場合は、必要に応じて Web ブラウザの [インターネットオプション] の [セキュリティ] の設定を確認し、ナビゲーション プラットフォームの URL を「信頼済みサイト」に追加してください。ただし、この設定によってセキュリティレベルが下がるため、注意してください。
- Web ブラウザの [インターネットオプション] の [セキュリティ] の次の項目は、「有効にする」に設定してください。これらの設定を有効にしておかないと、ナビゲーション プラットフォームの画面の表示や機能が一部不正になります。
 - 「バイナリビヘイビアースクリプトビヘイビアース」
 - 「アクティブスクリプト」
 - 「スクリプトによる貼り付け処理の許可」
- インラインフレームパーツで指定した外部の Web サイトが表示されない場合があります。表示されるかどうかは、指定した外部の Web サイトの設定によって異なります。

(2) Internet Explorer の操作に関する注意事項

- 同じ PC から複数のアカウントでナビゲーション プラットフォームにログインしないでください。
- 同じ PC で複数の業務編集画面 (Web ブラウザまたはタブ) を操作しないでください。
- ナビゲーション プラットフォームの操作では、Web ブラウザの [戻る] ボタンを使用しないでください。最新の情報が表示されない場合があります。
- 業務実行中に < F5 > キーや Web ブラウザの [更新] ボタンを使用して画面を更新しないでください。保存していない入力途中のデータが破棄されるなど、正常に動作しないおそれがあります。
- テキストボックスに 1,025 文字以上の文字列を入力した場合、入力した文字列が部分的に表示されない場合があります。テキストボックスの最大入力文字数は、1,024 文字以下を目安に設定することを推奨します。

- Web ブラウザを操作中に次のメッセージが表示された場合、[キャンセル] ボタンをクリックして実行を続けてください。[OK] ボタンをクリックして中断した場合、正常に動作しないことがあります。
「このページのスクリプトが、Internet Explorer の実行速度を遅くしています。スクリプトを実行し続けると、コンピュータが反応しなくなる可能性があります。スクリプトを中断しますか?」
- Web ブラウザを操作中に次のメッセージが表示された場合、[Web ページの回復] ボタンをクリックしないで、処理が終了するまで待ってください。[Web ページの回復] ボタンをクリックして処理を中断した場合、正常に動作しないことがあります。
「ホスト名は応答していません。」
- メッセージダイアログに表示されるメッセージが画面の下をはみ出して、[OK] ボタンをクリックできない状態になった場合、次のどちらかの操作でメッセージダイアログを閉じてください。
 - メッセージダイアログの [×] ボタンをクリックする。
 - メッセージダイアログにフォーカスが当たっていることを確認して、< Enter >キーまたは< Esc >キーを押す。
- Web ブラウザを閉じる場合は、[×] ボタンではなく [閉じる] ボタンや [キャンセル] ボタンなど、ナビゲーション プラットフォームのボタンを使用してください。ただし、Web ブラウザの印刷プレビューを表示したあとで [閉じる] ボタンをクリックすると、画面に何も表示されなくなり、Web ブラウザが閉じなくなることがあります。この場合は、[×] ボタンで Web ブラウザを閉じてください。
- Web ブラウザの印刷プレビュー画面を [×] ボタンで閉じた場合は、印刷しようとした画面が閉じなくなることがあります。この場合は、印刷しようとした画面を [×] ボタンで閉じてください。
- 業務編集画面または業務実行画面を閉じる場合は、[×] ボタンではなく [閉じる] ボタンまたは [ログアウト] ボタンを使用してください。ログアウトしないで Web ブラウザを閉じると、キャッシュデータおよび保存していないデータは破棄されます。ただし、Web ブラウザの印刷プレビューを表示したあとで [閉じる] ボタンをクリックすると、画面に何も表示されなくなり、Web ブラウザが閉じなくなることがあります。この場合は、[×] ボタンで Web ブラウザを閉じてください。
- 同じ Web ブラウザから繰り返しナビゲーション プラットフォームを操作した場合、Windows から次の警告メッセージが表示されることがあります。
「仮想メモリ不足 システムの仮想メモリが少なくなってきました。Windows が正しく動作するために、仮想メモリ ページ ファイルのサイズを増やしてください。詳細はヘルプを参照してください。」
メッセージが表示された場合は、Web ブラウザを閉じて、再起動してください。
- Web ブラウザのエラーメッセージが表示された場合、またはボタンをクリックしても応答がない場合は、操作中の画面を閉じて、再ログインしてから操作をやり直してください。再ログイン後も問題が解決しない場合は、保守員に連絡してください。

(3) Internet Explorer 8 または Internet Explorer 9 を使用する場合の注意事項

(a) Internet Explorer 8 および Internet Explorer 9 共通の注意事項

- ズーム機能を使用して画面の表示内容を拡大すると、スクロールバーに文字が重なる場合があります。

- インラインフレームパーツで指定した外部の Web サイトが表示されない場合があります。表示されるかどうかは、指定した外部の Web サイトの設定によって異なります。
- ブラウザの [互換表示] ボタンは無効にしてください。有効にすると、画面の表示が崩れるおそれがあります。

(b) Internet Explorer 8 だけの注意事項

- 業務編集画面から表示された子画面が、空白の画面になることがあります。その場合は、子画面の Web ブラウザの [×] ボタンをクリックして空白の画面を閉じてください。子画面を閉じてても、業務編集画面のロックが解除されない場合は、[子画面を閉じて処理を中止する] の [中止する] ボタンをクリックしてください。子画面を閉じて、業務編集画面のロックが解除されたら、再ログインして操作をやり直してください。

(4) OS の設定に関する注意事項

ナビゲーション プラットフォームは、Windows Vista から拡張された文字 (JIS X0213) に含まれる、Unicode の補助文字には対応していません。

ナビゲーション プラットフォームが対応していない文字を次に示します。

- 基本多言語面 (BMP) 以外の文字
- Unicode のコードポイント U+10000~U+10FFFF の文字
- UTF-16 エンコーディングのサロゲート・ペアで表される文字

(5) Mobile Safari の設定に関する注意事項

- [JavaScript] は [オン] に設定してください。
- プライベートブラウズをオフに設定してください。プライベートブラウズがオンになっている場合、ナビゲーション プラットフォームの動作が不安定になるおそれがあります。
- [Cookie をブロック] は [訪問した Web サイトを許可] または [常に許可] に設定してください。なお、[常に許可] を設定するとセキュリティレベルが下がります。

(6) Mobile Safari の操作に関する注意事項

- Mobile Safari で参照している業務実行画面に [印刷] メニューが表示されていたとしても、[印刷] メニューをクリックしたときの動作は保証されません。
- 操作中に 10 秒以上応答がない場合は、ページをリロードして操作をやり直してください。
- 通信中にエラーが発生したというメッセージやセッションが無効であるというメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作をやり直してください。操作をやり直しても問題が解決しないときは、ネットワークの接続状態を確認してください。Wi-Fi をいったんオフにしてから再度オンにすると、ネットワークの接続状態が正常に回復することもあります。

- Mobile Safari をバックグラウンドで実行している場合、または業務コンテンツを操作中に iPad がスリープモードになった場合などは、セッションが切れることがあります。セッションが切れると操作途中のデータは失われます。また、業務コンテンツを操作中に、ほかの業務コンテンツを参照したり、ナビゲーション プラットフォーム以外のページを表示したりした場合も、操作途中のデータは失われます。なお、システム構築時の設定によっては、業務実行画面に [一時中断] ボタンが表示されています。[一時中断] ボタンをクリックしてログアウトしておけば、セッションが切れたり、ほかのページを表示したりしても、ボタンをクリックした時点までの操作のデータは保存されています。
- テキストボックスおよびテキストエリアに表示されている文字列を、カット&ペーストまたはコピー&ペーストすることはできません。
- ソフトウェアキーボードが表示された状態では、次の操作をしないでください。
 - テキストボックスまたはテキストエリアを長押しする。
 - ソフトウェアキーボード以外の領域をスクロールさせる。
 - ソフトウェアキーボード以外の領域をタップする。
 ソフトウェアキーボードが表示された状態でこれらの操作を実行すると、その後テキスト入力ができなくなります。再度テキスト入力をするには、ソフトウェアキーボードをいったん閉じてから再表示してください。
- テキストボックスおよびテキストエリアに半角英数字を入力する場合、先頭の文字は自動的に大文字になります。先頭の文字を小文字にしたい場合は、< Shift > キーを解除してください。
- テキストボックスおよびテキストエリアに絵文字を入力すると、文字化けするおそれがあります。
- オートコレクト機能によって表示される修正候補の単語は、選択しないでください。修正候補の単語をタップすると、その後テキスト入力ができなくなります。再度テキスト入力をするには、ソフトウェアキーボードをいったん閉じてから再表示してください。
- ソフトウェアキーボード以外の領域をタップしても、ソフトウェアキーボードが非表示にならない場合は、ソフトウェアキーボード右下の端にあるボタンをタップしてください。
- 業務実行画面全体を下方向にスクロールすると、ヘッダ領域（ツールリンク、ログアウトボタンなど）が隠れることがあります。再度ヘッダ領域を表示するには、上方向にスクロールしてください。
- ブラウザのタブが 2 つある状態からタブを 1 つ削除すると、業務実行画面の下に空白領域が表示されます。空白領域を消すには、画面をリサイズ（回転する、ブックマークバーを表示するなど）してください。
- Web ブラウザのエラーメッセージが表示された場合、またはボタンをクリックしても応答がない場合は、操作中の画面を閉じて、再ログインしてから操作をやり直してください。再ログイン後も問題が解決しない場合は、保守員に連絡してください。

3.4 システムの見積もり

ナビゲーション プラットフォームの運用に必要な、データベースサーバの容量、操作ログファイルのファイル容量、および中断再開プラグインを使用する場合の容量の見積もり方法について説明します。

3.4.1 データベースサーバの容量の見積もり

ナビゲーション プラットフォームをセットアップするときに必要なデータベースの容量は、約 15GB です。これは、次に示す規模の業務コンテンツを作成・運用することを想定した容量です。

表 3-2 セットアップ時のデータベース容量で作成できる業務コンテンツ

項目	規模
業務コンテンツの最大数	500 個
1 個の業務コンテンツ当たりのノード数 (平均値)	20 個
1 個のフロー領域当たりのパーツ数 (平均値)	30 個
1 個の業務コンテンツ当たりのプラグイン数 (ユーザプラグイン, システムプラグインの合計数の平均値)	20 個
1 個のガイド領域当たりのパーツ数 (平均値)	35 個

セットアップ時のデータベースの容量で作成できる業務コンテンツの最大数よりも多くの業務コンテンツを作成したい場合や、1 個の業務コンテンツ当たりのノード数やパーツ数が平均値よりも多くなる場合は、セットアップ後にデータベースの容量を拡張する必要があります。データベースの容量を拡張する方法については、「[5.3 データベースの運用](#)」を参照してください。

3.4.2 操作ログのファイル容量の見積もり

次の表を参考にして、ナビゲーション プラットフォームの運用を検討してください。

表 3-3 ナビゲーション プラットフォームが想定する操作ログの運用

項番	項目	規模 (数値)
1	1 日に業務実行画面を操作する利用者数	10 人
2	1 人の利用者が 1 時間当たりに実行する業務コンテンツの数	6 個
3	1 個の業務コンテンツ当たりのノード数	10 個
4	ナビゲーション プラットフォームの 1 日当たりの実働時間	8 時間
5	操作ログを保持する期間	180 日*

注※

ナビゲーション プラットフォームのレポート画面では、最大6か月間の操作ログを解析できます。そのため、操作ログを保持する期間は、デフォルト値の180日から変更しないことを推奨します。

この表に示した数値と異なる規模でナビゲーション プラットフォームを運用する場合は、次の計算式に従って、必要なディスク容量を見積もる必要があります。

(1) 操作ログのファイル容量の見積もり式 (ucnpOptions パラメタを含む URL を使用しない場合)

見積もり式 (ucnp.base.server.operationlog.user.analyze.info プロパティが true の場合)

$1.0 \times \{(\text{セットアップする環境の運用で想定する, 表 3-3 の項番 1~項番 4 に対応する数値}) / (\text{表 3-3 の項番 1~項番 4 の数値})\} = \text{セットアップする環境に必要な操作ログのファイル容量 (単位: GB)}$

見積もり式 (ucnp.base.server.operationlog.user.analyze.info プロパティが false の場合)

ucnp.base.server.operationlog.user.analyze.info プロパティが true の場合の見積もり式の計算結果 $\times 0.25 = \text{セットアップする環境に必要な操作ログのファイル容量 (単位: GB)}$

見積もり例

- セットアップする環境の運用で想定する利用者数 (表 3-3 の項番 1) が 20 人
- セットアップする環境の運用で想定する 1 人の利用者が 1 時間あたりに実行する業務コンテンツの数 (表 3-3 の項番 2) が 9 個
- ucnp.base.server.operationlog.user.analyze.info プロパティに true が指定されている

この条件を満たす環境に必要な操作ログのファイル容量は、次のように計算できます。

$$1.0 \times \{20/10\} \times \{9/6\} = 1 \times 2 \times 1.5 = 3.0 \text{GB}$$

ポイント

操作ログのファイル容量が大きいと、操作ログを独自に解析しづらくなります。そのため、操作ログを独自に解析する必要がない場合は、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.operationlog.user.analyze.info プロパティに false を指定することを推奨します。

(2) 操作ログのファイル容量の見積もり式 (ucnpOptions パラメタを含む URL を使用する場合)

ナビゲーション プラットフォームにアクセスする URL に ucnpOptions パラメタが含まれている場合、ucnpOptions パラメタの指定値が操作ログに追加されます。そのため、「3.4.2(1) 操作ログのファイル容量の見積もり式 (ucnpOptions パラメタを含む URL を使用しない場合)」の見積もり式の計算結果に、次の計算式の結果を追加してください。

見積もり式 (ucnpOptions パラメタ用に必要な操作ログのファイル容量)

ucnpOptions パラメタのサイズ × (表 3-3 の項番 1 × 項番 2 × 項番 3 × 項番 4 × 180 = ucnpOptions パラメタ用に必要な操作ログのファイル容量単位 : GB)

3.4.3 中断再開プラグインを使用する場合の容量の見積もり

中断再開プラグインを使用する場合は、中断情報を管理する外部記憶装置 (データベースなど) を準備します。中断情報を管理する外部記憶装置は任意ですが、ナビゲーション プラットフォームの組み込みデータベースとは別に、中断情報に必要な容量を確保する必要があります。

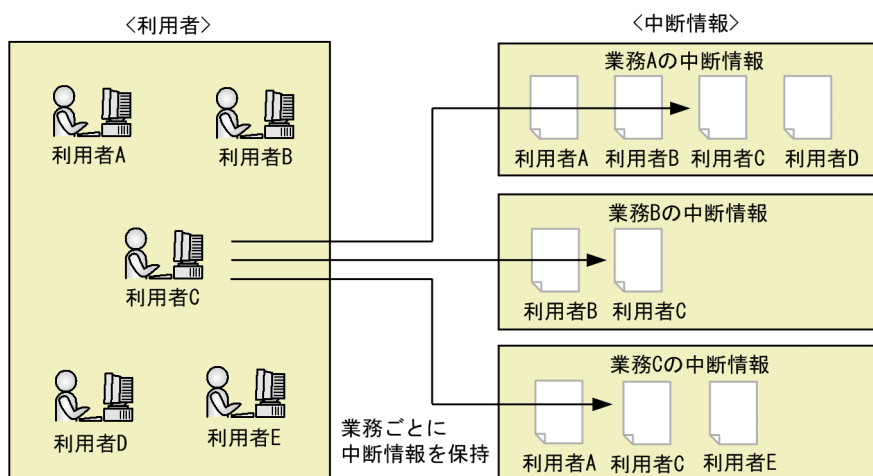
ここでは、中断情報の管理単位について説明します。また、中断情報の容量を見積もる方法および見積もり例について説明します。

(1) 中断情報の管理単位


外部記憶装置に保存する中断情報の管理単位を決定します。

次の図に、利用者および業務コンテンツごとに一つの中断情報を管理する例を示します。この例では、ユーザ ID と業務コンテンツ ID をユニークにして、各利用者が業務ごとに一つの中断情報を保持できるようにしています。

図 3-6 利用者と中断情報の関係



(凡例)

 : 中断情報

ナビゲーション プラットフォームが提供する API を利用して中断再開プラグインを開発した場合、中断情報の削除は次のタイミングで実行されます。

- 利用者が業務実行画面で [完了] ボタンをクリックしたとき (業務完了時)
完了した業務コンテンツに関する、業務を完了したユーザの中断情報が削除されます。
- 業務実行画面で参照できる業務コンテンツの内容が変更されたとき

該当する業務コンテンツに関する、すべてのユーザの中断情報が削除されます。

- 業務コンテンツを作成するユーザが業務編集画面で業務コンテンツを削除したとき
削除した業務コンテンツに関する、すべてのユーザの中断情報が削除されます。
- 利用者が業務実行画面で業務を再開しようとして、整合性エラーが発生したとき
中断情報を保存した時点から業務コンテンツが更新されていると、整合性エラーが発生します。このとき、選択した業務コンテンツに関する、業務コンテンツを選択したユーザの中断情報が削除されます。

(2) 中断情報の容量の見積もり手順

中断情報のデータサイズは次の手順で見積もります。

1. 中断情報 1 件当たりのデータサイズ（すべての業務コンテンツの平均値）を見積もります。

見積もり式

$$\{(利用者が入力するデータの平均サイズ + 350) \times \text{ガイドのパーツ数} + 640\} \times \text{プロセスノード数} \\ + (利用者が入力するデータの平均サイズ + 560) \times \text{データストアプラグインのパラメタ数} + 2700 \\ = \text{中断情報 1 件当たりのデータサイズ (単位: バイト)}$$

2. 業務コンテンツの利用者数（すべての業務コンテンツの平均値）を見積もります。

3. 手順 1, 2 から必要なデータサイズを見積もります。

見積もり式

$$\text{中断情報 1 件当たりのデータサイズ} \times \text{業務コンテンツの利用者数} \times \text{業務コンテンツの数} = \text{必要な} \\ \text{データサイズ (単位: バイト)}$$

(3) 容量見積もり例

次に示す見積もり条件を基に、中断情報の容量を見積もる例を示します。

見積もり条件（すべて平均値）

- 業務コンテンツの数：100 件
- プロセスノード数：30 個
- 利用者が入力するデータの平均サイズ：1,000 バイト
- ガイドのパーツ数：50 個
- データストアプラグインのパラメタ数：30 個
- 業務コンテンツの利用者数：20 人

見積もり例（中断情報 1 件当たりのデータサイズ）

$$\{(1,000 + 350) \times 50 + 640\} \times 30 + (1,000 + 560) \times 30 + 2,700 = 2,093,700 \text{ バイト}$$

見積もり例（必要なデータサイズ）

$$2,093,700 \times 20 \times 100 = 4,187,400,000 \text{ バイト} \approx 3.9 \text{ GB}$$

3.5 ナビゲーション プラットフォームのインストール

ここでは、ナビゲーション プラットフォームを新規にインストールする手順、およびインストール後のディレクトリ構成について説明します。

なお、ナビゲーション プラットフォームをバージョンアップする場合で、バージョンアップ前の環境を移行し、バージョンアップ後もそのまま使用したいときには、「[3.7.3 バージョンアップ手順](#)」を参照してください。

3.5.1 インストール前に確認すること

マシンにログインするユーザ

インストールとセットアップは、必ず Windows の管理者権限があるユーザで実施してください。[管理者として実行] を選択して操作を開始する必要があります。

マシンの条件

IPv4 をサポートしている必要があります。その他のスペックについては、「[3.3.1 ナビゲーション プラットフォームで使用するマシンの推奨マシンスペック](#)」のサーバマシンのスペックを参照してください。

ディスクの空き容量

ナビゲーション プラットフォームをインストールするディスクには、25GB 以上の空き容量が必要です。ディスクの空き容量は、余裕を持って確保することを推奨します。必要最低限の空き容量しかない場合、運用を開始してすぐに容量が不足してしまうなどのトラブルが発生するおそれがあります。

Windows Firewall のサービスの状態

Windows Firewall のサービスが起動していることを確認します。Windows Firewall のサービスが停止していると、インストール処理が中断してしまいます。

インストール先のディレクトリ

インストール先のディレクトリには、次に示す条件があります。条件を満たさない場合、動作は保証されません。

- ディレクトリには、次の文字だけを使用し、100 文字以内になるようにしてください。
 - 半角英数字 (A~Z, a~z, 0~9)
 - 半角スペース
 - 半角の円マーク (¥)
 - 半角コロン (:)
- パス区切り文字には「¥」を使用します。「¥¥」は使用できません。
- ネットワークドライブまたはドライブの直下をインストール先に指定しないでください。
- ディレクトリ名の先頭または末尾には半角スペースを含めないでください。

- インストール先ディレクトリのパスに半角スペースを含める場合、パスの先頭から半角スペース直前までのパスと同じパスを持つファイルまたはディレクトリとは、共存できません。例えば、「C:¥Program」というディレクトリが存在する場合、「C:¥Program Files」をインストール先ディレクトリに指定することはできなくなります。
- 半角ピリオド (.) で始まるディレクトリを含めないでください。

3.5.2 新規インストール手順

ここでは、日立総合インストーラを使用して新規にナビゲーション プラットフォームをインストールする手順を説明します。開発環境、編集環境、および実行環境にナビゲーション プラットフォームをインストールします。

なお、ナビゲーション プラットフォームは、JP1/NETM/DM を使ったりリモートインストールにも対応しています。リモートインストールの詳細は、マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R)用)」を参照してください。

注意事項

- インストール操作は、Windows の管理者権限がある状態で実施する必要があります。[管理者として実行] を選択して操作を開始してください。
- 1 台のマシンには Hitachi Navigation Platform, JP1/Navigation Platform, Hitachi Navigation Platform for Developers, JP1/Navigation Platform for Developers のどれか一つだけをインストールしてください。複数の製品を 1 台のマシンにインストールすることはできません。

1. CD-ROM を挿入し、HCD_INST.EXE を実行します。
2. [続行] ボタンをクリックして、日立総合インストーラから統合インストーラを起動します。
3. 設定内容を確認し、[インストール実行] ボタンをクリックしてインストールを開始します。
ナビゲーション プラットフォームに必要なソフトウェアが順番にインストールされます。
4. インストール開始画面で [次へ] ボタンをクリックします。
インストール先の選択画面が表示されます。
5. インストール先を指定します。
デフォルトのインストール先ディレクトリは次のとおりです。
OS のインストールドライブ:¥Program Files¥Hitachi¥HNP
特に必要がないかぎり、デフォルトで表示されるディレクトリをインストール先とすることを推奨します。別のディレクトリにインストールしたい場合は、[参照] ボタンをクリックしてディレクトリを選択してください。

なお、サーバマシンを移行する場合は、移行元と移行先（旧マシンと新マシン）とで同じディレクトリを指定する必要があります。

6. [次へ] ボタンをクリックします。
ユーザ情報の設定画面が表示されます。
7. ユーザ名および会社名を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。
プログラムフォルダの選択画面が表示されます。
8. スタートメニューのプログラムに登録するプログラムフォルダを選択します。
デフォルトは、製品の種類に関係なく「Navigation Platform - Server」です。
別のフォルダにしたい場合は、任意のフォルダ名を入力するか、または既存のフォルダリストからディレクトリを選択します。
9. [次へ] ボタンをクリックします。
インストールの開始画面が表示されます。
10. インストール情報を確認します。
現在の設定内容が表示されます。設定を変更したい場合は、[戻る] ボタンをクリックして、設定を変更してください。
[次へ] ボタンをクリックすると、インストールの進捗状況が表示されます。
インストールが完了すると、インストールが完了したことを知らせるダイアログが表示されます。
11. インストール完了の画面を確認し、画面を閉じます。
12. インストール完了後、再起動を促すメッセージが表示されたら、サーバマシンを再起動します。
13. 必要に応じて、修正パッチを適用します。
修正パッチの適用手順については、「[3.9 修正パッチの適用手順](#)」を参照してください。

注意事項

インストールをキャンセルしたり、処理中にエラーが発生したりした場合、ナビゲーションプラットフォームが不完全な状態でインストールされてしまうことがあります。その場合は、インストールを最初からやり直すか、いったん「[3.10 ナビゲーションプラットフォームのアンインストール](#)」に従ってアンインストールしてから再度インストールを実施してください。

3.5.3 ナビゲーションプラットフォームのディレクトリ構成

ナビゲーションプラットフォームをデフォルトのインストール先にインストールした場合のディレクトリ構成を次に示します。

```
OSのインストールドライブ:¥Program Files¥Hitachi
└─HNP
```

```
└pp
  └DB
    └Elastic
      └uCPF
        └uCPSB
```

このマニュアルでは、これらのディレクトリを次のように表記します。なお、この表では OS を C ドライブにインストールしたものとしています。

表 3-4 マニュアルでの表記と実際のディレクトリとの対応

マニュアルでの表記	デフォルトのインストールディレクトリ
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ	C:¥Program Files¥Hitachi¥HNP

3.6 ナビゲーション プラットフォームのバージョンアップ

このマニュアルの対象製品のナビゲーション プラットフォームにバージョンアップできる製品は、次のとおりです。

表 3-5 バージョンアップの対象となる製品

項番	型名	製品名	バージョン
1	P-2443-4P94	uCosminexus Navigation Platform	09-00, 09-50, 09-60
2	P-2443-4R94	uCosminexus Navigation Platform - User License	09-00, 09-50, 09-60
3	P-2443-4U94	uCosminexus Navigation Platform - Authoring License	09-00, 09-50, 09-60
4	P-2443-4V94	uCosminexus Navigation Developer	09-00, 09-50, 09-60
5	P-242C-4PA4	JP1/Integrated Management - Navigation Platform	10-01, 10-10
6	P-2443-4PA4	Hitachi Navigation Platform	10-00
7	P-2443-4VA4	Hitachi Navigation Platform for Developers	10-00
8	P-242C-4PA4	JP1/Integrated Management - Navigation Platform	10-50
9	P-2943-4PA4	Hitachi Navigation Platform	10-10 以降
10	P-2943-4VA4	Hitachi Navigation Platform for Developers	10-10 以降
11	P-292C-4PBL	JP1/Navigation Platform	11-00 以降
12	P-292C-4VBL	JP1/Navigation Platform for Developers	11-00 以降

注

このマニュアルでは、項番 1～項番 4 の製品を区別する必要がない場合は、uCosminexus Navigation Platform と表記します。

次の場合は、弊社までお問い合わせください。

- 09-00 より前の製品をバージョンアップしたい。
- 現在のナビゲーション プラットフォームでサポートしていない Windows OS に構築されている環境をバージョンアップしたい。

項番 1～項番 5 の製品と、項番 6～項番 12 の製品でバージョンアップ手順が異なります。

項番 1～項番 5 の製品のバージョンアップ手順は「[3.7 Hitachi Navigation Platform 10-00 より前からバージョンアップする場合](#)」を参照してください。

項番 6～項番 12 の製品のバージョンアップ手順は「[3.8 Hitachi Navigation Platform 10-00 以降からバージョンアップする場合](#)」を参照してください。

3.7 Hitachi Navigation Platform 10-00 より前からバージョンアップする場合

この節では、次の表に示す製品からバージョンアップする手順を説明します。

表 3-6 バージョンアップの対象となる製品

項番	型名	製品名	バージョン
1	P-2443-4P94	uCosminexus Navigation Platform	09-00, 09-50, 09-60
2	P-2443-4R94	uCosminexus Navigation Platform - User License	09-00, 09-50, 09-60
3	P-2443-4U94	uCosminexus Navigation Platform - Authoring License	09-00, 09-50, 09-60
4	P-2443-4V94	uCosminexus Navigation Developer	09-00, 09-50, 09-60
5	P-242C-4PA4	JP1/Integrated Management - Navigation Platform	10-01, 10-10

バージョンアップは、次の流れで実施します。各手順の詳細は、「[3.7.3 バージョンアップ手順](#)」を参照してください。

1. バージョンアップ対象データのバックアップ
2. バージョンアップ前の環境のアンセットアップ
3. バージョンアップ前の環境のアンインストール
4. JP1/Base のバージョンアップ
5. JP1/AO のバージョンアップ
6. ナビゲーション プラットフォームのインストール
7. ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の見直し
8. ナビゲーション プラットフォームのセットアップ
9. バージョンアップ対象データのリストア

3.7.1 バージョンアップ前に確認すること

バージョンアップの前に、次のことを実施してください。

- バージョンアップ後のログイン時のスクリプトエラーを防止するため、Web ブラウザのキャッシュはクリアしておいてください。
バージョンアップ後のナビゲーション プラットフォームにアクセスするときに使用するすべての Web ブラウザのキャッシュをクリアする必要があります。
- JP1/Base によるユーザ認証を使用している場合は、ナビゲーション プラットフォームのバージョンアップよりも先に JP1/Base をバージョンアップしてください。

次に、バージョンアップをするための条件を示します。

- ナビゲーション プラットフォームが起動もしくは停止している、または未セットアップの状態である。
- 同じマシン内で環境をバージョンアップする。
- ナビゲーション プラットフォームをインストールしたユーザでコマンドを実行する。
- サーバのディスクに十分な空き容量がある。

なお、次に示すデータはバージョンアップの対象外です。該当するデータがある場合は、バージョンアップ前に次の表の対処を確認してください。

表 3-7 バージョンアップ対象外のデータ

項番	データ種別	データ	対処
1	ナビゲーション プラットフォームの設定	構成ソフトウェアのログサイズ	不要。
2		トラブルシュート収集コマンドの収集対象パスの設定	不要。
3		IT Report Utility (systoru コマンド) の収集対象パスの設定	不要。
4	開発者が作成したデータ	WTP (Eclipse Web Tools Platform) のデータ	バージョンアップ後のナビゲーション プラットフォームに同梱されている Eclipse を使用してください。
5		uCosminexus Navigation Developer 09-50 より前のバージョンで作成した入出力プラグイン	インポート時にエラーが発生するため、あらかじめ業務コンテンツから削除しておいてください。
6		HTML または JSP によってカスタマイズしたメニュー領域	不要。
7	アプリケーションサーバの設定	Cosminexus Management Server の設定	マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」の J2EE サーバの設定項目の変更についての説明を参照して、再設定してください。

注

この表に示す対処以外の方法を希望する場合は、弊社にお問い合わせください。

3.7.2 バージョンアップできるデータ

バージョンアップの対象となる製品から、このマニュアルの対象製品のナビゲーション プラットフォームにバージョンアップする場合に、バージョンアップ手順を実施することで引き継げるデータを説明します。次の表に示すデータ以外は、バージョンアップ手順を実施しても引き継げません。

表 3-8 バージョンアップ対象のデータ

項番	データ種別	データ
1	業務コンテンツ	作成済みの業務コンテンツ（アクセス権限の情報も含む）
2		JP1/Base の設定内容（JP1 資源グループ, JP1 権限レベル）
3	静的ファイル	[ファイル登録/管理] 画面からアップロードした静的ファイル <ul style="list-style-type: none"> • uCosminexus Navigation Platform の場合 Cosminexus インストールディレクトリ¥https¥htdocs ¥ucnpuserstaticfiles 以下 • JP1/Integrated Management - Navigation Platform の場合 ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP ¥uCPSB¥https¥htdocs¥ucnpuserstaticfiles 以下
4		ユーザが任意に格納した静的ファイル <ul style="list-style-type: none"> • uCosminexus Navigation Platform の場合 Cosminexus インストールディレクトリ¥https¥htdocs 以下の ucnpuserstaticfiles または ucnp 以外 • JP1/Integrated Management - Navigation Platform の場合 ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP ¥uCPSB¥https¥htdocs 以下の ucnpuserstaticfiles または ucnp 以外
5	ナビゲーション プラットフォームの設定	ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties)
6		ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties)
7		ユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties)
8		JP1 イベント関連づけファイル (ucnp_jpl1event_mapping.txt)
9	開発者が作成したデータ	ユーザプラグイン（入出力プラグイン※, 中断再開プラグイン）
10		カスタム画面（JSP 形式の新規画面）
11		ユーザプラグインで利用するリソースアダプタの設定 (データベース接続の設定)
12		ユーザプラグインまたはカスタム画面で使用するライブラリ
13	アプリケーションサーバの設定	アプリケーションサーバで利用するリソースアダプタの設定
14		認証サーバの設定 (ua.conf, Portal Manager の設定)

注

バージョンアップ対象の製品が JP1/Integrated Management - Navigation Platform の場合は、項番 9 以降のデータは存在しません。

注※

uCosminexus Navigation Developer 09-50 より前のバージョンで作成した入出力プラグインは、バージョンアップ対象外です。インポート時にエラーが発生するため、あらかじめ業務コンテンツから削除しておいてください。

3.7.3 バージョンアップ手順

ナビゲーション プラットフォームをバージョンアップする手順を示します。

(1) バージョンアップ対象データのバックアップ手順

バージョンアップ前の環境で次の手順を実施してください。

注意事項

uCosminexus Navigation Developer 09-50 より前のバージョンで開発した入出力プラグイン (旧入出力プラグイン) を関連づけた業務コンテンツがある場合は、あらかじめ該当するユーザプラグインを削除しておいてください。旧入出力プラグインが残ったままだと、バージョンアップ対象データのリストアに失敗することがあります。

参考

手順内のプロパティやディレクトリについては、バージョンアップ対象の製品のマニュアルを参照してください。

1. 任意の場所にバックアップ用フォルダを作成します。
2. バックアップ用フォルダ直下に contents フォルダを作成します。
3. 次のとおりコマンドを実行して、contents フォルダにすべての業務コンテンツをエクスポートします。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npexport バックアップ用フォルダのパス¥contents¥backupcontents.zip
```

4. バックアップ用フォルダ直下に htdocs フォルダを作成します。
5. 次のどちらかのフォルダをバックアップ用フォルダ直下の htdocs フォルダにコピーします。
 - uCosminexus Navigation Platform の場合
Cosminexus インストールディレクトリ¥httpsd¥htdocs¥ucnpuserstaticfiles
なお、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.cosminexus.httpsd.documentroot.path プロパティの指定値をデフォルトから変更している場合は、「*Cosminexus* インストールディレクトリ¥httpsd¥htdocs」の部分のプロパティの指定値に読み替えてください。
 - JPI/Integrated Management - Navigation Platform の場合
ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs ¥ucnpuserstaticfiles
6. 手順 5. でコピー元となった htdocs フォルダに ucnpuserstaticfiles 以外のフォルダがある場合は、バックアップ用フォルダ直下の htdocs フォルダにコピーします。

ただし、ucnp フォルダはコピーする必要はありません。

7. 次のフォルダをバックアップ用フォルダ直下にコピーします。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf
```

JP1/Integrated Management - Navigation Platform の場合は、これでバックアップは完了です。
uCosminexus Navigation Platform の場合は、必要に応じて以降の手順も実施してください。

8. バージョンアップ対象が uCosminexus Navigation Developer の場合は、次のフォルダをすべてバックアップ用フォルダ直下にコピーします。

- ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリ¥pluginSDK
- ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリ¥usrlib
- ポータルプロジェクトディレクトリ (ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.ucnp.portalproject.path プロパティの指定値)

9. バックアップ用フォルダ直下に次のフォルダを作成します。

- j2ee_usrconf フォルダ
- j2ee_connector フォルダ

10. 次のファイルをすべてバックアップ用フォルダ直下の j2ee_usrconf フォルダにコピーします。

- *Cosminexus* インストールディレクトリ¥CC¥server¥usrconf¥ejb
¥ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.name プロパティの指定値¥usrconf.cfg
- *Cosminexus* インストールディレクトリ¥CC¥server¥usrconf¥ejb
¥ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.name プロパティの指定値¥usrconf.properties

11. 手順 10. でコピーした usrconf.cfg ファイル内の add.class.path キーに指定されたパスにあるライブラリファイルを、バックアップ用フォルダ¥usrlib¥sys フォルダにコピーします。

12. 次のとおりコマンドを実行して、J2EE サーバ上のリソースアダプタの一覧を表示します。

```
Cosminexusインストールディレクトリ¥CC¥admin¥bin¥cjlistrar  
ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.nameプロパティの指定値 -nameserver  
corbaname:::localhost:ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.naming.portプロパティの指定値
```

一覧のリソースアダプタの表示名を確認してください。

13. 次のとおりコマンドを実行して、リソースアダプタの Connector 属性ファイルを j2ee_connector フォルダにバックアップを取得します。

```
Cosminexusインストールディレクトリ¥CC¥admin¥bin¥cjgetrarprop  
ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.nameプロパティの指定値 -nameserver  
corbaname:::localhost:ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.naming.portプロパティの指定  
値 -resname リソースアダプタの表示名 -c バックアップ用フォルダのパス¥j2ee_connector¥リ  
ソースアダプタの表示名.xml
```

14. リソースアダプタが複数ある場合は、すべてのリソースアダプタに対して手順 13.を実施します。

(2) バージョンアップ前の環境のアンセットアップ手順

バージョンアップ対象の製品のマニュアルを参照して、アンセットアップします。バージョンアップ対象が uCosminexus Navigation Developer の場合は、WTP もアンセットアップしてください。

(3) バージョンアップ前の環境のアンインストール

アンセットアップが完了した環境で次の手順を実施してください。

1. バージョンアップ対象の製品のマニュアルを参照して、アンインストールします。
2. OS を再起動します。
3. ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリに必要なログファイルなどが残っている場合は、削除する前にバックアップを取得します。
4. 次のフォルダを削除します。

ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリ

(4) JP1/Base のバージョンアップ

JP1/Base がセットアップされている環境の場合、次の手順を実施してください。

参考

手順内の JP1/Base の操作については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。また、手順内のプロパティについては、バージョンアップ対象の製品のマニュアルを参照してください。

1. JP1/Base をバージョンアップします。
JP1/Base のバージョンアップ後は、必要に応じて JP1/Base 関連のサービスを起動または再起動してください。
2. JP1/Base で設定している JP1 資源グループの名称と `ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.group` プロパティの指定値が同じになるように変更します。
バージョンアップ対象の製品とバージョンアップ後のナビゲーション プラットフォームとでは、`ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.group` プロパティのデフォルト値が異なります。そのため、JP1/Base の設定またはナビゲーション プラットフォームのプロパティ値のどちらかを変更する必要があります。
3. JP1/Base で設定している JP1 権限レベルを次のように変更します。

変更前	変更後
UCNP_Admin JP1_IMNP_Admin	HNP_Admin
UCNP_Editor JP1_IMNP_Editor	HNP_Editor
UCNP_User JP1_IMNP_User	HNP_User

(5) JP1/AO のバージョンアップ

JP1/AO と連携している環境の場合、次の手順を実施してください。

1. JP1/AO をバージョンアップします。

JP1/AO のバージョンアップ手順については、JP1/AO のマニュアルを参照してください。JP1/AO のバージョンアップ後は、必要に応じて JP1/AO 関連のサービスを起動または再起動してください。

2. JP1/AO のサービス実行プラグインを使用している場合、

`ucnp.base.client.jp1ao.submittask.passwordfile.path` プロパティで指定したディレクトリを削除します。

(6) ナビゲーション プラットフォームのインストール

インストール手順については、「[3.5.2 新規インストール手順](#)」を参照してください。

(7) ユーザセットアッププロパティファイルの見直し

バージョンアップ後のユーザセットアッププロパティファイル (`ucnp_setup_user.properties`) のサンプルファイルをコピーして、必要に応じて設定内容を変更します。サンプルファイルの格納場所とコピー先については、「[8.3.2 ユーザセットアッププロパティファイルの格納先](#)」を参照してください。

バージョンアップ前とバージョンアップ後では、利用できるプロパティに違いがあり、デフォルト値が変更になっているプロパティもあります。そのため、バックアップしたユーザセットアッププロパティファイルは使用しないでください。バージョンアップ前とバージョンアップ後のプロパティの違いの詳細については、「[付録 D バージョンアップ時に確認が必要なプロパティ一覧](#)」を参照してください。

ポイント

uCosminexus Navigation Developer をバージョンアップする場合は、次に示すプロパティの設定が必須です。

- `ucnp.setup.server.cosminexus.debug.enable`
- `ucnp.setup.server.cosminexus.debug.jdwp.port`

(8) ナビゲーション プラットフォームのセットアップ

セットアップ手順については、「4. ナビゲーション プラットフォームのセットアップ」を参照してください。

(9) バージョンアップ対象データのリストア

「(1) バージョンアップ対象データのバックアップ手順」でバックアップしたデータを、バージョンアップ後のナビゲーション プラットフォームにコピーすることで、バージョンアップ前の環境をリストアします。

1. バックアップしたユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) を編集します。

バージョンアップ前に利用していたプロパティのうち、バージョンアップ後には利用できないものもあります。バージョンアップ前とバージョンアップ後のプロパティの違いの詳細については、「付録 D バージョンアップ時に確認が必要なプロパティ一覧」を参照してください。

2. メッセージの内容をカスタマイズしている場合、ユーザメッセージプロパティファイルに、表示するメッセージを再設定します。

バックアップしたユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) でカスタマイズしているメッセージを、移行後のユーザメッセージプロパティファイル (ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf¥ucnp_message_user.properties) に設定してください。なお、日本語ロケールの場合、日本語版のユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user_ja.properties) に設定してください。

3. 旧製品で JP1 イベントと業務コンテンツを関連づけている場合、バックアップした JP1 イベント関連づけファイルを次のフォルダにコピーします。

コピー元ファイル

バックアップディレクトリ¥conf¥ucnp_jp1event_mapping.txt

コピー先ディレクトリ

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf

4. ナビゲーション プラットフォームを再起動します。

5. アプリケーションサーバの設定に関するファイルをコピーします。

手順の詳細は、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」の J2EE サーバの設定項目の変更に関する説明を参照してください。

6. 開発者が作成したデータをコピーします。

手順の詳細は、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」の旧バージョンで開発したプラグインの移行に関する説明を参照してください。

7. バックアップした静的ファイルを次のフォルダにコピーします。

ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs

コピー先の htdocs フォルダ直下にある ucnp フォルダは、上書きしないでください。

8. 次のとおりコマンドを実行して、業務コンテンツをインポートします。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npimport -d バックアップ用  
フォルダ¥contents¥backupcontents.zip
```

なお、npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）がエラー終了し、KDCZ10382-E メッセージが出力され、かつメッセージ内のアクセス権グループの名称が「Standard access permissions」と一致する場合は、「(10) npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）でエラー終了した場合」の手順を実施してください。

(10) npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）でエラー終了した場合

npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）がエラー終了し、KDCZ10382-E メッセージが出力され、かつメッセージ内のアクセス権グループの名称が「Standard access permissions」と一致する場合は、次の手順を実施してください。

1. ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.acl.defaultacl.name.japaneseonly プロパティに true を指定します。
2. ナビゲーション プラットフォームを再起動します。
3. 次のとおりコマンドを実行して、業務コンテンツを再度インポートします。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npimport -d バックアップ用  
フォルダ¥contents¥backupcontents.zip
```

4. アクセス権グループの名称を変更します。

システム管理者権限でナビゲーション プラットフォームにログインし、アクセス権グループ「Standard access permissions」の名称を、「標準アクセス権限」および「Standard access permissions」以外の名称に変更します。

アクセス権グループの名称を変更する方法については、「6.2 業務コンテンツへのアクセス権の設定 (ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合)」を参照してください。

5. ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.acl.defaultacl.name.japaneseonly プロパティに false を指定します。
6. ナビゲーション プラットフォームを再起動します。

3.7.4 バージョンアップ後に確認すること

バージョンアップの完了後に、次のことを実施してください。

- バージョンアップ前の環境で作成した業務コンテンツに HTML パーツが含まれている場合、バージョンアップ後に HTML パーツの表示内容が変わることがあります。HTML パーツを含む業務コンテンツは、バージョンアップ後に表示内容を確認し、必要に応じて設定を変更してください。

HTML パーツの設定手順については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

3.8 Hitachi Navigation Platform 10-00 以降からバージョンアップする場合

この節では、次の表に示す製品からバージョンアップする手順を説明します。

表 3-9 バージョンアップの対象となる製品

項番	型名	製品名	バージョン
1	P-2443-4PA4	Hitachi Navigation Platform	10-00
2	P-2443-4VA4	Hitachi Navigation Platform for Developers	10-00
3	P-242C-4PA4	JP1/Integrated Management - Navigation Platform	10-50
4	P-2943-4PA4	Hitachi Navigation Platform	10-10 以降
5	P-2943-4VA4	Hitachi Navigation Platform for Developers	10-10 以降
6	P-292C-4PBL	JP1/Navigation Platform	11-00 以降
7	P-292C-4VBL	JP1/Navigation Platform for Developers	11-00 以降

バージョンアップは、次の流れで実施します。各手順の詳細は、「[3.8.3 バージョンアップ手順](#)」を参照してください。

1. バージョンアップ対象データのバックアップ
2. バージョンアップ前の環境のアンセットアップ
3. バージョンアップ前の環境のアンインストール
4. JP1/Base のバージョンアップ
5. JP1/AO のバージョンアップ
6. Eclipse のバージョンアップ
7. ナビゲーション プラットフォームのインストール
8. ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の見直し
9. ナビゲーション プラットフォームのセットアップ
10. データベースの拡張
11. バージョンアップ対象データのリストア

3.8.1 バージョンアップ前に確認すること

バージョンアップの前に、次のことを実施してください。

- バージョンアップ後のログイン時のスクリプトエラーを防止するため、Web ブラウザのキャッシュはクリアしておいてください。
バージョンアップ後のナビゲーション プラットフォームにアクセスするときに使用するすべての Web ブラウザのキャッシュをクリアする必要があります。
- JP1/Base によるユーザ認証を使用している場合は、ナビゲーション プラットフォームのバージョンアップよりも先に JP1/Base をバージョンアップしてください。

次に、バージョンアップをするための条件を示します。

- ナビゲーション プラットフォームが起動もしくは停止している、または未セットアップの状態である。
- 同じマシン内の環境でバージョンアップする。
- ナビゲーション プラットフォームをインストールしたユーザでコマンドを実行する。
- サーバのディスクに十分な空き容量がある。
- ダッシュボードサーバが停止している。

3.8.2 バージョンアップできるデータ

バージョンアップの対象となる製品から、このマニュアルの対象製品のナビゲーション プラットフォームにバージョンアップする場合に、バージョンアップ手順を実施することで引き継げるデータを説明します。次の表に示すデータ以外は、バージョンアップ手順を実施しても引き継げません。

表 3-10 バージョンアップ対象のデータ

項番	データ種別	データ
1	業務コンテンツ	作成済みの業務コンテンツ（アクセス権限の情報も含む）
2		JP1/Base の設定内容（JP1 資源グループ、JP1 権限レベル）
3	静的ファイル	[ファイル登録/管理] 画面からアップロードした静的ファイル ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs¥ucnpuserstaticfiles 以下
4		ユーザが任意に格納した静的ファイル ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs 以下の ucnpuserstaticfiles または ucnp 以外
5	ナビゲーション プラットフォームの設定	ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties)
6		ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties)

項番	データ種別	データ
7	ナビゲーション プラットフォームの設定	ユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties)
8		サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini)
9		ダッシュボード機能のアクセスユーザ管理ファイル
10		ダッシュボードサーバのメモリ容量の設定
11		JP1 イベント関連づけファイル (ucnp_jplevent_mapping.txt)
12	開発者が作成したデータ	ユーザプラグイン (入出力プラグイン, 中断再開プラグイン)
13		カスタム画面 (JSP 形式の新規画面)
14		ユーザプラグインで利用するリソースアダプタの設定 (データベース接続の設定)
15		ユーザプラグインまたはカスタム画面で使用するライブラリ
16	アプリケーションサーバの設定	認証サーバの設定 (ua.conf, Portal Manager の設定)
17	データベース	データベースの拡張情報
18	操作ログ	操作ログファイル※
19	タスク	ユーザが作成したナビゲーション プラットフォームのコマンドを実行するタスク

注※

操作ログのレポート画面は、バージョンアップ後、操作ログの解析処理が実施されたあとに利用できます。

3.8.3 バージョンアップ手順

ナビゲーション プラットフォームをバージョンアップする手順を示します。

(1) バージョンアップ対象データのバックアップ手順

バージョンアップ前の環境で次の手順を実施してください。

参考

手順内のプロパティやディレクトリについては、バージョンアップ対象の製品のマニュアルを参照してください。

1. 任意の場所にバックアップ用フォルダを作成します。
2. バックアップ用フォルダ直下に contents フォルダを作成します。
3. 次のとおりコマンドを実行して、contents フォルダにすべての業務コンテンツをエクスポートします。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npxport バックアップ用フォルダのパス¥contents¥backupcontents.zip
```

4. バックアップ用フォルダ直下に htdocs フォルダを作成します。

5. 次のフォルダをバックアップ用フォルダ直下の htdocs フォルダにコピーします。

```
ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs¥ucnpuserstaticfiles
```

6. 手順 5. でコピー元となった htdocs フォルダに ucnpuserstaticfiles 以外のフォルダがある場合は、バックアップ用フォルダ直下の htdocs フォルダにコピーします。

ただし、ucnp フォルダはコピーする必要はありません。

7. 次のフォルダをバックアップ用フォルダ直下にコピーします。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf
```

8. プラグインを利用している場合にプラグインをバックアップします。

次の手順は、開発環境のバージョンアップの場合に実施してください。

次のバックアップ元フォルダを、バックアップ用フォルダにフォルダごとコピーしてください。

- ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリ¥pluginSDK
- ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥usrlib¥sys
- ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥uCNP_J2EE¥usrconf.properties
- ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥uCNP_J2EE¥usrconf.cfg

- リソースアダプタの設定ファイル (Connector 属性ファイル)

開発環境で、cjsetprop コマンド実行時に指定した場所から取得してください。

実行環境のバージョンアップの場合、次のディレクトリもバックアップ用フォルダにバックアップしてください。

- ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリ¥plugin_files

プラグインデータを別の場所に格納している場合は、「6.6.1 開発環境から受け取るファイル」を参照して、必要なファイルを取得し、バックアップしてください。

9. データベースの拡張回数を確認します。

次のフォルダ内に存在する「usr_contents_」から始まるファイルの数が DB を拡張した回数になるため、数を確認してください。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥DB¥AREA
```

10. ナビゲーション プラットフォームを停止します。

11. 操作ログをバックアップします。

操作ログ機能を有効にしている場合は、この手順を実施してください。

次のバックアップ元フォルダを、バックアップ用フォルダにフォルダごとコピーしてください。

バックアップ元フォルダ

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥operationlogs

操作ログの格納フォルダは、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.operationlog.path プロパティで変更できます。プロパティの値をデフォルト値から変更している場合、プロパティの値で設定しているフォルダを対象にバックアップしてください。

12. ダッシュボードサーバのメモリ容量の設定をバックアップします。

ダッシュボード機能を利用している場合は、この手順を実施してください。

バックアップ用ディレクトリに elasticsearch フォルダを作成し、次のバックアップ元フォルダをフォルダごとコピーしてください。

バックアップ元フォルダ

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥Elastic¥elasticsearch¥config

13. タスクをバックアップします。

ナビゲーション プラットフォームのコマンドを実行するタスクを作成している場合は、この手順を実施してください。

バックアップ用ディレクトリに task フォルダを作成し、ナビゲーションプラットフォームのコマンドを実行するタスクの設定をバックアップしてください。

(2) バージョンアップ前の環境のアンセットアップ手順

バージョンアップ対象の製品のマニュアルを参照して、アンセットアップします。

(3) バージョンアップ前の環境のアンインストール

アンセットアップが完了した環境で次の手順を実施してください。

1. バージョンアップ対象の製品のマニュアルを参照して、アンインストールします。
2. OS を再起動します。
3. ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリに必要なログファイルなどが残っている場合は、削除する前にバックアップを取得します。
4. 次のフォルダを削除します。

ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリ

(4) JP1/Base のバージョンアップ

JP1/Base がセットアップされている環境の場合、次の手順を実施してください。

参考

手順内の JP1/Base の操作については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。また、手順内のプロパティについては、バージョンアップ対象の製品のマニュアルを参照してください。

1. JP1/Base をバージョンアップします。

JP1/Base のバージョンアップ後は、必要に応じて JP1/Base 関連のサービスの起動または再起動を実施してください。

2. バージョンアップ前の JP1/Base が JP1/Base 11-00 より前のバージョンの場合、JP1/Base で設定している JP1 権限レベルを次のように変更します。

変更前	変更後
JP1_IMNP_Admin	HNP_Admin
JP1_IMNP_Editor	HNP_Editor
JP1_IMNP_User	HNP_User

(5) JP1/AO のバージョンアップ

JP1/AO と連携している環境の場合、次の手順を実施してください。

1. JP1/AO をバージョンアップします。

JP1/AO のバージョンアップ手順については、JP1/AO のマニュアルを参照してください。JP1/AO のバージョンアップ後は、必要に応じて JP1/AO 関連のサービスを起動または再起動してください。

2. JP1/AO のサービス実行プラグインを使用している、かつ「表 3-9 バージョンアップの対象となる製品」の項番 1～項番 3 のバージョンからバージョンアップする場合、ucnp.base.client.jp1ao.submittask.passwordfile.path プロパティで指定したディレクトリを削除します。

(6) Eclipse のバージョンアップ

次の手順は、開発環境のバージョンアップの場合に実施してください。

1. バージョンアップ前にインストールしていた Eclipse の設定をバックアップします。
2. バージョンアップ前にインストールしていた Eclipse をアンインストールします。
3. 新しい Eclipse をセットアップします。

Eclipse のセットアップについては、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。

(7) ナビゲーション プラットフォームのインストール

インストール手順については、「[3.5.2 新規インストール手順](#)」を参照してください。

(8) ユーザセットアッププロパティファイルの見直し

バージョンアップ後のユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) のサンプルファイルをコピーして、必要に応じて設定内容を変更します。サンプルファイルの格納場所とコピー先については、「[8.3.2 ユーザセットアッププロパティファイルの格納先](#)」を参照してください。

バージョンアップ前とバージョンアップ後では、利用できるプロパティに違いがあり、デフォルト値が変更になっているプロパティもあります。そのため、バックアップしたユーザセットアッププロパティファイルは使用しないでください。バージョンアップ前とバージョンアップ後のプロパティの違いの詳細については、「[付録 D バージョンアップ時に確認が必要なプロパティ一覧](#)」を参照してください。

(9) ナビゲーション プラットフォームのセットアップ

セットアップ手順については、「[4. ナビゲーション プラットフォームのセットアップ](#)」を参照してください。

(10) データベースの拡張

バックアップの手順の際に確認したデータベースの拡張回数分だけ、npextendrdarea コマンド (データベースの拡張) を使ってデータベースを拡張します。

(11) バージョンアップ対象データのリストア

「[\(1\) バージョンアップ対象データのバックアップ手順](#)」でバックアップしたデータを、バージョンアップ後のナビゲーション プラットフォームにコピーすることで、バージョンアップ前の環境をリストアします。

1. バックアップしたユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) およびサービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) を編集します。

バージョンアップ前に利用していたプロパティのうち、バージョンアップ後には利用できないものもあります。バージョンアップ前とバージョンアップ後のプロパティの違いを確認し、プロパティファイルを編集してください。バージョンアップ前とバージョンアップ後のプロパティの違いの詳細については、「[付録 D バージョンアップ時に確認が必要なプロパティ一覧](#)」を参照してください。

2. ダッシュボード機能を利用している場合、バックアップしたダッシュボード機能のアクセスユーザ管理ファイルを次のファイルにコピーしてください。

コピー元ファイル

バックアップディレクトリ¥conf¥kibana.htpasswd

コピー先ディレクトリ

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf

3. メッセージの内容をカスタマイズしている場合、ユーザメッセージプロパティファイルに、表示するメッセージを再設定します。

【表 3-9 バージョンアップの対象となる製品】の項番 1～項番 3 のバージョンからバージョンアップする場合】

バックアップしたユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) でカスタマイズしているメッセージを、移行後のユーザメッセージプロパティファイル (ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf¥ucnp_message_user.properties) に設定してください。なお、日本語ロケールの場合、日本語版のユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user_ja.properties) に設定してください。

【上記以外の場合】

バックアップしたユーザメッセージプロパティファイルでカスタマイズしているメッセージを、バージョンアップ後のユーザメッセージプロパティファイルに設定してください。

バックアップしたユーザメッセージプロパティファイル	バージョンアップ後のユーザメッセージプロパティファイル
バックアップディレクトリ¥conf ¥ucnp_message_user.properties	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf ¥ucnp_message_user.properties
バックアップディレクトリ¥conf ¥ucnp_message_user_ja.properties	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf ¥ucnp_message_user_ja.properties

4. 旧製品で JP1 イベントと業務コンテンツを関連づけている場合、バックアップした JP1 イベント関連づけファイルを次のフォルダにコピーしてください。

コピー元ファイル

バックアップディレクトリ¥conf¥ucnp_jp1event_mapping.txt

コピー先ディレクトリ

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf

5. ナビゲーション プラットフォームを再起動します。

6. バックアップしたユーザプラグインをコピーします。

実行環境の場合の手順は、「6.6 開発環境で作成したファイルの適用」を参照してください。ただし、「開発環境から受け取るファイル」については、「(1) バージョンアップ対象データのバックアップ手順」でバックアップしたデータに読み替えてください。

開発環境の場合は、次の表を基に環境を構築し直してください。

取得したファイル	リストア方法
ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリ¥pluginSDK	<p>バックアップしたプラグインを次のディレクトリに上書きコピーしてください。</p> <p>コピー元ディレクトリ バックアップディレクトリ¥pluginSDK¥plugin</p> <p>コピー先ディレクトリ ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥pluginSDK¥plugin</p> <p>コピーしたあとに、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」にある、プラグインのビルドの説明を参照してください。インストールディレクトリが変わっている場合、次のクラスパスが必要に応じて変更してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥lib¥ucnppluginif.jar • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥syslib¥ucnpnsys.jar • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥lib¥ucnpclasses.jar • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥client¥lib¥j2ee-javax.jar
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥usrlib¥sys	マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」にある、ライブラリの追加の説明を参照してください。
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥uCNP_J2EE¥usrconf.properties	マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」にある、J2EE サーバの設定項目の変更についての説明を参照してください。
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥uCNP_J2EE¥usrconf.cfg	
リソースアダプタの設定ファイル (Connector 属性ファイル)	マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」にある、データベースとの接続処理の追加の説明を参照してください。

7. バックアップした静的ファイルを次のフォルダにコピーします。

```
ナビゲーション プラットフォーム インストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs
```

コピー先の htdocs フォルダ直下にある ucnp フォルダは、上書きしないでください。

8. 次のとおりコマンドを実行して、業務コンテンツをインポートします。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npimport -d バックアップ用フォルダ¥contents¥backupcontents.zip
```

なお、npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）がエラー終了し、KDCZ10382-E メッセージが出力され、かつメッセージ内のアクセス権グループの名称が「Standard access permissions」と一致する場合は、「(15) npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）でエラー終了した場合」の手順を実施してください。

(12) 操作ログのリストア

この手順は、操作ログ機能を有効にしている場合に実施してください。手順内の操作ログの格納フォルダは、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.operationlog.path プロパティで変更できます。適宜読み替えてください。

1. **「表 3-9 バージョンアップの対象となる製品」** の項番 1～項番 3 のバージョンからバージョンアップする場合、操作ログのファイル名を変更します。

npconvertoplog (操作ログファイル名変更) コマンドを実行して操作ログのファイル名を変更してください。なお、コマンド実行の際の操作ログ格納ディレクトリには、操作ログのバックアップ用フォルダを指定してください。

2. ナビゲーション プラットフォームを停止します。
3. 操作ログの格納フォルダ内のファイルをすべて削除します。
4. 操作ログをコピーします。

操作ログの名称を変更したあと、次のとおりコピーしてください。

コピー元

バックアップ用フォルダ以下の操作ログ

コピー先

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥operationlogs

操作ログをコピーしたあと、サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) に設定した時刻を過ぎるまで、レポート画面に解析結果は表示されません。

5. ナビゲーション プラットフォームを起動します。

(13) 検索用データの更新

検索用データを更新します。検索機能を有効にしている、サービスプロパティファイルで検索用データの更新間隔を設定していない場合は、npupdatesearchdata コマンド (検索用データの更新) を実行して検索用データを更新してください。

(14) ダッシュボードサーバのメモリ容量の再設定

ダッシュボード機能を利用している場合は、この手順を実施してください。

1. 次のファイルをテキストエディタで開く。

```
バックアップディレクトリ¥elasticsearch¥config¥jvm.options.npsettings.txt
```

2. メモリサイズを確認する。

-XmsNNNNm ([NNNN] の部分は数値) : 最小サイズ (単位: MB)

-XmxNNNNm ([NNNN] の部分は数値) : 最大サイズ (単位: MB)

3. ナビゲーション プラットフォームのセットアップの準備

3. 手順 2. で確認したメモリサイズを指定して、次のコマンドを実行する。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdashboardsetstoragememory  
最小サイズ 最大サイズ
```

4. ダッシュボードサーバを起動する。

(15) タスクのリストア

ナビゲーション プラットフォームのコマンドを実行するタスクを作成している場合は、この手順を実施してください。

次のフォルダからナビゲーションプラットフォームのコマンドを実行するタスクの設定をリストアしてください。

```
バックアップディレクトリ¥task
```

(16) npimport コマンド (業務コンテンツのインポート) でエラー終了した場合

npimport コマンド (業務コンテンツのインポート) がエラー終了し、KDCZ10382-E メッセージが出力され、かつメッセージ内のアクセス権グループの名称が「Standard access permissions」と一致する場合は、次の手順を実施してください。

1. ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.acl.defaultacl.name.japaneseonly に true を指定します。
2. ナビゲーション プラットフォームを再起動します。
3. 次のとおりコマンドを実行して、業務コンテンツを再度インポートします。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npimport -d バックアップ用  
フォルダ¥contents¥backupcontents.zip
```

4. アクセス権グループの名称を変更します。

システム管理者権限でナビゲーション プラットフォームにログインし、アクセス権グループ「Standard access permissions」の名称を、「標準アクセス権限」および「Standard access permissions」以外の名称に変更します。アクセス権グループの名称を変更する方法については、「[6.2 業務コンテンツへのアクセス権の設定 \(ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合\)](#)」を参照してください。

5. ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.acl.defaultacl.name.japaneseonly に false を指定します。
6. ナビゲーション プラットフォームを再起動します。

3.8.4 バージョンアップ後に確認すること

バージョンアップの完了後に、次のことを実施してください。

- バージョンアップ前の環境で作成した業務コンテンツに HTML パーツが含まれている場合、バージョンアップ後に HTML パーツの表示内容が変わることがあります。HTML パーツを含む業務コンテンツは、バージョンアップ後に表示内容を確認し、必要に応じて設定を変更してください。

HTML パーツの設定手順については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

3.9 修正パッチの適用手順

修正パッチとは、製品リリース後に提供される改良版のことです。ナビゲーション プラットフォームのインストールが完了したら、ソフトウェアサポートサービスの Web サイトから最新の修正パッチを入手して、適用してください。

3.10 ナビゲーション プラットフォームのアンインストール

ナビゲーション プラットフォームは、コントロールパネルの「プログラムと機能」を使用してアンインストールするか、日立総合インストーラを使用してアンインストールします。この節では、それぞれのアンインストール手順を説明します。

注意事項

- セットアップ時に作成した作業ファイル、システム運用中に生成されたログファイルなどは、アンインストール後も残ります。必要に応じて手動で削除してください。
- アンインストール処理中にほかのユーザがファイルやディレクトリにアクセスしていると、それらのファイルやディレクトリを削除できません。この場合、OS を再起動する必要があるというメッセージが表示されることがあります。

3.10.1 Windows の機能を使ってナビゲーション プラットフォームをアンインストールする

コントロールパネルの「プログラムと機能」を使用してナビゲーション プラットフォームをアンインストールする手順を示します。

1. アンセットアップを実施、またはサービスを停止します。

セットアップが完了している場合

「[4.6 アンセットアップ手順](#)」を参照して、ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップしてください。

セットアップが完了していない場合

「Navigation Platform DataBase」のサービスを停止してください。

2. Windows のコントロールパネルから、「プログラムと機能」を選択します。

3. 「Navigation Platform -Server」を選択して、削除します。

次に示すプログラムは選択しないでください。

選択してはいけないプログラム

HiRDB XML Extension Version 8 _NP0

注意事項

プログラムによっては、削除（アンインストール）してよいかどうかを確認するダイアログが表示されるので、[はい] を選択してください。間違えて [いいえ] を選択してしまった場合は、手順 3. をやり直す必要があります。

アンインストール完了後の注意事項

アンインストール完了後は、ログオフしないで OS をシャットダウン、または再起動してください。アンインストール完了後に OS からログオフすると、次にログインしたときにエラーダイアログが表示されることがあります。ただし、エラーダイアログが表示されても、OS の動作に問題は発生しません。

3.10.2 日立総合インストーラを使ってナビゲーション プラットフォームをアンインストールする

日立総合インストーラを使用してナビゲーション プラットフォームをアンインストールする手順を次に示します。

1. アンセットアップを実施、またはサービスを停止します。

セットアップが完了している場合

[4.6 アンセットアップ手順] を参照して、ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップしてください。

セットアップが完了していない場合

「Navigation Platform DataBase」のサービスを停止してください。

2. CD-ROM を挿入し、HCD_INST.EXE を実行します。

3. [続行] ボタンをクリックして、日立総合インストーラから統合インストーラを起動します。

4. [削除] モードのラジオボタンを選択して、アンインストールを開始します。

プログラムによっては、削除（アンインストール）してよいかどうかを確認するダイアログが表示されるので、[はい] を選択してください。

間違えて [いいえ] を選択してしまった場合は、手順 2. からやり直す必要があります。

5. アンインストール完了の画面を確認し、画面を閉じます。

アンインストール完了後の注意事項

アンインストール完了後は、ログオフしないで OS をシャットダウン、または再起動してください。アンインストール完了後に OS からログオフすると、次にログインしたときにエラーダイアログが表示されることがあります。ただし、エラーダイアログが表示されても、OS の動作に問題は発生しません。

4

ナビゲーション プラットフォームのセットアップ

この章では、ナビゲーション プラットフォームのセットアップとアンセットアップ、およびセットアップ後に必要な作業について説明します。

4.1 セットアップ前に確認すること

マシンにログインするユーザの権限

インストールとセットアップは、必ず Windows の管理者権限があるユーザ（ナビゲーション プラットフォームのインストールを実行したユーザ）で実施してください。操作によっては、[管理者として実行] を選択して操作を開始する必要があります。

ディスクの空き容量

セットアップには、25GB 以上のディスク空き容量が必要になります。再セットアップの場合も同様です。

インストールディレクトリ

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリの下にある、ディレクトリおよびファイルを、移動、編集、または削除しないでください。

ポート番号

デフォルト値でセットアップをする場合、ナビゲーション プラットフォームは、80、24701~24704、および 24710~24713 のポート番号を使用します。これらのポート番号が、ほかのアプリケーションによって使用されていないかどうかを確認してください。

ほかのアプリケーションが該当のポート番号を使用中の場合は、そのアプリケーションのポート番号の設定を変更するか、セットアップ時にナビゲーション プラットフォームのポート番号をデフォルトから変更する必要があります。

ポート番号の指定については、[\[8.3.3 ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ詳細\]](#) を参照してください。

上書きされるデータ

npsetup コマンド（セットアップ）を実行すると、既存の環境のユーザプロパティファイルが上書きされます。セットアップ済みの環境をアンセットアップしてから再セットアップする場合は、必要に応じてユーザプロパティファイルのバックアップを取得してください。

ユーザ認証の有無と方法

ほかの JP1 製品と連携する場合は、JP1/Base によるユーザ認証を利用している環境でセットアップする必要があります。開発環境の場合は、ユーザ認証は不要ですが、編集環境または実行環境の場合は、ナビゲーション プラットフォームにログインするユーザを、認証して管理するかどうかを決めます。また、ユーザ認証を実施してログインするユーザを管理する場合は、ユーザ認証の種類をあらかじめ決めてください。ナビゲーション プラットフォームで使用できるユーザ認証については、[\[3.3.2 ナビゲーション プラットフォームで使用できるユーザ認証の種類\]](#) を参照してください。

ユーザ認証を利用している環境をセットアップするには、デフォルトのプロパティ指定値を変更する必要があります。ユーザ認証の種別を指定するプロパティについては、[\[8.3.3 ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ詳細\]](#) を参照してください。

4.2 Active Directory によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備

ユーザ認証に Active Directory を利用する場合、まずユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.ldap.directory.kind プロパティの指定値をデフォルトから「AD」に変更する必要があります。

次に、Active Directory の管理者に問い合わせるなどして、次の情報を収集してください。括弧内は、対応するユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ名です。

- Active Directory のサーバ名 (ucnp.setup.server.ldap.hostname)
- Active Directory に接続するとき使用するポート番号 (ucnp.setup.server.ldap.port)
- Active Directory の認証者のユーザ DN (ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.principal)
- Active Directory の認証者のパスワード (ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.credentials)
- Active Directory のユーザ検索を開始するベース DN (ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.basedn)
認証の対象となるユーザが配下にあり、Active Directory によって検索できる値である必要があります。
- Active Directory のグループ検索時を開始するベース DN (ucnp.setup.server.ldap.group.basedn)
ナビゲーション プラットフォームのアクセス権の設定で使用するグループが配下にあり、Active Directory によって検索できる値である必要があります。

デフォルト値以外を指定したい場合、または設定内容を明示する必要がある場合は、括弧内に示したプロパティの指定値も変更してください。各プロパティの指定値の詳細については、「[8.3.3 ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ詳細](#)」を参照してください。

4.3 JP1/Base によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備

プロパティの設定

ユーザ認証に JP1/Base を利用する場合、まずユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.ldap.directory.kind プロパティの指定値をデフォルトから「JP1Auth」に変更する必要があります。

JP1/Base の準備

次に、JP1/Base をインストール、セットアップします。セットアップ完了後は、JP1/Base を起動状態にしておき、JP1 資源グループと JP1 権限レベルを設定します。

JP1/Base によるユーザ認証を利用する場合、JP1 資源グループでアクセス範囲を管理し、JP1 権限レベルで操作内容を管理します。業務コンテンツを作成するユーザや業務コンテンツの公開範囲など、業務コンテンツの運用に応じて、各ユーザにどのようなアクセス権 (JP1/Base で設定する JP1 資源グループと JP1 権限レベル) を与えるのかを検討してください。

JP1/Base のインストール、セットアップ、各種の設定や登録の手順については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

注意事項

ほかの JP1 製品とナビゲーションプラットフォームの業務コンテンツを連携させる場合、連携する JP1 製品が使用する JP1/Base とナビゲーションプラットフォームが使用する JP1/Base のユーザ認証圏を同じにしておく必要があります。ユーザ認証圏が異なると、連携できません。

4.3.1 ナビゲーションプラットフォームで使用できる JP1 資源グループ

ナビゲーションプラットフォームで使用できる JP1 資源グループには、次の 2 種類があります。

- システム全体を対象に設定する JP1 資源グループ (必須)
- 業務コンテンツ単位で設定する JP1 資源グループ (任意)

(1) システム全体に設定する JP1 資源グループとは

システム全体に設定する JP1 資源グループとは、ナビゲーションプラットフォームのシステム (環境) ごとの一つだけ設定する JP1 資源グループです。この JP1 資源グループ内で設定された JP1 権限レベルは、そのシステム全体のすべての操作に適用されます。

(2) システム全体に設定する JP1 資源グループの名称について

システム全体の JP1 資源グループの名称は、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.group プロパティで指定します。また、

ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.group プロパティで指定していなくても、「*」という名称はシステム全体の JP1 資源グループと見なされます。

システム全体の JP1 資源グループの名称を決めるときには、複数の環境があるかどうかを考慮してください。

例えば、編集環境と実行環境が分かれている、実行環境が複数ある、といったケースでは、環境ごとにシステム全体の JP1 資源グループを設定することもできます。次のような場合は、環境ごとにシステム全体の JP1 資源グループの名称を変えると、運用しやすくなります。

- 環境によって管理するユーザが違う
- 同じユーザに対して環境ごとに異なる権限を与えたい

環境が複数あっても、同一ユーザに対してはすべての環境で同じ権限を与えればよい場合は、システム全体の JP1 資源グループの名称は全環境で共通にすることを推奨します。

(3) 業務コンテンツごとに設定する JP1 資源グループとは

業務コンテンツごとに設定する JP1 資源グループは、設定された業務コンテンツに対して有効です。この JP1 資源グループ内で設定された JP1 権限レベルは、設定された業務コンテンツに対してだけ適用されます。業務コンテンツ単位の JP1 資源グループは、1 個の業務コンテンツに対して最大 10 種類設定できます。

なお、業務コンテンツ単位の JP1 資源グループを一つも設定していない業務コンテンツには、システム全体の JP1 資源グループが適用されます。

(4) 業務コンテンツごとに設定する JP1 資源グループの名称について

ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.group プロパティで指定した名称、または「*」という名称以外の名称を指定します。

使用できる文字は、64 文字以内の半角英数字と半角アンダースコア「_」だけです。大文字と小文字は区別されます。

4.3.2 ナビゲーション プラットフォームで使用できる JP1 権限レベル

ナビゲーション プラットフォームで使用できる JP1 権限レベルには、次に示す 3 種類があります。

- HNP_Admin
JP1 権限レベルが HNP_Admin のユーザを「コンテンツ管理者」と呼びます。
- HNP_Editor
JP1 権限レベルが HNP_Editor のユーザを「コンテンツ編集者」と呼びます。
- HNP_User
JP1 権限レベルが HNP_User のユーザを「利用者」と呼びます。

それぞれの JP1 権限レベルで実行できるナビゲーション プラットフォームの操作を次の表に示します。

表 4-1 JP1 権限レベルと実行できる操作の対応

項番	操作内容	JP1 権限レベル		
		HNP_Admin	HNP_Editor	HNP_User
1	業務コンテンツの追加	○	×	×
2	業務コンテンツの複製	○	×	×
3	業務コンテンツの削除	○	×	×
4	業務コンテンツの編集※1	○	○	×
5	業務コンテンツの参照※2	○	○	○
6	業務コンテンツのロック解除	○	×	×
7	業務コンテンツの公開, 非公開	○	×	×
8	版ごとの詳細情報の確認	○	○	×
9	古い版との差分の確認	○	○	×
10	業務コンテンツの名称変更	○	×	×
11	業務コンテンツのグループ変更	○	×	×
12	業務コンテンツへのアクセス権の設定 (資源の設定)	○	×	×
13	業務コンテンツに設定されている JP1 資源グループの確認	○	○	×
14	関連リンクの設定	○	○	×

(凡例)

○：操作できます。

×：操作できません。

注※1

編集とは、業務編集画面で業務コンテンツを表示して、表示した業務コンテンツに対して実施できる操作（編集開始、編集完了、編集破棄、印刷など）を指します。

注※2

参照とは、業務実行画面で業務コンテンツを表示して、表示した業務コンテンツに対して実施できる操作（印刷や URL 取得など）を指します。

4.3.3 JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせ

ユーザがナビゲーション プラットフォームのどの操作を実行できるかは、JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによって決まります。

ポイント

1 ユーザに対して複数の JP1 資源グループを設定することもできます。システム全体の JP1 資源グループと業務コンテンツ単位の JP1 資源グループの両方を設定してもかまいません。

なお、名称が「*」の JP1 資源グループに対してナビゲーション プラットフォームの JP1 権限レベルを設定すると、システム全体の JP1 資源グループに対する設定と見なされます。

以降にユーザが実行できる操作と、そのユーザに設定する JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせを示します。

(1) すべての操作を実行できるユーザ（システム管理者）

この組み合わせで登録された JP1 ユーザは、ナビゲーション プラットフォームのすべての操作を実行できます。

JP1 資源グループ

システム全体

JP1 権限レベル

HNP_Admin

(2) 業務コンテンツの新規作成，特定の業務コンテンツの編集・削除ができるユーザ（コンテンツ管理者）

この組み合わせで登録された JP1 ユーザは、新規に作成した業務コンテンツに対して、自分が所属する JP1 資源グループを設定できます。また、自分が所属する JP1 資源グループが設定されている業務コンテンツに対して、HNP_Admin の JP1 権限レベルの操作を実行できます。

JP1 資源グループ

業務コンテンツ単位

JP1 権限レベル

HNP_Admin

(3) すべての業務コンテンツの編集だけができるユーザ（コンテンツ編集者）

この組み合わせで登録された JP1 ユーザは、すべての業務コンテンツに対して、HNP_Editor の JP1 権限レベルの操作を実行できます。

JP1 資源グループ

システム全体

JP1 権限レベル

HNP_Editor

(4) 特定の業務コンテンツの編集だけができるユーザ（コンテンツ編集者）

この組み合わせで登録された JP1 ユーザは、自分が所属する JP1 資源グループが設定されている業務コンテンツに対して、HNP_Editor の JP1 権限レベルの操作を実行できます。

JP1 資源グループ

業務コンテンツ単位

JP1 権限レベル

HNP_Editor

(5) すべての業務コンテンツを参照して実行だけができるユーザ（利用者）

この組み合わせで登録された JP1 ユーザは、すべての業務コンテンツに対して、HNP_User の JP1 権限レベルの操作を実行できます。

JP1 資源グループ

システム全体

JP1 権限レベル

HNP_User

(6) 特定の業務コンテンツを参照して実行だけができるユーザ（利用者）

この組み合わせで登録された JP1 ユーザは、自分が所属する JP1 資源グループが設定されている業務コンテンツに対して、HNP_User の JP1 権限レベルの操作を実行できます。

JP1 資源グループ

業務コンテンツ単位

JP1 権限レベル

HNP_User

4.3.4 JP1 ユーザの登録手順

JP1/Base のセットアップが完了したら、ナビゲーション プラットフォームにアクセスするユーザを JP1 ユーザとして登録します。

JP1 ユーザ名には、31 文字以内の半角英数字が使用できます。また、JP1 ユーザ名に対応するパスワードは、6 文字以上 32 文字以下の ASCII コードの文字で登録してください。ただし、次の記号や制御文字コードは使用できません。

¥ " : タブ・スペース 0x00~0x1F 0x7F

JP1 ユーザ名とパスワードに使用できる文字、および JP1 ユーザの登録手順の詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

4.3.5 サービス起動順序の設定手順

JP1/Base によるユーザ認証を利用する場合、常にナビゲーション プラットフォームより前に JP1/Base を起動しておく必要があります。そのため、JP1/Base の起動順序定義ファイルを利用して、次の順序でサービスが起動するように設定してください。

1. JP1/Base
2. NavigationPlatformStartService (Navigation Platform Start Service と表示されます)

起動順序定義ファイルの使い方については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のサービスの起動順序および終了順序の設定に関する説明を参照してください。

4.4 セットアップ手順

ここでは、ナビゲーション プラットフォームのセットアップの手順を説明します。

1. デフォルトの設定を変更してセットアップする場合は、ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) のサンプルファイルを次に示すディレクトリにコピーして編集します。

コピー元ファイル (サンプルファイル)

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥sample¥conf  
¥ucnp_setup_user.properties
```

コピー先ディレクトリ

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf
```

デフォルトの設定でセットアップする場合は、この手順は不要です。手順 2.から始めてください。

ポイント

開発環境をセットアップする場合は、次のプロパティの指定値を変更する必要があります。

- ucnp.setup.server.cosminexus.debug.enable プロパティの指定値を true にする。
- ucnp.setup.server.cosminexus.debug.jdwp.port プロパティに、ナビゲーション プラットフォームをセットアップするマシンで使用されていない、かつ、ユーザプラグインのデバッグに使えるポート番号を指定する。

参考

- ユーザ認証を使用しない場合は、ディレクトリサーバに関するプロパティはサンプル記載値のままとしてください。
- ユーザセットアッププロパティの指定値に日本語を指定する場合は、UTF-8 で編集し、Byte Order Mark は付けないでください。

2. npsetup コマンド (セットアップ) を実行します。

コマンドのパス

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npsetup
```

エラーが発生した場合は、表示されたメッセージに従った対処を実施したあとに、いったんアンセットアップしてから再度セットアップを実行する必要があります。メッセージについてはマニュアル「ナビゲーション プラットフォーム メッセージ」を、アンセットアップについては「[4.6 アンセットアップ手順](#)」を参照してください。

Windows ファイアウォールによる警告メッセージが表示された場合は、[アクセスを許可する] ボタンをクリックして、ブロックを解除してください。

3. ログイン画面を表示します。

Web ブラウザで次の URL を指定して、ナビゲーション プラットフォームのログイン画面が表示できることを確認します。

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/
```

ホスト名

J2EE サーバマシンのホスト名または IP アドレスです。

ポート番号

Web サーバのポート番号です。

ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port プロパティの指定値になります。

ログイン ID

ユーザセットアッププロパティファイルの ucnp.setup.server.system.admin.userids プロパティの指定値を入力してください。デフォルト値は「user1」です。

ログインパスワード

Active Directory によるユーザ認証を使用している場合は、Active Directory で設定したユーザごとのパスワードを入力してください。JP1/Base によるユーザ認証を使用している場合は、JP1/Base に登録した JP1 ユーザ名とパスワードを入力してください。ユーザ認証を使用しない設定でセットアップした場合は、ログイン時にパスワード入力不要です。

4. 必要に応じてユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) を編集し、システムを再起動します。

ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) およびユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) で設定できる内容については、「[8.1 設定が必要なプロパティファイル](#)」を参照してください。

なお、システムを再起動しないと編集したプロパティファイルが有効にならないため、注意してください。再起動手順については、「[5.1 システムの起動と停止](#)」を参照してください。

注意事項

セットアップ後の注意事項を説明します。セットアップ後の作業の流れについては、「[4.7 セットアップ後の作業の流れ](#)」を参照してください。

- セットアップ時に編集したユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) は、セットアップ済みの環境をアンセットアップするまで変更しないでください。アンセットアップする前に変更した場合、動作は保証されません。
- npsetup コマンド (セットアップ) でセットアップを実施した場合は、次の表に示す作業以外の環境変更を実施しないでください。これ以外の作業を実施した場合、動作は保証されません。

表 4-2 環境構築後に実施できる作業

項番	実施できる作業	備考
1	プラグインの追加	プラグインの開発手順については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。 開発したプラグインを追加する手順については、「6.6 開発環境で作成したファイルの適用」を参照してください。
2	画面のカスタマイズ	画面のカスタマイズ方法については、「7. ナビゲーション プラットフォームの画面のカスタマイズ」を参照してください。

4.5 アンセットアップ前の注意点

- ナビゲーション プラットフォームを停止してから npunsetup コマンド (アンセットアップ) を実行してください。
- npsetup コマンド (セットアップ) でセットアップしたシステムに対して、システムの設定変更やファイルの追加などを実施している場合、動作は保証されません。
- アンセットアップを実施すると、業務コンテンツのデータはすべて削除されます。また、アンセットアップ後に再度セットアップを実施すると、ユーザセットアッププロパティファイル以外のプロパティファイルは上書きされて、デフォルト値に戻ります。
- アンセットアップ後、再度セットアップを実施してナビゲーション プラットフォームを引き続き利用する場合は、npdatabackup コマンド (環境退避) で既存の環境のバックアップを取得しておいてください。コマンドの使用方法については、「[9.6 npdatabackup コマンド \(環境退避\)](#)」を参照してください。

4.6 アンセットアップ手順

ナビゲーション プラットフォームのアンセットアップ手順を次に示します。

1. npdatabackup コマンド (環境退避) でバックアップを取得します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdatabackup

npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート) では、システムの環境設定に関するデータはバックアップできません。必ず npdatabackup コマンド (環境退避) を使用してください。手順の詳細は、「5.2.2 システム全体をバックアップする」の手順 1.から手順 3.を参照してください。

2. npunsetup コマンド (アンセットアップ) でアンセットアップを実行します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npunsetup

アンセットアップを実行してもよいかどうかを確認するメッセージが表示されたら、半角で「Y」と入力して、< Enter >キーを押してください。

3. ナビゲーション プラットフォームに関連するタスクがある場合は、そのタスクも削除します。

4. 必要に応じて、業務コンテンツで使用していた静的ファイルを削除します。

npunsetup コマンドでは、静的ファイルは削除されません。アンセットアップ後に静的ファイルを残したくない場合は、手動でファイルを削除してください。

アンセットアップに失敗したときは、失敗の原因を取り除いてから、再度 npunsetup コマンドを実行してください。

4.7 セットアップ後の作業の流れ

セットアップ完了後に必要な作業は、次のとおり環境ごとに異なります。

なお、ナビゲーションプラットフォームの運用開始後まで含めて必要な作業については、「6.1 業務コンテンツの作成から運用までに必要な作業」を参照してください。

編集環境セットアップ後の作業

業務コンテンツの作成を開始するための準備として、次の作業を実施する必要があります。

1. Web ブラウザでナビゲーションプラットフォームの画面にアクセスするための URL を入力する。
2. システム管理者 ID（デフォルトは user1）でログインする。
3. ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合は、アクセス権グループを作成して、ほかのユーザにコンテンツ管理者とコンテンツ編集者の役割（アクセス権）を割り当てる。
4. JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合は、JP1/Base の管理者に問い合わせ、ほかのユーザにコンテンツ管理者とコンテンツ編集者の JP1 権限レベルが設定されているかどうかを確認する。

実行環境セットアップ後の作業

業務コンテンツを公開して利用を開始するための準備として、次の作業を実施する必要があります。

1. 編集環境の業務コンテンツをインポートする。
2. 必要に応じて開発環境を見直して、J2EE サーバメモリなどの設定を実行環境に適用する。
3. Web ブラウザでナビゲーションプラットフォームの画面にアクセスするための URL を入力する。
4. 任意の ID でログインして、インポートした業務コンテンツが正しく表示・動作するかどうかを確認する。

開発環境セットアップ後の作業

開発環境でプラグインを関連づける場合は、準備として次の作業を実施する必要があります。

1. 編集環境の業務コンテンツをインポートする。
2. Web ブラウザでナビゲーションプラットフォームの画面にアクセスするための URL を入力する。
3. システム管理者 ID（デフォルトは user1）でログインする。

4.8 ナビゲーション プラットフォームをセットアップ後にユーザ認証を導入する手順

ユーザ認証を利用しない設定でセットアップしたナビゲーション プラットフォームの環境を、ユーザ認証ありの設定に変更する手順を説明します。

1. システムが起動している場合は、システムを停止します。

システムの停止手順については「[5.1 システムの起動と停止](#)」を参照してください。

2. `npdatabackup` コマンド（環境退避）で、業務コンテンツや設定ファイルなどのデータをバックアップします。

バックアップの方法は、「[5.2.1 バックアップするタイミングとデータについて](#)」を参照してください。

コマンドの詳細は、「[9.6 npdatabackup コマンド（環境退避）](#)」を参照してください。

3. ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップします。

アンセットアップ手順については、「[4.6 アンセットアップ手順](#)」を参照してください。

4. 利用するユーザ認証の種別によって、次のどちらかの個所を参照してセットアップの準備をします。

「[4.2 Active Directory によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備](#)」

「[4.3 JPl/Base によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備](#)」

5. ナビゲーション プラットフォームをセットアップします。

セットアップ手順については、「[4.4 セットアップ手順](#)」を参照してください。

6. `npimport` コマンド（業務コンテンツのインポート）で、手順 2. でバックアップした業務コンテンツのデータを復元します。

`npimport` コマンドの実行例

```
npimport -d 手順 2.のバックアップ先ディレクトリ¥contents.zip
```

コマンドの詳細は、「[9.10 npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）](#)」を参照してください。

7. 手順 2. でバックアップしたユーザメッセージプロパティファイル（`ucnp_message_user.properties`）をコピーして復元します。

ユーザメッセージプロパティファイルのコピー元

```
手順 2.のバックアップ先ディレクトリ¥HNP¥conf
```

ユーザメッセージプロパティファイルのコピー先

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf
```

8. 手順 2. でバックアップしたユーザプロパティファイル（`ucnp_user.properties`）の内容を、新しいユーザプロパティファイルに反映します。

バックアップしたユーザプロパティファイルの格納場所

手順 2.のバックアップ先ディレクトリ¥HNP¥conf

新しいユーザプロパティファイルの格納場所

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf

■ 注意事項

バックアップしたユーザプロパティファイルを新しいユーザプロパティファイルに上書きコピーすると、セットアップ時に設定されたプロパティが消えるため、動作しません。必ず新しいユーザプロパティファイルを編集して、バックアップしたユーザプロパティファイルの内容を反映するようにしてください。

9. 必要に応じて、ユーザプロパティファイルの次のプロパティの指定値を変更します。

- 業務実行画面および業務編集画面に [ログアウト] ボタンを表示したい場合は、ucnp.base.server.logoutbutton.display プロパティで指定します。
- 業務実行画面および業務編集画面に [閉じる] ボタンを表示したい場合は、ucnp.base.server.close.button.setting プロパティで指定します。

10. ナビゲーション プラットフォームを再起動します。

システムの再起動手順については「[5.1 システムの起動と停止](#)」を参照してください。

5

ナビゲーション プラットフォームの運用

この章では、ナビゲーション プラットフォームの日常的な運用やシステムの変更に必要な作業について説明します。

なお、開発・改修したプラグインやカスタム画面をシステムに適用する作業については、「[6.6 開発環境で作成したファイルの適用](#)」を参照してください。

5.1 システムの起動と停止

この節では、開発環境、編集環境および実行環境のシステムの起動方法および停止方法について説明します。システムの起動と停止には、コマンドを使用する方法と Windows サービスを利用する方法の 2 種類があります。

コマンドを使用する場合は、必ず Windows の管理者権限があるユーザでシステムを起動または停止してください。[管理者として実行] メニューを選択してコマンドを実行する必要があります。また、起動と停止に使用する各コマンドの使用方法については、「9. コマンド」を参照してください。

参考

ディレクトリサーバを使用している場合、必要に応じてシステムの起動・停止に合わせてディレクトリサーバも起動・停止します。ディレクトリサーバを起動するときはシステムより先に、ディレクトリサーバを停止するときはシステムよりあとに操作をしてください。

ディレクトリサーバの起動および停止方法の詳細は、使用しているディレクトリサーバのマニュアルを参照してください。

5.1.1 コマンドを実行してナビゲーション プラットフォーム (システム) を起動する

npstop コマンド (停止) で停止させたシステムを再起動する場合などは、次に示す手順に従い、手動で起動してください。

注意事項

システム起動時は、次の点に注意してください。

- JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合、ナビゲーション プラットフォームのシステムを起動する前に、すべての JP1/Base を起動しておく必要があります。JP1/Base の起動方法については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。
- ディレクトリサーバを起動するときはナビゲーション プラットフォームのシステムより先に起動してください。ディレクトリサーバの起動方法については、ご使用のディレクトリサーバのマニュアルを参照してください。

1. npstart コマンド (起動) を実行します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstart

2. エラーメッセージが表示された場合は、次の対処を実施してください。

KDCZ50859-E の場合

失敗した原因を取り除いた上で、npstop コマンドでシステムを停止します。その後、再度 npstart コマンドを実行してください。

KDCZ50859-E 以外の場合

メッセージの内容に従って問題を解決してから、再度 npstart コマンドを実行してください。

コマンドの詳細な使用方法については、「9.17 npstart コマンド (起動)」を参照してください。

参考

npstart コマンドを Windows のタスクに登録して、マシン起動時に自動的にナビゲーションプラットフォームも起動させることもできます。ただし、ナビゲーションプラットフォームの起動完了後に、バッチファイルなどを使ってほかのプログラムを実行する場合は、ナビゲーションプラットフォームはコマンドを使って起動する必要があります。

5.1.2 コマンドを実行してナビゲーションプラットフォーム (システム) を停止する

コマンドを実行したり、サーバマシンをシャットダウンしたりする場合は、あらかじめシステムを停止させてください。ナビゲーションプラットフォームの停止手順を次に示します。

1. npstop コマンド (停止) を実行します。

コマンドのパス

ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstop

2. エラーメッセージが表示された場合は、次の対処を実施してください。

KDCZ50860-E の場合

メッセージの内容に従って問題を解決してから、再度 npstop コマンドを実行してください。

KDCZ68170-E の場合

npstop コマンドではなく、Windows サービスを利用して Navigation Platform Start Service サービスを停止してください。

KDCZ50860-E, KDCZ68170-E 以外の場合

メッセージの内容に従って問題を解決してから、再度 npstop コマンドを実行してください。

コマンドの詳細な使用方法については、「9.18 npstop コマンド (停止)」を参照してください。

注意事項

システムを停止しないでサーバマシンをシャットダウンしてしまった場合は、システムが正常に停止していないおそれがあります。そのため、次にサーバマシンを起動してコマンドを実行する前に、次の操作を実行してください。

- システムを停止してから実行する必要があるコマンドを実行する前に、npstop コマンドを実行する。
- システムを起動した状態で実行する必要があるコマンドを実行する前に、npstart コマンドを実行する。

5.1.3 ナビゲーション プラットフォーム（システム）を起動または停止するための Windows サービス

ナビゲーション プラットフォームの起動と停止を制御する Windows サービスのサービス名と表示名を次に示します。

サービス名

NavigationPlatformStartService

サービスの表示名

Navigation Platform Start Service

Navigation Platform Start Service サービスの状態を「開始」にすると、ナビゲーション プラットフォームが起動します。Navigation Platform Start Service サービスの状態を「停止」にすると、ナビゲーション プラットフォームが停止します。

なお、Navigation Platform Start Service サービスのスタートアップの種類は、デフォルトでは「手動」になっています。マシン起動時に自動的にナビゲーション プラットフォームも起動したい場合は、スタートアップの種類を「自動」に変更してください。なお、Navigation Platform Start Service サービスのスタートアップの種類を「無効」には変更しないでください。「無効」にすると、ナビゲーション プラットフォームの動作は保証されません。

参考

バッチファイルなどを使ってナビゲーション プラットフォームの起動完了後にほかのプログラムを実行する場合は、ナビゲーション プラットフォームはサービスではなくコマンドを使って起動する必要があります。

注意事項

ナビゲーション プラットフォームをサービスで起動した場合、コマンドで停止することはできません。サービスから停止してください。どうしてもコマンドで停止したい場合は、`net stop "Navigation Platform Start Service"`で停止してください。

`net stop "Navigation Platform Start Service"`をバッチファイルにしておくとう便利です。

(1) 連動する Windows サービス

Navigation Platform Start Service サービスと連動するサービスとして、次のサービスがあります。()内はサービスの表示名です。

- NavigationPlatformWebService (Navigation Platform Web Service)
- NavigationPlatformJ2EEServer (Navigation Platform J2EE Server)

Navigation Platform Start Service サービスを開始または停止すると、これらのサービスも連動して開始または停止します。単独で開始・停止の操作をする必要はありません。

なお、スタートアップの種別は「手動」以外に変更しないでください。変更した場合の動作は保証されません。

(2) Navigation Platform Start Service サービスが開始されない場合の対処

Navigation Platform Start Service サービスが開始されない原因は、タイムアウトまたはタイムアウト以外に分類できます。原因がタイムアウトの場合は、しばらく待つことで Navigation Platform Start Service サービスの状態が「開始」になるため、対処は不要です。

しばらく待っても Navigation Platform Start Service サービスの状態が「開始」にならない場合は、タイムアウト以外の要因のエラーが発生しています。その場合は、アプリケーションの Windows ログを確認し、表示されているメッセージに応じて対処します。

(3) Navigation Platform Start Service サービスの停止処理中にエラーが発生した場合の対処

Navigation Platform Start Service サービスの停止処理中のエラーの原因は、タイムアウトまたはタイムアウト以外に分類できます。エラーの原因がタイムアウトの場合は、しばらく待つことで停止処理が正常に終了し、Navigation Platform Start Service サービスの状態が「停止」になるため、対処は不要です。

しばらく待っても Navigation Platform Start Service サービスの状態が「停止」にならない場合は、タイムアウト以外の要因のエラーが発生しています。その場合は、アプリケーションの Windows ログを確認し、表示されているメッセージに応じて対処します。

5.2 バックアップとリストアの必要性

この節では、バックアップを取得するデータと、データをリストアするタイミングについて説明します。障害が発生してデータが破損した場合は、取得したバックアップデータをリストアし、データを復旧します。

データのバックアップとリストアは、すべての環境（開発環境、編集環境、実行環境）に対して必要です。

5.2.1 バックアップするタイミングとデータについて

次に示すデータは、月に1回を目安に定期的にバックアップすることを推奨します。運用に合わせて、バックアップを取得するタイミングを検討してください。

1. システムの設定に関するデータ（プロパティファイルなど）
2. 業務コンテンツのデータ
3. 業務コンテンツに使用されている静的ファイル

npdatabackup コマンド（環境退避）を実行すると、1.~3.のデータをまとめて取得できます。npexport コマンド（業務コンテンツのエクスポート）を実行すると、2.のデータだけを取得できます。

バックアップは、月に1回を目安に定期的に取得することを推奨します。運用に合わせて、バックアップを取得するタイミングを検討してください。なお、ユーザ認証を使用している場合、認証サーバのユーザ情報については、必要に応じてバックアップしてください。

ポイント

npdatabackup コマンドと npexport コマンドのどちらを使用するかは、リストア時の運用を考慮して決定してください。

- npdatabackup コマンドでバックアップしたデータは、npdatarestore コマンド（環境復元）でリストアします。npdatabackup コマンドおよび npdatarestore コマンドを実行するには、システムをいったん停止する必要があるため、実行のタイミングについて、慎重な計画が必要です。
- npdatarestore コマンドは、バックアップ時とリストア時のバージョンが同じ場合に使用できます。バージョンアップ時には使用できないため、注意が必要です。
- npexport コマンドでバックアップした業務コンテンツのデータは、npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）でリストアします。npexport コマンドおよび npimport コマンドはシステムを起動したまま実行できるため、npdatabackup コマンドおよび npdatarestore コマンドと比べて手軽に使用できます。
- npdatabackup コマンドでまとめてバックアップデータを取得しておき、リストア時に npimport コマンドで業務コンテンツだけを復元する方法もあります。詳細は、「[5.2.8 業務コンテンツだけをリストアする](#)」を参照してください。

5.2.2 システム全体をバックアップする

npdatabackup コマンドでバックアップを取得する手順を次に示します。

1. npstop コマンド (停止) でシステムを停止します。

コマンドのパス

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstop
```

2. バックアップ先のディスクに 30MB 以上の空き容量を確保します。

必要な空き容量は、業務コンテンツの数および内容によって異なります。業務コンテンツで静的ファイルやユーザプラグインを使用している場合は、次のディレクトリの容量も加算した容量を確保してください。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs
```

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥plugin_files
```

また、操作ログおよび監査ログのバックアップを取得する場合、これらのファイル容量も加算した容量を確保してください。

バックアップ先のディスクの空き容量が不足している場合、またはコマンド実行時に必要な一時ディレクトリのための空き容量が不足していた場合は、コマンドが異常終了します。コマンド実行前に十分な空き容量を確保してください。

3. npdatabackup コマンドを実行します。

コマンドのパス

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdatabackup
```

4. 操作ログのバックアップを取得します。

操作ログ機能を使用している場合、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.operationlog.path で指定したフォルダ以下のファイルをすべてコピーし、バックアップ先ディスクに退避します。

5. 監査ログのバックアップを取得します。

監査ログ機能を使用している場合、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.auditlog.path で指定したフォルダ以下のファイルをすべてコピーし、バックアップ先ディスクに退避します。

6. ダッシュボードサーバのメモリ設定のバックアップを取得します。

ダッシュボード機能を使用している場合、次に示すフォルダ以下のファイルをすべてコピーし、バックアップ先ディスクに退避します。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥Elastic¥elasticsearch¥config
```

7. タスクのバックアップを取得します。

ナビゲーション プラットフォームのコマンドを実行するタスクを作成している場合、タスクの設定をバックアップ先ディスクに退避します。

8. npstart コマンド (起動) でシステムを起動します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstart

5.2.3 業務コンテンツだけをバックアップする

npexport コマンドで業務コンテンツだけをバックアップする手順を次に示します。

1. npexport コマンドで業務コンテンツのデータをエクスポートします。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npexport

すべての業務コンテンツ、またはオプションで指定した業務コンテンツのデータがまとめて一つのファイルに出力されます。

2. 業務コンテンツで画像や PDF などの静的ファイルを使用している場合、それらのファイルを手動でコピーします。

静的ファイルの格納先

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs

5.2.4 リストアするタイミングとデータについて

システム障害の発生や、ハードウェアの故障などでデータが破損した場合は、「5.2.1 バックアップするタイミングとデータについて」で取得したデータを、npdatarestore コマンド (環境復元) を使ってリストアします。

なお、単に削除してしまった業務コンテンツを復元したい場合には、npimport コマンド (業務コンテンツのインポート) を使用した方が簡単にリストアできます。ここでは両方の手順を説明します。コマンドの使用方法については、「9.7 npdatarestore コマンド (環境復元)」および「9.10 npimport コマンド (業務コンテンツのインポート)」を参照してください。

5.2.5 システム全体をリストアする (ほかのマシンに再構築する場合)

ハードディスクが破損した場合など、同じマシン上でのリストアができないときは、バックアップしたデータを次の手順で新しいマシンにリストアしてください。

1. 再構築用のマシンにナビゲーション プラットフォームをインストールします。

バックアップ時のインストールディレクトリと同じディレクトリにインストールする必要があります。バックアップ時のインストールディレクトリは、バックアップデータの installpath.txt ファイルを参照して確認してください。

2. npdatabackup コマンド (環境退避) でバックアップしたデータを、属性を保持した状態で再構築用のマシンの任意の場所にコピーします。

3. 手順 2. でコピーしたデータに含まれるユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) を次に示すディレクトリにコピーします。

コピー元ファイル

バックアップデータの格納ディレクトリ¥HNP¥conf¥ucnp_setup_user.properties

コピー先ディレクトリ

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf

セットアップ時に、セットアッププロパティファイルをコピー先ディレクトリにコピーしないで、デフォルトの設定でセットアップしている場合は、この手順は不要です。

4. バックアップ後に Active Directory の認証者パスワードを変更している場合は、ユーザセットアッププロパティファイルを編集して ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.credentials プロパティに変更後のパスワードを設定します。

5. npsetup コマンド (セットアップ) を実行して、ナビゲーション プラットフォームをセットアップします。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npsetup

6. バックアップ時の環境のデータベース容量が拡張されていた場合は、npextendrdarea コマンド (データベースの拡張) を実行して、データベース容量を拡張します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npextendrdarea

7. npstop コマンド (停止) を実行して、システムを停止します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstop

8. 操作ログ、監査ログのバックアップを取得している場合、取得したファイルを各種ログフォルダに配置します。

9. ダッシュボードサーバのメモリ設定のバックアップを取得している場合、取得したファイルの内容を基に、ダッシュボードサーバのメモリ設定を復元します。

ダッシュボードサーバのメモリ設定を変更する手順は、「[5.4.4\(7\) ダッシュボードサーバのストレージサービスで必要なメモリ容量の変更](#)」を参照してください。

ポイント

コマンドに指定する値については、バックアップ時に取得した次のフォルダにある `jvm.options.npsettings.txt` を確認してください。

10. ナビゲーション プラットフォームのコマンドを実行するタスクのバックアップを取得している場合、取得したバックアップを基に、タスクの設定を復元します。

11. npdatarestore コマンド（環境復元）でナビゲーション プラットフォームのデータをリストアします。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdatarestore

12. 「6.6 開発環境で作成したファイルの適用」の手順を応用して、バックアップしたユーザプラグインを復元します。

「6.6 開発環境で作成したファイルの適用」の手順を参照するときは、「開発環境で作成したファイル」を「バックアップしたデータ」に読み替えてください。また、必要に応じてユーザプラグインが前提とする設定ファイル、およびデータベースなどの連携システムについても、同じタイミングで復元してください。

ポイント

ユーザプラグインのソースファイルをナビゲーション プラットフォーム以外のシステムで管理している場合は、そのシステムからソースファイルをコピーしてください。

13. 検索機能を使用できる設定にしている場合は、npupdatesearchdata コマンド（検索用データの更新）を実行して、最新の業務コンテンツの情報を検索用データに反映します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npupdatesearchdata

5.2.6 バックアップしたデータをリストアする（同じマシンに再構築する場合で、ユーザプラグインを使用していないとき）

ユーザプラグインを使用していない環境でバックアップしたデータを、同じマシン上でリストアする手順を次に示します。

1. npdatabackup コマンド（環境退避）でバックアップしたデータを、属性を保持した状態でローカルディスクの任意の場所にコピーします。
2. npstop コマンド（停止）を実行、または Navigation Platform Start Service サービスを停止して、システムを停止します。
3. 操作ログ、監査ログのバックアップを取得している場合、取得したファイルを各種ログ格納フォルダに配置します。

- ダッシュボードサーバのメモリ設定のバックアップを取得している場合、取得したファイルの内容を基に、ダッシュボードサーバのメモリ設定を復元します。

ダッシュボードサーバのメモリ設定を変更する手順は、「5.4.4(7) ダッシュボードサーバのストレージサービスで必要なメモリ容量の変更」を参照してください。

ポイント

コマンドに指定する値については、バックアップ時に取得した次のフォルダにある `jvm.options.npsettings.txt` を確認してください。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥Elastic¥elasticsearch¥config
```

- ナビゲーション プラットフォームのコマンドを実行するタスクのバックアップを取得している場合、取得したバックアップを基に、タスクの設定を復元します。

- `npdatarestore` コマンド (環境復元) でナビゲーション プラットフォームのデータをリストアします。

コマンドのパス

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdatarestore
```

- 検索機能を使用できる設定にしている場合は、`npupdatesearchdata` コマンド (検索用データの更新) を実行して、最新の業務コンテンツの情報を検索用データに反映します。

コマンドのパス

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npupdatesearchdata
```

5.2.7 バックアップしたデータをリストアする (同じマシンに再構築する場合で、ユーザプラグインを使用しているとき)

ユーザプラグインを使用している環境でバックアップしたデータを、同じマシン上でリストアする手順を次に示します。

- `npdatabackup` コマンド (環境退避) でバックアップしたデータを、属性を保持した状態でローカルディスクの任意の場所にコピーします。
- `npstop` コマンド (停止) を実行、または Navigation Platform Start Service サービスを停止して、システムを停止します。
- 操作ログ、監査ログのバックアップを取得している場合、取得したファイルを各種ログ格納フォルダに配置します。
- ダッシュボードサーバのメモリ設定のバックアップを取得している場合、取得したファイルの内容を基に、ダッシュボードサーバのメモリ設定を復元します。
ダッシュボードサーバのメモリ設定を変更する手順は、「5.4.4(7) ダッシュボードサーバのストレージサービスで必要なメモリ容量の変更」を参照してください。

ポイント

コマンドに指定する値については、バックアップ時に取得した次のフォルダにある `jvm.options.npsettings.txt` を確認してください。

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥Elastic¥elasticsearch¥config

5. ナビゲーション プラットフォームのコマンドを実行するタスクのバックアップを取得している場合、取得したバックアップを基に、タスクの設定を復元します。

6. `npdatarestore` コマンド（環境復元）でナビゲーション プラットフォームのデータをリストアします。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdatarestore

7. 「6.6 開発環境で作成したファイルの適用」の手順を応用して、バックアップしたユーザプラグインを復元します。

「6.6 開発環境で作成したファイルの適用」の手順を参照するときは、「開発環境で作成したファイル」を「バックアップしたデータ」に読み替えてください。また、必要に応じてユーザプラグインが前提とする設定ファイル、およびデータベースなどの連携システムについても、同じタイミングで復元してください。

ポイント

ユーザプラグインのソースファイルをナビゲーション プラットフォーム以外のシステムで管理している場合は、そのシステムからソースファイルをコピーしてください。

8. 検索機能を使用できる設定にしている場合は、`npupdatesearchdata` コマンド（検索用データの更新）を実行して、最新の業務コンテンツの情報を検索用データに反映します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npupdatesearchdata

5.2.8 業務コンテンツだけをリストアする

業務コンテンツだけをリストアする手順を次に示します。

1. `npimport` コマンドで最新の業務コンテンツをインポートします。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npimport

2. 業務コンテンツで画像や PDF などの静的ファイルを使用している場合、それらのファイルを手動でコピーします。

静的ファイルの格納先

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs

5.2.9 ダッシュボード機能をセットアップ時の状態に復元する

誤操作などで、ダッシュボード機能をセットアップ時の状態に戻りたいときは、次の手順で同一マシン上に復元できます。

1. ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップする。

アンセットアップの手順は、「4.6 アンセットアップ手順」を参照してください。

2. npdatabackup コマンド（環境退避）でバックアップしたデータを、属性を保持した状態でローカルディスクの任意の場所にコピーします。

3. 手順 2. でコピーしたデータに含まれるユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) を次に示すディレクトリにコピーします。

コピー元ファイル

バックアップデータの格納ディレクトリ¥HNP¥conf¥ucnp_setup_user.properties

コピー先ディレクトリ

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf

セットアップ時に、セットアッププロパティファイルをコピー先ディレクトリにコピーしないで、デフォルトの設定でセットアップしている場合は、この手順は不要です。

4. バックアップ後に Active Directory の認証者パスワードを変更している場合は、ユーザセットアッププロパティファイルを編集して ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.credentials プロパティに変更後のパスワードを設定します。

5. npsetup コマンド（セットアップ）を実行して、ナビゲーション プラットフォームをセットアップします。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npsetup

6. バックアップ時の環境のデータベース容量が拡張されていた場合は、npextendrdarea コマンド（データベースの拡張）を実行して、データベース容量を拡張します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npextendrdarea

7. npstop コマンド（停止）を実行して、システムを停止します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstop

- 操作ログ、監査ログのバックアップを取得している場合、取得したファイルを各種ログフォルダに配置します。
- ダッシュボードサーバのメモリ設定のバックアップを取得している場合、取得したファイルの内容を基に、ダッシュボードサーバのメモリ設定を復元します。
ダッシュボードサーバのメモリ設定を変更する手順は、「[5.4.4\(7\) ダッシュボードサーバのストレージサービスで必要なメモリ容量の変更](#)」を参照してください。

ポイント

コマンドに指定する値については、バックアップ時に取得した次のフォルダにある `jvm.options.npsettings.txt` を確認してください。

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥Elastic¥elasticsearch¥config

- ナビゲーション プラットフォームのコマンドを実行するタスクのバックアップを取得している場合、取得したバックアップを基に、タスクの設定を復元します。
- `npdatarestore` コマンド（環境復元）でナビゲーション プラットフォームのデータをリストアします。
コマンドのパス
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdatarestore
- 「[6.6 開発環境で作成したファイルの適用](#)」の手順を応用して、バックアップしたユーザプラグインを復元します。
「[6.6 開発環境で作成したファイルの適用](#)」の手順を参照するときは、「開発環境で作成したファイル」を「バックアップしたデータ」に読み替えてください。また、必要に応じてユーザプラグインが前提とする設定ファイル、およびデータベースなどの連携システムについても、同じタイミングで復元してください。

ポイント

ユーザプラグインのソースファイルをナビゲーション プラットフォーム以外のシステムで管理している場合は、そのシステムからソースファイルをコピーしてください。

- 検索機能を使用できる設定にしている場合は、`npupdatesearchdata` コマンド（検索用データの更新）を実行して、最新の業務コンテンツの情報を検索用データに反映します。
コマンドのパス
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npupdatesearchdata

5.3 データベースの運用

業務コンテンツ数が増加したり、1 業務コンテンツ当たりのノード数が予定よりも多かたりすると、セットアップ時のデータベース容量では足りなくなる場合があります。この問題は、定期的にデータベースの利用状況を確認し、容量を見直すことで、解決できます。

セットアップ時のデータベース容量は、次の条件の範囲内で業務コンテンツを作成することを想定した容量になっています。

表 5-1 セットアップ時のデータベース容量で作成できる業務コンテンツ

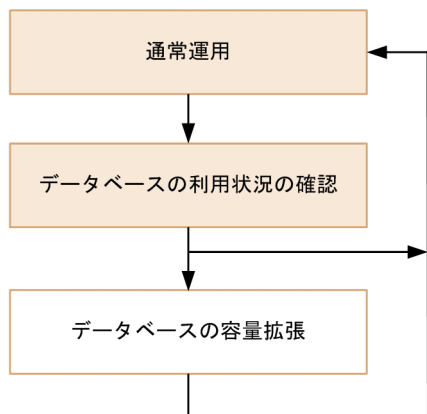
項番	項目	想定値
1	業務コンテンツの数	500 個
2	業務コンテンツの平均ノード数	20 個
3	フロー領域に配置する平均パーツ数	30 個
4	ガイド領域に配置する平均パーツ数	35 個
5	業務コンテンツに関連づける平均プラグインパーツ数*	20 個

注※

システムプラグインとユーザプラグインの合計です。

データベースを運用するときの流れは次のとおりです。

図 5-1 データベースの運用の流れ



(凡例)

: 必ず実施する作業

: 必要に応じて実施する作業

セットアップ時のデータベース容量の範囲内で業務コンテンツを作成している場合も、定期的にデータベースの利用状況を確認し、データベース容量が枯渇する前に容量を拡張するようにしてください。

データベースの利用状況の確認、および容量の拡張には、ナビゲーションプラットフォームのコマンドを使用します。

5.3.1 データベースの利用状況の確認

データベースの利用状況は、Windows の管理者権限を持つユーザが nppddbst コマンド（データベースの利用状況確認）を実行して確認します。コマンド実行結果に KDCZ10371-W が出力される場合は、データベースの容量を拡張してください。

コマンドの詳細は、「[9.11 nppddbst コマンド（データベースの利用状況確認）](#)」を参照してください。

5.3.2 データベースの拡張

Windows の管理者権限を持つユーザが npextendrdarea コマンド（データベースの拡張）を実行すると、1 回の実行につきデータベースの容量が約 10GB 増加します。これは、約 500 個分の業務コンテンツの容量に相当します。

コマンドの詳細は、「[9.9 npextendrdarea コマンド（データベースの拡張）](#)」を参照してください。

5.3.3 データベースの再編成

業務コンテンツの追加や削除を繰り返すと、データベースへのアクセス効率や格納効率が低下することがあります。この問題は、定期的に npreorg コマンド（データベース再編成）を実行することで軽減できます。npreorg コマンドは、6 か月に 1 回を目安に実施することを推奨します。コマンドの使用方法については、「[9.14 npreorg コマンド（データベース再編成）](#)」を参照してください。

データベースを再編成する手順を次に示します。

1. npstop コマンド（停止）を実行、または Navigation Platform Start Service サービスの状態を「停止」にしてシステムを停止します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstop

2. ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリに 3.0GB 以上の空きがあることを確認します。

空き容量が不足していると、コマンドが異常終了します。必ず事前に空き容量を確認して、空き容量が不足している場合は、データを整理して空き容量を増やすなどの対処をしてください。

3. npreorg コマンド（データベース再編成）でデータベースを再編成します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npreorg

4. npstart コマンド（起動）を実行、または Navigation Platform Start Service サービスの状態を「開始」にしてシステムを起動します。

コマンドのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstart

注意事項

npreorg コマンド（データベース再編成）が異常終了した場合は、ほかの操作をする前に再度 npreorg コマンド（データベース再編成）を実行してください。ほかの操作をしてしまうと、データベースの状態が不正になるおそれがあります。詳細を次に示します。

- KDCZ70004-I のメッセージが表示されている間は、npreorg コマンド（データベース再編成）を強制的に終了しないでください。
- npreorg コマンド（データベース再編成）終了時に KDCZ78001-E, KDCZ78002-E, または KDCZ78003-E のメッセージが表示された場合は、ほかの操作をする前に再度 npreorg コマンド（データベース再編成）コマンドを実行してください。

ポイント

データベース運用の際に、考慮するとよい点を次に示します。

- データベースの再編成は、定期的実施することが大切です。Windows のタスクスケジューラ機能などを利用して、データベースの再編成に必要なコマンドがまとめて自動実行されるようにしておくとう便利です。
- データベースの再編成には時間が掛かることがあります。業務コンテンツの利用率が低い時間帯にシステムを停止するようにして、業務コンテンツの利用者にはシステムが停止することを事前に通知しておきましょう。

5.4 業務コンテンツの操作ログの運用

操作ログとは、業務コンテンツでの操作でノードを遷移するごとに出力される、操作履歴です。

ナビゲーション プラットフォームでは、操作ログの解析結果を次の画面で確認できます。

- レポート画面
- ダッシュボード画面

レポート画面およびダッシュボード画面については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

操作ログを解析する時刻の設定については、「8.4 サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) の設定」を参照してください。

ポイント

解析の対象となる操作ログは、サービスプロパティファイルで設定した時刻に解析サーバに送信されます。操作ログの更新中に、操作ログが出力される操作をすると、操作に時間が掛かることがあります。そのため、操作ログの更新は、ナビゲーション プラットフォームへのアクセスが少ない時間帯に実行することを推奨します。

レポート画面に表示される解析結果だけでは情報が不足している場合は、操作ログのファイルを参照して、独自に解析することもできます。操作ログは、業務コンテンツの改善点を見つけるための分析資料として使用できます。例えば、次のような流れで活用できます。

1. テキストファイルとして出力される操作ログを表計算ソフトで加工および分析する。
2. 次のノードへ遷移するまでの時間がほかのノードより長いノードが見つかった場合、なぜ時間が掛かるのかを利用者にヒアリングする。
3. ヒアリング結果から、ガイドの説明を改善する。

操作ログは、デフォルトで出力されます。ファイルの文字コードは UTF-8 です。操作ログの出力を停止したり、操作ログの格納先や出力内容などをカスタマイズしたりしたい場合は、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の関連するプロパティの指定値を見直します。ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の詳細については、「8.5 ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の設定」を参照してください。

注意事項

- 操作ログのファイルは、ナビゲーション プラットフォームによる解析で使用されるため、ファイルを編集しないでください。独自の解析をする場合は、操作ログのファイルをコピーしてから、コピーしたファイルを使って解析してください。

- ナビゲーション プラットフォームを運用中に操作ログのファイルをコピーすると、ファイルの出力有無や面数を変更できなくなることがあります。そのため、操作ログのファイルは、ナビゲーション プラットフォームの停止中にコピーしてください。
- レポート画面では、複数の実行環境の操作ログを一括して解析できません。複数の実行環境の操作ログを一括して解析したい場合は、レポート画面を使わず、独自の解析が必要です。独自に操作ログを解析するには、業務実行 ID をキーにすることを推奨します。業務実行 ID をキーにして操作ログを解析することで、同一ユーザが複数の実行環境を操作している場合でも、業務ごとに操作ログを解析できます。

参考

操作ログとは別に監査ログがあります。監査ログの取得方法や項目については、「[5.5 監査ログとは](#)」を参照してください。

5.4.1 操作ログの内容

(1) 操作ログに出力される項目

操作ログには次の項目が出力されます。出力する項目は、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) で変更できます。

表 5-2 操作ログに出力される項目

項目	説明	出力の変更可否
日時	操作ログが出力された日時です。タイムゾーンはナビゲーション プラットフォームのサーバの設定に準じます。	○
通算ミリ秒	操作ログが出力された日時の通算ミリ秒です。出力された時刻と協定世界時の UTC1970 年 1 月 1 日午前 0 時との差をミリ秒で表します。	×
セッション ID	ノードを遷移させた利用者のセッション ID です。	○
業務実行 ID	業務コンテンツ実行時に、実行操作に対して割り当てられる ID です。業務コンテンツの実行を中断した場合も、中断前と再開後の業務実行 ID は同じになります。業務実行 ID は、入出力プラグインに渡されたパラメタからも取得できます。利用者が業務コンテンツを実行中に入力した値と、操作ログの内容を対応させたい場合は、入出力プラグインの入力項目の内容と業務実行 ID をファイルなどに出力してください。	×
ユーザ ID	ノードを遷移させた利用者のユーザ ID または JP1 ユーザ名です。	×
グループ ID	<ul style="list-style-type: none"> • Active Directory によるユーザ認証の場合 ノードを遷移させた利用者が所属するグループの ID です。複数のグループに所属する場合や、グループが階層になっている場合は、複数のグループ ID が CSV ファイル形式で出力されます。 	○

項目	説明	出力の変更可否
グループ ID	<ul style="list-style-type: none"> Active Directory によるユーザ認証以外の場合空文字が出力されます。 	○
業務コンテンツ ID	ノードが遷移した業務コンテンツの ID です。	×
業務コンテンツ名称	ノードが遷移した業務コンテンツの名称です。	○
業務コンテンツバージョン ID	ノードが遷移した業務コンテンツのバージョン ID です。	×
遷移種別	<p>どのようにノードを遷移させたかを表す種別です。次の 8 種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> start：業務フローの開始 show_next_page：[次へ] ボタンなどのクリックによる次のノードへの遷移 ただし、業務フローの最後のプロセスノード（[戻る] ボタン非表示）の場合は、[次へ] ボタンをクリックしたときの遷移種別は show_complete_page になります。 show_previous_page：[戻る] ボタンなどのクリックによる前のノードへの遷移 show_complete_page：[次へ] ボタンや [完了] ボタンなどのクリックによる業務フローの終点（プロセスノード※¹またはターミナルノード）への遷移 back_jump：業務フロー上での、前のノードへの直接遷移※² forward_jump：業務フロー上での、次のノードへの直接遷移 save：[一時保存] ボタンのクリックによる作業の中断 load：作業の中断後、中断情報を使用した作業の再開 	×
遷移元ノードの ID	遷移元のノードの情報です。	×
遷移元ノードの名称	<p>なお、次の場合は空文字が出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 始点にターミナルノードが配置されていない業務フローの開始時 ノードの直接遷移が許可されている場合で、業務フローが完了した状態からの遷移時 	○
実際の遷移先ノードの ID	実際に遷移した先のノードの情報です。次の場合は、指定した遷移先ノードの情報とこの項目で出力される情報が異なります。	×
実際の遷移先ノードの名称	<ul style="list-style-type: none"> 入出力プラグインでエラーが発生し、指定した遷移先ノードと実際に遷移したノードが異なった場合 入出力プラグインの実行確認ダイアログで [キャンセル] ボタンをクリックした場合 <p>なお、業務フローの開始時で、かつ開始のプロセスノード、または開始のターミナルノードに接続されていない先頭のプロセスノードの入出力プラグインでエラーが発生した場合は、空文字が出力されます。</p>	○
指定した遷移先ノードの ID	利用者が指定した遷移先のノードの情報です。次の場合は、実際の遷移先ノードの情報とこの項目で出力される情報が異なります。	×
指定した遷移先ノードの名称	<ul style="list-style-type: none"> 入出力プラグインでエラーが発生し、指定した遷移先ノードと実際に遷移したノードが異なった場合 入出力プラグインの実行確認ダイアログで [キャンセル] ボタンをクリックした場合 	○

項目	説明	出力の変更可否
エラーフラグ	<p>入出力プラグイン（ユーザプラグイン）の結果を表すフラグです。次に示す種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • OK^{※3}：入出力プラグインの結果が成功、または入出力プラグインが存在しない • WARNING^{※3}：入出力プラグインの結果が警告 入出力プラグインの IIoPluginController インタフェースにある inputFromNode メソッドまたは outputToNode メソッドで、戻り値の Map に ucnp.error.message キーが設定され、かつ ucnp.error.type キーに WARNING が設定された場合に、入出力プラグインの結果が成功だと WARNING のエラーフラグが出力されます。 • NG：入出力プラグインの結果が失敗（IIoPluginController インタフェース）inputFromNode メソッドまたは outputToNode メソッドで、戻り値の Map に ucnp.error.message キーが設定され、かつ ucnp.error.type キーに NG が設定された場合、または inputFromNode メソッドまたは outputToNode メソッドが予期しない例外をスローした場合に、NG のエラーフラグが出力されます。 • CANCEL：入出力プラグインの実行確認ダイアログでキャンセルを選択（プラグインが実行されていない） 	×
入力値チェックエラー回数	<p>ノードの遷移に成功するまでに、ガイドパーツの入力値チェックでエラーが発生した回数です。</p> <p>業務コンテンツの実行を中断した場合は、中断時に出力する操作ログに、中断までにガイドパーツの入力値チェックでエラーが発生した回数が出力されます。</p>	×
プラグインエラー回数	<p>ノードの遷移に成功するまでに、入出力プラグインでエラーとなった回数です。</p> <p>業務コンテンツの実行を中断した場合は、中断時に出力する操作ログに、中断までに入出力プラグインでエラーが発生した回数が出力されます。</p>	×
ucnpOptions パラメタ	ucnpOptions パラメタに指定された値です。ucnpOptions パラメタが指定されていない場合は、空文字が出力されます。	○

凡例

○：ucnp.base.server.operationlog.user.analyze.info プロパティの設定によって、操作ログに出力するかどうかを変更できる（操作ログを独自に解析する場合に、解析しやすくするための項目）

×：常に操作ログに出力される（ucnp.base.server.operationlog.user.analyze.info プロパティが「false」でも出力される項目）

注※1

業務フローの終点にプロセスノードを配置する業務コンテンツで、業務が完了した正確なタイミングを分析したい場合は、終点のプロセスノードの「戻る」ボタンを表示しない設定にする必要があります。

終点にプロセスノードを配置する場合は、「戻る」ボタンを表示しないように、コンテンツ管理者またはコンテンツ編集者に指示をしてください。また、「戻る」ボタンを非表示にする設定については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

注※2

ucnp.base.client.directjump.enable プロパティが「all」の場合は、直接遷移の種別は常に「back_jump」となります。

注※3

直接遷移による遷移の場合、OK と WARNING の入出力プラグインの結果が混在することがあります。混在した場合は、操作ログには WARNING が出力されます。

(2) 出力されるタイミング

操作ログは、業務実行画面で業務フローを開始したとき、および、ノードが遷移したときに出力されます。また、プロセスノードのクリックによって直接遷移した場合は、操作ログは出力されますが、途中にあるノードの情報は出力されません。

(3) 出力形式

操作ログは、タブ区切りで出力されます。[次へ] ボタンをクリックしてノードを遷移した場合の、操作ログの出力例を示します。

表 5-3 操作ログの出力項目と出力例の値

出力項目	出力例の値
日時	2012年9月19日17時19分41秒109ミリ秒
利用者のユーザID	user1
利用者が所属しているグループID	group
業務コンテンツ	<ul style="list-style-type: none">ID: 268e3592-0133-1000-8002-00000ad23cbb-0名称: コンテンツ 1
遷移元のプロセスノード	<ul style="list-style-type: none">ID: P001名称: プロセスノード A
実際の遷移先のプロセスノード	<ul style="list-style-type: none">ID: P002名称: プロセスノード B
指定した遷移先のプロセスノード	<ul style="list-style-type: none">ID: P003名称: プロセスノード C
遷移時の操作	[次へ] ボタンをクリックして遷移
エラーフラグ	プラグインの結果が成功
遷移元のノードの入力値チェックエラー回数	2回
遷移元のノードのプラグインエラー回数	0回
ucnpOptions パラメタの値	OptionA

操作ログの出力例

2012/09/19△17:19:41.109 (タブ) 1348042781109 (タブ)
00946E257CB395F59C9519BB77C3FF28CsR8JWB_2 (タブ)
eb749199-0146-1000-8001-00000ac47c1d1 (タブ) user1 (タブ) group (タブ)
268e3592-0133-1000-8002-00000ad23cbb-0 (タブ) コンテンツ 1 (タブ)
eb736f61-0146-1000-8000-00000ac47c1d (タブ) show_next_page (タブ) P001 (タブ) プロ
セスノード A (タブ) P002 (タブ) プロセスノード B (タブ) P003 (タブ) プロセスノード C (タブ)
OK (タブ) 2 (タブ) 0 (タブ) OptionA

(凡例)

△：半角スペース

(タブ)：タブ

5.4.2 操作ログの出力先, 面数, サイズ

操作ログの出力先, 面数, サイズについて説明します。

出力先

デフォルトの出力先は次のとおりです。

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥operationlogs¥operation/[N].log ([N] はファイル面数)

面数

操作ログはシーケンシャルファイルです。ファイル面数は1から始まり、操作ログファイルが一定の容量に達すると、ファイル面数+1のファイルを新たに作成して、そこに操作ログが出力されます。もし同じ名前のファイルがすでに存在する場合は、削除して作成されます。なお、ファイル面数が最大面数(デフォルトの面数は40です)を超えると、再びファイル面数を1として、処理を行います。

例を次に示します。

「operation1.log」が一定の容量に達すると、「operation2.log」が作成され、そこに操作ログが出力されます。このようにして、「operation40.log」まで作成され、「operation40.log」が一定の容量になると、次は、「operation1.log」が削除されます。そして、新たに「operation1.log」が作成されて、そこに操作ログが出力されます。

ファイルサイズ

デフォルトのファイルサイズは40,960KBです。

なお、これらの項目はユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) で変更できます。

設定を変更する場合のプロパティ

操作ログの出力先, 面数, ファイルサイズをデフォルトから変更したい場合は、次のプロパティの指定値を変更してください。

- 操作ログの出力先 (ucnp.base.server.operationlog.path)
- 操作ログの最大面数 (ucnp.base.server.operationlog.backup.number)
- 操作ログのファイルサイズの上限值 (ucnp.base.server.operationlog.size)

プロパティの指定値については、「[8.5 ユーザプロパティファイル \(ucnp_user.properties\) の設定](#)」を参照してください。

操作ログのファイル容量をデフォルト値から変更した場合

「[3.4.2 操作ログのファイル容量の見積もり](#)」に従って操作ログのファイル容量を見積もった場合、見積もり結果がデフォルトのファイル容量 (1.6GB) を超えているかどうかを確認してください。

デフォルトのファイル容量より見積もり結果の方が大きいときは、操作ログの面数とファイルサイズが次の条件を満たすように、プロパティの設定値を見直してください。

セットアップする環境に必要な操作ログのファイル容量（「3.4.2 操作ログのファイル容量の見積もり」の見積もり結果） \leq 面数 \times ファイルサイズ

5.4.3 複数の実行環境の操作ログ解析結果をまとめて表示する

ナビゲーション プラットフォームの実行環境が複数存在する場合でも、レポート画面で確認できるのは、その実行環境の操作ログの解析結果だけです。

さらに、それぞれの解析結果を編集環境にまとめることで、複数の実行環境の解析結果をまとめて確認できます。

ここでは、複数の実行環境の操作ログを編集環境にまとめて表示させる手順と、それらの注意事項について説明します。

注意事項

- 編集環境に存在する業務コンテンツの操作ログ解析結果だけレポート画面に表示します。そのため、実行環境と編集環境に存在する業務コンテンツは一致させることを推奨します。
- 実行環境が複数ある場合、レポート画面での解析に時間が掛かるおそれがあります。

操作ログの解析結果をまとめて確認する手順を次に示します。

1. 次の手順 2.~4.の操作を、実行環境の数だけ繰り返します。
2. 実行環境の次のディレクトリを任意の場所にコピーします。

```
実行環境のナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥setup¥work  
¥npanalyzeoplog
```

3. コピーしたディレクトリのディレクトリ名を次のように変更します。

NP_MERGE_実行環境ごとにユニークな半角英数字 3 文字以内

例

NP_MERGE_001

4. 2.のディレクトリを編集環境の次のディレクトリに上書きコピーします。

コピー先

```
編集環境のナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥setup¥work  
¥npanalyzeoplog
```

5. 編集環境でレポート画面を表示し、操作ログの解析結果を確認します。

5.4.4 操作ログの解析にダッシュボード機能を利用する

ダッシュボード機能を利用すると、ユーザの業務コンテンツの実行に合わせて出力する操作ログを解析できます。業務コンテンツの操作ログの解析結果は、ダッシュボード画面で確認できます。

ポイント

- ダッシュボード機能で解析できる操作ログは、最大で6か月分です。
- ダッシュボード画面にアクセスするマシンで使用できる Web ブラウザは、Internet Explorer 11 だけです。
- ダッシュボード画面には同時に2人までアクセスできます。

業務コンテンツの操作ログをダッシュボード機能で解析する方法については、マニュアル「ナビゲーションプラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

ここでは、ダッシュボード機能の運用に必要な次の内容について説明します。

- ダッシュボード機能を利用するための設定
- ダッシュボード機能を利用するときのメモリ容量の見積もり
- ダッシュボード機能を利用するユーザの管理
- ダッシュボードサーバの起動および停止
- 操作ログのアップロード
- 操作ログの解析情報の定期的な削除
- ダッシュボードサーバのストレージサービスに必要なメモリ容量の変更

(1) ダッシュボード機能を利用するための設定

ダッシュボード機能を利用する場合は、ナビゲーションプラットフォームのユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) でダッシュボード機能に関連するプロパティに必要な値を指定します。関連するプロパティを次に示します。

- 操作ログのダッシュボード表示リンクの表示条件 (ucnp.base.server.dashboard.link.display)
- 操作ログの出力項目の設定 (ucnp.base.server.operationlog.user.analyze.info)

プロパティの指定値については、「[8.5 ユーザプロパティファイル \(ucnp_user.properties\) の設定](#)」を参照してください。

また、操作ログをダッシュボード機能で解析する時刻は、サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) の次に示すプロパティで変更できます。

- 操作ログをダッシュボード機能で解析する時刻 (NPDASHBOARDANLTIME)

プロパティの詳細については、「8.4 サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) の設定」を参照してください。

(2) ダッシュボード機能を利用するときのメモリ容量の見積もり

ダッシュボード機能を利用するときに必要なメモリ容量は、次の計算式で見積もります。

見積もり式

ダッシュボードサーバのストレージサービスに必要なメモリ容量^{※1}
+ダッシュボードサーバの Web サーバに必要なメモリ容量^{※2}
=ダッシュボード機能全体に必要なメモリ容量 (単位: GB)

注※1

ダッシュボードサーバのストレージサービスに必要なメモリ容量は、解析対象の操作ログの容量の1.5倍です。解析対象の操作ログの容量が増加した場合、ストレージサービスに必要なメモリ容量を変更してください。メモリ容量の変更の手順については、「(7) ダッシュボードサーバのストレージサービスに必要なメモリ容量の変更」を参照してください。

注※2

ダッシュボードサーバの Web サーバに必要なメモリ容量は、最大で 512MB です。

(3) ダッシュボード機能を利用するユーザの管理

次に示す内容について説明します。

- ユーザの追加および変更
- ユーザの削除

(a) ユーザの追加および変更

ユーザの追加および変更は、コマンドプロンプトを [管理者として実行] で開いて、次に示すコマンドを実行します。ユーザが存在しない場合は新規追加になり、存在する場合は変更になります。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpd¥bin¥htpasswd -b ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf¥kibana.htpasswd 追加または変更するユーザ名 パスワード
```

(b) ユーザの削除

ユーザの削除は、コマンドプロンプトを [管理者として実行] で開いて、次に示すコマンドを実行します。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpd¥bin¥htpasswd -D ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf¥kibana.htpasswd 削除するユーザ名
```


(c) ユーザの管理に関する注意事項

- ユーザ名に指定できる文字列は、半角英数字で、最大長は 31 文字です。
- パスワードの最大長は 32 文字です。
- httpasswd コマンド実行時は、パスワードファイルの作成先と同じディレクトリに、「パスワードファイル名.プロセス ID」という名称で、作業ファイルが一時的に作成されます。この作業ファイルは、httpasswd コマンドの終了時に自動的に削除されます。ただし、実行中にキャンセルをした場合は、作業ファイルが削除されないことがあります。作業ファイルが残っている場合は、手動で削除してください。

(4) ダッシュボードサーバの起動および停止

ダッシュボード機能を利用するためには、ナビゲーション プラットフォームとは別にダッシュボードサーバを起動する必要があります。

ダッシュボードサーバの起動方法および停止方法について説明します。

(a) ダッシュボードサーバの起動方法

ダッシュボードサーバの起動には、次の 2 つの方法があります。

- Windows サービスを利用する
- コマンドを使用する

●Windows サービスを利用してダッシュボードサーバを起動する

ダッシュボードサーバと連動する Windows サービスとして、次のサービスがあります。() 内はサービスの表示名です。

- NavigationPlatformDashboardStorageService (Navigation Platform Dashboard Storage Service)
- NavigationPlatformDashboardWebService (Navigation Platform Dashboard Web Service)

この 2 つのサービスのスタートアップの種類を「自動」に設定すると、OS 起動時にダッシュボードサーバも連動して起動します。

●コマンドを実行してダッシュボードサーバを起動する

ダッシュボードサーバを起動するには、コマンドプロンプトを [管理者として実行] で開いて、次に示すコマンドを実行します。

```
net start "Navigation Platform Dashboard Storage Service"  
net start "Navigation Platform Dashboard Web Service"
```

(b) ダッシュボードサーバの停止方法

ダッシュボードサーバの停止は、コマンドを使用します。

ダッシュボードサーバを停止するには、コマンドプロンプトを [管理者として実行] で開いて、次に示すコマンドを実行します。

```
net stop "Navigation Platform Dashboard Web Service"  
net stop "Navigation Platform Dashboard Storage Service"
```

(c) ダッシュボードサーバの起動時および停止時の注意事項

- ダッシュボード機能を利用するには、ナビゲーション プラットフォームが起動している必要があります。そのため、ダッシュボードサーバを起動した後にナビゲーション プラットフォームも起動する必要があります。
- ダッシュボードサーバを停止しないで OS をシャットダウンした場合の動作は保証されません。OS をシャットダウンする前にダッシュボードサーバを停止してください。

(5) 操作ログのアップロード

操作ログは、npuploadoplog（操作ログのアップロード）コマンドを使ってアップロードします。操作ログのアップロードは、npuploadoplog（操作ログのアップロード）コマンドをタスクスケジューラなどで実行してください。

アップロードした操作ログは、ダッシュボードサーバの操作ログ閲覧画面からダウンロードできます。

使用するコマンドおよびその使用方法の詳細については、「9. コマンド」を参照してください。

操作ログ閲覧画面については、「ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

ポイント

操作ログのアップロードは、マシンリソースを使用する次のような処理と時刻が重ならないように設定することを推奨します。

- レポート画面の操作ログの解析処理
- ダッシュボード機能の操作ログの解析処理
- ダッシュボードサーバに蓄積した古い解析情報の削除

(6) 操作ログの解析情報の定期的な削除

操作ログの解析情報は自動的に削除されません。そのため、解析情報が長期間蓄積された場合やディスク容量を圧迫している場合に、古い解析情報を削除する必要があります。

(a) 解析情報を削除する契機

ダッシュボード機能では、次に示すフォルダ内にある6か月以内の操作ログを解析し、日々ダッシュボードサーバに登録します。

- ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥operationlogs

ダッシュボードサーバに登録された解析情報は、自動では削除されません。そのため、古くなった解析情報を削除するコマンドを、タスクスケジューラなどで日々実行する必要があります。

ポイント

解析情報を削除するコマンドは、ダッシュボード機能の操作ログの解析が終わった後に実行してください。ダッシュボード機能の操作ログの解析は1GBあたり1時間程度掛かるため、その後に実行されるようタイミングを調整する必要があります。また、タスクスケジューラで解析情報を削除するコマンドを指定する際には、実行確認で停止させないようにするため、`-y` オプションを必ず指定してください。

(b) 古い解析情報の削除方法

古くなった解析情報は、次の手順で削除してください。ここでは、6か月前より古い解析情報を削除する手順を示します。

1. ダッシュボードサーバを起動する。
2. コマンドプロンプトを [管理者として実行] で開いて、`npddashboardremoveolddata` コマンド (解析情報削除) を実行する。

コマンドのパス

```
ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npddashboardremoveolddata
```

使用するコマンドおよびその使用方法の詳細については、「9. コマンド」を参照してください。

(7) ダッシュボードサーバのストレージサービスで必要なメモリ容量の変更

解析情報のサイズが大きくなるほど、ダッシュボードサーバのストレージサービスで使用するメモリ量が増加します。メモリ量の増加に伴い、ストレージサービスで必要なメモリ容量を変更する場合は、次の手順で変更してください。

1. ダッシュボードサーバを停止する。
2. コマンドプロンプトを [管理者として実行] で開いて、`npddashboardsetstoragememory` コマンド (ストレージメモリ設定変更) を実行する。

コマンドのパス

```
ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npddashboardsetstoragememory  
最小サイズ[MB] 最大サイズ[MB]
```

使用するコマンドおよびその使用方法の詳細については、「9. コマンド」を参照してください。

3. ダッシュボードサーバを起動する。

5.5 監査ログとは

監査ログとは、セキュリティ対策のために「いつ」「だれが」「何に対して」「どのような操作をしたか」を記録し、出力するログ情報です。監査ログは操作ログとは異なり、操作結果の正常／異常、あるいは機能実行の成功／失敗などのメッセージも重要となります。

監査ログは JP1/Audit Management - Manager で参照できます。詳細はマニュアル「JP1/Audit Management - Manager 構築・運用ガイド」を参照してください。なお、JP1/Audit Management - Manager は、日本語環境でだけ使用できます。

5.5.1 監査ログを取得するための設定

監査ログを取得するには、ナビゲーションプラットフォームのユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) で監査ログに関連するプロパティに必要な値を指定します。関連するプロパティを次に示します。

- 監査ログの使用有無 (ucnp.base.client.auditlog.enable)
- 監査ログの出力先 (ucnp.base.server.auditlog.path)
- 監査ログの最大面数 (ucnp.base.server.auditlog.backup.number)
- 監査ログのファイルサイズの上限值 (ucnp.base.server.auditlog.size)

プロパティの指定値については、「[8.5 ユーザプロパティファイル \(ucnp_user.properties\) の設定](#)」を参照してください。

注意事項

- 監査ログは、業務フローの最後にあるターミナルノードに遷移したときだけ、業務コンテンツの終了を示すログが出力されます。なお、操作ログの場合、最後がプロセスノードでも、業務コンテンツの終了を示すログが出力されます。
正確な監査ログを取得するために、監査ログの対象とする業務コンテンツは、業務フローの終端にターミナルノードを配置して作成することを推奨します。
- ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) ucnp.base.client.directjump.enable プロパティに「all」が設定されていると、業務フローが完了した状態からプロセスノードに遷移できます。このため、「業務コンテンツの終了」の監査ログが出力されたあとに、「ノード遷移」の監査ログが出力されます。また、業務フローの完了時には遷移元ノード ID と遷移元ノード名称は空文字が出力されます。監査ログを使用して業務実行を監査する場合は、ucnp.base.client.directjump.enable プロパティには「all」以外を設定することを推奨します。

5.5.2 監査ログに出力される項目

監査ログには次の項目が出力されます。

項番	出力項目名	出力項目の意味	説明
1	—	共通仕様識別子	共通仕様の識別子「CALFHM」が固定で出力されます。
2	—	共通仕様リビジョン番号	共通仕様のリビジョン番号「1.0」が固定で出力されます。
3	seqnum	通番	監査ログの通番が出力されます。
4	msgid	メッセージ ID	<p>監査ログのメッセージ ID が、次の形式で出力されます。</p> <p>KDCZnnnnn-y</p> <ul style="list-style-type: none"> • KDCZ メッセージのプリフィックス • nnnnn コンポーネントごとのメッセージの通番 • y 重要度。重要度には、E（エラー情報）、W（警告情報）、I（通知情報）があります。
5	date	発生日時	<p>メッセージが出力された日時が、次の形式で出力されます。</p> <p>YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sssTZD</p> <ul style="list-style-type: none"> • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • T：日付と時間の区切り • hh：時 • mm：分 • ss：秒 • sss：マイクロ秒 • TZD：タイムゾーン <p>タイムゾーンは、UTC からの時差で表示されます。表示形式を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • +hh:mm：UTC から hh 時間 mm 分進んでいる • -hh:mm：UTC から hh 時間 mm 分遅れている • Z：UTC と同じ <p>(例) 日本の場合：+09:00</p> <p>なお、タイムゾーンはナビゲーション プラットフォームのサーバの設定に準じます。</p>
6	progid	プログラム名	<p>監査事象が発生したプログラムの名称が出力されます。</p> <p>「HNP」が固定で出力されます。</p>
7	compid	コンポーネント名	<p>監査事象が発生したコンポーネント名が出力されます。</p> <p>「Server」が固定で出力されます。</p>
8	pid	プロセス ID	監査事象が発生したプロセス ID が出力されます。
9	ocp:host	発生場所	<p>監査事象が発生したホストのホスト識別情報（ホスト名）が出力されます。</p> <p>発生場所が特定できない場合は、「localhost」が出力されます。</p>

項番	出力項目名	出力項目の意味	説明
10	ctgry	監査事象種別	監査事象の種別が出力されます。監査事象の種別には、次のどちらかが出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Authentication：識別・認証 • ContentAccess：重要情報アクセス
11	result	監査事象結果	監査事象の結果が出力されます。監査事象の結果には、次のどちらかが出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Success：成功 • Failure：失敗
12	subj:uid	サブジェクト情報	監査事象の発生元が出力されます。次の値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ノード遷移を実施した利用者のユーザ ID • 認証方法に JP1/Base によるユーザ認証を選択している場合 JP1/Base に登録されている JP1 ユーザの ID ログインに失敗した場合は[NULL]が出力されます。
13	op	動作情報	監査事象を発生させた操作の種別が出力されます。次のどれかが出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 監査事象種別が「Authentication」の場合 Login：ログイン Logout：ログアウト • 監査事象種別が「ContentAccess」の場合 Refer：参照
14	logtype	ログ種別情報	ログの種類が出力されます。 「BasicLog」が固定で出力されます
15	msg	自由記述	監査事象の内容を示す任意のメッセージが出力されます。 なお、メッセージは次の形式で出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • メッセージの中のダブル引用符 (") は、ダブル引用符 2 文字 (") に置き換えられます。 • メッセージの先頭と末尾にダブル引用符 (") を追加されます。 情報が取得できない場合は[NULL]が出力されます。

(凡例) - : 該当しない

5.5.3 監査ログが出力されるタイミング

監査ログは、次の操作に対して出力されます。

- ログインの成功
- ログインの失敗
- ログアウトの成功
- ログアウトの失敗

- 業務コンテンツの開始
- 業務コンテンツの終了
- 業務コンテンツのノード遷移
- 業務コンテンツの一時保存
- 業務コンテンツの再開

5.5.4 監査ログの出力形式と出力例

監査ログの出力形式を次に示します。

```
CALFHM 1.0, 出力項目1=値1, 出力項目2=値2, . . . , 出力項目n=値n
```

監査ログの出力例を次に示します。

```
CALFHM 1.0, seqnum=1, msgid=KDCZ30002-I, date=2013-06-06T13:40:58.037+09:00,
progid=HNP, compid=Server, pid=4028, ocp:host=hostA, ctgry=Authentication,
result=Success, subj:uid=Administrator, op=Login, logtype=BasicLog, msg="ログインに成功
しました。"
```

5.5.5 監査ログの出力先、面数、サイズ

監査ログの出力先、面数、サイズについて説明します。

出力先

デフォルトの出力先は次のとおりです。

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥¥auditlog¥¥ucnp_audit[/N].log (/N]は
ファイル面数)

面数

監査ログは、シーケンシャルファイルです。ファイル面数は1から始まり、監査ログファイルが一定の容量に達すると、ファイル面数+1のファイルを新たに作成して、そこに監査ログが出力されます。もし同じ名前のファイルがすでに存在する場合は、削除して作成されます。なお、ファイル面数が最大面数（デフォルトの面数は16です）を超えると、再びファイル面数を1として、処理を行います。

例を次に示します。

「ucnp_audit1.log」が一定の容量に達すると、「ucnp_audit2.log」が作成され、そこに監査ログが出力されます。このようにして、「ucnp_audit16.log」まで作成され、「ucnp_audit16.log」が一定の容量になると、次は、「ucnp_audit1.log」が削除されます。そして、新たに「ucnp_audit1.log」が作成されて、そこに監査ログが出力されます。

ファイルサイズ

デフォルトのファイルサイズは10,240KBです。

なお、これらの項目はユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) で変更できます。

設定を変更する場合のプロパティ

- 監査ログの出力先 (ucnp.base.server.auditlog.path)
- 監査ログの最大面数 (ucnp.base.server.auditlog.backup.number)
- 監査ログのファイルサイズの上限值 (ucnp.base.server.auditlog.size)

プロパティの指定値の詳細については、「[8.5 ユーザプロパティファイル \(ucnp_user.properties\) の設定](#)」を参照してください。

5.5.6 監査ログの見積もり

監査ログの容量を見積もります。見積もり式を次に示します。(1)と(2)の合計が、監査ログが使用する容量です。中断再開プラグインによる業務コンテンツの一時保存、および業務コンテンツの再開を監査ログに出力する場合は(3)の値も合計してください。

(1) ログイン、ログアウトの操作で使用する監査ログの容量 (1 日分)

{ログイン操作の監査ログ量 = $A \times B \times C \times (250 + D)$ } + {ログアウト操作の監査ログ量 = $A \times E \times C \times (255 + D)$ } (単位: バイト)

(凡例)

- A: 利用者数
- B: ログイン回数
- C: 実働時間 (単位: 時間)
- D: ユーザ ID のバイト数
- E: ログアウト回数

(2) 業務コンテンツの操作で使用する監査ログの容量 (1 日分)

{業務コンテンツの開始/終了の監査ログ量 = $A \times 2 \times B \times C \times (465 + D)$ } + {業務コンテンツのノード遷移の監査ログ量 = $A \times E \times B \times C \times (465 + (F \times 3) + (G \times 3))$ } (単位: バイト)

(凡例)

- A: 利用者数
- B: 実働時間 (単位: 時間)
- C: 1 時間の業務実行回数
- D: 業務コンテンツ名のバイト数
- E: プロセスノードの遷移回数
- F: プロセスノード名のバイト数
- G: プロセスノード ID のバイト数

(3) 業務コンテンツの一時保存、および業務コンテンツの再開で使用する監査ログの容量 (1 日分)

455 + A + B (単位：バイト)

(凡例)

A：ユーザ ID のバイト数

B：業務コンテンツ名のバイト数

(4) 監査ログの容量の見積もり例

次に示す見積もり条件を基に、監査ログの容量を見積もる例を示します。

項番	算出に必要な情報	この例での設定値
1	利用者数 実行環境の 1 日の利用者数です。	10
2	ユーザ ID のバイト数	10
3	ログイン回数 1 人の利用者がログインする回数です。	1
4	ログアウト回数 1 人の利用者がログアウトする回数です。	1
5	1 時間の業務実行回数 1 人の利用者が 1 時間に業務コンテンツを実施する回数です。	6 (10 分ごとに 1 業務)
6	業務コンテンツ名のバイト数	30
7	プロセスノードの遷移回数 1 業務コンテンツで遷移するプロセスノード数です。	10
8	プロセスノード名のバイト数	20
9	プロセスノードの ID のバイト数	10
10	実働時間 1 日の実働時間です。	8

ログイン操作、およびログアウト操作に関する監査ログの容量 (1 日分) の見積もり例

$$\{10 \times 1 \times 8 \times (250 + 10)\} + \{10 \times 1 \times 8 \times (255 + 10)\} = 42,000 \text{ バイト}$$

業務コンテンツの操作に関する監査ログの容量 (1 日分) の見積もり例

$$\{10 \times 2 \times 8 \times 6 \times (380 + 30)\} + \{10 \times 10 \times 8 \times 6 \times (380 + (20 \times 3) + (10 \times 3))\} = 2,649,600 \text{ バイト}$$

監査ログが使用する容量の見積もり例

$$42,000 + 2,649,600 = 2,691,600 \text{ バイト}$$

5.5.7 監査ログに出力されるメッセージ一覧

監査ログに出力されるメッセージの一覧を次に示します。

メッセージ ID	メッセージ
KDCZ30001-I	ログインに成功しました。
KDCZ30002-E	ログインに失敗しました。
KDCZ30003-I	ログアウトに成功しました。
KDCZ30004-W	ログアウトに失敗しました。
KDCZ30005-I	業務コンテンツを開始しました。(業務コンテンツ名=業務コンテンツ名, 業務コンテンツ ID=業務コンテンツ ID)
KDCZ30006-I	業務コンテンツを終了しました。(業務コンテンツ名=業務コンテンツ名, 業務コンテンツ ID=業務コンテンツ ID)
KDCZ30007-I ^{*1}	ノード遷移しました。(遷移元ノード名=遷移元ノード名, 遷移元ノード ID=遷移元ノード ID, 指定した遷移先ノード名=指定した遷移先ノード名, 指定した遷移先ノード ID=指定した遷移先ノード ID, 実際の遷移先ノード名=実際の遷移先ノード名, 実際の遷移先ノード ID=実際の遷移先ノード ID)
KDCZ30008-I	業務コンテンツの中断に成功しました。(業務コンテンツ名=業務コンテンツ名, 業務コンテンツ ID=業務コンテンツ ID, 業務コンテンツバージョン ID=業務コンテンツバージョン ID, 中断 ID=中断 ID ^{*2})
KDCZ30009-E	業務コンテンツの中断に失敗しました。(業務コンテンツ名=業務コンテンツ名, 業務コンテンツ ID=業務コンテンツ ID, 業務コンテンツバージョン ID=業務コンテンツバージョン ID)
KDCZ30010-I	業務コンテンツの再開に成功しました。(業務コンテンツ名=業務コンテンツ名, 業務コンテンツ ID=業務コンテンツ ID, 業務コンテンツバージョン ID=業務コンテンツバージョン ID, 中断 ID=中断 ID ^{*2*3})
KDCZ30011-E	業務コンテンツの再開に失敗しました。(業務コンテンツ名=業務コンテンツ名, 業務コンテンツ ID=業務コンテンツ ID, 業務コンテンツバージョン ID=業務コンテンツバージョン ID)

注※1

入出力プラグインでエラーが発生した場合、または実行確認ダイアログで [キャンセル] ボタンをクリックした場合、メッセージに表示される遷移先ノードの情報と、実際に遷移したノードは異なります。

注※2

業務の中断時に割り当てられる ID です。中断 ID はサーバ側で取得しています。

注※3

旧バージョンの中断情報の場合は、中断 ID に [NULL] が出力されることがあります。

5.6 中断情報の運用

中断再開プラグインを使用する場合、利用者が業務実行画面で入力した情報が中断情報として保存されます。中断情報は、必要に応じて次の運用を実施してください。

- 中断情報の容量再見積もり
- 中断情報の削除

システム管理者や業務コンテンツを作成するユーザが実施した作業内容に応じて、対応が必要になります。中断情報の運用が必要な作業と、そのときに必要な対応について、次に示します。

表 5-4 中断情報の運用が必要な作業と対応

項番	作業の分類	作業内容	必要な対応についての参照先
1	業務コンテンツの作成	業務コンテンツの追加	5.6.1 中断情報の再見積もり
2		業務コンテンツの更新	不要です。
3		業務コンテンツの削除	不要です。
4	ナビゲーション プラットフォームの運用	インポートによる業務コンテンツの追加	5.6.1 中断情報の再見積もり
5		インポートによる業務コンテンツの更新	5.6.2(1) 業務コンテンツに関連する中断情報の削除
6		インポートによる業務コンテンツの削除	5.6.2(1) 業務コンテンツに関連する中断情報の削除
7		ユーザの追加	5.6.1 中断情報の再見積もり
8		ユーザの削除	5.6.2(2) ユーザに関連する中断情報の削除
9		業務コンテンツの運用	アクセス権グループの設定
10	アクセス権グループの削除		5.6.2(3) 業務コンテンツおよびユーザに関連する中断情報の削除

5.6.1 中断情報の再見積もり

見積もった容量を再計算する必要があります。中断情報を保存する外部記憶装置に確保した容量が不足する場合、不要な中断情報を削除するか、または保存する容量を拡張する必要があります。

中断情報の容量の見積もりについては、「[3.4.3 中断再開プラグインを使用する場合の容量の見積もり](#)」を参照してください。

5.6.2 中断情報の削除

中断情報の削除について説明します。

(1) 業務コンテンツに関連する中断情報の削除

インポートによって更新、または削除された業務コンテンツに関連する中断情報を削除する必要があります。インポート実行時に「-l」オプションを指定し、結果種別が「modified」、または「deleted」で出力された業務コンテンツの中断情報を削除します。

中断再開プラグインでは、「3.4.3(1) 中断情報の管理単位」に示したタイミング以外で削除処理を呼び出しません。したがって、システム管理者が中断情報を削除するためのコマンドは、中断再開プラグインを開発したユーザ、またはシステム管理者が自分で作成する必要があります。

(2) ユーザに関連する中断情報の削除

削除したユーザに関連する中断情報を削除する必要があります。

(3) 業務コンテンツおよびユーザに関連する中断情報の削除

アクセス権を削除した業務コンテンツに関連する、アクセス権を削除されたユーザの中断情報を削除する必要があります。

5.7 セットアップ後にホスト名を変更する

ここでは、セットアップ後にサーバマシンのホスト名を変更した場合に必要な、設定変更の手順を説明します。

1. npstop コマンド (停止) を実行, または Navigation Platform Start Service サービスを停止して, ナビゲーション プラットフォームを停止します。

2. Web サーバの設定ファイルの「ServerName」の値を, 変更後のホスト名に変更します。

設定ファイルの格納場所

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥conf¥httpsd.conf

3. npstart コマンド (起動) を実行, または Navigation Platform Start Service サービスを開始して, ナビゲーション プラットフォームを起動します。

5.8 IP アドレスの変更手順

ナビゲーション プラットフォームのセットアップ完了後に IP アドレスを変更する手順について説明します。

1. npstop コマンド（停止）を実行，または Navigation Platform Start Service サービスを停止して，ナビゲーション プラットフォームを停止します。
2. IP アドレスを変更します。
3. npstart コマンド（起動）を実行，または Navigation Platform Start Service サービスを開始します。

5.9 Active Directory の接続パスワードを変更した場合の設定変更の流れ

ディレクトリサーバ接続用ユーザのパスワードを変更した場合、Cosminexus および uCosminexus Portal Framework の設定を再設定する必要があります。この節では再設定の手順について説明します。なお、uCosminexus Portal Framework の設定を変更する方法は二つあります。英語の環境で設定する場合は、「5.9.3 uCosminexus Portal Framework 設定の変更手順（設定ファイルで設定する場合）」の手順を実施してください。

5.9.1 統合ユーザ管理のコンフィグレーションファイル (ua.conf) の変更手順

統合ユーザ管理のコンフィグレーションファイル (ua.conf) を設定します。ua.conf ファイルの格納ディレクトリを次に示します。

格納ディレクトリ

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥manager¥config¥ua.conf

1. java.naming.security.credentials.0 に変更したディレクトリサーバ接続用ユーザのパスワードを指定します。

例：java.naming.security.credentials.0=ディレクトリサーバ接続用ユーザのパスワードに指定した値

2. ナビゲーション プラットフォームを再起動して、変更した設定をシステムに反映します。

5.9.2 uCosminexus Portal Framework 設定の変更手順 (Portal Manager で設定する場合)

(1) Portal Manager の起動

1. Windows のスタートメニューから [プログラム] - [Navigation Platform - Server] - [uCosminexus Portal Framework] - [Portal Manager 起動] をクリックします。

Portal Manager が起動します。

2. Portal Manager にアクセスします。

Web ブラウザ上で次の URL を指定します。

http://ホスト名:ポート番号/PortalSetup/admin/portalsetup/index.jsp

ホスト名

Portal Manager がインストールされているマシンのホスト名または IP アドレスです。ナビゲーション プラットフォームをセットアップしたマシンから接続する際のホスト名は、このマニュアルの手順どおりにセットアップした環境では「127.0.0.1」となります。

ポート番号

Portal Manager が使用するポート番号です。ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.portal.manager.http.port プロパティに指定した値になります。デフォルトの場合は「24710」です。

注意事項

Portal Manager へのアクセスが拒否された場合

「下に表示されている Web サイトのコンテンツは、Internet Explorer セキュリティ強化の構成によってブロックされています。」とメッセージが表示されアクセスを拒否された場合は、次のように対処すると Portal Manager が利用できるようになります。

1. 次のメッセージの横の [追加] ボタンをクリックします。

「Web サイトを信頼している場合、信頼済みサイトのゾーンに追加すると、低いレベルのセキュリティでサイトを実行できます。この Web サイトがローカルイントラネットにある場合、ヘルプの説明を参照して、ローカルイントラネットのゾーンにサイトを追加してください。」

2. 次のメッセージの下枠に「http://127.0.0.1」と入力し、横にある [追加] ボタンをクリックします。

「この Web サイトをゾーンに追加する」

(2) Portal Manager の設定変更

1. Portal Manager のメニューから [ポータルプロジェクトの選択] を選択します。

メイン部に、[ポータルプロジェクトの選択] 画面が表示されます。

2. Portal Manager のメニューから [リポジトリの設定] - [接続情報] - [修正] を選択します。

[接続情報の選択] 画面が表示されます。

3. [接続情報の選択] 画面で次の項目を入力します。

表 5-5 [接続情報の選択] 画面の項目名と設定内容

項目名	設定内容
接続先の種類	接続先のリポジトリの種類を、ドロップダウンリストから選択します。 指定例：LDAP
接続先名称	リポジトリ情報を格納するディレクトリサーバの接続先名称を選択します。 指定例：LDAP-1

4. [検索] ボタンをクリックします。

[接続情報の設定] 画面が表示されます。

5. [接続情報の設定] 画面で次の項目を入力します。

表 5-6 [接続情報の設定] 画面の項目名と設定内容

項目名	設定内容
接続先 URL	ldap://ディレクトリサーバのアドレス:ディレクトリサーバのポート番号を指定します。 指定例：ldap://localhost:389
接続先ユーザー名	ディレクトリサーバ接続用ユーザの DN を指定します。 指定例：CN=user1,CN=Users,DC=hitachi,DC=jp
接続先パスワード	ディレクトリサーバ接続用ユーザのパスワードを指定します。 指定例：UCNPPASS

6. [登録] ボタンをクリックします。

接続情報が登録されます。

7. ナビゲーション プラットフォームを再起動して、変更した設定をシステムに反映します。

5.9.3 uCosminexus Portal Framework 設定の変更手順（設定ファイルで設定する場合）

1. 次の設定ファイルの太字部分を編集してください。

設定ファイルのパス

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPF¥conf¥Repository.xml

編集箇所

```
<connection-info name="LDAP-1" type="ldap" ldap="Active Directory">  
  <url>ldap://localhost:389</url>  
  <username>cn=user1, cn=Users, dc=hitachi, dc=jp</username>  
  <password scramble="false">password</password>  
  <waittime>0</waittime>  
</connection-info>
```

2. <password>タグの scramble 属性の値に「false」を指定してください。属性が存在しない場合は、追加してください。

3. <password>タグの値

ディレクトリサーバ接続用ユーザのパスワードで置き換えてください。また、次の表のとおり、サニタイズを実施してください。

表 5-7 サニタイズ一覧

項番	変更前	変更後
1	&	&
2	<	<
3	>	>
4	"	"
5	'	'
6	¥n	
7	¥r	
8	¥r¥n	

¥r¥n を変換する場合は、まず¥r¥n を変換した後、¥r または¥n を変更してください。

5.10 システム管理者の変更手順

ナビゲーション プラットフォームの運用開始後に、ナビゲーション プラットフォームのシステム管理者を追加、削除、または変更する手順は、利用しているユーザ認証の種類によって異なります。ディレクトリサーバによるユーザ認証の場合の変更手順と、JP1/Base によるユーザ認証の場合の変更手順を説明します。

ユーザ認証なし、またはディレクトリサーバによるユーザ認証の場合

次の手順を実施してください。

1. ナビゲーション プラットフォームを停止します。
2. ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) を編集します。
ucnp.base.server.system.admin.userids プロパティの指定値を変更します。
3. ナビゲーション プラットフォームを起動します。

JP1/Base によるユーザ認証の場合

次の手順を実施してください。

1. システム管理者に追加したい JP1 ユーザに、システム管理者用の JP1 資源グループと JP1 権限レベル HNP_Admin を設定します。
システム管理者用の JP1 資源グループは、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.group プロパティの指定値で確認できます。
2. すでにシステム管理者として登録されているユーザを削除したい場合は、該当する JP1 ユーザの JP1 資源グループまたは JP1 権限レベルを変更します。
3. 設定を変更したユーザに、ナビゲーション プラットフォームに再ログインするように通知します。
対象のユーザがナビゲーション プラットフォームにログイン中に設定を変更した場合、いったんログアウトして再ログインしないと、設定変更が有効になりません。

5.11 業務コンテンツの上限数を増やす手順

デフォルト値でセットアップしている場合、ナビゲーションプラットフォームで作成できる業務コンテンツは最大 500 個です。500 個以上の業務コンテンツを作成する必要がある場合は、作成できる業務コンテンツの上限数を、次の手順で変更してください。

1. ハードディスクの空き容量を確認し、業務コンテンツの上限数を検討します。

上限数は 500 個単位で増やせます。500 個につき約 10GB の空き容量が必要です。

2. `npextendrdarea` コマンドを実行して、データベースを拡張します。

3. ユーザプロパティファイル (`ucnp_user.properties`) の `ucnp.base.client.menu.maxnum` プロパティに変更後の上限数を指定します。

4. ナビゲーションプラットフォームを再起動します。

`npstop` コマンド (停止) を実行したあと、`npstart` コマンド (起動) を実行してください。

5.12 プロパティファイルを編集する手順

ナビゲーション プラットフォームのプロパティファイルを編集する手順を説明します。なお、編集してよいプロパティファイルや編集時の注意などの詳細については、「[8. プロパティ](#)」を参照してください。

1. エディタを [管理者として実行] で起動して、プロパティファイルを開きます。
サンプルファイルなどをコピーする場合も、管理者としてコピーする必要があります。
2. プロパティファイルを編集して、保存します。
3. ナビゲーション プラットフォームを再起動します。
npstop コマンド (停止) を実行したあと、npstart コマンド (起動) を実行してください。

5.13 ほかの JP1 製品と連携するための設定

JP1 連携プラグインを使ってほかの JP1 製品と連携するためには、次の準備が必要です。

- JP1/Base によるユーザ認証を利用したシステム構成にする
- 連携相手である JP1 製品の JP1/Base と同じユーザ認証圏にする
- JP1 連携プラグインを使った業務コンテンツを操作する JP1 ユーザに対して、連携相手の JP1 製品を操作するための JP1 権限レベルを設定する
ほかの JP1 製品を操作するための JP1 権限レベルについては、各製品のマニュアルを参照してください。
- 連携相手である JP1 製品で環境変数や JP1/Base などの設定をする
- ナビゲーション プラットフォームのユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) で JP1 連携プラグインに関連するプロパティに必要な値を指定する

参考

連携できる JP1 製品を次に示します。

- JP1/IM 10-10 以降
- JP1/IM-SS 10-10 以降
- JP1/AO 10-52 以降

5.13.1 JP1/IM の設定条件

JP1 イベント対処状況変更プラグインを使用するために、JP1/IM に必要な設定条件を次に示します。

- JP1/Base 10-50 以降を使用する
JP1/IM-M がセットアップされているマシンに JP1/Base 10-50 以降をセットアップする必要があります。
- ユーザ認証圏を合わせる
JP1/IM のマシンにセットアップした JP1/Base のユーザ認証圏は、ナビゲーション プラットフォームと同じにしてください。
- JP1/IM がセットアップされているマシンのシステム環境変数 PATH に jcochstat コマンドの格納ディレクトリのパスを設定する
jcochstat コマンドについては、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス」を参照してください。
- JP1/IM がセットアップされているマシンの JP1/Base で、JP1 ユーザと OS ユーザのマッピングをする

JP1 連携プラグインを使った業務コンテンツを操作する JP1 ユーザすべてに、Windows の管理者権限のある OS アカウントをマッピングする必要があります。

なお、JP1/IM とナビゲーション プラットフォームのホストの OS が異なっても問題ありません。

- ナビゲーション プラットフォームの参照権限を設定する

JP1/IM のユーザのうち、JP1/IM の JP1 イベントを操作する権限を持つユーザに対してだけ、ナビゲーション プラットフォームを参照できる操作権限 (JP1 権限レベル) を設定してください。JP1/IM の操作権限については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド」を参照してください。

JP1 イベント対処状況変更プラグインを使用する前に、これらの設定が完了しているかどうか確認してください。

5.13.2 JP1/AO の設定条件

JP1/AO サービス実行プラグインを使用するために、JP1/AO に必要な設定条件を次に示します。

- JP1/Base によるユーザ認証を使用する

JP1/AO がセットアップされているマシンに JP1/Base 10-50 以降をセットアップする必要があります。また、JP1/Base のユーザ認証圏は、ナビゲーション プラットフォームと同じにしてください。

JP1/AO サービス実行プラグインを使用する前に、JP1/AO のシステム管理者に問い合わせ、これらの設定が完了しているかどうか確認してください。

5.13.3 JP1 連携プラグインを使用するためのユーザプロパティファイルの設定

JP1 連携プラグインを使用する場合は、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) を確認し、次に示すプロパティの指定値を必要に応じて変更してください。

- ucnp.base.client.jp1imss.hostname
- ucnp.base.client.jp1imss.portnum
- ucnp.base.client.jp1ao.hostname
- ucnp.base.client.jp1ao.portnum
- ucnp.base.client.jp1ao.https.enable
- ucnp.base.client.jp1ev.association.enable
- ucnp.base.client.editor.jp1plugin.toolpalette.display

各プロパティの指定値については、「[8.5.3 ユーザプロパティファイルのプロパティ詳細](#)」を参照してください。

5.13.4 JP1 イベント情報と業務コンテンツを関連づける

JP1 イベント情報に対応した業務コンテンツを指定して直接表示する場合は、JP1 イベント情報と業務コンテンツを関連づけておく必要があります。手順を次に示します。

1. ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.client.jp1ev.association.enable プロパティの指定値が true になっていることを確認します。
2. JP1 イベント関連づけファイル (ucnp_jp1event_mapping.txt) を作成して、次のディレクトリに格納します。

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf

JP1 イベント関連づけファイルの内容については、「5.13.5 JP1 イベント情報関連づけファイルの項目と形式」を参照してください。

参考

JP1 イベント関連づけファイルによる設定は、JP1/IM または JP1/IM-SS から業務コンテンツを呼び出す場合だけ有効です。

3. ナビゲーション プラットフォームを再起動して、JP1 イベント関連づけファイルを読み込みます。
ナビゲーション プラットフォームの起動と停止の手順については、「5.1 システムの起動と停止」を参照してください。

5.13.5 JP1 イベント情報関連づけファイルの項目と形式

JP1 イベント情報関連づけファイル (ucnp_jp1event_mapping.txt) に記載する項目と、記載するときの形式を説明します。

(1) JP1 イベント情報関連づけファイルの項目

JP1 イベント情報関連づけファイルに記載する項目を次に示します。

- イベント ID
- 発行元イベントサーバ名 (登録ホスト名)
- プロダクト名
- メッセージ
- 業務コンテンツ ID

業務コンテンツ ID 以外の項目の詳細は、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド」のイベント一覧の表示についての説明、または JP1 イベント出力元の製品の各マニュアルを参照してください。

(2) JP1 イベント情報関連づけファイルの形式

JP1 イベント情報関連づけファイルは次の形式で記載します。

イベント ID (タブ) 発行元イベントサーバ名 (タブ) プロダクト名 (タブ) メッセージ (タブ) 業務コンテンツ ID (改行)

(凡例)

(タブ) : タブ

(改行) : 改行コード

1 行につき一つの関連づけを定義します。項目はタブ区切りで指定してください。最大 1,000 行を記載できます。使用できる文字コードは UTF-8 だけです。

JP1 イベント情報関連づけファイルの例を次に示します。

```
00003FA3  SERVER1  /HITACHI/JP1/IM/JCOCMD  KAVB2402-W [SERVER1] コマンド実行の実行時間  
が10200秒を超えました。  ce16c98a-0132-1000-8000-00000ad23cbb-0  
00004724  SERVER2  /HITACHI/JP1/BASE/SPMD  KAVB3664-I SERVER2 のJP1/Baseを起動しまし  
た  2173450f-0133-1000-8003-00000ad23cbb-0  
00005F00  SERVER1  /HITACHI/JP1/IM/SS  KNAB15069-I 案件のステータスがクローズで登録さ  
れました  2173450f-0133-1000-8003-00000ad23cbb-0  
00000001  SERVER1  /APP1/SAMPLE_PRODUCT  SAMPLE application error.  
c7c0725a-0132-1000-8003-00000ad23cbb-0  
00000002  SERVER2  /APP1/SAMPLE_PRODUCT  SAMPLE application warning.  
c7c0725a-0132-1000-8003-00000ad23cbb-0
```

(3) JP1 イベント情報の一致判定

ナビゲーション プラットフォームは、次のデータを比較して、一致するかどうかを判定します。ただし、アクセス権のない業務コンテンツに関連づけられている JP1 イベント情報は判定の対象外です。

- ほかの JP1 製品から受け取った JP1 イベント情報 (「(1) JP1 イベント情報関連づけファイルの項目」に示した JP1 イベント情報)
- JP1 イベント情報関連づけファイルに記載されている JP1 イベント情報

ほかの JP1 製品から受け取った JP1 イベント情報が空文字の場合は、JP1 イベント情報関連づけファイルに記載されている JP1 イベント情報と一致したと見なされます。また、JP1 イベント情報関連づけファイルに記載されている JP1 イベント情報が空文字の場合は、ほかの JP1 製品から受け取った JP1 イベント情報と一致したと見なされます。

ほかの JP1 製品から受け取った JP1 イベント情報の各項目は、前方一致で判定されます。前方一致で複数の行が該当した場合は、最初の行の定義だけが有効になります。

一致と判定される例

- ほかの JP1 製品から受け取った JP1 イベント情報 : 「/HITACHI/JP1/IM」

- JP1 イベント情報関連づけファイルに記載されている JP1 イベント情報：「/HITACHI/JP1」

不一致と判定される例

- ほかの JP1 製品から受け取った JP1 イベント情報：「/HITACHI/JP1」
- JP1 イベント情報関連づけファイルに記載されている JP1 イベント情報：「/HITACHI/JP1/IM」

5.13.6 ほかの JP1 製品からナビゲーション プラットフォームを呼び出すための URL

ほかの JP1 製品からナビゲーション プラットフォームを呼び出すために指定する URL を次に示します。

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/PLoginUser
```

この URL を連携元の JP1 製品で指定しておき、連携元の JP1 製品の画面上で指定した URL をクリックすると、業務コンテンツが選択されていない状態のナビゲーション プラットフォームの画面が表示されます。特定の業務コンテンツを直接表示したい場合は、次の形式の URL を指定してください。

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/Home/action/PLoginUser?contentId=業務コンテンツID
```

■ 注意事項

特定の業務コンテンツを直接表示するための URL を指定した場合、JP1 イベント情報関連づけファイル (ucnp_jplevent_mapping.txt) の設定は無効になります。

5.14 同時にログインしているユーザ数を確認する

同時にログインしているユーザ数は、ナビゲーション プラットフォームの J2EE サーバのトレースファイルに出力されているメッセージ (KDCZ10004-I) を見て確認してください。

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥logs¥ucnp_trace/[N].log ([N]はファイル面数)

注意事項

次に示す操作を行っている場合、実際にログインしているユーザ数よりも、カウント数が増加して出力されることがあります。

- ブラウザの [×] ボタンで、ナビゲーション プラットフォームの画面を閉じる
- ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.logoutbutton.display プロパティ、ucnp.base.server.close.button.setting プロパティ、および ucnpCloseBtn パラメタの設定が、[閉じる] ボタンをクリックしたときにログアウト処理が行われない設定になっている場合で、利用者がナビゲーション プラットフォームの画面で [閉じる] ボタンをクリックする
- ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.client.complete.button.window.close プロパティに「true」が指定されている場合で、利用者が業務実行画面で [完了] ボタンをクリックする

6

業務コンテンツの運用

この章では、業務コンテンツを作成して運用を開始するまでに必要な作業の流れと、それぞれの作業について説明します。業務コンテンツの運用に必要な作業は、システム構成によって異なることもあります。

この章で説明する作業は、ナビゲーションプラットフォームの運用を開始する前や運用中に、適宜実施してください。

6.1 業務コンテンツの作成から運用までに必要な作業

業務コンテンツを運用するために、システム管理者が実施する必要がある作業を次に示します。

- 業務コンテンツのアクセス権の運用を検討する
ディレクトリサーバによるユーザ認証を使用している場合は、アクセス権グループを作成して、業務コンテンツを作成するユーザと利用するユーザを登録します。JP1/Base によるユーザ認証を使用している場合は、JP1/Base で JP1 権限レベル、JP1 資源グループを設定します。JP1/Base での作業になるため、必要に応じて JP1/Base の管理者と設定内容などを相談しながら作業を実施してください。
- 業務コンテンツをエクスポート・インポートする（編集環境と実行環境が異なる場合）
業務コンテンツには複数の版がある場合があります。エクスポート・インポートの対象が、すべての版なのか公開版だけなのかによって、使用するコマンドが異なります。
- 開発環境で作成したファイルをシステムに適用する
- 業務コンテンツで使用する静的ファイルを管理する
- 検索用データを更新する（[検索] タブを表示している場合）
定期的に自動更新する方法と、任意のタイミングで手動更新する方法があります。

これらの作業を実施するには、ナビゲーションプラットフォームのシステムが起動している必要があります。システムの起動方法については、「[5.1 システムの起動と停止](#)」を参照してください。

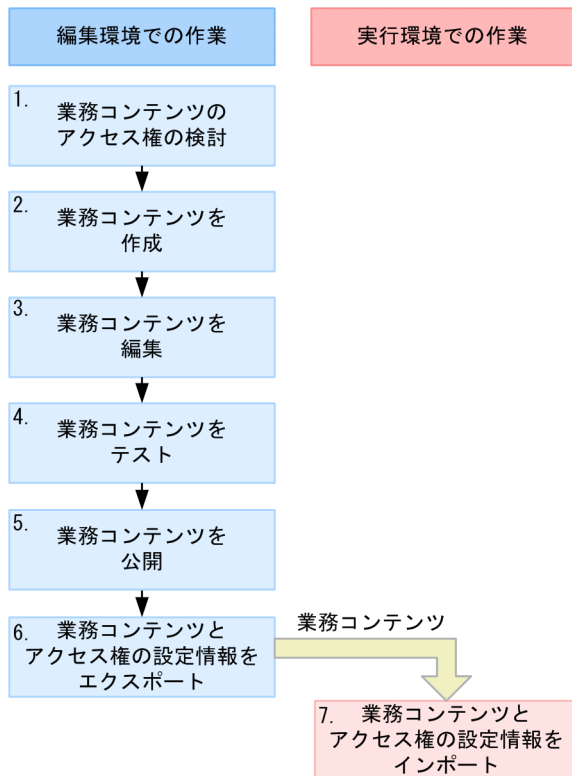
また、利用者が業務コンテンツを操作した履歴は、ログとして取得できます。操作ログの詳細については、「[5.4 業務コンテンツの操作ログの運用](#)」を参照してください。

以降では、業務コンテンツを作成し、運用する流れについて、開発環境で開発したプラグインやカスタム画面を使用しない場合と使用する場合に分けて説明します。

6.1.1 プラグインやカスタム画面を使用しない場合に必要な作業

開発環境で開発したプラグインやカスタム画面を使用しない場合に、ナビゲーションプラットフォームのセットアップが完了してから運用を開始するまでに必要な作業の流れを次に示します。

図 6-1 セットアップが完了してから運用を開始するまでに必要な作業（プラグインやカスタム画面を使用しない場合）



アクセス権の設定情報は、業務コンテンツに設定されているアクセス権グループまたはJP1資源グループによって決まります。

図に示した番号の作業をだれが実施するのかについて説明します。コンテンツ管理者またはコンテンツ編集者が実施する作業の手順については、マニュアル「ナビゲーションプラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

1. システム管理者：業務コンテンツを作成するユーザや業務コンテンツの公開範囲など、業務コンテンツのアクセス権の運用を検討します。

業務コンテンツごとに、どのユーザが業務コンテンツを作成・編集・利用するのかを検討してください。

- ディレクトリサーバによるユーザ認証の場合

必要に応じてアクセス権グループを作成します。

デフォルトの標準アクセス権限だけを使用した場合、業務コンテンツを作成・編集できるのはシステム管理者だけです。また、完成した業務コンテンツは、ナビゲーションプラットフォームにログインするすべてのユーザが利用できます。

デフォルトの標準アクセス権限では実現できない運用（特定のユーザにだけ公開したい業務コンテンツがある場合や、システム管理者以外のユーザが業務コンテンツを作成または編集する場合、業務コンテンツのテスト時にコンテンツ編集者による業務コンテンツの編集を防止したい場合など）をしたい場合は、編集環境でアクセス権グループを作成する必要があります。

アクセス権の内容については、「[6.2 業務コンテンツへのアクセス権の設定（ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合）](#)」を参照してください。ユーザにアクセス権を設定する手順については、「[6.4.1 アクセス権グループを作成する手順](#)」を参照してください。

- JP1/Base によるユーザ認証の場合

ナビゲーション プラットフォームにログインする JP1 ユーザには、必ずナビゲーション プラットフォーム用の JP1 資源グループを設定してください。さらに、必要に応じて JP1 ユーザごとに JP1 権限レベルを設定することで、特定のユーザだけが業務コンテンツ編集できるようにしたり、特定のユーザだけに公開する業務コンテンツを作成したり、業務コンテンツのテスト時にコンテンツ編集者による業務コンテンツの編集を防止したりできるようになります。

JP1 資源グループおよび JP1 権限レベルの設定は JP1/Base での作業になるため、必要に応じて JP1/Base の管理者と設定内容などを相談しながら作業を実施してください。

アクセス権の内容については、「[6.3 業務コンテンツへのアクセス権の設定 \(JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合\)](#)」を参照してください。

2. コンテンツ管理者：編集環境で業務コンテンツを新規に追加して作成し、アクセス権グループまたは JP1 資源グループを設定します。

3. コンテンツ編集者：編集環境で追加済みの業務コンテンツを編集します。

4. コンテンツ管理者およびコンテンツ編集者：編集環境で、業務コンテンツの動作をテストします。

業務コンテンツの動作をテストしてから公開するまでの間、コンテンツ編集者による業務コンテンツの編集を防止するには、コンテンツ管理者が次の設定をします。

- 業務コンテンツのアクセス権グループをコンテンツ編集者が編集できないグループに変更する

5. コンテンツ管理者：業務コンテンツを公開します。

手順 4.で業務コンテンツのアクセス権グループを変更した場合

コンテンツ管理者は、コンテンツ編集者が業務コンテンツを編集できるアクセス権グループに戻します。

6. システム管理者：編集環境で作成した業務コンテンツと、業務コンテンツおよびアクセス権の設定情報をエクスポートします。

エクスポート方法については、「[6.5.1 業務コンテンツのエクスポート](#)」を参照してください。

なお、ディレクトリサーバによるユーザ認証の場合は、アクセス権グループだけをエクスポートすることもできます。詳細は、「[6.4.4\(1\) アクセス権グループだけをエクスポート、インポートする手順](#)」を参照してください。

7. システム管理者：実行環境に業務コンテンツおよびアクセス権の設定情報をインポートします。

インポート方法については、「[6.5.2 業務コンテンツのインポート](#)」を参照してください。

なお、ディレクトリサーバによるユーザ認証の場合は、アクセス権グループだけをインポートすることもできます。詳細は、「[6.4.4\(1\) アクセス権グループだけをエクスポート、インポートする手順](#)」を参照してください。

ここで説明する作業が完了したら、利用者に URL を通知して、業務コンテンツの運用を開始します。利用者に通知する URL については、「[2.1.3 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL](#)」を参照してください。

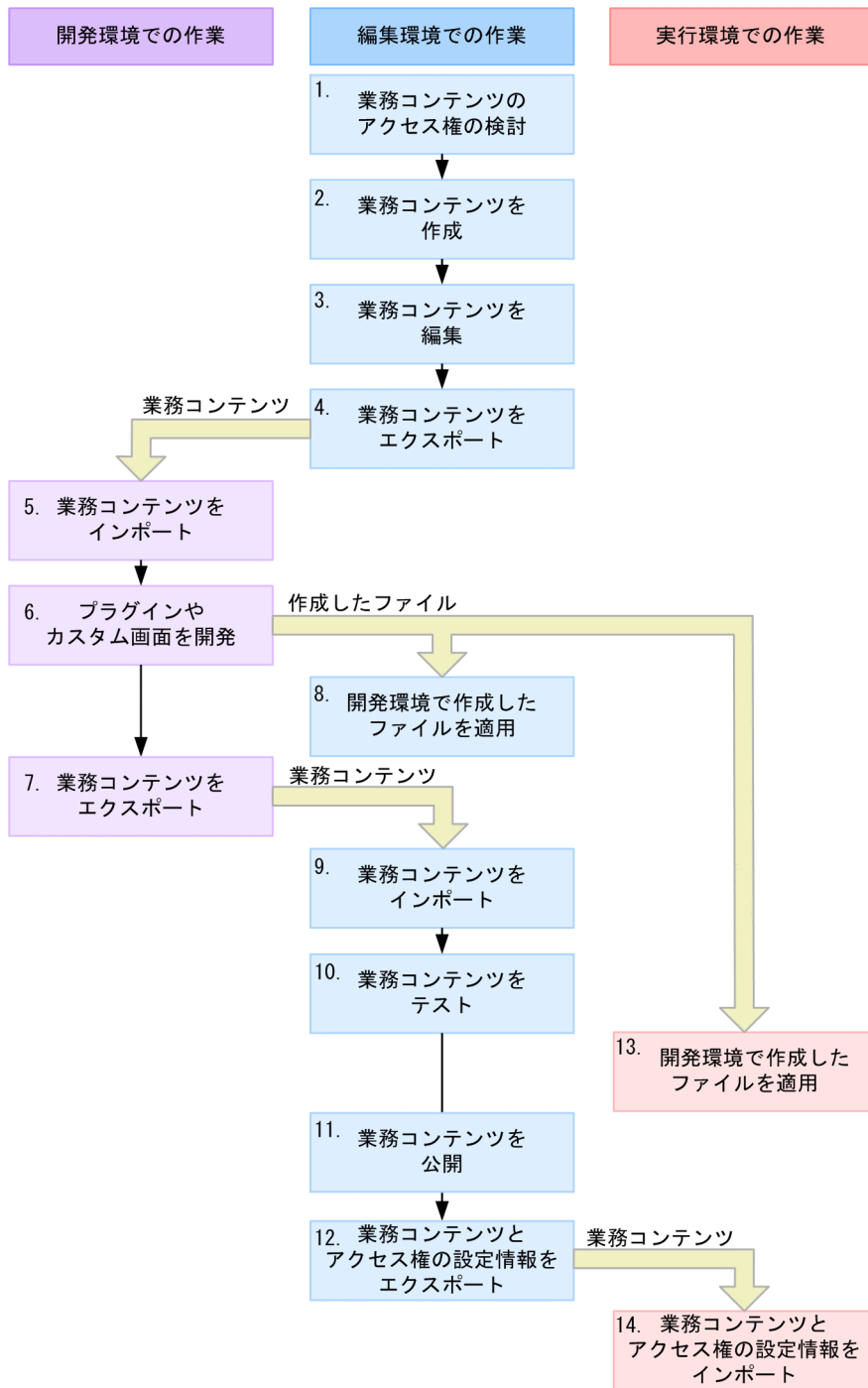
[検索] タブを表示している場合

業務コンテンツを追加・編集・削除したら、検索用データを更新する必要があります。また、業務コンテンツを公開または非公開にした場合も、検索用データを更新してください。検索用データを更新する方法については、「[6.8 検索用データの更新](#)」を参照してください。

6.1.2 プラグインやカスタム画面を使用する場合に必要な作業

開発環境で開発したプラグインやカスタム画面を使用する場合に、ナビゲーション プラットフォームのセットアップが完了してから運用を開始するまでに必要な作業の流れを次に示します。

図 6-2 セットアップが完了してから運用を開始するまでに必要な作業（プラグインやカスタム画面を使用する場合）



アクセス権の設定情報は、業務コンテンツに設定されているアクセス権グループまたはJP1資源グループによって決まります。

図に示した番号の作業をだれが実施するのかについて説明します。コンテンツ管理者またはコンテンツ編集者が実施する作業の手順については、マニュアル「ナビゲーションプラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。開発者が実施する作業の手順については、マニュアル「ナビゲーションプラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。

1. システム管理者：業務コンテンツを作成するユーザや業務コンテンツの公開範囲など、業務コンテンツのアクセス権の運用を検討します。
業務コンテンツごとに、どのユーザが業務コンテンツを作成・編集・利用するのかを検討してください。
 - ディレクトリサーバによるユーザ認証の場合
必要に応じてアクセス権グループを作成します。
デフォルトの標準アクセス権限だけを使用した場合、業務コンテンツを作成・編集できるのはシステム管理者だけです。また、完成した業務コンテンツは、ナビゲーション プラットフォームにログインするすべてのユーザが利用できます。
デフォルトの標準アクセス権限では実現できない運用（特定のユーザにだけ公開したい業務コンテンツがある場合や、システム管理者以外のユーザが業務コンテンツを作成または編集する場合、業務コンテンツのテスト時にコンテンツ編集者による業務コンテンツの編集を防止したい場合など）をしたい場合は、編集環境でアクセス権グループを作成する必要があります。
アクセス権の内容については、「[6.2 業務コンテンツへのアクセス権の設定（ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合）](#)」を参照してください。ユーザにアクセス権を設定する手順については、「[6.4.1 アクセス権グループを作成する手順](#)」を参照してください。
 - JP1/Base によるユーザ認証の場合
ナビゲーション プラットフォームにログインする JP1 ユーザには、必ずナビゲーション プラットフォーム用の JP1 資源グループを設定してください。さらに、必要に応じて JP1 ユーザごとに JP1 権限レベルを設定することで、特定のユーザだけが業務コンテンツ編集できるようにしたり、特定のユーザだけに公開する業務コンテンツを作成したり、業務コンテンツのテスト時にコンテンツ編集者による業務コンテンツの編集を防止したりできるようになります。
JP1 資源グループおよび JP1 権限レベルの設定は JP1/Base での作業になるため、必要に応じて JP1/Base の管理者と設定内容などを相談しながら作業を実施してください。
アクセス権の内容については、「[6.3 業務コンテンツへのアクセス権の設定（JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合）](#)」を参照してください。
2. コンテンツ管理者：編集環境で業務コンテンツを新規に追加して作成し、アクセス権グループまたは JP1 資源グループを設定します。
3. コンテンツ編集者：編集環境で追加済みの業務コンテンツを編集します。
4. システム管理者：編集環境で作成した業務コンテンツをエクスポートします。
エクスポート方法については、「[6.5.1 業務コンテンツのエクスポート](#)」を参照してください。
5. システム管理者（開発者）：開発環境に業務コンテンツをインポートします。
インポート方法については、「[6.5.2 業務コンテンツのインポート](#)」を参照してください。
6. システム管理者（開発者）：開発環境でプラグインやカスタム画面を開発します。
7. システム管理者（開発者）：開発環境で更新した業務コンテンツをエクスポートします。
8. システム管理者：編集環境に、開発環境で作成したファイルを適用します。
開発環境で作成したファイルの適用方法については、「[6.6 開発環境で作成したファイルの適用](#)」を参照してください。

9. システム管理者：編集環境に、開発環境で更新した業務コンテンツをインポートします。
必要に応じてインポートした業務コンテンツのアクセス権の設定情報を見直してください。
10. コンテンツ管理者およびコンテンツ編集者：編集環境で、業務コンテンツの動作をテストします。
業務コンテンツの動作をテストしてから公開するまでの間、コンテンツ編集者による業務コンテンツの編集を防止するには、コンテンツ管理者が次の設定をします。
 - 業務コンテンツのアクセス権グループをコンテンツ編集者が編集できないグループに変更する
11. コンテンツ管理者：業務コンテンツを公開します。
手順 10. で業務コンテンツのアクセス権グループを変更した場合
コンテンツ管理者は、コンテンツ編集者が業務コンテンツを編集できるアクセス権グループに戻します。
12. システム管理者：編集環境でテスト済みの業務コンテンツをエクスポートします。
アクセス権グループを利用している場合は、業務コンテンツに設定されているアクセス権グループもエクスポートしてください。JP1 資源グループの場合は、エクスポートは不要です。
13. システム管理者：実行環境に、開発環境で作成したファイルを適用します。
開発環境で作成したファイルの適用方法については、「[6.6 開発環境で作成したファイルの適用](#)」を参照してください。
14. システム管理者：実行環境に、編集環境でテスト済みの業務コンテンツおよびアクセス権の設定情報をインポートします。

ここで説明する作業が完了したら、利用者に URL を通知し、運用を開始してください。利用者に通知する URL については、「[2.1.3 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL](#)」を参照してください。

編集環境がない場合

開発環境と実行環境だけのシステム構成でも、業務コンテンツを運用できます。その場合は、編集環境の作業を開発環境で実施する必要があります。

なお、開発環境が編集環境を兼ねる場合は、編集環境と開発環境の間のデータ移行作業（インポートなど）は不要です。そのため、この項に記載した作業の流れを次のように読み替えてください。

- 編集環境の作業を開発環境で実施してください。
- 作業の流れのうち、流れ 4.~5.と流れ 7.~9.は不要です。

【検索】 タブを表示している場合

業務コンテンツを追加・編集・削除したら、検索用データを更新する必要があります。また、業務コンテンツを公開または非公開にした場合も、検索用データを更新してください。検索用データを更新する方法については、「[6.8 検索用データの更新](#)」を参照してください。

6.2 業務コンテンツへのアクセス権の設定（ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合）

ナビゲーションプラットフォームでは、業務コンテンツごとにアクセス権を設定できます。次のような場合は、必要に応じてアクセス権グループを作成してください。

- 特定のユーザにだけ公開したい業務コンテンツがある
- システム管理者以外のユーザも業務コンテンツを作成、管理できるようにしたい
- 既存の業務コンテンツを編集するだけのユーザが必要である

業務コンテンツにアクセス権を設定するためには、アクセス権グループが必要です。デフォルトで提供されているアクセス権グループ「標準アクセス権限」を利用するか、新規にアクセス権グループを作成してください。アクセス権グループの作成は、ナビゲーションプラットフォームのシステム管理者権限を持つユーザが実施する必要があります。

ポイント

アクセス権グループ「標準アクセス権限」のデフォルトの設定のままだと、システム管理者権限を持つユーザ以外は、業務コンテンツを参照することしかできません。ほかのユーザに業務コンテンツの作成や編集を実施させたい場合は、次のどちらかを実施し、システム管理者以外のユーザに対して管理者または編集者の権限を与える必要があります。

- 「標準アクセス権限」の定義内容を変更する
- 新規にアクセス権グループを作成する

業務コンテンツにアクセス権を設定する流れを次に示します。

1. システム管理者がアクセス権グループを作成する

編集環境で、ほかのユーザに対して管理者、編集者、または利用者の権限を定義したアクセス権グループを作成してください。

2. コンテンツ管理者（管理者の権限を与えたユーザ）が、新規に業務コンテンツを追加し、アクセス権グループを設定する

コンテンツ管理者がない場合は、この作業もシステム管理者が実施する必要があります。業務コンテンツにアクセス権グループを設定する手順の詳細は、マニュアル「ナビゲーションプラットフォームコンテンツ作成ガイド」を参照してください。

6.2.1 アクセス権の種別と設定範囲（ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合）

業務コンテンツに設定するアクセス権は、グループやユーザごとに設定できます。例えば、「グループ A に属するユーザは業務コンテンツの参照だけができ、グループ B に属するユーザおよびユーザ C は業務コンテンツの参照と追加の両方を実行できる」というように、一つの業務コンテンツに対してグループやユーザごとに異なるアクセス権を設定できます。グループやユーザごとに設定したアクセス権のグループをアクセス権グループと呼びます。

アクセス権グループで定義できるアクセス権の種別（役割）には、次に示す 3 種類があります。

- 管理者
管理者の役割を割り当てられたユーザを「コンテンツ管理者」と呼びます。
- 編集者
編集者の役割を割り当てられたユーザを「コンテンツ編集者」と呼びます。
- 利用者

また、これらの役割を設定する範囲（割り当て範囲）は、次の 3 種類を選択できます。

- ユーザ
ナビゲーション プラットフォームにログインするユーザ単位でアクセス権が設定されます。
- グループ
Active Directory によるユーザ認証を利用している場合、Active Directory 用の所属グループの単位でアクセス権が設定できます。
- すべて
システム管理者を除く、ナビゲーション プラットフォームにログインするすべてのユーザに対してアクセス権が設定されます。

6.2.2 アクセス権の種別と実行できる操作（ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合）

アクセス権グループで定義できるアクセス権の種別（役割）と実行できる操作の対応を次に示します。

表 6-1 アクセス権の種別と実行できる操作の対応

項番	操作内容	アクセス権の種別（役割）		
		管理者	編集者	利用者
1	業務コンテンツの追加	○	×	×
2	業務コンテンツの複製	○	×	×

項番	操作内容	アクセス権の種別（役割）		
		管理者	編集者	利用者
3	業務コンテンツの削除	○	×	×
4	業務コンテンツの編集※1	○	○	×
5	業務コンテンツの参照※2	○	○	○
6	業務コンテンツのロック解除	○	×	×
7	業務コンテンツの公開，非公開	○	×	×
8	版ごとの詳細情報の確認	○	○	×
9	古い版との差分の確認	○	○	×
10	業務コンテンツの名称変更	○	×	×
11	業務コンテンツのグループ変更	○	×	×
12	業務コンテンツへのアクセス権グループの設定（権限の設定）	○	×	×
13	業務コンテンツに設定されているアクセス権グループの確認	○	○	×
14	関連リンクの設定	○	○	×

（凡例）

○：操作できます。

×：操作できません。

注※1

編集とは、業務編集画面で業務コンテンツを表示して、表示した業務コンテンツに対して実施できる操作（編集開始，編集完了，編集破棄，印刷など）を指します。

注※2

参照とは、業務実行画面で業務コンテンツを表示して、表示した業務コンテンツに対して実施できる操作（印刷や URL 取得など）を指します。

6.2.3 標準アクセス権限とは

標準アクセス権限は、ナビゲーションプラットフォームがデフォルトで提供しているアクセス権グループです。

標準アクセス権限のデフォルトの定義内容は、次のとおりです。

- 役割：利用者
- 割り当て範囲：すべて

標準アクセス権限の定義内容は、デフォルトから変更することもできます。ただし、次のことはできません。

- 「標準アクセス権限」というアクセス権グループの名称を変更する
- 「標準アクセス権限」というアクセス権グループを削除する

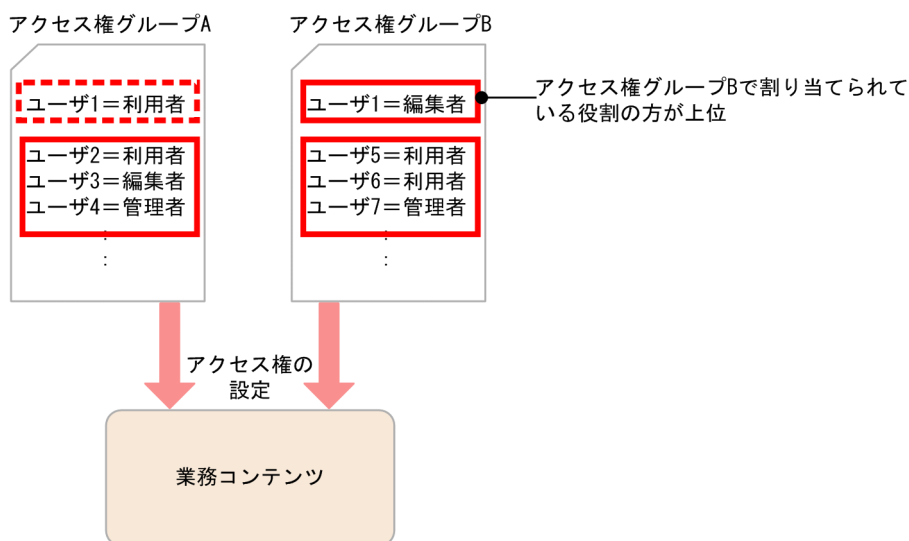
ポイント

業務コンテンツには、1個以上のアクセス権グループを設定する必要があるため、新規にアクセス権グループを作成しない場合は、必ず標準アクセス権限が設定されることとなります。

6.2.4 アクセス権設定時の注意事項（ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合）

複数のアクセス権グループを作成する場合の注意事項を説明します。

一つのユーザを重複して異なるアクセス権グループに登録し、さらにそのユーザに対して各アクセス権グループで異なるアクセス権の種別（役割）を割り当てると、上位の役割が有効になります。そのため、一つの業務コンテンツに複数のアクセス権グループを設定する場合は、注意が必要です。例を次に示します。



凡例

- : 有効になる定義内容
- : 無効になる定義内容

ユーザ1に対してアクセス権グループAでは利用者の役割を割り当て、アクセス権グループBでは編集者の役割を割り当てています。この状態でアクセス権グループAとBの両方を同じ業務コンテンツに設定すると、上位の役割が定義されているアクセス権グループBの定義内容だけが有効となります。このため、ユーザ1はコンテンツ編集者としてその業務コンテンツを操作することができます。

6.2.5 旧バージョンのアクセス権との互換性

uCosminexus Navigation Platform 09-50 より前のバージョン（以降、09-50 より前の旧バージョン）のアクセス権の種別（権限）と、ナビゲーションプラットフォームのアクセス権の種別（役割）は、次のように対応しています。

表 6-2 旧バージョンのアクセス権の種別との対応

項番	09-50 より前の旧バージョンでの種別（権限）	ナビゲーションプラットフォームでの種別（役割）
1	すべて	管理者
2	更新	編集者
3	参照	利用者

09-50 より前の旧バージョンで次のようなアクセス権を設定して運用していた場合の対処を示します。

標準アクセス権限だけを設定していた場合の対処

09-50 より前の旧バージョンでは「更新」権限で業務コンテンツの名称変更とグループ変更が可能でしたが、ナビゲーションプラットフォームの「編集者」は、これらの操作を実行できません。「更新」権限を割り当てていたユーザが、引き続き業務コンテンツの名称変更とグループ変更をできるようにするためには、アクセス権グループの定義内容を見直して、役割を「管理者」に変更してください。

標準アクセス権限以外のアクセス権グループを設定していた場合の対処

旧バージョンでは「すべて」権限では業務コンテンツの追加（作成）と複製はできませんでしたが、ナビゲーションプラットフォームの「管理者」は、これらの操作を実行できます。引き続き業務コンテンツの追加と複製をできないようにするためには、アクセス権グループの定義内容を見直して、役割を「編集者」に変更してください。

また、09-50 より前の旧バージョンでは「更新」権限で業務コンテンツの名称変更とグループ変更が可能でしたが、ナビゲーションプラットフォームの「編集者」は、これらの操作を実行できません。「更新」権限を割り当てていたユーザが、引き続き業務コンテンツの名称変更とグループ変更をできるようにするためには、アクセス権グループの定義内容を見直して、役割を「管理者」に変更してください。

6.2.6 [アクセス権限] 画面の項目（ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合）

アクセス権グループを選択した状態の [アクセス権限] 画面を次に示します。

図 6-3 [アクセス権限] 画面

役割	割り当て範囲	ID	削除
管理者	ユーザ	user6	削除
管理者	ユーザ	user7	削除
編集者	ユーザ	user2	削除
編集者	ユーザ	user3	削除
利用者	ユーザ	user4	削除
利用者	ユーザ	user5	削除
利用者	すべて		削除

[アクセス権限] 画面は、左側の [アクセス権グループの一覧] 領域と右側の [アクセス権グループの編集] 領域から構成されています。それぞれの領域に表示されている項目について説明します。

(1) [新規] メニュー

選択すると、[アクセス権限] 画面の右側の領域に [アクセス権グループの編集] 領域が表示されます。この状態で、新規に追加したいアクセス権グループの名称やユーザを設定してから [OK] ボタンをクリックすると、新規のアクセス権グループが [アクセス権グループの一覧] 領域に表示されます。

(2) [削除] メニュー

選択すると、チェックボックスをチェックしたアクセス権グループが削除されます。[削除] メニューは、チェックボックスをチェックしないと非活性となり選択できません。

(3) [閉じる] メニュー

クリックすると、[アクセス権限] 画面が閉じます。[OK] ボタンで保存していない変更内容は破棄されます。

(4) アクセス権グループの名称

チェックボックスとともに、保存済みのアクセス権グループの名称が表示されます。名称部分をクリックすると、アクセス権グループ編集領域に [アクセス権グループの編集] 画面が表示されて、アクセス権グループの設定を変更できます。

なお、アクセス権グループを一つも作成していなくても、デフォルトのアクセス権グループ「標準アクセス権限」は常に表示されます。

(5) [アクセス権グループの名称] テキストボックス

アクセス権グループの名称を入力または変更するためのテキストボックスです。アクセス権グループの名称は、省略できません。255 バイト以内の文字列を必ず入力してください。ただし、制御文字（ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F）を含む文字列は入力できません。また、作成済みのアクセス権グループと重複する名称は入力できません。

(6) [役割] ドロップダウンリスト

設定したいアクセス権を選択します。[管理者]、[編集者]、または [利用者] から選択してください。ドロップダウンリストの右に表示されている「？」マークのアイコンをクリックすると、それぞれの役割で実行できる操作の一覧と、アクセス権グループの定義例を別画面で参照できます。

(7) [割り当て範囲] ドロップダウンリスト

アクセス権を設定する対象を選択します。[ユーザ]、[グループ]、または [すべて] から選択できます。

(8) [ID] テキストボックス

アクセス権を設定する対象の ID を入力します。[役割] ドロップダウンリストで [ユーザ]、または [グループ] を選択している場合、ID の入力は省略できません。

(9) [追加] ボタン

クリックすると、設定したアクセス権の内容が [ユーザ、グループの一覧] に追加されて、[ユーザ、グループの追加] がデフォルトの状態に戻ります。

(10) [ユーザ、グループの一覧]

アクセス権を定義済みのユーザ、またはグループが表示されます。

(11) [削除] ボタン

クリックすると、アクセス権を定義済みのユーザ、またはグループが削除されます。

(12) [OK] ボタン

クリックすると、[アクセス権グループの編集] 領域の変更内容が保存されます。[アクセス権グループの名称] テキストボックスの内容を変更した場合は、変更後の名称が [アクセス権グループの一覧] 領域に表示されます。

(13) 【キャンセル】 ボタン

クリックすると、[アクセス権グループの編集] 領域の変更内容が破棄されて、領域の表示内容が消去されます。

6.3 業務コンテンツへのアクセス権の設定（JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合）

JP1/Base に登録されている JP1 ユーザに対して JP1 権限レベルと JP1 資源グループを組み合わせることで、業務コンテンツへのアクセス権を設定できるようになります。

業務コンテンツにアクセス権を設定する流れを次に示します。

1. JP1/Base で JP1 権限レベル、JP1 資源グループを設定する

JP1/Base での作業になるため、必要に応じて JP1/Base の管理者と設定内容などを相談しながら作業を実施してください。

2. コンテンツ管理者（管理者の権限を与えたユーザ）が、新規に業務コンテンツを追加し、JP1 資源グループを設定する

業務コンテンツに JP1 資源グループを設定する手順の詳細は、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

6.3.1 アクセス権の種別と設定範囲（JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合）

JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合、業務コンテンツに設定するアクセス権の種別は JP1 権限レベルによって、アクセス権の設定範囲は JP1 資源グループによって決まります。

例えば、「JP1 ユーザ A は業務コンテンツの参照だけができ、JP1 ユーザ B および JP1 ユーザ C は業務コンテンツの参照と追加の両方を実行できる」というアクセス権を設定したい場合は、ユーザ A とユーザ B・C にそれぞれ異なる JP1 権限レベルを設定します。さらに、この JP1 権限レベルの設定をすべての業務コンテンツに対して有効にするのか、特定の業務コンテンツに対してだけ有効にするのかによって、JP1 資源グループを使い分けます。

ナビゲーション プラットフォームで使用する JP1 権限レベルと JP1 資源グループについては、「[4.3.1 ナビゲーション プラットフォームで使用できる JP1 資源グループ](#)」および「[4.3.2 ナビゲーション プラットフォームで使用できる JP1 権限レベル](#)」を参照してください。

6.3.2 アクセス権の種別と実行できる操作（JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合）

JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合、ユーザが実際にどのような操作ができるかは、JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせで決まります。同じ JP1 権限レベルが設定されていても、JP1 資源グループが異なると、実行できる操作が異なることがあります。

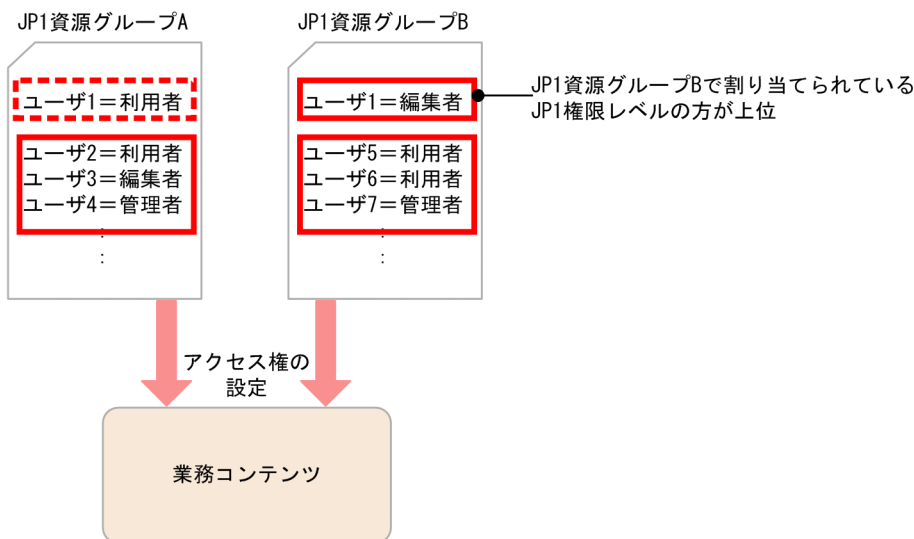
例えば、コンテンツ編集者の JP1 権限レベルを持つユーザがいた場合、登録されている JP1 資源グループによって、次のように実行できる操作が異なります。

- システム全体に対する JP1 資源グループの場合
システム内のすべての業務コンテンツを編集、参照できる。
- 業務コンテンツ単位の JP1 資源グループの場合
該当する JP1 資源グループが設定されている業務コンテンツだけを編集、参照できる。

JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせによってどのように操作内容が異なるかについては、「4.3.3 JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせ」を参照してください。

6.3.3 アクセス権設定時の注意事項（JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合）

一つのユーザを重複して異なる JP1 資源グループに登録し、さらにそのユーザに対して各 JP1 資源グループで異なる JP1 権限レベルを割り当てると、上位の JP1 権限レベルが有効になります。そのため、一つの業務コンテンツに複数の JP1 資源グループを設定する場合は、注意が必要です。例を次に示します。



凡例

- : 有効になる定義内容
- : 無効になる定義内容

ユーザ 1 に対して JP1 資源グループ A では利用者の JP1 権限レベルを割り当て、JP1 資源グループ B では編集者の JP1 権限レベルを割り当てています。この状態で JP1 資源グループ A と B の両方を同じ業務コンテンツに設定すると、上位の JP1 権限レベルが定義されている JP1 資源グループ B の定義内容だけが有効となります。このため、ユーザ 1 はコンテンツ編集者としてその業務コンテンツを操作することができます。

6.3.4 JP1 資源グループの運用時の注意事項

JP1 資源グループの追加, 変更, 削除などは, JP1/Base での操作が必要です。ただし, システム全体の JP1 資源グループの名称を見直す場合は, ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の `ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.group` プロパティの指定値も見直す必要があります。JP1/Base の操作方法については, マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

6.4 業務コンテンツのアクセス管理の流れ（ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合）

ユーザ認証の利用なし，またはディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合，次のような流れで業務コンテンツのアクセス管理をします。

1. システム管理者が，編集環境でアクセス権グループを作成する
2. コンテンツ管理者が，編集環境で業務コンテンツを作成し，アクセス権グループを設定する
3. システム管理者が，編集環境のアクセス権グループを実行環境にエクスポートする

6.4.1 アクセス権グループを作成する手順

ここでは，[アクセス権限] 画面でアクセス権グループを作成する手順について説明します。なお，アクセス権グループを作成するに当たっては，次の点を考慮してください。

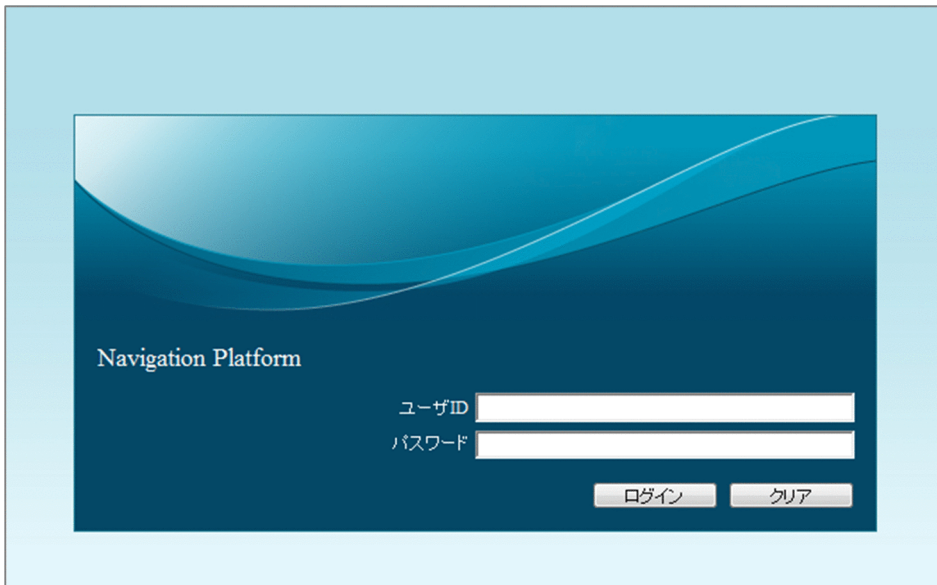
- 作成できるアクセス権グループは最大 100 個です。
- 各アクセス権グループに定義できるユーザとグループは，合計で最大 64 個です。そのため，1 個のアクセス権グループに多数のユーザを定義する必要がある場合は，グループとして定義することを推奨します。

1. Web ブラウザ上で次の URL を指定して，ログイン画面を呼び出します。

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/TitlePortlet/portlet/ucnp/pane/-440b4408440g55S76Z2i/layout_id/default/tab_id/-440b4408440g55S76Z2i?start_editor=true&open_editor=true
```

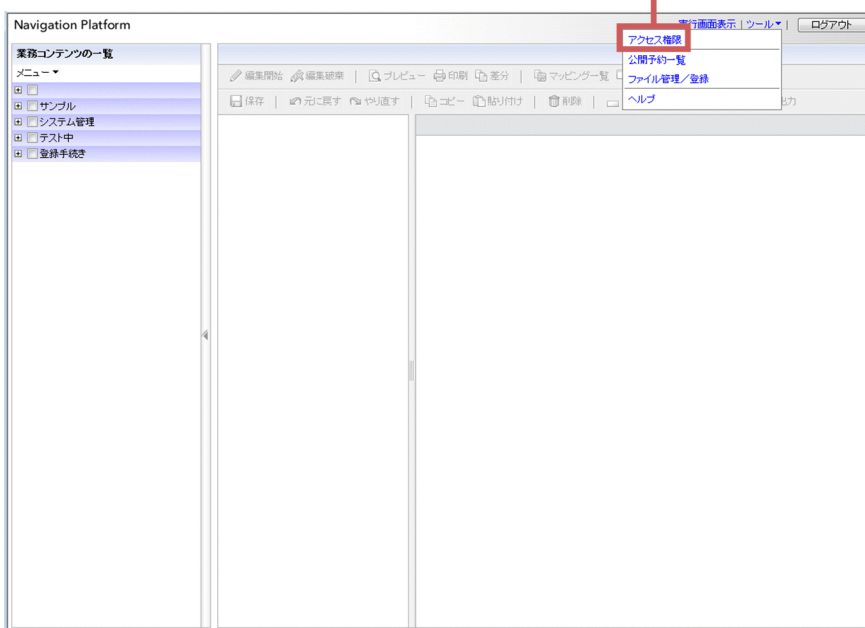
- **ホスト名**
ナビゲーション プラットフォームの J2EE サーバマシンのホスト名または IP アドレスです。
- **ポート番号**
ナビゲーション プラットフォームの Web サーバのポート番号です。ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port プロパティの指定値になります。

2. ユーザ ID とパスワードを入力して，[ログイン] ボタンをクリックします。



ナビゲーション プラットフォームのシステム管理者権限を持つユーザ ID（デフォルトは user1）とパスワードを入力してください。業務編集画面が表示されます。

【アクセス権限】メニュー



3. 業務編集画面の上部（ヘッダ領域）にある【アクセス権限】メニューを選択します。

【アクセス権限】画面が表示されます。



4. [アクセス権グループの一覧] 領域から [新規] メニューを選択します。
画面右側に [アクセス権グループの編集] 領域が表示されます。



5. [アクセス権グループの名称] テキストボックスに、アクセス権グループの名前を入力します。
アクセス権グループの名前は、255 バイトまで入力できます。制御文字 (ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F) を含む文字列は入力できません。アクセス権グループの名前は必ず入力してください。
6. [ユーザー、グループの追加] の [役割] ドロップダウンリストから、アクセス権の種別を選択します。
アクセス権の種別 (役割) ごとに実行できる操作については、ドロップダウンリストの見出しの横に表示されているアイコンをクリックして表示される画面で確認してください。
7. [割り当て範囲] ドロップダウンリストから、アクセス権を設定する範囲を選択します。
ユーザ単位でアクセス権を設定したい場合
[ユーザ] を選択します。

グループ単位でアクセス権を設定したい場合

[グループ] を選択します。

ユーザ全員にアクセス権を設定したい場合

[すべて] を選択します。

ユーザとは、ナビゲーション プラットフォームにログインできるユーザを指しています。

グループとは、ディレクトリサーバに登録されているグループのことです。

8. 割り当て範囲が「すべて」以外の場合は、[ID] テキストボックスにアクセス権を設定したいユーザまたはグループの ID を入力します。

ID は 254 バイトまで入力できます。割り当て範囲が「すべて」以外の場合は、必ず入力します。また、制御文字 (ASCII コードの 0x00~0x1F と 0x7F) を含む文字列は入力できません。

9. [追加] ボタンをクリックします。

アクセス権の定義内容が [ユーザ, グループの一覧] に表示されます。

ほかの対象にもアクセス権を定義する場合は、手順 6.~9.を繰り返してください。

10. [OK] ボタンをクリックします。

[ユーザ, グループの一覧] に表示されている内容が保存され、[アクセス権グループの一覧] 領域に、手順 5.で入力したアクセス権グループの名前が表示されます。

参考

[アクセス権グループの編集] 領域でアクセス権グループを編集している状態で、[アクセス権グループの一覧] 領域でメニューなどを操作すると、保存していないアクセス権グループを破棄してよいかを確認するメッセージが表示されます。メッセージに対しては次のように対応してください。

- 編集中のアクセス権グループを保存しない場合
ダイアログで [OK] ボタンをクリックしてください。
- 編集中のアクセス権グループを保存したい場合
ダイアログで [キャンセル] ボタンをクリックしてください。
そのあと、[アクセス権グループの編集] 画面で [OK] ボタンをクリックして編集途中のアクセス権グループを保存してから、再度 [新規] メニューまたは [削除] メニューをクリックしてください。

6.4.2 アクセス権グループの定義内容を変更する手順

ここでは、[アクセス権限] 画面でアクセス権グループの定義内容を変更する手順について説明します。なお、アクセス権グループの定義内容を変更するに当たっては、次の点を考慮してください。

- コンテンツ管理者のユーザを削除したり、コンテンツ編集者または利用者に変更したりすると、業務コンテンツの名称変更やグループ変更ができなくなり、作業に支障が発生することがあります。
- アクセス権グループの名称を変更すると、コンテンツ管理者が変更前と変更後のアクセス権グループが同じであることを認識できなくなることがあります。名称を変更したら、コンテンツ管理者にも知らせることを推奨します。

1. Web ブラウザ上で次の URL を指定して、ログイン画面を呼び出します。

```
http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/TitlePortlet/portlet/ucnp/pane/-440b4408440g55S76Z2i/layout_id/default/tab_id/-440b4408440g55S76Z2i?start_editor=true&open_editor=true
```

- **ホスト名**
ナビゲーション プラットフォームの J2EE サーバマシンのホスト名または IP アドレスです。
- **ポート番号**
ナビゲーション プラットフォームの Web サーバのポート番号です。ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port プロパティの指定値になります。

2. ユーザ ID とパスワードを入力して、[ログイン] ボタンをクリックします。

ナビゲーション プラットフォームのシステム管理者権限を持つユーザ ID (デフォルトは user1) とパスワードを入力してください。業務編集画面が表示されます。

3. 業務編集画面の上部 (ヘッダ領域) にある [アクセス権限] メニューを選択します。

[アクセス権限] 画面が表示されます。



4. [アクセス権グループの一覧] 領域で、定義内容を変更したいアクセス権グループの名称をクリックします。

[アクセス権グループの編集] 画面にアクセス権グループの定義内容が表示されます。

5. アクセス権グループの名称、ユーザまたはグループの役割、割り当て範囲、ID を変更します。

- アクセス権グループの名称を変更する場合
[アクセス権グループの名称] テキストボックスの内容を変更してください。
- ユーザまたはグループの役割、割り当て範囲、ID を変更、削除する場合
追加済みのユーザまたはグループを変更したい場合は、いったん削除してから、変更後のユーザまたはグループを追加する必要があります。
まず、[ユーザ、グループの一覧] で変更したいユーザまたはグループの [削除] ボタンをクリックしてください。次に、[ユーザ、グループの追加] で変更後の役割、割り当て範囲、ID を設定して、[追加] ボタンをクリックします。

6. [OK] ボタンをクリックします。

アクセス権グループの定義内容の変更が保存されます。

6.4.3 アクセス権グループを削除する手順

ここでは、[アクセス権限] 画面でアクセス権グループを削除する手順について説明します。アクセス権グループの削除は、環境ごとに実施する必要があります。また、アクセス権グループを削除するに当たっては、次の点を考慮してください。

- 削除するアクセス権グループにコンテンツ管理者またはコンテンツ編集者として定義されていたユーザが、業務コンテンツを参照しかできなくなり、作業に支障が発生することがあります。
- アクセス権グループ「標準アクセス権限」は、削除できません。
- 削除するアクセス権グループだけが設定されている業務コンテンツがある場合、そのアクセス権グループは削除できません。

1. Web ブラウザ上で次の URL を指定して、ログイン画面を呼び出します。

http://ホスト名:ポート番号/ucnpBase/portal/screen/TitlePortlet/portlet/ucnp/
pane/-440b4408440g55S76Z2i/layout_id/default/tab_id/-440b4408440g55S76Z2i?
start_editor=true&open_editor=true

- **ホスト名**
ナビゲーション プラットフォームの J2EE サーバマシンのホスト名または IP アドレスです。
- **ポート番号**
ナビゲーション プラットフォームの Web サーバのポート番号です。ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port プロパティの指定値になります。

2. ユーザ ID とパスワードを入力して、[ログイン] ボタンをクリックします。

ナビゲーション プラットフォームのシステム管理者権限を持つユーザ ID (デフォルトは user1) とパスワードを入力してください。業務編集画面が表示されます。

3. 業務編集画面の上部 (ヘッダ領域) にある [アクセス権限] メニューを選択して、[アクセス権限] 画面を表示します。

4. [アクセス権グループの一覧] 領域で、削除したいアクセス権グループのチェックボックスをチェックします。



複数のアクセス権グループを一度に削除したい場合は、削除したいアクセス権グループのチェックボックスをすべてチェックしてください。

5. [アクセス権グループの一覧] 領域の [削除] メニューをクリックします。

アクセス権グループを削除するかどうかを確認するダイアログが表示されます。

6. ダイアログで [OK] ボタンをクリックします。

手順 4. でチェックしたアクセス権グループが削除されます。

6.4.4 アクセス権グループのエクスポートとインポート

編集環境で作成したアクセス権グループは、エクスポートして実行環境またはほかの編集環境へインポートできます。エクスポートするときは、アクセス権グループだけをエクスポートするか、業務コンテンツごとエクスポートするか、2種類の方法があります。それぞれの方法の手順を説明します。

(1) アクセス権グループだけをエクスポート、インポートする手順

1. 編集環境のマシンにログインします。
2. コマンドプロンプトから、`npaclexport` コマンド（アクセス権グループのエクスポート）を実行します。

実行例

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npaclexport C:¥work  
¥accessgroup.zip
```

例のとおり実行すると、`accessgroup.zip` ファイルにすべてのアクセス権グループの情報がエクスポートされて、`work` ディレクトリに格納されます。

3. インポート先の実行環境または編集環境のマシンにログインします。
4. `npaclexport` コマンドで取得したファイルを任意のディレクトリに格納します。
5. コマンドプロンプトから、`npimport` コマンド（業務コンテンツのインポート）を実行します。

実行例

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npimport -f C:¥work  
¥accessgroup.zip
```

例のとおり実行すると、`accessgroup.zip` ファイルのアクセス権グループの情報がインポートされます。インポート先にすでに同じ名称のアクセス権グループがある場合は、定義内容が上書きされます。

(2) 業務コンテンツごとアクセス権グループをエクスポート、インポートする手順

1. 編集環境のマシンにログインします。
2. コマンドプロンプトから、`npexport` コマンド（業務コンテンツのエクスポート）を実行します。

実行例

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npexport C:¥work¥contents.zip
```

例のとおり実行すると、`contents.zip` ファイルにすべての業務コンテンツおよびアクセス権グループの情報がエクスポートされて、`work` ディレクトリに格納されます。

3. インポート先の実行環境または編集環境のマシンにログインします。
4. `npexport` コマンドで取得したファイルを任意のディレクトリに格納します。

5. コマンドプロンプトから、npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）を実行します。

実行例

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npimport -f C:¥work  
¥contents.zip
```

例のとおり実行すると、contents.zip ファイルの業務コンテンツおよびアクセス権グループの情報がインポートされます。インポート先にすでに同じ ID の業務コンテンツまたは同じ名称のアクセス権グループがある場合は、内容が上書きされます。

6.4.5 アクセス権グループの作成例

アクセス権グループの作成例（定義例）を次に示します。アクセス権グループで定義できるアクセス権の種別（役割）に対応する操作の詳細は、「[6.2.2 アクセス権の種別と実行できる操作（ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合）](#)」を参照してください。

すべてのユーザに業務コンテンツの追加、編集、参照を許可する場合

- 役割：管理者
割り当て範囲：すべて
ID：空欄（指定しない）

このように定義したアクセス権グループを作成した場合、ナビゲーション プラットフォームにアクセスできるすべてのユーザがコンテンツ管理者となります。

業務コンテンツの追加、編集は一部のユーザに限定し、参照はすべてのユーザに許可する場合

- 役割：管理者
割り当て範囲：ユーザ
ID：userA
- 役割：編集者
割り当て範囲：ユーザ
ID：userB
- 役割：利用者
割り当て範囲：すべて
ID：空欄（指定しない）

このように定義したアクセス権グループを作成した場合、userA の ID でナビゲーション プラットフォームにログインするとコンテンツ管理者に、userB の ID でログインするとコンテンツ編集者となります。userA・userB 以外の ID でログインすると利用者で見なされます。

Active Directory で管理しているグループ単位でアクセス権を設定する場合

- 役割：管理者
割り当て範囲：グループ

ID : groupA

- 役割 : 利用者

割り当て範囲 : グループ

ID : groupB

このように定義したアクセス権グループを作成した場合、groupA に所属するユーザの ID でナビゲーション プラットフォームにログインするとコンテンツ管理者に、groupB に所属するユーザの ID でログインすると利用者となります。ユーザ数が多く、Active Directory でグループ管理をしている場合は、アクセス権グループもグループ単位で定義しておくこと、定義内容を見直す回数を少なくすることができて効率的です。

6.5 業務コンテンツのエクスポートとインポート

編集環境または開発環境と、実行環境が異なるサーバマシンに構築されている場合、編集環境または開発環境で作成した業務コンテンツをいったんエクスポートし、実行環境にインポートする必要があります。

エクスポートとインポートには、ナビゲーションプラットフォームのコマンドを使用します。使用するコマンドおよびその使用方法の詳細については、「9. コマンド」を参照してください。

エクスポート・インポートできるのは、業務コンテンツのデータ、およびアクセス権の設定情報（アクセス権グループまたはJP1 資源グループ）です。ただし、業務コンテンツで静的ファイルを使用している場合、静的ファイルはコマンドによるエクスポート・インポートの対象とはならないため、別途管理する必要があります。詳細は、「6.9 業務コンテンツで使用する静的ファイルの管理」を参照してください。

ポイント

- 使用するコマンドによって、公開版だけをエクスポート・インポートすることもできます。
- すべての環境が一つのマシンに構築されている場合でも、バックアップ用としてエクスポートだけを実施することもできます。

注意事項

エクスポートとインポートでは、作業フォルダとして環境変数 TMP または TEMP のフォルダを使用します。このため、環境変数 TMP および TEMP のフォルダのディスク容量に余裕を持たせてから、エクスポート・インポートを実施してください。

6.5.1 業務コンテンツのエクスポート

ここでは、編集環境または開発環境に保存されている業務コンテンツだけをエクスポートする方法について説明します。

1. 編集環境または開発環境のマシンにログインします。
2. コマンドプロンプトから、`npexport` コマンド（業務コンテンツのエクスポート）または `nppubexport` コマンド（公開版業務コンテンツのエクスポート）を実行します。

実行例

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npexport -x C:¥work  
¥contents.zip
```

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥nppubexport -x C:¥work  
¥contents.zip
```


例のとおりに実行すると、contents.zip ファイルにすべての業務コンテンツの情報がエクスポートされて、work ディレクトリに格納されます。

なお、この例はディレクトリサーバによるユーザ認証を使用していて、アクセス権グループの情報を上書きしたくない場合の実行例です。

エクスポートコマンドの詳細は、「[9.8 npexport コマンド \(業務コンテンツのエクスポート\)](#)」および「[9.12 nppubexport コマンド \(公開版業務コンテンツのエクスポート\)](#)」を参照してください。

6.5.2 業務コンテンツのインポート

ここでは、npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート) でエクスポートした業務コンテンツをインポートする方法について説明します。インポート作業は、すべての環境で実施します。

1. インポート先の環境のマシンにログインします。
2. バックアップのため、インポート先の環境の業務コンテンツをエクスポートします。
手順の詳細は、「[6.5.1 業務コンテンツのエクスポート](#)」を参照してください。
3. npexport コマンドで取得したインポート元の環境のファイルを任意のディレクトリに格納します。
4. コマンドプロンプトから、npimport コマンド (業務コンテンツのインポート) または nppubimport コマンド (公開版業務コンテンツのインポート) を実行します。

実行例

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ%bin%npimport -f -x C:%work  
%contents.zip
```

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ%bin%nppubimport -f -x C:%work  
%contents.zip
```

例のとおりに実行すると、contents.zip ファイルに含まれる業務コンテンツの情報だけがインポートされます。インポート先にすでに同じ ID の業務コンテンツがある場合は、内容が上書きされます。

なお、この例はディレクトリサーバによるユーザ認証を使用していて、アクセス権グループの情報を上書きしたくない場合の実行例です。

インポートコマンドの詳細は、「[9.10 npimport コマンド \(業務コンテンツのインポート\)](#)」および「[9.13 nppubimport コマンド \(公開版業務コンテンツのインポート\)](#)」を参照してください。

6.6 開発環境で作成したファイルの適用

開発環境では、プラグインやカスタム画面を J2EE アプリケーションとして開発します。編集環境または実行環境では、開発環境で作成した J2EE アプリケーションの EAR ファイルなどを受け取って、システムに適用します。

注意事項

開発環境からユーザプラグインに関するファイルを受け取る場合、適用先の編集環境または実行環境で次に示すプロパティキーの値が一意である必要があります。

- userplugin.id
- userplugin.name
- userplugin.server.controller.ioaction.type (入出力プラグインの場合だけ)

これらのプロパティキーは、ユーザプラグインのひな形を生成したときに指定する値です。同一環境内でこれらのプロパティキーの値が重複した場合、動作は保証されません。

6.6.1 開発環境から受け取るファイル

開発環境からは、開発したプラグインおよびプラグインで使用するファイルを受け取ります。開発環境から受け取るファイルを次に示します。

表 6-3 開発環境から受け取るファイル一覧

項番	開発環境での格納場所	ファイル名	説明
1	<i>Navigation Platform for Developers</i> インストールディレクトリ¥pluginSDK¥dest	プラグイン名.ear	プラグイン名は開発者に確認してください。
2	<i>Navigation Platform for Developers</i> インストールディレクトリ¥usrlib¥sys	ライブラリ名.jar	プラグインでライブラリを使用している場合だけ存在するファイルです。ライブラリ名は開発者に確認してください。
3	<i>Navigation Platform for Developers</i> インストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥uCNP_J2EE	usrconf.properties	なし。
4	<i>Navigation Platform for Developers</i> インストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥uCNP_J2EE	usrconf.cfg	なし。
5	リソースアダプタ追加時に指定した場所	<i>Connector</i> 属性ファイル名.xml	プラグインがデータベースとの接続処理を実装している場合だけ存在するファイルです。 cjsetrarprop コマンドで指定した

項番	開発環境での格納場所	ファイル名	説明
5	リソースアダプタ追加時に指定した場所	Connector 属性ファイル名.xml	場所およびファイル名を開発者に確認してください。

開発環境から受け取ったファイルは、編集環境または実行環境の次の場所に格納してください。

表 6-4 開発環境から受け取るファイルの格納先

項番	ファイル名	編集環境または実行環境での格納先	説明
1	プラグイン名.ear	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ %plugin_files%ear	なし。
2	ライブラリ名.jar	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ %plugin_files%usrlib	なし。
3	usrconf.properties	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ %plugin_files%j2ee_usrconf	プラグインが複数ある場合は、各プラグインのファイルの内容を統合して 1 ファイルにまとめてください。
4	usrconf.cfg	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ %plugin_files%j2ee_usrconf	
5	Connector 属性ファイル名.xml	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ %plugin_files%j2ee_connector	なし。

ポイント

開発環境で作成したファイルを編集環境または実行環境にすでに一度適用している場合は、適用済みのファイルのバックアップを取得しておくことを推奨します。ユーザプラグインの設定ファイルのバックアップ先については、「[9.6 npdatabackup コマンド \(環境退避\)](#)」を参照してください。

6.6.2 開発環境から受け取ったファイルを新規に適用する手順

開発環境から受け取ったファイルを編集環境または実行環境に適用する手順について説明します。

手順の前提条件

ファイルを適用する編集環境または実行環境の条件を次に示します。

- ナビゲーション プラットフォームが起動していること
- 既存のユーザプラグインと同じ名称のユーザプラグインが存在しないこと
- 手順が完了するまで、ナビゲーション プラットフォームにログインしないこと

1. [6.6.1 開発環境から受け取るファイル] を参照して、必要なファイルを指定の場所にコピーして格納します。
2. 開発環境で J2EE サーバの設定を変更している場合は、J2EE サーバの設定ファイル (usrconf.properties および usrconf.cfg) の内容を反映します。
3. 開発環境の J2EE サーバ全体で有効となるライブラリファイルを追加している場合は、ライブラリファイル (ライブラリ名.jar) を「表 6-3 開発環境から受け取るファイル一覧」で示した場所に格納します。
4. データベースに接続するユーザプラグインがある場合は、手順 1. でコピー済みの Connector 属性ファイルを基に、リソースアダプタを追加します。
リソースアダプタの追加手順については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。なお、ユーザプラグインにデータベースに接続する処理が含まれているかどうかは、ユーザプラグインの開発者に確認してください。
5. 手順 2.～手順 4.のどれかを実施している場合は、ナビゲーション プラットフォームを再起動します。
6. 次のとおりコマンドを実行して、ユーザプラグインを J2EE サーバに追加します。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥admin¥bin  
¥cjimportapp uCNP_J2EE -f "ユーザプラグインのEARファイルのファイルパス"
```

ユーザプラグインが複数ある場合は、-f オプションを必要な回数だけ繰り返し指定してください。

7. 次のとおりコマンドを実行して、ユーザプラグインを起動します。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥admin¥bin¥cjstartapp  
uCNP_J2EE -name ユーザプラグイン名
```

ユーザプラグイン名が不明な場合は、開発者にプラグイン情報プロパティファイルで指定した userplugin.name プロパティキーの値を問い合わせてください。

8. 必要に応じてユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) を編集します。

ユーザプラグインの種類によって、編集しなければならないプロパティが異なります。ユーザプラグインごとに設定が必要なプロパティについては、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。

9. ナビゲーション プラットフォームを再起動します。

6.6.3 開発環境から受け取ったファイルを更新する手順

開発環境から受け取ったファイルを適用したあとで、ユーザプラグインの更新に伴ってそれらのファイルの内容を更新する手順を説明します。

手順の前提条件

ファイルを適用する編集環境または実行環境の条件を次に示します。

- ナビゲーション プラットフォームが起動していること
- 手順が完了するまで、ナビゲーション プラットフォームにログインしないこと

1. [6.6.1 開発環境から受け取るファイル] を参照して、必要なファイルを指定の場所にコピーして格納します。

2. 次のとおりコマンドを実行して、更新するユーザプラグインの状態を確認します。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥admin¥bin¥cjlistapp
uCNP_J2EE
```

J2EE アプリケーション名（ユーザプラグイン名）の左側にユーザプラグインの状態が表示されます。

- running：ユーザプラグインは開始状態です。
- stopped：ユーザプラグインは停止状態です。

3. 更新するユーザプラグインが開始状態の場合は、次のとおりコマンドを実行して停止します。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥admin¥bin¥cjstopapp
uCNP_J2EE -name ユーザプラグイン名
```

4. 次のとおりコマンドを実行して、更新するユーザプラグインを削除します。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥admin¥bin
¥cjdeleteapp uCNP_J2EE -name ユーザプラグイン名
```

5. [6.6.2 開発環境から受け取ったファイルを新規に適用する手順] を参照して、内容が更新された新しいユーザプラグインのファイルを適用します。

6. 更新したユーザプラグインが入出力プラグインの場合は、必要に応じて業務コンテンツに関連づけられたプラグインパーツを更新します。

プラグインパーツの更新が必要となる条件と更新手順については、「6.7 ユーザプラグイン（入出力）の更新」を参照してください。

6.6.4 開発環境から受け取ったファイルを削除する手順

開発環境から受け取って適用したファイルを削除する手順を説明します。

手順の前提条件

ファイルを適用する編集環境または実行環境の条件を次に示します。

- ナビゲーション プラットフォームが起動していること
- 手順が完了するまで、ナビゲーション プラットフォームにログインしないこと
- 削除対象の入出力プラグインを関連づけている業務コンテンツが存在しないこと

業務編集画面でマッピング一覧ファイルを出力すると、プラグインと関連づけられている業務コンテンツを確認できます。マッピング一覧ファイルの出力手順については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド」を参照してください。

1. 次のとおりコマンドを実行して、更新するユーザプラグインの状態を確認します。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥admin¥bin¥cjlistapp
uCNP_J2EE
```

J2EE アプリケーション名（ユーザプラグイン名）の左側にユーザプラグインの状態が表示されます。

- running：ユーザプラグインは開始状態です。
- stopped：ユーザプラグインは停止状態です。

2. 削除するユーザプラグインが開始状態の場合は、次のとおりコマンドを実行して停止します。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥admin¥bin¥cjstopapp
uCNP_J2EE -name ユーザプラグイン名
```

3. 次のとおりコマンドを実行して、ユーザプラグインを削除します。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥CC¥admin¥bin
¥cjdeleteapp uCNP_J2EE -name ユーザプラグイン名
```

4. J2EE サーバの設定を変更している場合は、開発環境から受け取った J2EE サーバ用ユーザプロパティファイル (usrconf.properties) および J2EE サーバ用オプション定義ファイル (usrconf.cfg) の内容を実行環境に反映します。

5. 削除したユーザプラグインが使用していたライブラリファイルがある場合、ほかにそのファイルを使用しているユーザプラグインがないときは、ライブラリを削除します。

ライブラリファイルは、次に示すディレクトリに格納されている、拡張子が.jar のファイルです。

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥plugin_files¥usrlib

6. ライブラリファイルを削除した場合は、削除したライブラリファイルを指定した add.class.path キーが、usrconf.cfg ファイルから削除されていることを確認します。

usrconf.cfg ファイルの格納場所

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥plugin_files¥j2ee_usrconf
¥usrconf.cfg
```

7. 必要に応じて、不要になったリソースアダプタを削除します。

リソースアダプタの削除手順については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。

8. 必要に応じて、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) を編集します。

ユーザプラグインの種類によって、編集が必要なプロパティが異なります。ユーザプラグインごとに設定が必要なプロパティについては、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド」を参照してください。

9. ナビゲーション プラットフォームを再起動します。

6.7 ユーザプラグイン（入出力）の更新

ユーザプラグインが入出力プラグインの場合、ioaction.xml ファイルを更新すると、更新内容を有効にするために別環境を用意したり、プラグインのマッピングをやり直したりする必要があります。

ここでは、ユーザプラグイン（入出力）を更新する方法を説明します。

6.7.1 ユーザプラグイン（入出力）を更新する

ここでは、ユーザプラグイン（入出力）を更新する手順について説明します。ユーザプラグイン（入出力）の更新は、システム管理者が実施します。更新は、メンテナンス（運用停止）期間中に実施してください。

更新の対象となる項目と、更新時に実行される処理については、「[6.7.5 更新対象の項目](#)」を参照してください。

1. 作業用ディレクトリを作成します。
2. 次のコマンドを実行し、すべての業務コンテンツをエクスポートします。また、エクスポートした業務コンテンツのエクスポート一覧ファイルを取得します。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ%bin%npexport -l 一覧ファイル出力先 作業用ディレクトリ%contents_before.zip
```

3. エクスポート一覧ファイルを開き、業務コンテンツの版の数（ヘッダ 1 行とアクセス権グループ一覧を除いた行数）を数えます。

数えた行数をもとに実行時間を見積もります。実行時間は次の計算式で計算してください。

プラグインパーツ更新の実行時間（単位：秒） = （業務コンテンツの版の数） × 2

ポイント

実行時間の見積もりが、運用を停止できる時間の範囲に収まらない場合は、[プラグインパーツ更新] 画面で、次の方法で更新対象の版を減らすことができます。

- 対象とする業務コンテンツの版を [古い公開版業務コンテンツを除く] に変更します。[古い公開版を除く] を選択した場合、更新する版の数が減少するため、実行時間が短縮されます。ただし、古い公開版から派生して業務コンテンツを更新する場合、プラグインパーツをすべて配置し直す必要があります。
- 対象とする業務コンテンツの入出力プラグインの有無を、[選択した入出力プラグインを含む業務コンテンツ] に変更します。更新対象のユーザプラグイン（入出力）の数を減らすため、更新する版の数が減少する場合があります。

4. メンテナンス機能を有効にするため、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.maintenance.enable プロパティに true を指定します。

5. ナビゲーション プラットフォームを再起動します。

6. システム管理者の ID でナビゲーション プラットフォームにログインし、[プラグインパーツ更新] 画面を表示させます。

7. 画面の指示に従い、プラグインパーツの更新処理を行います。

- 定期的に [再表示] ボタンをクリックし、処理の進捗状況を確認してください。
- 画面に表示される更新対象の版の数が想定よりも多く、やり直したい場合や、見積もった時間内に終わらないので処理を中止したい場合は、[中止] ボタンをクリックしてください。
- [中止] ボタンをクリックして更新を中止した場合は、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.maintenance.enable プロパティに false を指定してナビゲーション プラットフォームを再起動し、作業用ディレクトリにエクスポートした contents_before.zip をインポートし直してください。

8. ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.maintenance.enable プロパティに false を指定します。

9. ナビゲーション プラットフォームを再起動します。

6.7.2 [プラグインパーツ更新] 画面 (更新対象の選択) の項目

[プラグインパーツ更新] 画面 (更新対象の選択) を次に示します。

(1) [業務コンテンツの版] ラジオボタン

対象とする版を選択します。[すべて]、[古い公開版業務コンテンツを除く] のどちらかから選択します。

(2) [入出力プラグインの有無] ラジオボタン

対象とするプラグイン（入出力）を選択します。[すべて]、[選択した入出力プラグインを含む業務コンテンツ] のどちらかから選択します。なお、[選択した入出力プラグインを含む業務コンテンツ] を選択した場合、対象とするプラグイン（入出力）をチェックボックスで選択できるようになります。チェックボックスで選択したプラグイン（入出力）が更新対象になります。

(3) [実行] ボタン

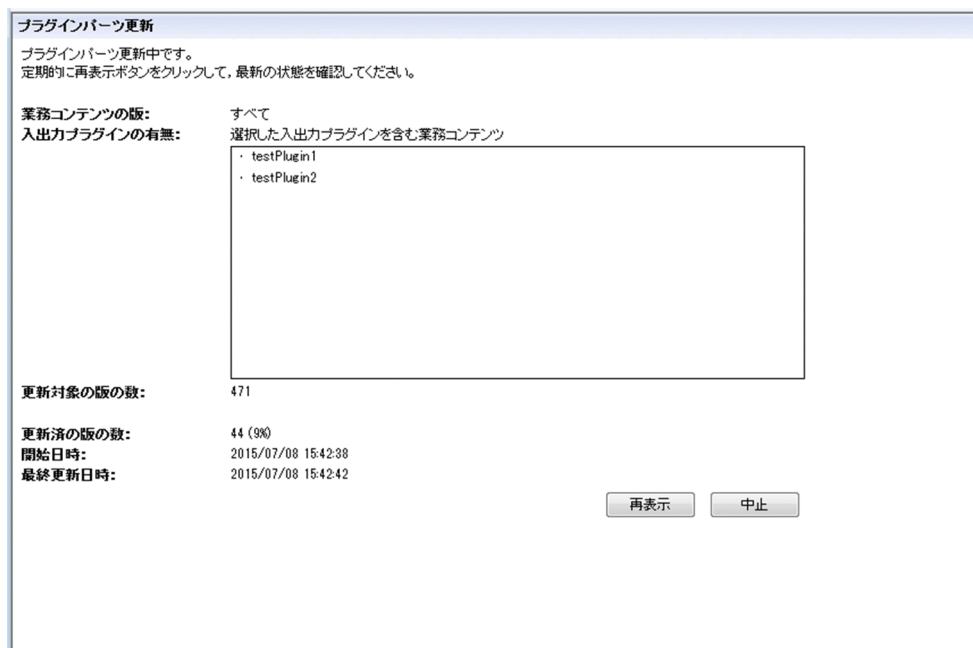
クリックすると、プラグインの更新処理を実行します。

(4) [閉じる] ボタン

クリックすると、[プラグインパーツ更新] 画面が閉じます。

6.7.3 [プラグインパーツ更新] 画面（更新処理中）の項目

[プラグインパーツ更新] 画面（更新処理中）を次に示します。



(1) [業務コンテンツの版]

[プラグインパーツ更新] 画面（更新対象の選択）で選択した対象が表示されます。

(2) [入出力プラグインの有無]

[プラグインパーツ更新] 画面（更新対象の選択）で選択した対象が表示されます。

(3) 【更新対象の版の数】

更新対象の版の数が表示されます。更新対象の版の検索が完了していない場合は表示されません。

(4) 【更新済の版の数】

更新済の版の数と全体に対する割合が表示されます。更新対象の版の検索が完了していない場合は表示されません。

(5) 【開始日時】

プラグインパーツ更新処理を開始した日時を表示します。

(6) 【最終更新日時】

[プラグインパーツ更新] 画面を更新した日時を表示します。

(7) 【再表示】 ボタン

クリックすると、[プラグインパーツ更新] 画面を更新します。プラグインパーツ更新処理の進捗状況を更新するときにクリックします。

(8) 【中止】 ボタン

クリックすると、更新処理を中止しても問題ないかどうかを確認するダイアログが表示されます。更新処理を中止したい場合には、ダイアログの [OK] ボタンをクリックしてください。

6.7.4 【プラグインパーツ更新】 画面（更新処理完了）の項目

[プラグインパーツ更新] 画面（更新処理完了）を次に示します。



(1) [業務コンテンツの版]

[プラグインパーツ更新] 画面 (更新対象の選択) で選択した対象が表示されます。

(2) [入出力プラグインの有無]

[プラグインパーツ更新] 画面 (更新対象の選択) で選択した対象が表示されます。

(3) [更新対象の版の数]

更新対象の版の数が表示されます。

(4) [更新済の版の数]

更新済の版の数と全体に対する割合が表示されます。

(5) [開始日時]

プラグインパーツ更新処理を開始した日時を表示します。

(6) [終了日時] ラベル

プラグインパーツ更新処理が完了した日時を表示します。

(7) [閉じる] ボタン

クリックすると、[プラグインパーツ更新] 画面が閉じます。

6.7.5 更新対象の項目

[プラグインパーツ更新] 画面でプラグイン（入出力）更新する際、更新対象となる項目と実行される更新処理を次に示します。

表 6-5 [プラグインパーツ更新] 画面で更新対象となる項目と実行される更新処理

項番	項目	実行される更新処理
1	パラメタの追加	パラメタだけが追加され、新しいマッピング線は引かれません。
2	パラメタの削除	削除したパラメタに関連づけていたマッピング線が削除されます。
3	パラメタの移動（入力パラメタ同士または出力パラメタ同士を入れ替えた場合）	マッピング線を維持したまま、パラメタの位置だけの変更されます。
4	パラメタの移動（入力パラメタと出力パラメタを入れ替えた場合）	マッピング線が削除され、パラメタの位置が変更されます。
5	パラメタ名の変更	変更前の名称のパラメタに関連づけていたマッピング線が削除されます。
6	パラメタの説明	変更後の説明に更新されます。
7	入出力プラグインの説明	変更後の説明に更新されます。
8	入出力プラグインの実行順序	変更後の順序に更新されます。
9	実行確認ダイアログフラグ	変更後の内容に更新されます。
10	プレビュー画面実行フラグ	変更後の内容に更新されます。
11	ボタン種別での実行抑止	変更後の内容に更新されます。
12	ボタン種別での実行抑止の互換オプション	変更後の内容に更新されます。
13	入出力アクションコントローラクラスを識別する文字列	変更後の文字列に更新されます。
14	プラグインパーツのプラグインアイコンの変更	変更後のプラグインアイコンに更新されます。

6.8 検索用データの更新

業務実行画面に [検索] タブを表示して、業務コンテンツ内で使われている用語を検索できるようにしている場合、検索の対象となる検索用データを定期的に更新する必要があります。検索用データは、次のどちらかの方法で更新できます。

- 手動で `npupdatesearchdata` コマンドを実行する。
- `npupdatesearchdata` コマンドが自動で実行されるようにプロパティファイルを設定する。

`npupdatesearchdata` コマンドの自動実行の設定については、「[8.4 サービスプロパティファイル \(ucnp_service.ini\) の設定](#)」を参照してください。

`npupdatesearchdata` コマンドの自動実行を設定しない場合は、次のときに手動でコマンドを実行してください。

- 業務コンテンツを新規に公開した場合
- 公開版の業務コンテンツを編集した場合
- 公開版の業務コンテンツを削除、または非公開にした場合
- `npimport` コマンドまたは `nppubimport` コマンドで業務コンテンツを更新した場合

ポイント

`npimport` コマンドまたは `nppubimport` コマンドで多数の業務コンテンツをまとめて更新した場合は、`npupdatesearchdata` コマンドの自動実行を設定している場合も、手動でコマンドを実行して検索用データを更新することを推奨します。

6.9 業務コンテンツで使用する静的ファイルの管理

この節では、業務コンテンツやカスタム画面で使用する静的ファイル（画像ファイルや HTML ファイルなど）を管理するときの注意事項を説明します。

参考

業務編集画面から静的ファイルを格納するためには、[ファイル管理/登録] メニューを使用します。業務編集画面に [ファイル管理/登録] メニューが表示されていない場合は、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.fileupload.link.display プロパティの指定値を見直してください。

6.9.1 業務編集画面から静的ファイルを格納する場合のファイル管理

業務編集画面の操作で静的ファイルを格納する場合、静的ファイルは次のディレクトリに格納されます。

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs
¥ucnpuserstaticfiles

ここでは、このディレクトリに対する操作と運用について説明します。

(1) ディスク容量の管理

サーバのディスク容量が不足することを防止するため、ファイルサーバーリソースマネージャのクォータ機能を利用してください。クォータ機能を利用して、業務編集画面から静的ファイルを格納するためのディレクトリ「ucnpuserstaticfiles」に対して容量制限の設定をしておきます。サーバのディスク容量を考慮し、「ucnpuserstaticfiles」に格納できるデータの容量の制限値を決めてください。制限値に達する前に警告の通知が送られるような設定にしておくこと、容量不足の防止に効果的です。

なお、業務コンテンツを削除しても、その業務コンテンツで使用していた静的ファイルは残ります。静的ファイルの格納ディレクトリを定期的を確認して、不要なファイルは削除するようにしてください。

(2) ファイルへのアクセスの管理

業務編集画面から格納した静的ファイルは、業務編集画面を利用するすべてのユーザが参照・削除できます。アクセス制限などの管理をしたい静的ファイルは、業務編集画面から格納するのではなく、ほかのディレクトリに直接格納してください。

(3) 操作時の注意

- 業務編集画面から静的ファイル进行操作しているときに、サーバ上でも同じ静的ファイル进行操作すると、動作は保証されません。また、アップロード処理または削除処理の途中で Web ブラウザの [×] ボタンで画面を閉じってしまうと、処理が失敗するおそれがあるため、注意が必要です。

- ナビゲーション プラットフォームの画面を閉じる場合、[ファイル管理/登録] 画面を閉じてから閉じるようにしてください。誤って [ファイル管理/登録] 画面を開いたまま、ナビゲーション プラットフォームの画面を閉じてしまった場合、[ファイル管理/登録] 画面も閉じてください。

6.9.2 Web サーバのディレクトリに直接静的ファイルを格納する場合のファイル管理

業務編集画面に [ファイル管理/登録] メニューを表示していない場合は、Web サーバの任意のディレクトリに直接静的ファイルを格納する必要があります。また、業務編集画面の [ファイル管理/登録] メニューからは、静的ファイルを 1 ファイルずつしか格納できないため、複数の静的ファイルを一度に Web サーバへ格納する場合は、Web サーバのディレクトリに直接格納する方がスムーズです。

静的ファイルを Web サーバのディレクトリに直接格納する場合の注意事項を次に示します。

(1) 格納ディレクトリの決め方

ナビゲーション プラットフォームの Web サーバのディレクトリに格納した静的ファイルを、業務コンテンツに配置する場合、静的ファイルの相対パスを指定します。このパスは、ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs を基点とした相対パスとなります。そのため、パスが複雑にならないよう、htdocs ディレクトリから近いディレクトリに画像ファイルを格納することをお勧めします。

静的ファイル格納後は、コンテンツ格納ディレクトリからの相対パスをコンテンツ管理者とコンテンツ編集者に通知してください。

(2) ファイル名とディレクトリ名の制限

ナビゲーション プラットフォームの Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ [ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs] の直下には、「ucnpuserstaticfiles」ディレクトリ以外に、「ucnp」で始まるファイルまたはディレクトリを作成しないでください。「ucnp」はナビゲーション プラットフォームのシステムで予約されている名称のためです。この名称のファイルまたはディレクトリを作成した場合の動作は保証されません。

また、「ucnpuserstaticfiles」ディレクトリ以外の、「ucnp」で始まるディレクトリの中に存在するディレクトリおよびファイルを編集しないでください。編集した場合の動作は保証されません。

6.9.3 業務コンテンツをエクスポートまたはインポートする場合の注意事項

業務コンテンツで使用する静的ファイルは、コマンドで自動的にエクスポートまたはインポートすることはできません。業務コンテンツで使用している静的ファイルがどこに格納されているかを確認し、必ず手動でコピーして移動させてください。

7

ナビゲーション プラットフォームの画面のカスタマイズ

この章では、ナビゲーション プラットフォームの画面をどのようにカスタマイズできるのかについて説明します。

7.1 プロパティの設定による画面のカスタマイズ

ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の設定を変更すると、ナビゲーションプラットフォームの画面の見映えや機能をカスタマイズできます。カスタマイズできる項目の例を次に示します。

- 業務実行画面のボタンの大きさ
- メニュー領域、業務フロー領域、ガイド領域の幅
- ヘッダ領域に表示するメニューまたはボタン
- プロセスノードのデザイン
- 関連線の色
- ログイン画面の画像、文字列

カスタマイズに使用するプロパティの名称や指定値などの詳細については、「[8.5 ユーザプロパティファイル \(ucnp_user.properties\) の設定](#)」を参照してください。

参考

ナビゲーションプラットフォームにログイン後に業務実行画面または業務編集画面以外の別画面を表示させたい場合は、カスタム画面プラグインの開発が必要になります。カスタム画面プラグインの開発については、マニュアル「[ナビゲーションプラットフォーム 開発ガイド](#)」を参照してください。

8

プロパティ

この章では、ナビゲーションプラットフォームのプロパティファイルについて説明します。プロパティファイルは、セットアップ時に作成します。

8.1 設定が必要なプロパティファイル

システム構築時に設定が必要なプロパティファイルを次の表に示します。

表 8-1 プロパティファイルの種類

種類	ファイル名	用途	参照先
ユーザセットアッププロパティファイル	ucnp_setup_user.properties	npsetup コマンド (セットアップ) の実行時に適用されるセットアップ情報を指定します。 <ul style="list-style-type: none">ディレクトリサーバに関する情報ポート番号 など	8.3
サービスプロパティファイル	ucnp_service.ini	検索用のデータの更新間隔や操作ログの解析時刻を指定します。	8.4
ユーザプロパティファイル	ucnp_user.properties	ナビゲーション プラットフォームの動作環境を指定します。 <ul style="list-style-type: none">画面表示トレース情報 など	8.5
ユーザメッセージプロパティファイル	ucnp_message_user.properties	業務実行画面のガイド領域に表示されるメッセージをカスタマイズします。 <ul style="list-style-type: none">業務完了時に表示されるメッセージ必須のチェックボックスが未チェックの場合に表示されるメッセージ など	8.6
ユーザラベルプロパティファイル	ucnp_label_user.properties	業務実行画面のヘッダ領域のツールリンクに表示されるリンクの表示文字列をカスタマイズします。	8.7

注意事項

- この表のプロパティファイルに記述されているプロパティのうち、以降で説明しているプロパティ以外は編集しないでください。
- 環境を構築する際、管理者としてプロパティファイルをコピーしてください。管理者としてコピーしないと、プロパティファイルがユーザフォルダにリダイレクトされるため、正しくコピーされません。また、設定値を変更するときには、エディタを [管理者として実行] で起動してから、プロパティファイルを編集してください。
- ユーザセットアッププロパティファイル以外のプロパティファイルを編集した場合、編集後の設定をナビゲーション プラットフォームに反映させるためには、ナビゲーション プラットフォームの再起動が必要です。npstop コマンド (停止) を実行したあと、npstart コマンド (起動) を実行してください。

8.2 プロパティファイルの記述形式

この節では、プロパティファイルの記述形式について説明します。記述形式は、サービスプロパティファイルとその他のプロパティファイルとで異なります。

8.2.1 プロパティファイルを記述する際の注意事項（サービスプロパティファイルの場合）

サービスプロパティファイルを記述する際の注意事項を次に示します。

- プロパティキーと値の間には「=」を記述してください。
- 値に使用できる文字は、半角英数字だけです。半角英数字以外の文字を値に指定した場合、動作は保証されません。
- 行ごとに独立したプロパティと見なされます。行末文字またはファイルの終端までが、1つのプロパティです。
- 行頭文字に「;」を指定した場合、行全体がコメントと見なされます。
- 文字コードは UTF-8 です。

8.2.2 プロパティファイルを記述する際の注意事項（サービスプロパティファイル以外の場合）

サービスプロパティファイル以外のプロパティファイルを記述する際の注意事項を次に示します。なお、説明中の「空白文字」は半角スペース、タブまたは改行を指します。

- Java 2 Platform, Standard Edition のプロパティファイル形式です。
- プロパティキーと値の間には「:」または「=」を記述してください。
- プロパティ値にマルチバイト文字を含む文字を指定する場合は、Java ツールの `native2ascii` を実行して文字コードを変換する必要があります。
- プロパティキーの次の文字（空白文字を除く）が「:」または「=」の場合、その次の文字（空白文字を除く）から行末の文字までが値として解釈されます。
- プロパティキーの次の文字（空白文字を除く）が「:」または「=」でない場合、その文字から行末文字までが値として解釈されます。
- 値の後ろに空白文字を付加した場合、値の一部と解釈されます。
- 値の中に「:」、「=」、「#」、または「!」が使用されている場合、値の一部と解釈されます。
- Windows の予約デバイス名（CON, AUX, COM n (n は 1~9), LPT n (n は 1~9), PRN, NUL, CLOCK\$) は使用できません。

- 行頭文字に「#」または「!」を指定した場合、行全体がコメントと見なされます。
- 行頭に続く空白文字は無視されます。
- ディレクトリを指定する場合、区切り文字（記号）には、「¥¥」または「/」を使用してください。

```
例 : ucnp.base.server.auditlog.path = C:¥¥Program Files¥¥Hitachi¥¥HNP¥¥auditlog¥
¥ucnp_audit
```

- 指定した値の大文字と小文字は区別されます。

8.2.3 エスケープシーケンスの指定

サービスプロパティファイル以外のプロパティファイルを記述するときに、指定できるエスケープシーケンスを次に示します。

表 8-2 エスケープシーケンス一覧

エスケープシーケンス	説明
¥t	タブ
¥n	ラインフィード（改行）
¥f	フォームフィード（改ページ）
¥r	キャリッジリターン（行頭復帰）
¥"	ダブル引用符（"）
¥'	シングル引用符（'）
¥¥	バックスラッシュ

エスケープシーケンスの注意事項を次に示します。

- 8進数の Unicode エスケープは認識されません。ただし、無効な Unicode エスケープを指定するとエラーになります。
- 無効なエスケープシーケンスを指定すると、「¥」を削除してその次の文字を通常文字と見なします。例えば、「¥v」というエスケープシーケンスを指定すると、「v」を指定したと見なされます。

識別名（Distinguished Name）を設定するキーの場合、識別名を構成する属性値をエスケープしてください。エスケープ対象文字およびエスケープシーケンスを次に示します。

表 8-3 エスケープシーケンス一覧

エスケープ対象文字	エスケープシーケンス
「 」（半角スペース）	¥20
「#」（半角番号記号）	¥23
「"」（半角ダブルクォーテーション）	¥22

エスケープ対象文字	エスケープシーケンス
「¥」 (半角円マーク)	¥5C
「/」 (半角スラッシュ)	¥2F
「,」 (半角コンマ)	¥2C
「+」 (半角プラスサイン)	¥2B
「<」 (半角小なり)	¥3C
「>」 (半角大なり)	¥3E
「;」 (半角セミコロン)	¥3B
「=」 (半角イコール)	¥3D

対象となるプロパティを次に示します。

- ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.principal プロパティ
- ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.basedn プロパティ
- ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.ldap.group.basedn プロパティ

8.3 ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の設定

ユーザセットアッププロパティファイルの設定方法について説明します。

ユーザセットアッププロパティファイルを作成するには、サンプルファイルを所定のディレクトリにコピーして作成すると便利です。

8.3.1 ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) のプロパティ一覧

ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 8-4 ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の設定内容

項番	プロパティキー	設定内容	デフォルト値
1	ucnp.setup.server.ldap.directory.kind	ユーザ認証の種別	PasswordSkip
2	ucnp.setup.server.jplauth.virtual.hostname	ユーザ認証用の論理ホストの名称	JPI_DEFAULT
3	ucnp.setup.server.cosminexus.debug.enable	Eclipse のリモートデバッグの設定有無	false
4	ucnp.setup.server.cosminexus.debug.jdwp.port	開発環境の Eclipse でリモートデバッグする際の待ち受けポート番号	8000
5	ucnp.setup.server.system.admin.userids	システム管理者 ID	user1
6	ucnp.setup.server.ldap.hostname	ディレクトリサーバのホスト名	localhost
7	ucnp.setup.server.ldap.port	ディレクトリサーバのポート番号	389
8	ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.principal	ディレクトリサーバにアクセスする際の認証者の識別子	cn=user1, cn=Users, dc=hitachi, dc=jp
9	ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.credentials	ディレクトリサーバにアクセスする際の認証者の識別子に対応するパスワード	password
10	ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.basedn	JAAS 対応ユーザ管理でのリポジトリのベース DN	cn=Users, dc=hitachi, dc=jp
11	ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.attr.userid	ユーザのログイン ID を示す属性名	sAMAccountName
12	ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.attr.password	ユーザのパスワードを示す属性名	unicodePwd
13	ucnp.setup.server.ldap.group.basedn	所属グループ情報のベース DN	dc=hitachi,dc=jp
14	ucnp.setup.server.db.port	データベースサーバのポート番号	24704

項番	プロパティキー	設定内容	デフォルト値
15	ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.http.port	簡易 Web サーバのポート番号	24701
16	ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.rmi.naming.port	J2EE サーバが利用する RMI レジストリのポート番号	24702
17	ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.connector.ajp13.port	Web サーバとの通信に使用するポート番号	24703
18	ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port	Cosminexus HTTP Server がリクエストを受け付けるポート番号	80
19	ucnp.setup.server.portal.manager.http.port	Portal Manager の簡易 Web サーバのポート番号	24710
20	ucnp.setup.server.portal.manager.ajp13.port	Portal Manager の Web コンテナとの通信用ポート番号	24711
21	ucnp.setup.server.portal.manager.rmi.naming.port	Portal Manager が利用する RMI レジストリのポート番号	24712
22	ucnp.setup.server.portal.manager.naming.port	Portal Manager がネーミングサービスとして利用する CORBA ネーミングサービスのポート番号	24713
23	ucnp.setup.server.portal.user.displayname	Active Directory のユーザ表示名の種別	displayName
24	ucnp.setup.server.dashboard.storage.http.port	ダッシュボードストレージサービスの HTTP ポート番号	24705
25	ucnp.setup.server.dashboard.storage.transport.tcp.port	ダッシュボードストレージサービスのノード間通信のポート番号	24706
26	ucnp.setup.server.dashboard.web.server.port	ダッシュボード Web サービスの HTTP ポート番号	24707
27	ucnp.setup.server.dashboard.web.userid	ダッシュボードアクセスユーザのユーザ ID	dashboard1
28	ucnp.setup.server.dashboard.web.password	ダッシュボードアクセスユーザのパスワード	ucnpDashboard01

なお、ユーザセットアッププロパティファイルで指定するポート番号には、必ず、使用されていないポート番号を指定してください。使用中のポート番号を指定した場合、動作は保証されません。

8.3.2 ユーザセットアッププロパティファイルの格納先

ユーザセットアッププロパティファイルの格納先を次に示します。

プロパティファイルの格納先

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf¥ucnp_setup_user.properties

ユーザセットアッププロパティファイルの記述例については、サンプルファイルを参照してください。サンプルファイルは、次のディレクトリに格納されています。

サンプルファイルの格納先

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥sample¥conf
¥ucnp_setup_user.properties
```

8.3.3 ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ詳細

ユーザセットアッププロパティファイルの各プロパティについて説明します。

ここで説明しているデフォルト値は、セットアップ後にシステムで自動的に指定される値です。ファイル記載値は、サンプルファイルに記載されている値がデフォルト値と異なる場合にだけ記載しています。

プロパティで指定するポート番号の注意事項

ユーザセットアッププロパティファイルの各プロパティには、すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。ほかのアプリケーションのポート番号を変更するか、ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティを変更してください。

(1) ユーザ認証の種別 (ucnp.setup.server.ldap.directory.kind)

ユーザ認証の種別を指定します。

指定できる値：

- PasswordSkip：ユーザ認証を利用しない（パスワード入力を省略する）
- AD：Active Directory によるユーザ認証を利用する
- JP1Auth：JP1/Base によるユーザ認証を利用する

デフォルト値：PasswordSkip

「AD」を指定した場合は、幾つかのプロパティの指定値を確認、または変更する必要があります。「AD」を指定した場合に確認が必要なプロパティについては「[4.2 Active Directory によるユーザ認証を利用する場合のセットアップ準備](#)」を参照してください。

(2) ユーザ認証用の論理ホストの名称 (ucnp.setup.server.jp1auth.virtual.hostname)

ナビゲーション プラットフォームと同じマシン上にある JP1/Base が論理ホスト環境の場合、論理ホスト名を指定します。論理ホスト環境ではない、またはユーザ認証を利用しない場合は、このプロパティの設定はデフォルト値のまま変更する必要はありません。

ucnp.setup.server.ldap.directory.kind プロパティの値が「JP1Auth」の場合、この値は、ucnp.base.server.jp1auth.virtual.hostname プロパティの値として、セットアップ時に自動でユーザブ

ロパティファイルに設定されます。セットアップ後に値を変更したい場合は、ユーザプロパティファイルで `ucnp.base.server.jp1auth.virtual.hostname` プロパティの値を変更してください。

指定できる値：

デフォルトから変更する場合は、1文字以上196文字以下の半角英数字および半角ハイフンを組み合わせてください。63文字以下の名称とすることを推奨します。

デフォルト値：`JP1_DEFAULT`

(3) Eclipse のリモートデバッグの設定有無 (`ucnp.setup.server.cosminexus.debug.enable`)

Eclipse でリモートデバッグするための設定を追加するかどうかを指定します。開発環境の場合は「`true`」を指定します。実行環境の場合は「`false`」を指定します。

指定できる値：

- `true`：リモートデバッグする
- `false`：リモートデバッグしない

デフォルト値：`false`

補足事項

- 実行環境で「`true`」を設定した場合の動作は保証されません。
- 大文字と小文字は区別されません。

(4) 開発環境の Eclipse でリモートデバッグする際の待ち受けポート番号 (`ucnp.setup.server.cosminexus.debug.jdwp.port`)

開発環境の Eclipse でリモートデバッグする際の、待ち受けポート番号を指定します。

`ucnp.setup.server.cosminexus.debug.enable` プロパティの値が「`false`」の場合は無視されます。リモートデバッグする際は、このプロパティに指定したポート番号に接続してください。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：`8000`

(5) システム管理者 ID (`ucnp.setup.server.system.admin.userids`)

ナビゲーション プラットフォームのシステム管理者を指定します。ナビゲーション プラットフォームにログインできるユーザ ID を指定してください。

システム管理者を複数指定する場合は、ユーザ ID をコンマ (,) で区切った CSV 形式で指定します。ユーザ ID は 20 個まで指定できます。指定する際は、ユーザ ID の前後に余分な空白を入力しないでください。

指定できる値：

- ダブルクォーテーション (") を除く半角英数字の文字列
- 1つのユーザ ID につき 31 文字以内の半角英数字の文字列

なお、空文字列は指定できません。

デフォルト値：user1

補足事項

- セットアップ時にこのプロパティの値が `ucnp.base.server.system.admin.userids` プロパティに設定されます。
- このプロパティは `ucnp.setup.server.ldap.directory.kind` プロパティに「JP1Auth」以外を指定した場合だけ有効となります。

(6) ディレクトリサーバのホスト名 (`ucnp.setup.server.ldap.hostname`)

ディレクトリサーバのホスト名を指定します。ディレクトリサーバを使用しない場合は、値をファイル記載値のままとしてください。

指定できる値：半角英数字，および半角ハイフン(-)

デフォルト値：localhost

(7) ディレクトリサーバのポート番号 (`ucnp.setup.server.ldap.port`)

ディレクトリサーバのポート番号を指定します。ディレクトリサーバを使用しない場合は、値をファイル記載値のままとしてください。すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：389

(8) ディレクトリサーバにアクセスする際の認証者の識別子 (`ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.principal`)

ディレクトリサーバにアクセスする際の認証者の識別子を指定します。JIS 第一水準の範囲で日本語も指定できます。必要に応じて、値のエスケープを実施してください。詳細は、「[8.2.3 エスケープシーケンスの指定](#)」を参照してください。ディレクトリサーバを使用しない場合は、値をファイル記載値のままとしてください。

指定できる値：文字列

デフォルト値：cn=user1, cn=Users, dc=hitachi, dc=jp

(9) ディレクトリサーバにアクセスする際のパスワード (ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.credentials)

ディレクトリサーバにアクセスする際の認証者の識別子

(ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.principal) に対応するパスワードを指定します。ディレクトリサーバを使用しない場合は、値をファイル記載値のままとしてください。

指定できる値：文字列

デフォルト値：password

(10) JAAS 対応ユーザ管理でのリポジトリのベース DN (ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.base dn)

JAAS 対応ユーザ管理でのリポジトリのベース DN を指定します。JIS 第一水準の範囲で日本語も指定できます。必要に応じて、値のエスケープを実施してください。詳細は、「[8.2.3 エスケープシーケンスの指定](#)」を参照してください。ディレクトリサーバを使用しない場合は、値をファイル記載値のままとしてください。

指定できる値：文字列

デフォルト値：cn=Users, dc=hitachi, dc=jp

(11) ユーザのログイン ID を示す属性名 (ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.attr. userid)

ユーザのログイン ID を表す属性名を指定します。ディレクトリサーバを使用しない場合は、値をファイル記載値のままとしてください。

指定できる値：文字列

デフォルト値：sAMAccountName

(12) ユーザのパスワードを示す属性名 (ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.attr. password)

ユーザのパスワードを表す属性名を指定します。ディレクトリサーバを使用しない場合は、値をファイル記載値のままとしてください。

指定できる値：文字列

デフォルト値：unicodePwd

(13) 所属グループ情報のベース DN (ucnp.setup.server.ldap.group.basedn)

所属グループ情報のベース DN を指定します。JIS 第一水準の範囲で日本語も指定できます。ディレクトリサーバを使用しない場合は、値をファイル記載値のままとしてください。必要に応じて、値のエスケープを実施してください。詳細は、「[8.2.3 エスケープシーケンスの指定](#)」を参照してください。

指定できる値：文字列

デフォルト値：dc=hitachi,dc=jp

(14) データベースサーバのポート番号 (ucnp.setup.server.db.port)

データベースサーバのポート番号を指定します。

指定できる値：5001～65535 の整数値

デフォルト値：24704

(15) 簡易 Web サーバのポート番号 (ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.http.port)

簡易 Web サーバのポート番号を指定します。すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：24701

(16) J2EE サーバが利用する RMI レジストリのポート番号 (ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.rmi.naming.port)

J2EE サーバが利用する RMI レジストリのポート番号を指定します。すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：24702

(17) Web サーバとの通信に使用するポート番号

(ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.connector.ajp13.port)

Web サーバとの通信に使用するポート番号を指定します。すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：24703

(18) Cosminexus HTTP Server がリクエストを受け付けるポート番号

(ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port)

Cosminexus HTTP Server (Web サーバ) がリクエストを受け付けるポート番号を指定します。すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：80

(19) Portal Manager の簡易 Web サーバのポート番号

(ucnp.setup.server.portal.manager.http.port)

Portal Manager の簡易 Web サーバのポート番号を指定します。すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：24710

(20) Portal Manager の Web コンテナとの通信用ポート番号

(ucnp.setup.server.portal.manager.ajp13.port)

Portal Manager の Web コンテナとの通信用ポート番号を指定します。すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：24711

(21) Portal Manager が利用する RMI レジストリのポート番号 (ucnp.setup.server.portal.manager.rmi.naming.port)

Portal Manager が利用する RMI レジストリのポート番号を指定します。すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：24712

(22) Portal Manager がネーミングサービスとして利用する CORBA ネーミングサービスのポート番号 (ucnp.setup.server.portal.manager.naming.port)

Portal Manager がネーミングサービスとして利用する CORBA ネーミングサービスのポート番号を指定します。すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：24713

(23) Active Directory のユーザ表示名の種別 (ucnp.setup.server.portal.user.displayname)

Active Directory のユーザ表示名の種別を指定します。

指定できる値：文字列

デフォルト値：displayName

補足事項

- 空文字列は指定できません。

(24) ダッシュボードストレージサービスの HTTP ポート番号 (ucnp.setup.server.dashboard.storage.http.port)

ダッシュボードストレージサービスの HTTP ポート番号を指定します。すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：24705

(25) ダッシュボードストレージサービスのノード間通信のポート番号 (ucnp.setup.server.dashboard.storage.transport.tcp.port)

ダッシュボードストレージサービスのノード間通信のポート番号を指定します。すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：24706

(26) ダッシュボード Web サービスの HTTP ポート番号 (ucnp.setup.server.dashboard.web.server.port)

ダッシュボード Web サービスの HTTP ポート番号を指定します。すでにほかのアプリケーションで使用または確保されているポート番号は指定できません。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：24707

(27) ダッシュボードアクセスユーザのユーザ ID (ucnp.setup.server.dashboard.web.userid)

ダッシュボードアクセスユーザのユーザ ID を指定します。

指定できる値：31 文字以内の半角英数字の文字列

デフォルト値：dashboard1

補足事項

- 空文字列は指定できません。

(28) ダッシュボードアクセスユーザのパスワード (ucnp.setup.server.dashboard.web.password)

ダッシュボードアクセスユーザのパスワードを指定します。

指定できる値：32 文字以内の文字列

デフォルト値：ucnpDashboard01

補足事項

- 空文字列は指定できません。

8.4 サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) の設定

サービスプロパティファイルの設定方法について説明します。

8.4.1 サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) のプロパティ一覧

サービスプロパティファイルのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 8-5 サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) の設定内容

項番	プロパティキー	設定内容	デフォルト値
1	NPUPDIVAL	検索用データの更新間隔	0
2	NPANLTIME	操作ログの解析時刻	0000
3	NPDASHBOARDANLTIME	操作ログをダッシュボード機能で解析する時刻	0400

8.4.2 サービスプロパティファイルの格納先

サービスプロパティファイルはセットアップ時に自動で作成されます。サービスプロパティファイルの格納先を次に示します。

プロパティファイルの格納先

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf¥ucnp_service.ini

8.4.3 サービスプロパティファイルの詳細

(1) 検索用データの更新間隔 (NPUPDIVAL)

検索用データを更新する間隔を指定します。

0を指定すると、検索用データは更新されません。その場合、npupdatesearchdata コマンド（検索用データの更新）で検索用データを更新してください。

指定できる値：0 または 300～86400 の整数値（単位：秒）

デフォルト値：0（単位：秒）

補足事項

- 検索用データの更新処理中は、画面操作時の性能が低下します。このため、運用に合わせた値を設定してください。

- 検索機能を使用していない場合は、0 を指定してください。

(2) 操作ログの解析時刻 (NPANLTIME)

操作ログを解析する時刻を 24 時制で指定します。

このプロパティは次の条件を満たす場合だけ有効になります。

- ucnp.base.client.operationlog.enable プロパティに「true」が指定されている
- ucnp.base.client.directjump.enable プロパティに「all 以外」が指定されている

指定できる値：前 2 桁が「00～23」、後ろ 2 桁が「00～59」の範囲に収まる 4 桁の整数

デフォルト値：0000

指定例

解析ログを 1 時 30 分に実施する場合、「0130」と入力します。

補足事項

- このプロパティは、サーバの OS に応じたタイムゾーンで動作します。
- 操作ログの解析は時間が掛かります。また、解析処理中に業務コンテンツを操作した場合、操作に時間が掛かることがあります。このため、ナビゲーションプラットフォームへのアクセスが少ない時刻に解析することを推奨します。

(3) 操作ログをダッシュボード機能で解析する時刻 (NPDASHBOARDANLTIME)

操作ログをダッシュボード機能で解析する時刻を 24 時制で指定します。

このプロパティは次の条件を満たす場合だけ有効になります。

- ucnp.base.client.operationlog.enable プロパティに「true」が指定されている

指定できる値：前 2 桁が「00～23」、後ろ 2 桁が「00～59」の範囲に収まる 4 桁の整数

デフォルト値：0400

指定例

解析ログを 1 時 30 分に実施する場合、「0130」と入力します。

補足事項

- このプロパティは、サーバの OS に応じたタイムゾーンで動作します。
- 操作ログの解析は時間が掛かります。また、解析処理中に業務コンテンツを操作した場合、操作に時間が掛かることがあります。このため、ナビゲーションプラットフォームへのアクセスが少ない時間帯に解析することを推奨します。

8.5 ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の設定

ユーザプロパティファイルの設定方法について説明します。

8.5.1 ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) のプロパティ一覧

ユーザプロパティファイルのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 8-6 ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の設定内容

項番	プロパティキー	設定内容	デフォルト値
1	ucnp.base.server.system.admin.userids	システム管理者の ID	user1
2	ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.group	システム全体の JP1 資源グループ名	HNP
3	ucnp.base.server.jp1auth.virtual.hostname	JP1/Base の論理ホスト名	JP1_DEFAULT
4	ucnp.base.server.acl.defaultacl.name.japaneseonly	標準アクセス権限の名称について、Hitachi Navigation Platform 10-00 以前との互換性設定	false
5	ucnp.base.server.trace.size	トレースファイルのファイルサイズの上限值	51200
6	ucnp.base.server.trace.backup.number	トレースファイルの最大面数	16
7	ucnp.base.server.keeppsession.interval	リクエスト発信間隔	240
8	ucnp.base.client.frame.resize.target	Web ブラウザのウィンドウサイズ変更時、およびメニュー領域の折りたたみ時に幅を変更する領域	flow
9	ucnp.base.client.menu.frame.width	メニュー領域の幅 (ピクセル単位)	250
10	ucnp.base.client.flow.frame.width	業務フロー領域の幅 (ピクセル単位)	450
11	ucnp.base.client.guide.frame.width	ガイド領域の幅 (ピクセル単位)	540
12	ucnp.base.client.editingarea.width	業務フロー領域とガイド領域の幅の最大値 (ピクセル単位)	1500
13	ucnp.base.client.editingarea.height	業務フロー領域とガイド領域の高さの最大値 (ピクセル単位)	1500
14	ucnp.base.server.logoutbutton.display	ヘッダ領域の [ログアウト] ボタンの表示有無	true
15	ucnp.base.server.close.button.setting	ヘッダ領域の [閉じる] ボタンの表示有無	none
16	ucnp.base.server.print.link.display	印刷機能の使用有無	all

項番	プロパティキー	設定内容	デフォルト値
17	ucnp.base.server.custom.head.logo	ヘッダ領域のロゴ画像のパス	なし
18	ucnp.base.server.custom.login.main	ログイン画面のメイン画像のパス	/ucnpBase/images/login.jpg
19	ucnp.base.server.custom.login.background	ログイン画面の背景画像のパス	なし
20	ucnp.base.server.custom.login.string	ログイン画面に表示する文字列	Navigation Platform
21	ucnp.base.server.custom.browser.title	Web ブラウザのタイトルバーおよびタブ名の文字列	Navigation Platform
22	ucnp.base.server.custom.help	HTML マニュアルのパス	なし
23	ucnp.base.server.custom.link.[N] [N]は 1~9 の半角数字	[リンク 1~9] メニューに表示するリンクのパス	なし
24	ucnp.base.server.search.enable	検索機能の使用有無	false
25	ucnp.base.server.search.word.nearstr.num	複数ヒットした検索ワードの表示個数の最大値	3
26	ucnp.base.server.search.word.nearstr.length	ヒットした検索ワードの前後文字列の表示文字数	20
27	ucnp.base.server.search.abort.count	検索ヒット件数の最大値	10
28	ucnp.base.client.timezone	画面などに表示する日時項目のタイムゾーン	なし
29	ucnp.base.client.timezone.display	ヘッダ領域のタイムゾーン表示有無	none
30	ucnp.base.client.dateformat	画面などに表示する日時項目の日付フォーマット	yyyy/MM/dd
31	ucnp.base.client.timeformat.hms	画面などに表示する日時項目の時刻フォーマット (ミリ秒なし)	HH:mm:ss
32	ucnp.base.client.timeformat.hmsm	画面などに表示する日時項目の時刻フォーマット (ミリ秒あり)	HH:mm:ss.SSS
33	ucnp.base.client.parts.fontsize	業務実行画面の文字サイズのシステム設定値 (ピクセル単位)	12
34	ucnp.base.server.maintenance.enable	メンテナンス機能の可否	false
35	ucnp.base.client.confirm.page.unload.enable	画面の遷移または画面を閉じるときの確認ダイアログの表示有無	true
36	ucnp.base.client.menu.group.default	デフォルトのグループ名	空文字
37	ucnp.base.client.menu.frame.visible	業務実行画面のメニュー領域の表示有無	true
38	ucnp.base.client.flow.frame.visible	業務実行画面の業務フロー領域の表示有無	true

項番	プロパティキー	設定内容	デフォルト値
39	ucnp.base.server.htmlpart.css	HTML パーツで使用する CSS ファイルのパス	なし
40	ucnp.base.client.terminal.display	業務実行画面のターミナルノードの表示有無	false
41	ucnp.base.client.directjump.enable	業務フローの直接遷移の可否	true
42	ucnp.base.client.currentnode.color	業務実行画面に表示する選択状態のプロセスノードの色, および業務編集画面のガイド領域に表示中のプロセスノードの色	orange
43	ucnp.base.client.node.color	非選択状態/直接遷移可能状態のプロセスノードの色	gray
44	ucnp.base.client.directjump.design	直接遷移できるプロセスノードのデザイン	gradation
45	ucnp.base.client.node.checkmark.position	プロセスノードに表示するチェックマークの位置	left
46	ucnp.base.client.flow.connector.color	業務フロー領域の関連線の色	gray
47	ucnp.base.client.autoscroll	業務フロー領域の自動スクロール可否	true
48	ucnp.base.client.complete.button.window.close	業務実行画面で [完了] ボタンをクリックしたときの Web ブラウザ動作	false
49	ucnp.base.client.viewer.confirm.discardinput.enable	入力情報の破棄確認ダイアログの表示有無	true
50	ucnp.base.client.suspend.enable	中断再開プラグインの使用有無	false
51	ucnp.base.client.erroritem.emphasis.border.color	エラーのパーツを強調する枠の色	red
52	ucnp.base.client.operationlog.enable	操作ログ機能の使用有無	true
53	ucnp.base.server.operationlog.path	操作ログの出力先	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥ ¥operationlogs
54	ucnp.base.server.operationlog.backup.number	操作ログの最大面数	40
55	ucnp.base.server.operationlog.size	操作ログのファイルサイズの上限值	40960
56	ucnp.base.server.operationlog.user.analyze.info	操作ログの出力項目の設定	true
57	ucnp.base.server.operationlog.ranking.num	レポート画面に解析結果を表示する業務コンテンツ数	0

項番	プロパティキー	設定内容	デフォルト値
58	ucnp.base.server.operationlog.ranking.user.num	レポート画面に解析結果を表示するユーザ数	10
59	ucnp.base.client.auditlog.enable	監査ログの使用有無	false
60	ucnp.base.server.auditlog.path	監査ログの出力先	ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥ ¥auditlog¥ ¥ucnp_audit
61	ucnp.base.server.auditlog.backup.number	監査ログの最大面数	16
62	ucnp.base.server.auditlog.size	監査ログのファイルサイズの上限值	10240
63	ucnp.base.server.operationlog.report.target	レポート画面の解析対象の設定	latest
64	ucnp.base.server.geturl.link.display	業務実行画面のヘッダ領域の [URL取得] メニューの表示有無	true
65	ucnp.base.server.dashboard.link.display	操作ログのダッシュボード表示リンクの表示条件	false
66	ucnp.base.client.jp1imss.hostname	連携先の JP1/IM-SS のホスト名	localhost
67	ucnp.base.client.jp1imss.portnum	連携先の JP1/IM-SS のポート番号	24401
68	ucnp.base.client.jp1ao.hostname	連携先の JP1/AO のホスト名	localhost
69	ucnp.base.client.jp1ao.portnum	連携先の JP1/AO のポート番号	23015
70	ucnp.base.client.jp1ao.https.enable	連携先の JP1/AO が HTTPS 環境かどうか	false
71	ucnp.base.client.jp1ev.association.enable	JP1 イベント関連づけファイルの使用可否	false
72	ucnp.base.client.back.button.width	業務実行画面の [戻る] ボタンの幅 (ピクセル単位)	100
73	ucnp.base.client.next.button.width	業務実行画面の [次へ] ボタンの幅 (ピクセル単位)	130
74	ucnp.base.client.complete.button.width	業務実行画面の [完了] ボタンの幅 (ピクセル単位)	130
75	ucnp.base.client.branch.button.width	業務実行画面で分岐合流ノードを経由して次のノードへ遷移するためのボタンの横幅 (ピクセル単位)	130
76	ucnp.base.client.node.transition.button.height	業務実行画面のボタンの高さ	22
77	ucnp.base.client.operation.editor.enable	業務編集画面の表示有無	true

項番	プロパティキー	設定内容	デフォルト値
78	ucnp.base.client.grid.size	業務編集画面のグリッド間隔（ピクセル単位）	10
79	ucnp.base.client.undo.max.count	[元に戻す] ボタンの対象操作履歴の最大保持数	10
80	ucnp.base.server.fileupload.link.display	[ファイル管理/登録] メニューの表示有無	admin
81	ucnp.base.client.editor.jsp.plugin.toolpalette.display	[Plugins] パレットに表示するアイコン	false
82	ucnp.base.client.editor.name.display.type	コンテンツ編集者の名前の表示有無	userId
83	ucnp.base.client.menu.maxnum	業務コンテンツの最大数	500

8.5.2 ユーザプロパティファイルの格納先

ユーザプロパティファイルはセットアップ時に自動で作成されます。ユーザプロパティファイルの格納先を次に示します。

プロパティファイルの格納先

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf¥ucnp_user.properties

8.5.3 ユーザプロパティファイルのプロパティ詳細

ユーザプロパティファイルの各プロパティについて説明します。

プロパティの値を変更する場合は、ユーザプロパティファイルのコメントアウトを外し、任意の値を指定してください。ここで説明しているデフォルト値は、セットアップ後にシステムで自動的に指定される値です。ファイル記載値は、ユーザプロパティファイルにコメントアウトで記載されている値で、デフォルト値とファイル記載値が異なる場合に記載しています。

(1) システム管理者の ID (ucnp.base.server.system.admin.userids)

ナビゲーション プラットフォームのシステム管理者を指定します。ナビゲーション プラットフォームにログインできるユーザ ID を指定してください。指定は省略できません。

システム管理者を複数指定する場合は、ユーザ ID をコンマ (,) で区切った CSV 形式で指定します。ユーザ ID は 20 個まで指定できます。指定する際は、ユーザ ID の前後に余分な空白を入力しないでください。

指定できる値：

- ダブルクォーテーション (") を除く半角英数字の文字列
- 1 つのユーザ ID につき 31 文字以内の半角英数字の文字列

なお、空文字列は指定できません。

デフォルト値：user1

補足事項

- セットアップ時に `ucnp.setup.server.system.admin.userids` プロパティに指定した値が、このプロパティに自動的に設定されます。
- このプロパティは `ucnp.setup.server.ldap.directory.kind` プロパティに「JP1Auth」以外を指定した場合だけ有効となります。

(2) システム全体の JP1 資源グループ名 (`ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.group`)

ナビゲーション プラットフォームのシステム全体の JP1 資源グループの名称を指定します。

このプロパティは `ucnp.setup.server.ldap.directory.kind` プロパティに「JP1Auth」を指定したときだけ有効です。

編集環境と実行環境を分離したシステムで、両方の環境が同じ認証サーバを利用する場合などに、この設定値をユニークにしておくと、実行環境のすべての業務コンテンツにだけアクセスできるユーザを設定できます。

JP1 資源グループの詳細は、「4.3.1 ナビゲーション プラットフォームで使用できる JP1 資源グループ」を参照してください。

指定できる値：

- 半角英数字と_（半角アンダースコア）で構成されている 64 文字以内の文字列

デフォルト値：HNP

(3) JP1/Base の論理ホスト名 (`ucnp.base.server.jp1auth.virtual.hostname`)

JP1/Base の論理ホスト名を指定するためのプロパティです。

このプロパティは `ucnp.setup.server.ldap.directory.kind` プロパティに「JP1Auth」を指定したときだけ有効です。

セットアップ時に、`ucnp.setup.server.jp1auth.virtual.hostname` プロパティを指定した場合、セットアップ完了時に `ucnp.setup.server.jp1auth.virtual.hostname` プロパティで指定した値がこのプロパティの値として指定されます。セットアップ完了後に JP1/Base の論理ホスト名を変更したい場合は、このプロパティの値を設定してください。

`ucnp.setup.server.ldap.directory.kind` プロパティの詳細は、「8.3.3(1) ユーザ認証の種別 (`ucnp.setup.server.ldap.directory.kind`)」を参照してください。

デフォルト値：JP1_DEFAULT

(4) 標準アクセス権限の名称について、Hitachi Navigation Platform 10-00 以前との互換性設定 (ucnp.base.server.acl.defaultacl.name.japaneseonly)

標準アクセス権限の名称について、Hitachi Navigation Platform 10-00 以前との互換性を確保するためのプロパティです。このプロパティはバージョンアップ時に使用します。

指定できる値：

- true：標準アクセス権限の英語名が、標準アクセス権限以外のアクセス権限の名称で使用できる。
- false：標準アクセス権限の英語名は、標準アクセス権限以外のアクセス権限の名称で使用できない。

デフォルト値：false

(5) トレースファイルのファイルサイズの上限值 (ucnp.base.server.trace.size)

トレースファイルのファイルサイズの上限值を設定します。

トレースファイルについては、「[10. トラブルシューティング](#)」を参照してください。

指定できる値：4～2097151 の整数値（単位：KB）

デフォルト値：51200

(6) トレースファイルの最大面数 (ucnp.base.server.trace.backup.number)

トレースファイルの最大面数を設定します。

トレースファイルについては、「[10. トラブルシューティング](#)」を参照してください。

指定できる値：1～16 の整数値

デフォルト値：16

(7) リクエスト発信間隔 (ucnp.base.server.keeptime.interval)

セッションを維持するために、リクエストを定期的に発信するリクエスト発信の間隔を指定します。

0 を指定すると、セッション維持のためのリクエストは発信されません。

指定できる値：0 または 60～3600（単位：秒）

デフォルト値：240（単位：秒）

補足事項

セッションを維持するためのリクエスト送信は、ナビゲーションプラットフォームの画面でだけ有効です。ユーザが開発したカスタム画面では、使用できません。

(8) Webブラウザのウィンドウサイズ変更時、およびメニュー領域の折りたたみ時に幅を変更する領域 (`ucnp.base.client.frame.resize.target`)

Webブラウザのウィンドウサイズ変更時、およびメニュー領域の折りたたみ時に幅を変更する領域を指定します。

指定できる値：

- flow：業務フロー領域の幅を変更する
- guide：ガイド領域の幅を変更する

デフォルト値：flow

補足事項

`ucnp.base.client.flow.frame.visible` プロパティに「false」が指定されている場合、このプロパティの指定内容は業務編集画面に対してだけ有効です。この場合にプロパティに「flow」を指定しても、業務実行画面には業務フロー領域が表示されないため、ウィンドウサイズ変更時にはガイド領域の幅が変更されます。

(9) メニュー領域の幅 (`ucnp.base.client.menu.frame.width`)

折りたたんでいない状態のメニュー領域の幅の初期値をピクセル単位で指定します。

なお、このプロパティに大きな値を指定すると、業務フロー領域またはガイド領域の幅の初期値が0（ピクセル）となり、画面を起動したときに内容が表示されないことがあるので注意してください。

指定できる値：190～600（単位：ピクセル）

デフォルト値：250（単位：ピクセル）

補足事項

`ucnp.base.client.menu.frame.visible` プロパティに「false」が指定されている場合、このプロパティの指定内容は業務編集画面に対してだけ有効です。

(10) 業務フロー領域の幅 (`ucnp.base.client.flow.frame.width`)

業務フロー領域の幅の初期値をピクセル単位で指定します。

このプロパティは、`ucnp.base.client.frame.resize.target` プロパティに「guide」を指定した場合だけ有効になります。`ucnp.base.client.frame.resize.target` プロパティに「flow」を指定した場合、このプロパ

ティで指定された値は無視されます。その場合、業務フロー領域の幅の初期値は次の値から自動計算されます。

- Web ブラウザのウィンドウの幅
- メニュー領域およびガイド領域の幅

なお、このプロパティに大きな値を指定すると、ガイド領域の幅の初期値が 0 (ピクセル) となり、画面を起動したときに内容が表示されないことがあるので注意してください。

指定できる値：100～4000 (単位：ピクセル)

デフォルト値：450 (単位：ピクセル)

補足事項

`ucnp.base.client.flow.frame.visible` プロパティに「false」が指定されている場合、このプロパティの指定内容は業務編集画面に対してだけ有効です。

(11) ガイド領域の幅 (`ucnp.base.client.guide.frame.width`)

ガイド領域の幅の初期値をピクセル単位で指定します。

このプロパティは、`ucnp.base.client.frame.resize.target` プロパティに「flow」を指定した場合だけ有効になります。`ucnp.base.client.frame.resize.target` プロパティに「guide」を指定した場合、このプロパティで指定された値は無視されます。その場合、ガイド領域の幅の初期値は次の値から自動計算されます。

- Web ブラウザのウィンドウの幅
- メニュー領域および業務フロー領域の幅

なお、このプロパティに大きな値を指定すると、業務フロー領域の幅の初期値が 0 (ピクセル) となり、画面を起動したときに内容が表示されないことがあるので注意してください。

指定できる値：100～4000 (単位：ピクセル)

デフォルト値：540 (単位：ピクセル)

補足事項

`ucnp.base.client.flow.frame.visible` プロパティに「false」が指定されている場合、このプロパティの指定内容は業務編集画面に対してだけ有効です。

(12) 業務フロー領域とガイド領域の幅の最大値 (`ucnp.base.client.editingarea.width`)

業務フロー領域とガイド領域の幅の最大値をピクセル単位で指定します。横に大きい業務コンテンツを作成する場合に、このプロパティの値を変更してください。

このプロパティで指定した値は業務フロー領域とガイド領域の両方に適用されます。各領域に対して、異なる値を設定することはできません。

指定できる値：1500～10000（単位：ピクセル）

デフォルト値：1500（単位：ピクセル）

補足事項

- 業務実行画面の業務フロー領域とガイド領域の幅は、このプロパティの値とパーツの配置によって変わります。
- このプロパティの値を小さくする場合は、変更後もすべてのパーツが業務フロー／ガイド領域内に収まることを確認してください。値の変更によって、既存のパーツが業務フロー／ガイド領域の外に配置された状態となった場合、そのパーツは画面に表示されないため、編集できなくなります。

(13) 業務フロー領域とガイド領域の高さの最大値 (ucnp.base.client.editingarea.height)

業務フロー領域とガイド領域の高さの最大値をピクセル単位で指定します。縦に大きい業務コンテンツを作成する場合に、このプロパティの値を変更してください。

このプロパティで指定した値は業務フロー領域とガイド領域の両方に適用されます。各領域に対して、異なる値を設定することはできません。

指定できる値：1000～10000（単位：ピクセル）

デフォルト値：1500（単位：ピクセル）

補足事項

- 業務実行画面の業務フロー領域とガイド領域の高さは、このプロパティの値とパーツの配置によって変わります。
- このプロパティの値を小さくする場合は、変更後もすべてのパーツが業務フロー／ガイド領域内に収まることを確認してください。値の変更によって、既存のパーツが業務フロー／ガイド領域の外に配置された状態となった場合、そのパーツは画面に表示されないため、編集できなくなります。

(14) ヘッダ領域の [ログアウト] ボタンの表示有無 (ucnp.base.server.logoutbutton.display)

ヘッダ領域の [ログアウト] ボタンの表示有無を設定します。[ログアウト] ボタンを持つ Portal Framework テンプレートを組み込む場合に、[ログアウト] ボタンを非表示にすることで、[ログアウト] ボタンが二つ表示されることを防ぎます。

指定できる値：

- true：[ログアウト] ボタンを表示する

- false : [ログアウト] ボタンを表示しない

デフォルト値 : true

補足事項

- 業務実行画面にメニュー領域が表示されていない状態で [ログアウト] ボタンを使用すると、再度ログインしたときに利用者が業務コンテンツを選択できません。そのため、ucnp.base.client.menu.frame.visible プロパティに「false」を指定した場合、このプロパティにも「false」を指定することを推奨します。
- ナビゲーション プラットフォームにアクセスするときの URL に ucnpCloseBtn パラメタが指定された場合は、ucnpCloseBtn パラメタの指定値が優先されます。ucnpCloseBtn パラメタを含む URL については、「[2.1.4 基本 URL に指定できるパラメタ](#)」を参照してください。
- ucnp.base.client.confirm.page.unload.enable プロパティに「true」が指定されている場合に、このプロパティを変更するときには、ユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) の KDCZ00146-W の内容についても見直してください。詳細については、「[8.6 ユーザメッセージプロパティファイル \(ucnp_message_user.properties\) の設定](#)」を参照してください。

(15) ヘッダ領域の [閉じる] ボタンの表示有無 (ucnp.base.server.close.button.setting)

ヘッダ領域に [ログアウト] ボタンを表示しない設定の場合に、[閉じる] ボタンの表示有無を設定します。

指定できる値 :

- none : [閉じる] ボタンを表示しない
- close_only : [閉じる] ボタンを表示する
クリックすると、ログアウトしないで (セッションを無効にしないで) Web ブラウザを閉じます。
- logout_close : [閉じる] ボタン
クリックすると、ログアウトして (セッションを無効にして) Web ブラウザを閉じます。

デフォルト値 : none

補足事項

- このプロパティは ucnp.base.server.logoutbutton.display プロパティに「false」を指定した場合だけ有効となります。
- ナビゲーション プラットフォームにアクセスするときの URL に ucnpCloseBtn パラメタが指定された場合は、ucnpCloseBtn パラメタの指定値が優先されます。ucnpCloseBtn パラメタを含む URL については、「[2.1.4 基本 URL に指定できるパラメタ](#)」を参照してください。
- ucnp.base.client.confirm.page.unload.enable プロパティに「true」が指定されている場合に、このプロパティを変更するときには、ユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) の KDCZ00146-W の内容についても見直してください。詳細

については、「8.6 ユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) の設定」を参照してください。

(16) 印刷機能の使用有無 (ucnp.base.server.print.link.display)

業務実行画面のヘッダ領域の [印刷] メニュー、および業務編集画面のツールバーの [印刷] ボタンの表示有無を設定します。

指定できる値：

- none：[印刷] ボタン、および [印刷] メニューを表示しない
- all：業務編集画面で [印刷] ボタン、および業務実行画面で [印刷] メニューを表示する
- editor：業務編集画面だけ [印刷] ボタンを表示する
- viewer：業務実行画面だけ [印刷] メニューを表示する

デフォルト値：all

注意事項

iPad 向けの業務コンテンツを公開する実行環境では、このプロパティは使用できません。必ず [none] を指定してください。

(17) ヘッダ領域のロゴ画像のパス (ucnp.base.server.custom.head.logo)

ヘッダ領域のロゴ画像を変更する場合、画像のパスを指定します。Web ブラウザに表示できる形式のファイルで、高さ 30×幅 290 ピクセルの画像を指定してください。このプロパティを指定しない場合、ヘッダ領域のロゴ画像にはシステム標準の画像が表示されます。

システム標準のロゴ画像は次のとおりです。

図 8-1 ヘッダ領域のロゴ画像

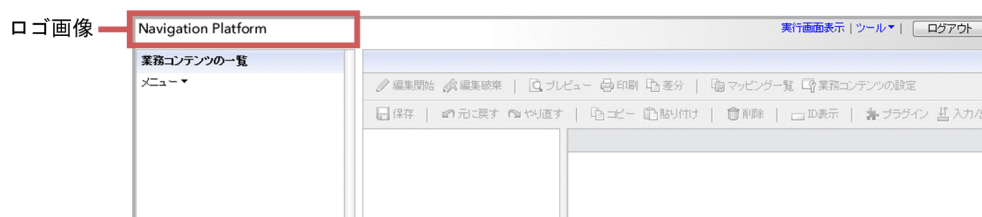
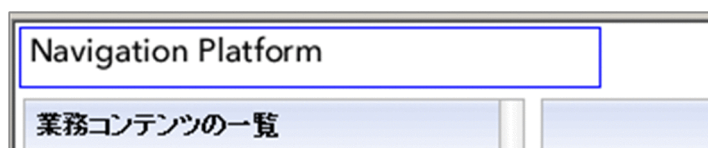


図 8-2 ヘッダ領域のロゴ画像配置個所の詳細



青枠線内に画像が配置されます。

指定できるパスの形式

指定できるパスの形式を次に示します。使用するファイルの格納先が、ナビゲーションプラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーションプラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ（「ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs」）からの相対パスを指定します。

デフォルトの Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ下に images フォルダを作成し、images フォルダに格納した ucnp.gif を指定する場合の例を次に示します。

/images/ucnp.gif

ナビゲーションプラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

「プロトコル://ホスト名:ポート番号/ファイルパス」の形式で指定します。

プロトコル：http または https

ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス

ポート番号：Web サーバのポート番号

ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

プロトコルが http、ホスト名が host1、ポート番号が 55555 の Web サーバの images フォルダにある、image1.gif というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

http://host1:55555/images/image1.gif

デフォルト値：なし

ファイル記載値：/custom/images/head_logo.gif

補足事項

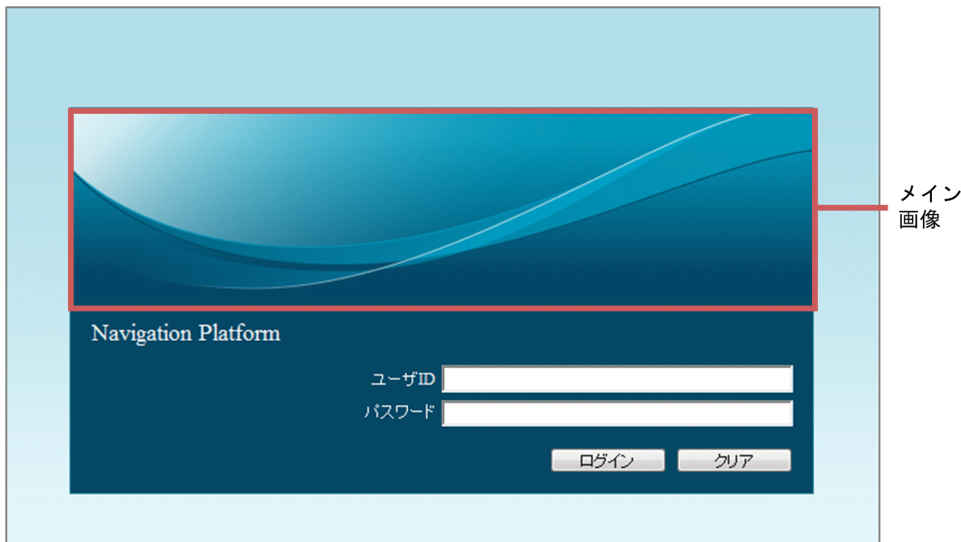
- ホスト名以外に「/ucnp」を含むパスは設定できません。設定した場合の動作は保証されません。
- URI で使用できない文字をプロパティの値に使用する場合は、必要に応じて URL エンコードした値を設定してください。

(18) ログイン画面のメイン画像のパス (ucnp.base.server.custom.login.main)

ログイン画面のメイン画像を変更する場合、画像のパスを指定します。Web ブラウザで表示できる形式のファイルで、高さ 145×幅 570 ピクセルの画像を指定してください。このプロパティを指定しない場合、ログイン画面のメイン画像にはシステム標準の画像が表示されます。

システム標準のメイン画像は次のとおりです。

図 8-3 ログイン画面のメイン画像



指定できるパスの形式

指定できるパスの形式を次に示します。使用するファイルの格納先が、ナビゲーションプラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーションプラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ（「ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs」）からの相対パスを指定します。

デフォルトの Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ下に images フォルダを作成し、images フォルダに格納した ucnp.png を指定する場合の例を次に示します。

/images/ucnp.png

ナビゲーションプラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

「プロトコル://ホスト名:ポート番号/ファイルパス」の形式で指定します。

プロトコル：http または https

ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス

ポート番号：Web サーバのポート番号

ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

プロトコルが http、ホスト名が host1、ポート番号が 55555 の Web サーバの images フォルダにある、image1.png というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

http://host1:55555/images/image1.png

指定例

画像ファイルを「Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ¥custom¥images¥login.png」に配置した場合、このプロパティには次のどれかを指定します。

- http://ホスト名:ポート番号/custom/images/login.png
- https://ホスト名:ポート番号/custom/images/login.png
- /custom/images/login.png

デフォルト値：/ucnpBase/images/login.jpg

補足事項

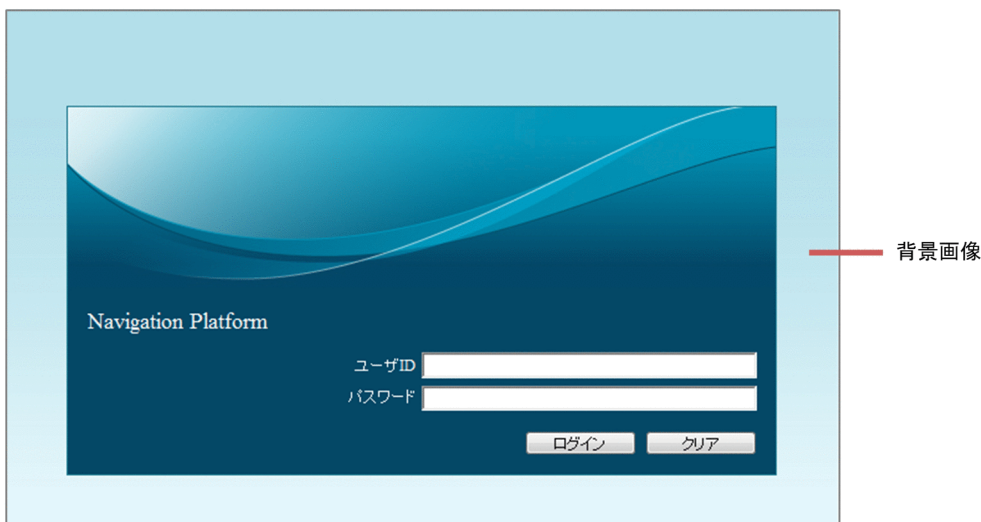
- ホスト名以外に「/ucnp」を含むパスは設定できません。設定した場合の動作は保証されません。
- URI で使用できない文字をプロパティの値に使用する場合は、必要に応じて URL エンコードした値を設定してください。

(19) ログイン画面の背景画像のパス (ucnp.base.server.custom.login.background)

ログイン画面の背景画像を変更する場合、画像のパスを指定します。このプロパティを指定しない場合、ログイン画面の背景画像にはシステム標準の画像が表示されます。

システム標準の背景画像は次のとおりです。

図 8-4 ログイン画面の背景画像



指定できるパスの形式

指定できるパスの形式を次に示します。使用するファイルの格納先が、ナビゲーションプラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーションプラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ（「ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs」）からの相対パスを指定します。

デフォルトの Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ下に images フォルダを作成し、images フォルダに格納した ucnp.gif を指定する場合の例を次に示します。

/images/ucnp.gif

ナビゲーションプラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

「プロトコル://ホスト名:ポート番号/ファイルパス」の形式で指定します。

プロトコル：http または https

ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス

ポート番号：Web サーバのポート番号

ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

プロトコルが http、ホスト名が host1、ポート番号が 55555 の Web サーバの images フォルダにある、image1.gif というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

http://host1:55555/images/image1.gif

デフォルト値：なし

ファイル記載値：/custom/images/background.gif

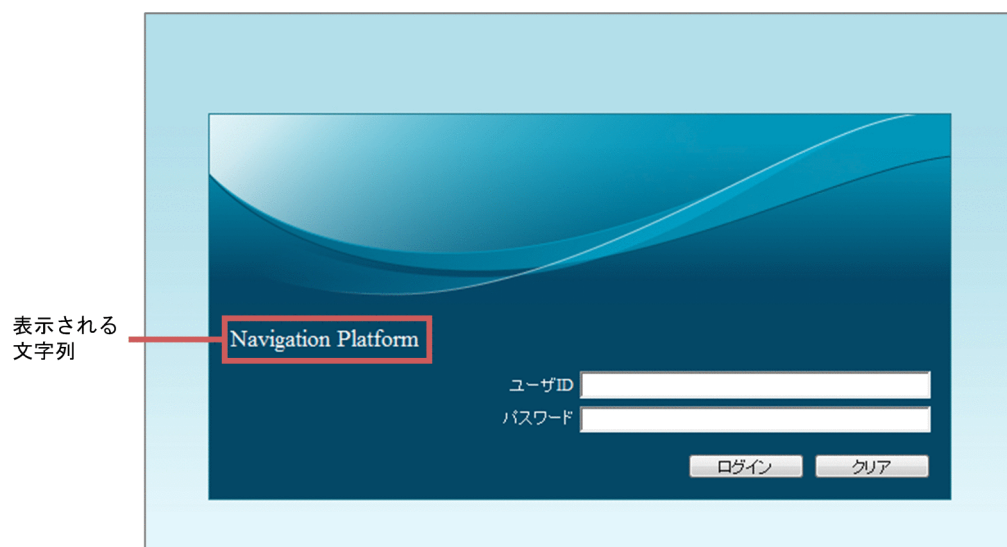
補足事項

- ホスト名以外に「/ucnp」を含むパスは設定できません。設定した場合の動作は保証されません。
- URI で使用できない文字をプロパティの値に使用する場合は、必要に応じて URL エンコードした値を設定してください。

(20) ログイン画面に表示する文字列 (ucnp.base.server.custom.login.string)

ログイン画面のログイン画像の下に表示される文字を変更する場合、文字列を指定します。50 文字以内の文字列を指定することを推奨します。50 文字より多い文字列を指定した場合、レイアウトが崩れることがあります。

図 8-5 ログイン画面のログイン画像の下に表示される文字



デフォルト値：Navigation Platform

補足事項

- 入力した値はチェックされません。

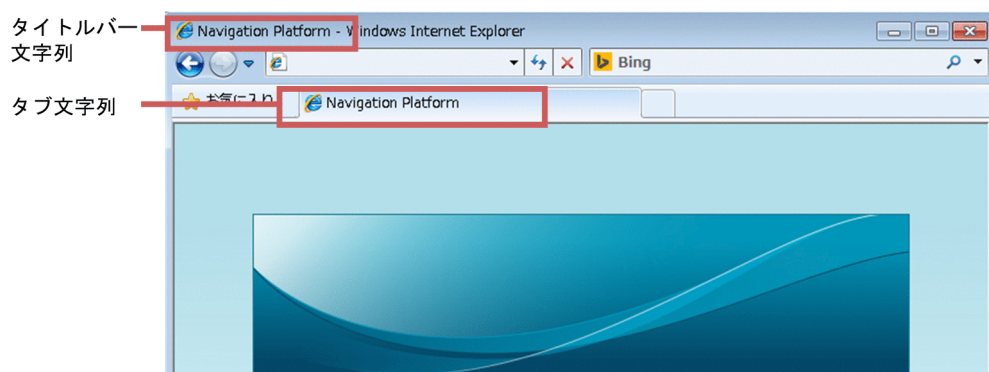
- このプロパティに空文字を指定した場合、ログイン画面に文字列は表示されません。
- このプロパティを省略した場合、デフォルト値で動作します。

(21) Web ブラウザのタイトルバーおよびタブ名の文字列 (ucnp.base.server.custom.browser.title)

Web ブラウザのタイトルバーおよびタブ名に表示される文字列を指定します。文字列は引用符 (") で囲む必要はありません。このプロパティの値が空文字の場合、Web ブラウザのタイトルバーおよびタブ名には URL が表示されます。

デフォルトのタイトルバーおよびタブ名の文字列は次のとおりです。

図 8-6 Web ブラウザのタイトルバーおよびタブ名の文字列



デフォルト値 : Navigation Platform

(22) HTML マニュアルのパス (ucnp.base.server.custom.help)

画面に HTML マニュアルを登録したい場合、表示する HTML マニュアルのパスを指定します。パスを指定すると画面に [ヘルプ] メニューが表示され、そのメニューをクリックすると別ウィンドウで HTML マニュアルが参照できるようになります。

HTML マニュアルの登録画面は次のとおりです。

図 8-7 ヘッダ領域への HTML マニュアルの登録



指定できるパスの形式

HTML マニュアルの格納先が、ナビゲーション プラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーション プラットフォームの Web サーバに格納した HTML マニュアルを指定する場合

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ（デフォルトは「ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs」）からの相対パスを指定します。

デフォルトの Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ下に help フォルダを作成し、help フォルダに格納した index.html というファイルを指定する場合の例を次に示します。

/help/index.html

ナビゲーション プラットフォーム以外の Web サーバに格納した HTML マニュアルを指定する場合

「プロトコル://ホスト名:ポート番号/ファイルパス」の形式で指定します。

プロトコル：http または https

ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス

ポート番号：Web サーバのポート番号

ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

プロトコルが http、ホスト名が host1、ポート番号が 55555 の Web サーバの help フォルダにある、index.html というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

http://host1:55555/help/index.html

デフォルト値：なし

ファイル記載値：http://localhost/custom/help/index.html

補足事項

- ホスト名以外に「/ucnp」を含むパスは設定できません。設定した場合の動作は保証されません。
- URI で使用できない文字をプロパティの値に使用する場合は、必要に応じて URL エンコードした値を設定してください。

(23) リンク 1~9 メニューに表示するリンクのパス (ucnp.base.server.custom.link.[N]) [N]は 1~9 の半角数字

業務実行画面のヘッダ領域のリンク 1~9 メニューに表示するリンクのパスを記載します。パスを設定すると、リンク 1~9 メニューに設定した URL リンクが表示され、そのリンクをクリックすると、別ウィンドウで指定した URL の内容が参照できます。URL は最大 9 個まで設定できます。また、リンクの表示文字列は、ユーザラベルプロパティファイルの設定で変更できます。変更方法については、「8.7 ユーザラベルプロパティファイル (ucnp_label_user.properties) の設定」を参照してください。

リンク 1~9 メニューは次の個所に表示されます。

図 8-8 ヘッダ領域のリンク 1~9 メニュー

【ヘルプ】メニューの追加



指定できるパスの形式

参照する URL が、ナビゲーションプラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーションプラットフォームの Web サーバの場合

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ（デフォルトは「ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs」）からの相対パスを指定します。

デフォルトの Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ下に custom フォルダを作成し、custom フォルダに格納した index.html というファイルを指定する場合の例を次に示します。

/ custom /index.html

ナビゲーションプラットフォーム以外の Web サーバの場合

「プロトコル://ホスト名:ポート番号/ファイルパス」の形式で指定します。

プロトコル：http または https

ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス

ポート番号：Web サーバのポート番号

ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

プロトコルが http、ホスト名が host1、ポート番号が 55555 の Web サーバの custom フォルダにある、index.html というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

http://host1:55555/ custom /index.html

デフォルト値：なし

ファイル記載値：http://localhost/custom/link/index.html

補足事項

- ホスト名以外に「/ucnp」を含むパスは設定できません。設定した場合の動作は保証されません。
- URI で使用できない文字をプロパティの値に使用する場合は、必要に応じて URL エンコードした値を設定してください。

(24) 検索機能の使用有無 (ucnp.base.server.search.enable)

業務実行画面のメニュー領域に「検索」タブを表示するかどうかを指定します。

指定できる値：

- true：検索機能を使用する
- false：検索機能を使用しない

デフォルト値：false

補足事項

- 「true」を指定すると、サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) の設定に従い、検索用データが定期的に自動更新されるようになります。ただし、デフォルトのサービスプロパティファイルの設定では検索用データの更新間隔は 0 (自動更新しない) になっているため、運用に合わせて NPUPDIVAL プロパティの設定値を見直してください。
- 「true」を指定した場合、検索結果を見やすくするためにメニュー領域の幅を広げることを推奨します。ucnp.base.client.menu.frame.width プロパティでメニュー領域の幅を変更してください。
- 「true」を指定した場合、検索用データベースを定期的に再編成する必要があります。詳細は、「9.20 npupdatesearchdata コマンド (検索用データの更新)」のオプションにあるポイントの説明を参照してください。

(25) 複数ヒットした検索ワードの表示個数の最大値 (ucnp.base.server.search.word.nearstr.num)

同一の業務コンテンツ内で複数の個所がヒットした場合、検索ワード前後の文字列を何個まで表示するかを指定します。

指定できる値：1～10 の整数値

デフォルト値：3

注意事項

検索結果に表示される内容は、次に示す項目に依存して多くなります。

- 検索内容にヒットした業務コンテンツの数
- 検索ワードでヒットした前後の文字列の表示個数
- 検索ワードでヒットした前後の文字列の長さ

このため、このプロパティ値をデフォルト値より大きくすると、Web ブラウザの動作が遅くなる場合があります。

(26) ヒットした検索ワードの前後文字列の表示文字数 (ucnp.base.server.search.word.nearstr.length)

業務コンテンツ内でヒットした検索ワードの前後の表示文字数を指定します。

例えば、20 を指定した場合は検索ワードの前 20 文字、後ろ 20 文字が表示されます。

指定できる値：10～50 の整数値

デフォルト値：20

注意事項

検索結果に表示される内容は、次に示す項目に依存して多くなります。

- 検索ワードにヒットした業務コンテンツの数
- 検索ワードでヒットした前後の文字列の表示回数
- 検索ワードでヒットした前後の表示文字数

このため、このプロパティ値をデフォルト値より大きくすると、Web ブラウザの動作が遅くなる場合があります。

(27) 検索ヒット件数の最大値 (ucnp.base.server.search.abort.count)

検索ヒット件数の最大値を指定します。検索でヒットした業務コンテンツの件数が、このプロパティで指定した値を超えると検索を終了します。

「0」を指定した場合、途中で検索は終了しません。

指定できる値：0～2147483647 の整数値

デフォルト値：10

注意事項

検索結果に表示される内容は、次に示す項目に依存して多くなります。

- 検索ワードにヒットした業務コンテンツの数
- 検索ワードでヒットした前後の文字列の表示回数
- 検索ワードでヒットした前後の文字列の長さ

このプロパティの値を大きくすると検索が遅くなる場合があります。そのため、デフォルト値の「10」で運用することを推奨します。

(28) 画面などに表示する日時項目のタイムゾーン (ucnp.base.client.timezone)

画面やファイルに出力する日時項目のタイムゾーンを指定します。タイムゾーンは GMT との差分時間で指定します。このプロパティを省略した場合、サーバマシンのタイムゾーンが設定されます。

指定できる値：「GMT+HH:MM」または「GMT-HH:MM」

HH：1 日での時 (00 ～ 23)

MM：分 (00 ～ 59)

指定例

GMT+09:00

デフォルト値：なし

(29) ヘッダ領域のタイムゾーン表示有無 (ucnp.base.client.timezone.display)

ヘッダ領域のタイムゾーンの表示条件を設定します。表示するタイムゾーンは、ucnp.base.client.timezone プロパティで指定した値です。システムが複数のタイムゾーンにわたる場合は、有効になっているタイムゾーンを画面に表示することで、サーバマシンの正確な日時を知ることができます。

指定できる値：

- none：タイムゾーンを表示しません。
- all：業務実行画面と業務編集画面の両方で表示します。
- editor：業務編集画面だけ表示します。

デフォルト値：none

(30) 画面などに表示する日時項目の日付フォーマット (ucnp.base.client.dateformat)

画面やファイルに出力する日時項目の日付フォーマットを指定します。このプロパティを変更すると、[版の詳細] 画面の公開日時など、時刻を含む項目の日付フォーマットが変更されます。

指定できる値：

- 年の指定：yyyy
- 月の指定：MM
- 日の指定：dd

年月日の順番は自由に変更できます。また、区切り文字として、半角記号 1 文字を指定できます。

指定例

02-07-2012 と表示したい場合（日付が 2012/02/07 の場合）
MM-dd-yyyy

デフォルト値：yyyy/MM/dd

注意事項

- 区切り文字に「|」を使用する場合、「|」を指定してください。
- 区切り文字に「¥」を使用する場合、「¥¥」を指定してください。
- 半角記号以外の文字を指定した場合は、画面のレイアウトが崩れるおそれがあります。

(31) 画面などに表示する日時項目の時刻フォーマット (ミリ秒なし) (ucnp.base.client.timeformat.hms)

画面やファイルに出力する日時項目の時刻フォーマット (ミリ秒なし) を指定します。このプロパティを変更すると、印刷画面の更新日時など、秒まで出力している時刻のフォーマットが変更されます。

指定できる値：

- 時の指定：HH
- 分の指定：mm
- 秒の指定：ss

時分秒の順番は自由に変更できます。また、区切り文字として、半角記号 1 文字を指定できます。

指定例

11:25:36 と表示したい場合 (時刻が 11:25:36 の場合)

HH:mm:ss

デフォルト値：HH:mm:ss

注意事項

- 区切り文字に「|」を使用する場合、「|」を指定してください。
- 区切り文字に「¥」を使用する場合、「¥¥」を指定してください。
- 半角記号以外の文字を指定した場合は画面のレイアウトが崩れるおそれがあります。

(32) 画面などに表示する日時項目の時刻フォーマット (ミリ秒あり) (ucnp.base.client.timeformat.hmsm)

画面やファイルに出力する日時項目の時刻フォーマット (ミリ秒あり) を指定します。このプロパティを変更すると、インポートコマンドで出力するインポート一覧ファイルの公開日時など、ミリ秒まで出力している時刻のフォーマットが変更されます。

指定できる値：

- 時の指定：HH
- 分の指定：mm
- 秒の指定：ss
- ミリ秒の指定：SSS

時分秒ミリ秒の順番は自由に変更できます。また、区切り文字として、半角記号 1 文字を指定できます。

指定例

11:25:36.780 と表示したい場合 (時刻が 11:25:36.780 の場合)

HH:mm:ss.SSS

デフォルト値：HH:mm:ss.SSS

注意事項

- 区切り文字に「'」を使用する場合、「''」を指定してください。
- 区切り文字に「¥」を使用する場合、「¥¥」を指定してください。
- 半角記号以外の文字を指定した場合は画面のレイアウトが崩れるおそれがあります。

(33) 業務実行画面の文字サイズのシステム設定値 (ucnp.base.client.parts.fontsize)

業務実行画面の「業務コンテンツの設定」画面で「システムの設定に従う。」チェックボックスにチェックを入れている場合の、パーツの文字サイズを指定します。

指定できる値：1～128（単位：ピクセル）

デフォルト値：12（単位：ピクセル）

(34) メンテナンス機能の可否 (ucnp.base.server.maintenance.enable)

メンテナンス機能を有効にするかどうかを指定します。

メンテナンス機能は、入出力プラグインパーツを更新するときだけ一時的に有効にしてください。メンテナンス機能を有効にした場合、システム管理者以外のユーザはログインできなくなります。

指定できる値：

- true：メンテナンス機能を有効にする
- false：メンテナンス機能を無効にする

デフォルト値：false

(35) 画面の遷移または画面を閉じるときの確認ダイアログの表示有無 (ucnp.base.client.confirm.page.unload.enable)

業務実行画面または業務編集画面で、Webブラウザの「×」ボタンで画面を閉じようとしたとき、またはほかのページへ遷移しようとしたとき、メッセージ（KDCZ00146-W）を表示するかどうか指定します。

指定できる値：

- true：メッセージ（KDCZ00146-W）を表示する
- false：メッセージ（KDCZ00146-W）を表示しない

デフォルト値：true

注意事項

iPad 向けの業務コンテンツを公開する実行環境では、このプロパティは使用できません。必ず「false」を指定してください。

補足事項

このプロパティに「false」を指定して、メッセージを表示しない設定にする場合、運用時には次の点に注意してください。

- 利用者が Web ブラウザのパーツにフォーカスが当たっていない状態で < BackSpace > キーを押したとき、前に表示していたページに遷移してしまうことで、入力中のデータが消えてしまうおそれがあります。
- ナビゲーション プラットフォームの画面を閉じるときは、[ログアウト] ボタンまたは [閉じる] ボタンをクリックしてください。

(36) デフォルトのグループ名 (ucnp.base.client.menu.group.default)

業務編集画面で新規作成または複製した業務コンテンツが所属する、デフォルトのグループ名を指定します。

このプロパティの値に空文字を指定した場合、新規作成、または複製した業務コンテンツのグループは、次のようになります。

- 業務コンテンツを新規作成した場合：名称のないグループ
- 業務コンテンツを複製した場合：複製元の業務コンテンツのグループ

指定できる値：128 文字以内の文字列

デフォルト値：空文字

補足事項

値にマルチバイト文字を指定する場合は、native2ascii コマンドなどを使用して Unicode に変換してください。

(37) 業務実行画面のメニュー領域の表示有無 (ucnp.base.client.menu.frame.visible)

業務実行画面にメニュー領域を表示するかどうかを指定します。メニュー領域を非表示にすると、メニュー領域折りたたみボタンも非表示になります。

このプロパティで「false」を設定した場合、業務実行画面の利用者は業務コンテンツ ID を指定した URL でログインする必要があります。URL については、「[2.1.3 ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL](#)」を参照してください。

指定できる値：

- true：メニュー領域を表示する

- false：メニュー領域を表示しない

デフォルト値：true

(38) 業務実行画面の業務フロー領域の表示有無 (ucnp.base.client.flow.frame.visible)

業務実行画面に業務フロー領域を表示するかどうかを指定します。業務フロー領域を非表示にすると、業務フロー領域とガイド領域の幅を調節するためのバーも非表示になります。

指定できる値：

- true：業務フロー領域を表示する
- false：業務フロー領域を表示しない

デフォルト値：true

補足事項

ucnp.base.client.directjump.enable プロパティに「all」を指定した場合、ガイド領域に「戻る」ボタンが表示されないため、前のノードに戻ることができなくなります。

(39) HTML パーツで使用する CSS ファイルのパス (ucnp.base.server.htmlpart.css)

HTML パーツで使用する CSS ファイルのパスを指定します。

指定できるパスの形式

指定できるパスの形式を次に示します。使用するファイルの格納先が、ナビゲーションプラットフォームの Web サーバか、それ以外の Web サーバかによって、指定するパスの形式が異なります。

ナビゲーションプラットフォームの Web サーバに格納したファイルを指定する場合

Web サーバのコンテンツ格納ディレクトリ（「ナビゲーションプラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs」）からの相対パスを指定します。

ナビゲーションプラットフォーム以外の Web サーバに格納したファイルを指定する場合

「プロトコル://ホスト名:ポート番号/ファイルパス」の形式で指定します。

プロトコル：http または https

ホスト名：Web サーバのホスト名または IP アドレス

ポート番号：Web サーバのポート番号

ファイルパス：Web サーバに格納されたファイルのパス

プロトコルが http、ホスト名が host1、ポート番号が 55555 の Web サーバの css フォルダにある、htmlpart.css というファイルを指定する場合のパスを次に示します。

http://host1:55555/css/htmlpart.css

デフォルト値：なし

ファイル記載値：/css/htmlpart.css

補足事項

- CSS ファイルが指定したパスに存在しない場合、ユーザ定義の CSS ファイルは適用されません。また、Web サーバのアクセスログに「404」が出力されます。
- ホスト名以外に「/ucnp」を含むパスは設定できません。設定した場合の動作は保証されません。
- URI で使用できない文字をプロパティの値に使用する場合は、必要に応じて URL エンコードした値を設定してください。

(40) 業務実行画面のターミナルノードの表示有無 (ucnp.base.client.terminal.display)

業務実行画面にターミナルノードを表示するかどうかを指定します。ucnp.base.client.flow.frame.visible プロパティに「false」を指定した場合、このプロパティに「true」を指定しても無視されるため、「false」を指定することを推奨します。ucnp.base.client.flow.frame.visible プロパティに「false」が指定されている場合は、ucnp.base.client.terminal.display プロパティに「true」を指定するよりも「false」を指定した方が、処理速度が向上します。

指定できる値：

- true：ターミナルノードを表示する
- false：ターミナルノードを表示しない

デフォルト値：false

(41) 業務フローの直接遷移の可否 (ucnp.base.client.directjump.enable)

業務実行画面でプロセスノードをクリックした時、そのプロセスノードへ遷移するかどうかを指定します。また、遷移できる範囲についても選択できます。

ucnp.base.client.flow.frame.visible プロパティに「false」を指定した場合、このプロパティに「true」または「all」を指定しても無視されるため、「false」を指定することを推奨します。「false」を指定すれば、「true」または「all」を指定するよりも処理速度が向上します。

指定できる値：

- true：一度遷移したことがあるプロセスノードにだけ直接遷移する
- all：すべてのプロセスノードに直接遷移する
- false：直接遷移しない

デフォルト値：true

補足事項

プロパティに「true」を指定した場合

- 業務フローを戻って別の分岐へ遷移したとき、元の分岐のプロセスノードには遷移できません。
- 終点のターミナルノードへ遷移すると、すべてのプロセスノードに遷移できなくなります。
- [戻る] ボタンを非表示に設定しているプロセスノードへ遷移すると、そのプロセスノードより前のノードには遷移できなくなります。

プロパティに「all」を指定した場合

- ガイド領域の [戻る] ボタンが表示されなくなります。
- 終点のターミナルノードへ遷移しても、すべてのプロセスノードに遷移できます。
- ガイド領域のチェックボックスがチェック必須かどうかのチェックが実行されません。
- 入出力プラグインまたは入力値チェック機能を設定していても実行されません。
- 中断再開プラグインと併用できません。ucnp.base.client.suspend.enable プロパティに「true」を指定している場合、メッセージ (KDCZ10138-E) が出力され、システムの起動が中止されます。
- 操作ログのレポート画面を使用できません。

(42) 業務実行画面に表示する選択状態のプロセスノードの色、および業務編集画面のガイド領域に表示中のプロセスノードの色 (ucnp.base.client.currentnode.color)

業務実行画面に表示する選択状態のプロセスノードの色、および業務編集画面のガイド領域に表示中のプロセスノードの色を指定します。どのノードが選択状態かをわかりやすくするために、このプロパティには、ucnp.base.client.node.color プロパティの値と異なる値を設定することを推奨します。

指定できる値：

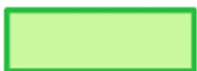
- orange



- pink



- green



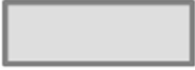
- purple



- blue



- gray



デフォルト値：orange

(43) 非選択状態／直接遷移可能状態のプロセスノードの色 (ucnp.base.client.node.color)

業務実行画面および業務編集画面に表示するプロセスノードの色を指定します。どのノードが選択状態かをわかりやすくするために、このプロパティには、ucnp.base.client.currentnode.color プロパティの値と異なる値を設定することを推奨します。

指定できる値：

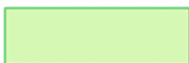
- orange



- pink



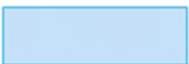
- green



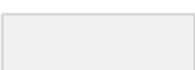
- purple



- blue



- gray



デフォルト値：gray

(44) 直接遷移できるプロセスノードのデザイン (ucnp.base.client.directjump.design)

直接遷移できるプロセスノードのデザインを指定します。

指定できる値：

- gradation：プロセスノードの色をグラデーションありにする



- flat：プロセスノードの色をグラデーションなしにする



デフォルト値：gradation

補足事項

- 画像を配置したプロセスノードは、このプロパティの指定値に関係なく、次のように「flat」のデザインになります。



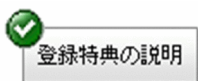
- 業務フローの中に画像を配置したプロセスノードと画像を配置しないプロセスノードが混在する場合、全体のデザインを統一したいときは、「flat」を指定してください。
- 業務フローの中に画像を配置したプロセスノードと画像を配置しないプロセスノードが混在しない場合でも、このプロパティは有効です。
- このプロパティは、ucnp.base.client.directjump.enable プロパティに「true」を指定した場合だけ有効になります。

(45) プロセスノードに表示するチェックマークの位置 (ucnp.base.client.node.checkmark.position)

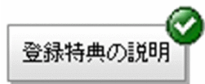
処理が終了したプロセスノードに表示するチェックマークの位置を指定します。

指定できる値：

- left：プロセスノードの左上に表示する



- right : プロセスノードの右上に表示する



- off : チェックマークは表示しない

デフォルト値 : left








補足事項

- ucnp.base.client.directjump.enable プロパティに「all」を指定している場合、このプロパティに指定した値にかかわらずチェックマークは表示されません。チェックマークを表示したい場合は、ucnp.base.client.directjump.enable プロパティに「true」または「false」を指定してください。

(46) 業務フロー領域の関連線の色 (ucnp.base.client.flow.connector.color)

業務フロー領域の関連線の色を指定します。

指定できる値 :

- gray : 
- black : 
- orange : 
- pink : 
- green : 
- purple : 
- blue : 

デフォルト値 : gray

補足事項

このプロパティの指定値は、ガイド領域のマッピング線には影響しません。

(47) 業務フロー領域の自動スクロール可否 (ucnp.base.client.autoscroll)

業務フロー領域を自動的にスクロールするかどうかを指定します。ucnp.base.client.flow.frame.visible プロパティに「false」を指定した場合、このプロパティに「true」を指定しても無視されるため、「false」を指定することを推奨します。「false」を指定すれば、「true」を指定するよりも処理速度が向上します。

このプロパティで「true」を設定した場合、業務フロー領域が自動的にスクロールされ、常に現在の工程が表示されるようになります。

指定できる値：

- true：自動スクロールをする
- false：自動スクロールをしない

デフォルト値：true

(48) 業務実行画面で [完了] ボタンをクリックしたときの Web ブラウザ動作 (ucnp.base.client.complete.button.window.close)

業務実行画面で [完了] ボタンをクリックしたときに Web ブラウザを閉じるかどうかを指定します。

指定できる値：

- true：Web ブラウザを閉じる
- false：Web ブラウザを閉じない

デフォルト値：false

補足事項

- Web ブラウザを閉じるかどうかの確認メッセージは表示されません。
- 複数のタブを表示していると、[完了] ボタンをクリックした業務実行画面のタブだけが閉じます。
- このプロパティで「true」を設定していても、業務実行画面で印刷プレビューを実行すると、Web ブラウザが閉じないことがあります。その場合は手動で Web ブラウザを閉じる必要があります。
- このプロパティで「false」を設定した場合、[完了] ボタンをクリックしたときに表示される KDCZ10060-I は、ユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) で任意に設定できます。ユーザメッセージプロパティファイルについては、[\[8.6 ユーザメッセージプロパティファイル \(ucnp_message_user.properties\) の設定\]](#) を参照してください。

(49) 入力情報の破棄確認ダイアログの表示有無 (ucnp.base.client.viewer.confirm.discardinput.enable)

入力情報を破棄するときの確認ダイアログを表示させるかどうかを指定します。

このプロパティで「true」を設定した場合、業務の実行中にほかの画面に遷移するときに、入力中の情報を破棄するかどうかを確認するダイアログが表示されます。確認ダイアログの表示が不要な場合は、このプロパティを「false」に設定します。

指定できる値：

- true：入力情報の破棄確認ダイアログを表示する

- false：入力情報の破棄確認ダイアログを表示しない

デフォルト値：true

補足事項

- `ucnp.base.client.viewer.confirm.discardinput.enable` プロパティに「false」を指定すると、終了のターミナルノードの配置は任意になります。
- `ucnp.base.client.directjump.enable` プロパティに「all」が指定されている場合、入力情報の破棄確認ダイアログは表示されません。そのため、このプロパティでの設定は無視されます。

(50) 中断再開プラグインの使用有無 (`ucnp.base.client.suspend.enable`)

中断再開プラグインを使用するかどうかを指定します。

業務実行中に入力中の情報を一時保存し、次回同じ業務を実行する場合に、保存した情報を復元して業務を途中から再開する機能を使用したいときには、このプロパティに「true」を設定してください。

このプロパティが「true」の場合で、ナビゲーションプラットフォームのログイン時に中断再開プラグインが登録されていないときには、メッセージ (KDCZ10082-E) が出力され、システムエラー画面が表示されます。

なお、中断再開プラグインを使用するには、このプロパティの設定以外にも必要な手順があります。必要な手順については、「[3.4.3 中断再開プラグインを使用する場合の容量の見積もり](#)」を参照してください。

指定できる値：

- true：中断再開プラグインを使用する
- false：中断再開プラグインを使用しない

デフォルト値：false

補足事項

このプロパティに「true」を指定し、かつ `ucnp.base.client.directjump.enable` プロパティに「all」を指定した場合、メッセージ (KDCZ10138-E) が出力され、システムの起動が中止されます。

(51) エラーのパーツを強調する枠の色 (`ucnp.base.client.erroritem.emphasis.border.color`)

必須のパーツを入力しないで次の操作をしようとした場合、エラーが発生します。このとき、エラーであるパーツを強調する枠の色を指定します。

指定できる値：

- 6桁の16進数または英語の色名で指定してください。使用できる文字は、半角英数字および「#」です。
- 16進数

先頭に必ず「#」を付けてください。「#」の後ろは6桁の16進数を指定します。

- 英語の色名
スタイルシートで使用できる色名を指定します。

デフォルト値：red

(52) 操作ログ機能の使用有無 (ucnp.base.client.operationlog.enable)

操作ログ機能を使用するかどうかを指定します。

指定できる値：

- true：操作ログ機能を使用する
- false：操作ログ機能を使用しない

デフォルト値：true

(53) 操作ログの出力先 (ucnp.base.server.operationlog.path)

操作ログの格納先を絶対パスで指定します。パスの区切り文字には「¥」を使用してください。

デフォルト値：ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥operationlogs

ファイル記載値：C:¥¥Program Files¥¥Hitachi¥¥HNP¥¥operationlogs

補足事項

出力先に、次に示す条件を満たしていない値を指定した場合、動作は保証されません。

- 出力先として、ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ以下を指定する場合、「operationlogs」ディレクトリを指定してください。
- 出力先として、ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ以外を指定する場合、存在するディレクトリを指定してください。
- 排他制御のプロセスで操作ログを参照しないでください。参照した場合、操作ログの出力および面数の切り替えができなくなるおそれがあります。
- システムの起動時に、操作ログのほかに「operation.lck」というファイルが作成されますが、システムの停止時にこのファイルは削除されます。
- このプロパティを省略した場合、デフォルト値が適用されます。

(54) 操作ログの最大面数 (ucnp.base.server.operationlog.backup.number)

操作ログの最大面数を設定します。操作ログのファイル名には、指定した値が最大面数として割り振られます。例えば、デフォルトの40の場合、「operation1.log」から「operation40.log」までが操作ログのファイル名として使用され、計40個の操作ログが出力されます。

指定できる値：1～128 の整数値

デフォルト値：40

補足事項

- 排他制御のプロセスで操作ログを参照しないでください。参照した場合、操作ログの出力および面数の切り替えができなくなるおそれがあります。
- 1 日に出力したいレコード数や操作ログの保存期間に合わせて、このプロパティの設定値を調整してください。

次のプロパティの値と一緒に調整してください。

操作ログの最大出力ファイルサイズ

`ucnp.base.server.operationlog.size` プロパティ

(55) 操作ログのファイルサイズの上限值 (`ucnp.base.server.operationlog.size`)

操作ログのファイルサイズの上限值を設定します。

指定できる値：1024～2097151 の整数値（単位：KB）

デフォルト値：40960（単位：KB）

(56) 操作ログの出力項目の設定 (`ucnp.base.server.operationlog.user.analyze.info`)

ユーザが任意で解析するときに、解析しやすくするための項目を操作ログに出力するかどうかを指定します。ダッシュボード機能を利用する場合は、「true」を設定してください。

このプロパティに「true」を設定した場合に出力される項目を次に示します。

- 日時
- セッション ID
- ユーザ ID または JP1 ユーザ ID（業務コンテンツ開始時だけ出力する。それ以外は出力しない）
- グループ ID
- 業務コンテンツ名称
- 遷移元ノードの名称
- 実際の遷移先ノードの名称
- 指定した遷移先ノードの名称
- `ucnpOptions` パラメタの値

指定できる値：

- true：ユーザが任意で解析するときに、解析しやすくするための項目を操作ログに出力する
- false：ユーザが任意で解析するときに、解析しやすくするための項目を操作ログに出力しない

デフォルト値：true

補足事項：

- 「false」を指定した場合、ユーザが任意に解析するときに、解析しやすくするための情報は操作ログに出力されません。レポート画面を表示するための情報だけが操作ログに出力されます。
- 「false」を指定すると操作ログの容量を大幅に削減できます。任意の解析をしない、またはダッシュボード機能を利用しない場合は、「false」を指定することを推奨します。

(57) レポート画面に解析結果を表示する業務コンテンツ数 (ucnp.base.server.operationlog.ranking.num)

操作ログのレポート画面で、解析結果をグラフで表示する業務コンテンツ数を指定します。

操作ログのレポート画面には、このプロパティで指定した値の個数分の業務コンテンツが表示されます。「0」を指定した場合は、すべての業務コンテンツが表示されます。

指定できる値：0～2000 までの整数値

デフォルト値：0

(58) レポート画面に解析結果を表示するユーザ数 (ucnp.base.server.operationlog.ranking.user.num)

操作ログのレポート画面で、解析結果をグラフで表示するユーザ数（業務コンテンツ単位およびノード単位）を指定します。

操作ログのレポート画面には、このプロパティで指定した値の個数分のユーザが表示されます。「0」を指定した場合は、すべてのユーザを表示します。

指定できる値：0～300 までの整数値

デフォルト値：10

(59) 監査ログの使用有無 (ucnp.base.client.auditlog.enable)

監査ログを使用するかどうかを指定します。

指定できる値：

- true：監査ログを使用する

- false：監査ログを使用しない

デフォルト値：false

(60) 監査ログの出力先 (ucnp.base.server.auditlog.path)

監査ログのファイルの絶対パスを指定します。パスの区切り文字には「¥」を使用してください。監査ログのファイル名を変更したい場合は、「ucnp_audit」を任意の文字列に変更してください。

デフォルト値：ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥auditlog¥ucnp_audit

ファイル記載値：C:¥Program Files¥Hitachi¥HNP¥auditlog¥ucnp_audit

補足事項

- 監査ログは「ucnp_audit 面数.log」の形式で出力されます。
- このプロパティを省略した場合は、「ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥auditlog¥ucnp_audit 面数.log」が出力されます。
- システムの起動時に、監査ログファイルとは別に「ucnp_audit.lck」というファイルが作成されます。
- 出力先に、ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ以下を指定する場合、「auditlog」以外のディレクトリを指定しないでください。指定した場合、動作は保証されません。
- 出力先に「auditlog」以下のディレクトリを指定した場合は、次のファイルやディレクトリが存在しないパスを指定してください。ファイルやディレクトリが監査ログに上書きされるおそれがあります。「ucnp_audit」を任意の文字列に変更しているときは、変更後のファイル名を指定しないでください。

「ucnp_audit 面数.log」から始まる監査ログ以外のファイル

「ucnp_audit 面数.log」から始まるディレクトリ

- 条件を満たしていないファイルパスを指定した場合は、動作は保証されません。また、エラーになったときは、メッセージ (KDCZ10304-E) がトレースファイルに出力され、システムの起動が中止されます。

(61) 監査ログの最大面数 (ucnp.base.server.auditlog.backup.number)

監査ログの最大面数を設定します。監査ログのファイル名には、指定した値が最大面数として割り振られます。例えば、デフォルトの「16」の場合、「監査ログのファイル名 1.log」から「監査ログのファイル名 16.log」がファイル名になります。

指定できる値：1～32の整数値

デフォルト値：16

(62) 監査ログのファイルサイズの上限值 (ucnp.base.server.auditlog.size)

監査ログのファイルサイズの上限值を設定します

指定できる値：1024～2097151 の整数値（単位：KB）

デフォルト値：10240（単位：KB）

(63) レポート画面の解析対象の設定 (ucnp.base.server.operationlog.report.target)

操作ログのレポート画面の解析対象を設定します。レポート画面の利用シーンに合わせて解析対象を設定してください。

指定できる値：

- latest：

解析対象は、業務実行画面に表示されている業務コンテンツです。業務コンテンツの公開中の版の利用状況だけ確認したい場合に利用します。また、業務コンテンツの公開前の利用状況を残しておくことで、業務コンテンツの公開前後の利用状況の変化を確認できます。

- all：

解析対象は、業務実行画面に表示されている業務コンテンツの過去の版も含まれます。業務コンテンツの版を意識しないで、業務コンテンツに対する利用状況を確認したい場合に利用します。継続的なレポート画面の解析結果を蓄積することで、業務コンテンツの利用状況の推移がわかります。また、推移の要因を特定することで、業務コンテンツの改善につなげることができます。

デフォルト値：latest

(64) 業務実行画面のヘッダ領域の [URL 取得] メニューの表示有無 (ucnp.base.server.geturl.link.display)

業務実行画面のヘッダ領域に [URL 取得] メニューを表示するかどうかを指定します。

指定できる値：

- true：[URL 取得] メニューを表示する
- false：[URL 取得] メニューを表示しない

デフォルト値：true

注意事項

iPad 向けの業務コンテンツを公開する実行環境では、このプロパティは使用できません。必ず「false」を指定してください。

補足事項

[URL 取得] メニューから取得できる URL は、業務コンテンツ ID 以外のパラメタを含みません。業務編集画面を表示する URL や終了ボタンを指定するための URL は取得できません。ほかのパラメタも URL で使用する運用の場合、このプロパティでは「false」を指定し、[URL 取得] メニューを表示しないことを推奨します。

URLの詳細は、「2.1.3 ナビゲーションプラットフォームの画面にアクセスするためのURL」を参照してください。

(65) 操作ログのダッシュボード表示リンクの表示条件 (ucnp.base.server.dashboard.link.display)

操作ログのダッシュボード表示リンクの表示条件を指定します。

指定できる値：

- true：リンクを表示する
- false：リンクを表示しない

デフォルト値：false

(66) 連携先の JP1/IM-SS のホスト名 (ucnp.base.client.jp1imss.hostname)

連携先の JP1/IM-SS のホスト名を指定します。

指定できる値：文字列

デフォルト値：localhost

補足事項

- JP1/IM-SS URL プラグインを利用する場合は、JP1/IM-SS が動作する物理ホスト名または論理ホスト名を必ず指定してください。
- 空文字列は指定できません。

(67) 連携先の JP1/IM-SS のポート番号 (ucnp.base.client.jp1imss.portnum)

連携先の JP1/IM-SS のポート番号を指定します。

指定できる値：1～65535 の整数値

デフォルト値：24401

補足事項

- JP1/IM-SS URL 出力プラグインを利用する場合は、このプロパティを必ず指定してください。

(68) 連携先の JP1/AO のホスト名 (ucnp.base.client.jp1ao.hostname)

連携先の JP1/AO のホスト名を指定します。

指定できる値：文字列

デフォルト値：localhost

補足事項

- 次のシステムプラグインを利用する場合は、JP1/AO が動作する物理ホスト名または論理ホスト名を必ず指定してください。

JP1/AO URL 出力プラグイン

JP1/AO サービス実行プラグイン

JP1/AO プロパティ出力プラグイン

- 空文字列は指定できません。

(69) 連携先の JP1/AO のポート番号 (ucnp.base.client.jp1ao.portnum)

連携先の JP1/AO のポート番号を指定します。

指定できる値：1~65535 の整数値

デフォルト値：22015

補足事項

- 次のシステムプラグインを利用する場合は、このプロパティを必ず指定してください。

JP1/AO URL 出力プラグイン

JP1/AO サービス実行プラグイン

JP1/AO プロパティ出力プラグイン

- JP1/AO V10 と連携する場合、または JP1/AO のポート番号をデフォルトから変更している場合は、このプロパティの設定値を見直してください。

(70) 連携先の JP1/AO が HTTPS 環境かどうか (ucnp.base.client.jp1ao.https.enable)

連携先の JP1/AO が HTTPS 環境かどうかを指定します。

指定できる値：

- true の場合：JP1/AO が HTTPS 環境の場合に指定します。
- false の場合：JP1/AO が HTTPS 環境でない場合に指定します。

デフォルト値：false

補足事項

- 次のシステムプラグインを利用する場合で、JP1/AO が HTTPS 環境の場合は、このプロパティを必ず指定してください。

JP1/AO URL 出力プラグイン
JP1/AO サービス実行プラグイン
JP1/AO プロパティ出力プラグイン

(71) JP1 イベント関連づけファイルの使用可否 (ucnp.base.client.jp1ev.association.enable)

JP1/IM または JP1/IM-SS から呼び出されたとき、JP1 イベント情報と関連づけられた特定の業務コンテンツを開くかどうかを設定します。

JP1 イベント情報と業務コンテンツの関連づけについては、「[5.13.4 JP1 イベント情報と業務コンテンツを関連づける](#)」を参照してください。

指定できる値：

- true：JP1 イベント関連づけファイルが有効
- false：JP1 イベント関連づけファイルが無効

デフォルト値：false

(72) 業務実行画面の [戻る] ボタンの幅 (ucnp.base.client.back.button.width)

業務実行画面の [戻る] ボタンの幅をピクセル単位で指定します。

指定できる値：30～260（単位：ピクセル）

デフォルト値：100（単位：ピクセル）

補足事項

- ucnp.base.client.directjump.enable プロパティに「all」が指定されている場合、[戻る] ボタンは表示されません。そのため、このプロパティの設定は無視されます。
- ボタン名はノードの属性の設定内容によって変更できます。ボタン名がこのプロパティで指定した幅よりも長い場合、ボタン名は途中までしか表示されません。

(73) 業務実行画面の [次へ] ボタンの幅 (ucnp.base.client.next.button.width)

業務実行画面の [次へ] ボタンの幅をピクセル単位で指定します。

指定できる値：30～260（単位：ピクセル）

デフォルト値：130（単位：ピクセル）

補足事項

ボタン名はノードの属性の設定内容によって変更できます。ボタン名がこのプロパティで指定した幅よりも長い場合、ボタン名は途中までしか表示されません。

(74) 業務実行画面の [完了] ボタンの幅 (ucnp.base.client.complete.button.width)

業務実行画面の [完了] ボタンの幅をピクセル単位で指定します。

指定できる値：30～260（単位：ピクセル）

デフォルト値：130（単位：ピクセル）

補足事項

ボタン名はノードの属性の設定内容によって変更できます。ボタン名がこのプロパティで指定した幅よりも長い場合、ボタン名は途中までしか表示されません。

(75) 業務実行画面で分岐合流ノードを経由して次のノードへ遷移するための ボタンの横幅 (ucnp.base.client.branch.button.width)

業務実行画面で分岐合流ノードの前のプロセスノードを選択した場合に表示される、次のノードへ遷移するためのボタンの幅をピクセル単位で指定します。なお、このプロパティは、分岐先が一つしかないプロセスノードに対しては適用されません。

指定できる値：30～260（単位：ピクセル）

デフォルト値：130（単位：ピクセル）

補足事項

ボタン名はノードの属性の設定内容によって変更できます。ボタン名がこのプロパティで指定した幅よりも長い場合、ボタン名は途中までしか表示されません。

(76) 業務実行画面のボタンの高さ (ucnp.base.client.node.transition.button.height)

業務実行画面に表示されるボタンの高さを指定します。対象となるボタンを次に示します。

- [戻る] ボタン
- [次へ] ボタン
- [完了] ボタン
- 分岐条件を示すボタン

指定できる値：22～130（単位：ピクセル）

デフォルト値：22（単位：ピクセル）

(77) 業務編集画面の表示有無 (ucnp.base.client.operation.editor.enable)

業務編集画面の表示を許可するかどうかを指定します。このプロパティに「false」を指定した場合、URLのパラメタやユーザのアクセス権にかかわらず、業務編集画面を開けなくなります。また、業務実行画面の「編集画面表示」メニューも表示されなくなります。URLの詳細については、「[2.1.3 ナビゲーションプラットフォームの画面にアクセスするためのURL](#)」を参照してください。

編集環境と実行環境を別のサーバマシンとするシステム構成で運用している場合、実行環境でこのプロパティに「false」を指定しておく、利用者が誤って業務コンテンツを編集してしまう問題を防止できます。

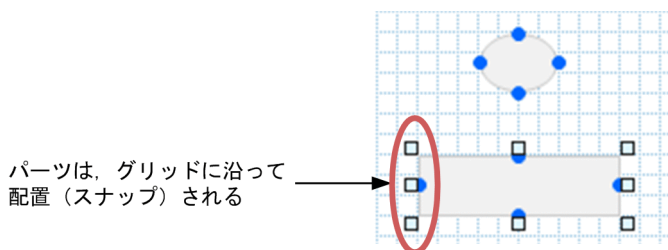
指定できる値：

- true：業務編集画面の表示を許可する
- false：業務編集画面の表示を許可しない

デフォルト値：true

(78) 業務編集画面のグリッド間隔 (ucnp.base.client.grid.size)

業務編集画面のグリッド間隔を指定します。業務編集画面に配置したパーツは、このグリッド間隔を基準にスナップされます。



指定できる値：

- 0：スナップ処理は実行されない
- 5：5ピクセル
- 10：10ピクセル
- 20：20ピクセル

デフォルト値：10

(79) [元に戻す] ボタンの対象操作履歴の最大保持数 (ucnp.base.client.undo.max.count)

[元に戻す] ボタンの対象操作履歴の最大保持数を指定します。つまり、このプロパティで指定した値は、[元に戻す] ボタンが有効になる最大の回数になります。

指定できる値：1～100

デフォルト値：10

(80) [ファイル管理／登録] メニューの表示有無 (ucnp.base.server.fileupload.link.display)

業務編集画面のヘッダ領域に [ファイル管理／登録] メニューを表示するかどうかを指定します。

指定できる値：

- all：すべてのユーザに [ファイル管理／登録] メニューを表示する
- admin：システム管理者にだけ [ファイル管理／登録] メニューを表示する
- none：[ファイル管理／登録] メニューを表示しない

デフォルト値：admin

(81) [Plugins] パレットに表示するアイコン (ucnp.base.client.editor.jp1.plugin.toolpalette.display)

[Plugins] パレットに JP1 連携プラグインのアイコンを表示するかどうかを指定します。

指定できる値：

- true：JP1 連携プラグインのアイコンを表示する
- false：JP1 連携プラグインのアイコンを表示しない

デフォルト値：false

補足事項

このプロパティは JP1 連携プラグインのアイコンの表示だけを制御します。false を指定しても、すでに JP1 連携プラグインを配置している業務コンテンツを操作したり、配置されている JP1 連携プラグインの設定を変更したりできます。

(82) コンテンツ編集者の名前の表示有無 (ucnp.base.client.editor.name.display.type)

業務コンテンツを編集したユーザの表示方法を指定します。

指定できる値：

- userId：ユーザ名としてユーザ ID を表示する
- displayName：ユーザ名として Active Directory の「表示名」を表示する

デフォルト値：userId

補足事項

- ucnp.setup.server.ldap.directory.kind プロパティでユーザ認証の種別を「AD」に指定する場合は、このプロパティの設定値を見直してください。
- このプロパティに「displayName」を指定した場合、Active Directory の「表示名」の情報が取得できないときは、ユーザ名には「-」が表示されます。
- ucnp.setup.server.ldap.directory.kind プロパティの指定値が「AD」以外の場合にこのプロパティに「displayName」を指定すると、ユーザ名には「-」が表示されます。
- このプロパティに「displayName」を指定した場合、ユーザ名には Active Directory からデータを取得した時点の「表示名」が表示されます。ナビゲーションプラットフォームがデータを取得したあとに Active Directory の「表示名」の情報を更新しても、取得済みの「表示名」には反映されません。

(83) 業務コンテンツの最大数 (ucnp.base.client.menu.maxnum)

業務コンテンツの最大数を指定します。

指定できる値：1～2000 の整数値

デフォルト値：500

注意事項

- 業務コンテンツの最大数をデフォルト値より増やす場合は、サーバのディスク容量を見直してください。詳細については、「[5.11 業務コンテンツの上限数を増やす手順](#)」を参照してください。
- 作成済みの業務コンテンツの数より小さい値は指定しないでください。業務コンテンツの数より小さい値を指定する場合は、その値まで業務コンテンツを削除してから指定してください。
- 誤って作成済みの業務コンテンツの数より小さい値を指定した場合は、作成済みの業務コンテンツの数以上の値に指定し直してください。
- メニュー領域に表示する業務コンテンツの数が多くなると、すべての業務コンテンツを表示するのに掛かる時間が長くなります。この時間はクライアントのマシンのスペックや Web ブラウザのバージョンに依存します。

8.6 ユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) の設定

ユーザメッセージプロパティファイルを編集すると、次のメッセージの内容を変更できます。

- 業務実行画面または業務編集画面で、Web ブラウザの [×] ボタンで画面を閉じようとしたとき、またはほかのページへ遷移しようとしたときに表示されるメッセージ (KDCZ00146-W)
- 業務実行画面での操作が完了したときに表示されるメッセージ (KDCZ10060-I)
- 必須のチェックボックスが未チェックの場合のメッセージ (KDCZ00307-E)
- [ファイル管理/登録] 画面を開いた状態で、[ファイル管理/登録] メニューを選択したときに、表示されるメッセージ (KDCZ00223-Q)

ユーザメッセージプロパティファイルには、日本語用と英語用があり、利用する環境に応じて、それぞれカスタマイズする必要があります。以降、英語用のファイル名で説明をしていますが、適宜読み替えてください。

ユーザメッセージプロパティファイルのファイル名を次に示します。

日本語用：ucnp_message_user_ja.properties

英語用：ucnp_message_user.properties

参考

- ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の `ucnp.base.client.confirm.page.unload.enable` プロパティに「false」が指定されている場合、ユーザメッセージプロパティファイルで設定したメッセージ (KDCZ00146-W) は表示されず、業務コンテンツ終了と同時に Web ブラウザが閉じます。
- ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の `ucnp.base.client.complete.button.window.close` プロパティに「true」が指定されている場合、ユーザメッセージプロパティファイルで設定したメッセージ (KDCZ10060-I) は表示されず、業務コンテンツ終了と同時に Web ブラウザが閉じます。

8.6.1 ユーザメッセージプロパティファイルの格納先

ユーザメッセージプロパティファイルの格納先を次に示します。

プロパティファイルの格納先

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf¥ucnp_message_user.properties

8.6.2 ユーザメッセージプロパティファイルの記述例

ユーザメッセージプロパティファイルの記述例を次に示します。

KDCZ10060-I = 完了しました。

下線で示す部分を変更すると、メッセージを変更できます。

なお、記述できるメッセージ ID は「KDCZ00146-W」, 「KDCZ10060-I」, 「KDCZ00307-E」 または「KDCZ00223-Q」で固定です。これ以外のメッセージ ID は記述しないでください。

マルチバイト文字を含むメッセージを表示させる場合は、Java ツールの native2ascii を実行して文字コードを変換する必要があります。KDCZ00307-E の場合は、セットアップ時に自動で作成されるユーザメッセージプロパティファイルには、「未チェックの項目を確認してください。」という日本語のメッセージが表示されるよう、文字コード変換をした文字列がデフォルトで記述されています。

(1) KDCZ00146-W のメッセージ例

KDCZ00146-W は、Web ブラウザの [×] ボタンで画面を閉じようとしたとき、または < F5 > キーや < BackSpace > キーでほかのページに遷移しようとしたときに出力されるメッセージです。画面のヘッダ領域に表示されるボタンの種類、およびプラグインの使用有無に応じた、KDCZ00146-W のメッセージ例を次に示します。この例では、業務実行画面を操作する利用者が、Web ブラウザの [×] ボタンで画面を閉じようとしたときを想定しています。

表 8-7 KDCZ00146-W のメッセージ例

項番	ボタンの種類*1	プラグインの有無	メッセージ例
1	[ログアウト] ボタン	なし	ウィンドウを閉じる場合は、 [ログアウト] でログアウトしてから終了してください。*2
2		あり	入力中の項目は保存されません。¥¥n ウィンドウを閉じる場合は、 [ログアウト] でログアウトしてから終了してください。
3	[閉じる] ボタン	なし	ウィンドウを閉じる場合は、 [閉じる] で終了してください。
4		あり	入力中の項目は保存されません。¥¥n ウィンドウを閉じる場合は、 [閉じる] で終了してください。
5	ボタンなし	なし	—
6	(業務フローが完了したときだけ閉じる場合)	あり	入力中の項目は保存されません。¥¥n 業務コンテンツを完了させてください。

(凡例)

— : メッセージはありません。

注

「¥¥n」は改行を示します。

注※1

ボタンの種類を設定する方法には、URL に ucnpCloseBtn パラメタを指定する方法、およびユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の次のプロパティを設定する方法があります。

ucnp.base.server.logoutbutton.display プロパティ

ucnp.base.server.close.button.setting プロパティ

ucnp.base.client.complete.button.window.close プロパティ

注※2

デフォルトで出力されるメッセージです。

8.7 ユーザラベルプロパティファイル (ucnp_label_user.properties) の設定

ユーザラベルプロパティファイルを編集すると、業務実行画面のヘッダ領域のリンク 1~9 メニューのリンクの表示文字列の内容を変更できます。

次に示すリンクの表示文字列を変更できます。

ラベル ID

label_custom_link_*[N]* (*[N]*は 1~9 の数字)

デフォルトの表示文字列

リンク*[N]* (*[N]*は 1~9 の数字)

それぞれのラベル ID 末尾*[N]*の数字と、ucnp.base.server.custom.link.*[N]* プロパティの数字が対応しています。

例えば、リンク 1~9 メニューのリンク 1 の表示文字列は、label_custom_link_1 で設定した値になり、URL は、ucnp.base.server.custom.link.1 プロパティで設定した値になります。

ユーザラベルプロパティファイルには、日本語用と英語用があり、利用する環境に応じて、それぞれカスタマイズする必要があります。以降、英語用のファイル名で説明をしていますが、適宜読み替えてください。

ユーザラベルプロパティファイルのファイル名を次に示します。

日本語用：ucnp_label_user_ja.properties

英語用：ucnp_label_user.properties

8.7.1 ユーザラベルプロパティファイルの格納先

ユーザラベルプロパティファイルの格納先を次に示します。

プロパティファイルの格納先

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥conf¥ucnp_label_user.properties

8.7.2 ユーザラベルプロパティファイルの記述例

label_custom_link_1=link1

下線で示す部分を変更すると、リンクの表示文字列を変更できます。

マルチバイト文字を含む文字列を表示させる場合は、Java ツールの `native2ascii` を実行して文字コードを変換する必要があります。

■ ポイント

リンクの表示文字列が表示しきれない場合、末尾が省略されます。そのため、半角英数字約 25 文字以内を目安に設定することを推奨します。

9

コマンド

この章では、ナビゲーション プラットフォームのコマンドについて説明します。

9.1 コマンドの概要

ここでは、ナビゲーション プラットフォームのコマンドの一覧を示します。また、コマンドを実行するに当たっての注意事項について説明します。

9.1.1 コマンド一覧

ナビゲーション プラットフォームのコマンドを次の表に示します。

表 9-1 ナビゲーション プラットフォームのコマンド一覧

項番	コマンド名	機能概要
1	npaclexport コマンド	保存済みのアクセス権グループの情報をエクスポートします。
2	npconvertoplog コマンド	操作ログファイルのファイル名をナビゲーション プラットフォームのバージョンに沿った採番方式で名称変更します。
3	npdashboardremoveolddata	蓄積された古い操作ログの解析情報を削除します。
4	npdashboardsetstoragememory	ダッシュボードサーバのストレージサービスに必要なメモリ容量の設定を変更します。
5	npdatabackup コマンド	ナビゲーション プラットフォームの環境を退避 (バックアップ) します。
6	npdatarestore コマンド	npdatabackup コマンド (環境退避) でバックアップしたデータを利用して、ナビゲーション プラットフォームの環境を復元 (リストア) します。
7	npexport コマンド	保存済みの業務コンテンツおよびアクセス権の設定情報をエクスポートします。
8	npextendrdarea コマンド	データベースの容量を拡張します。
9	npimport コマンド	次のどちらか、または両方の情報をインポートします。 <ul style="list-style-type: none">npexport コマンドでエクスポートした業務コンテンツおよびアクセス権の設定情報npaclexport コマンドでエクスポートしたアクセス権グループの情報
10	nppddbstatus コマンド	データベースの利用状況を確認します。
11	nppubexport コマンド	公開中の業務コンテンツの最新の公開版、およびアクセス権の設定情報をエクスポートします。
12	nppubimport コマンド	nppubexport コマンド (公開版業務コンテンツのエクスポート) でエクスポートしたファイルをインポートして、公開中の業務コンテンツの内容を更新します。
13	npreorg コマンド	データベースを再編成します。
14	npsetup コマンド	ナビゲーション プラットフォームをセットアップします。

項番	コマンド名	機能概要
15	npsnapshotlog コマンド	ナビゲーション プラットフォームに関するログおよび環境設定ファイルを取得します。
16	npstart コマンド	ナビゲーション プラットフォームを起動します。
17	npstop コマンド	ナビゲーション プラットフォームを停止します。
18	npunsetup コマンド	すべての業務コンテンツのデータ（静的ファイルは除く）を削除し、ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップします。
19	npupdatesearchdata コマンド	コマンド実行時の業務コンテンツの内容を、検索用のデータに反映します。
20	npuploadoplog	ナビゲーション プラットフォームの操作ログを zip 形式に変換し、静的コンテンツ格納先フォルダに格納します。

9.1.2 全コマンド共通の注意事項

ここでは、全コマンド共通の注意事項を説明します。次に示す内容を守らなかった場合、エラーが発生していても動作は保証されません。

- ナビゲーション プラットフォームのインストール操作を実行した、Windows の管理者権限を持つユーザでコマンドを実行してください。その場合、コマンドプロンプトを [管理者として実行] を選択して開いてからコマンドを実行する必要があります。
- npsnapshotlog コマンド（トラブルシュート情報の収集）以外は、2 種類以上のコマンドを同時に実行しないでください。また、複数の npsnapshotlog コマンドを同時に実行することはできません。
- コマンド実行中は、ほかの操作をしないでください。
- コマンド実行時に表示されるコマンドプロンプトを停止したり、コマンドを強制的に終了したりしないでください。
- ナビゲーション プラットフォームをセットアップしたときに設定した環境変数以外の環境変数には、「UCNP」で始まる名称を付けしないでください。
- ホスト名（15 バイト以内）に使用できる文字は、半角英数字（A～Z, a～z, 0～9）および半角ハイフン（-）だけです。
- コマンドのオプションに指定するパスに半角スペースを含める場合は、パスを引用符（"）で囲んでください。
- インストールディレクトリ以下のディレクトリおよびファイルは、指示されているもの以外は変更、削除しないでください。

9.2 npaclexport コマンド (アクセス権グループのエクスポート)

機能

保存済みのアクセス権グループの情報をエクスポートします。

このコマンドは、アクセス権グループの情報だけをエクスポートしたい場合に使用します。例えば、業務コンテンツを参照できるユーザを追加するときに、アクセス権グループだけを変更したい場合に npaclexport コマンドを使用すると便利です。

業務コンテンツの情報をエクスポートしたい場合は「[9.8 npexport コマンド \(業務コンテンツのエクスポート\)](#)」を参照してください。

なお、このコマンドは、セットアップ完了後、システムが起動している状態で実行する必要があります。コマンドプロンプトは管理者として開いてください。

形式

```
npaclexport [-i Δアクセス権グループ名入力ファイルのパス] [-l Δアクセス権グループのエクスポート一覧ファイルのパス] Δエクスポート先のファイルのパス
```

エクスポート先のファイルのパスは、200文字以内の絶対パスまたは相対パスで指定します。出力されるファイルの形式は ZIP 形式です。

また、区切り文字には「¥」を使用します。パスに半角スペースが含まれる場合は、パス全体を「"」で囲んでください。ディレクトリのパスで使用できる記号は、これら以外には半角のコロン (:) と相対パスを表す半角ピリオド (.) だけです。

オプション

-i アクセス権グループ名入力ファイルのパス

アクセス権グループ名入力ファイルのパスを絶対パスまたは相対パスで指定します。

このオプションを指定すると、ファイルに記載されているアクセス権グループ名と同じ名称のアクセス権グループだけがエクスポートされます。このオプションを省略した場合は、すべてのアクセス権グループがエクスポートされます。

-l アクセス権グループのエクスポート一覧ファイルのパス

アクセス権グループのエクスポート一覧ファイルのパスを絶対パスまたは相対パスで指定します。

このオプションを指定すると、エクスポートされたアクセス権グループの一覧がテキストファイルとして出力されます。

アクセス権グループ名入力ファイルの形式

改行区切りでアクセス権グループ名を指定します。アクセス権グループ名入力ファイルはテキストファイルで作成してください。テキストファイル以外の場合は、コマンド実行時にエラーメッセージ (KDCZ10147-E) が表示されます。

標準アクセス権限を指定する場合は、標準アクセス権限の日本語名または英語名のどちらかを指定してください。

各行の前後の空白（半角スペース，または全角スペース）を削除した文字列をアクセス権グループ名として読み込みます。各行の前後の空白を削除した結果，アクセス権グループ名が空文字になる行は読み込みません。

行の途中で EOF になっている場合，EOF までの文字列をアクセス権グループ名として読み込みます。

なお，「#」などの記号でコメント行を追加することはできません。

アクセス権グループのエクスポート一覧ファイルの形式

ファイルの先頭にヘッダ情報が出力され，続いて，次の形式でメッセージが出力されます。

```
[結果種別]<T>[アクセス権グループ名] <T>[アクセス権グループID]<CR><LF>
```

<T>：タブ文字

<CR><LF>：終端文字（0x0D，0x0A）

メッセージの詳細を次の表に示します。

表 9-2 アクセス権グループのエクスポート一覧ファイルに出力されるメッセージの詳細

項目	説明
結果種別	npaclexport コマンドの実行結果の種別が出力されます。 exported アクセス権グループがエクスポートされました。
アクセス権グループ名	エクスポートしたアクセス権グループ名が出力されます。
アクセス権グループ ID	エクスポートしたアクセス権グループの ID が出力されます。

アクセス権グループのエクスポート一覧ファイルの出力例を次に示します。

結果種別	アクセス権グループ名	アクセス権グループID
exported	標準アクセス権限	ID_ACL_DEF_ID
exported	アクセス A	fa078688-0145-1000-8000-0000ac11510b
exported	アクセス B	fb588688-0145-1000-8000-0000ac11350d
exported	アクセス C	ad488688-0145-1000-8000-0000ac11510b

注意事項

- 出力先として指定したファイルと同じ名前のファイルがすでにそのディレクトリに存在している場合はエラーとなり，エクスポートできません。存在していないファイルを指定してください。
- ファイルのパスには，ネットワークドライブを指定しないでください。
- エクスポートする業務コンテンツの容量に対して，エクスポート先のディスクの空き容量が不十分だった場合，このコマンドは異常終了します。

また、コマンド実行中は作業フォルダとして環境変数 TMP または TEMP のフォルダを使用します。このため、環境変数 TMP および TEMP のフォルダのディスク容量に余裕を持たせてからコマンドを実行するようにしてください。

- JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合はアクセス権グループが存在しないため、このコマンドは使用しないでください。

戻り値

戻り値	説明
0	コマンドが正常終了した。または警告終了した。
1	コマンドが異常終了した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 (<Ctrl>キーと<C>キーを同時に押して強制終了した場合など) の戻り値は不定となります。

使用例

例 1

次の条件でアクセス権グループをエクスポートする場合の使用例を次に示します。

- エクスポート先のファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- すべてのアクセス権グループをエクスポートする。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npaclexport C:¥work ¥repository.zip
```

例 2

次の条件でアクセス権グループをエクスポートする場合の使用例を次に示します。

- エクスポート先のファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- アクセス権グループ名入力ファイルのパスが「C:¥work¥accessName.txt」である。
- アクセス権グループ名入力ファイルで指定したアクセス権グループをエクスポートする。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npaclexport -i C:¥work ¥accessName.txt C:¥work¥repository.zip
```

例 3

次の条件でアクセス権グループをエクスポートする場合の使用例を次に示します。

- エクスポート先のファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- アクセス権グループのエクスポート一覧ファイルのパスが「C:¥work¥list.csv」である。
- すべてのアクセス権グループをエクスポートする。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npaclexport -l C:¥work  
¥list.csv C:¥work¥repository.zip
```


9.3 npconvertoplog コマンド (操作ログファイル名変更)

機能

操作ログファイルのファイル名を、操作ログファイルの採番方式に従って変更します。

操作ログファイルの採番方式は、次のどちらかです。

1. 操作ログファイルの更新日時の古い順に採番する方式

この採番方式で名称変更する例を次に示します。

変更前の操作ログファイル名は、次のとおりです。

operation3.log (更新日時：2015/6/18:15:00)

operation2.log (更新日時：2015/6/19:14:00)

operation1.log (更新日時：2015/6/22:13:00)

これらの操作ログファイルに対し、この採番方式で名称変更を実施すると、次のように名称変更します。

operation1.log (更新日時：2015/6/18:15:00)

operation2.log (更新日時：2015/6/19:14:00)

operation3.log (更新日時：2015/6/22:13:00)

バージョンアップ時に、この採番方式で名称変更を実施します。詳細は、「[3.8 Hitachi Navigation Platform 10-00 以降からバージョンアップする場合](#)」を参照してください。

2. 操作ログファイルの更新日時の新しい順に採番する方式

この採番方式で名称変更する例を次に示します。

変更前の操作ログファイル名は、次のとおりです。

operation1.log (更新日時：2015/6/18:15:00)

operation2.log (更新日時：2015/6/19:14:00)

operation3.log (更新日時：2015/6/22:13:00)

これらの操作ログファイルに対し、この採番方式で名称変更を実施すると、次のように名称変更します。

operation3.log (更新日時：2015/6/18:15:00)

operation2.log (更新日時：2015/6/19:14:00)

operation1.log (更新日時：2015/6/22:13:00)

Hitachi Navigation Platform10-00 および JP1/Integrated Management - Navigation Platform 10-50 以前から操作ログを利用して、かつ操作ログの独自解析を、Hitachi Navigation Platform 10-10 以降および JP1/Navigation Platform 11-00 以降で継続して実施したい場合に使用します。

形式

```
npconvertoplogΔ[-r]Δ操作ログ格納ディレクトリのパス
```

名称を変更する操作ログを格納しているディレクトリパスを指定してください。ただし、ucnp.base.server.operationlog.path プロパティで指定したディレクトリパス以外を指定してください。

オプション

-r

操作ログファイルのファイル名を、操作ログファイルの更新日付が新しい順に採番する方式で名称変更します。省略した場合は、操作ログファイルのファイル名を、操作ログファイルの更新日付が古い順に採番する方式で名称変更します。

注意事項

- 操作ログ格納ディレクトリのパスには、存在するディレクトリのパスを指定してください。
- 操作ログ格納ディレクトリのパスに、Windows のファイル名やディレクトリ名に使用できない文字を含めないでください。
- 操作ログ格納ディレクトリのパスに、ネットワークドライブのパスを指定しないでください。
- 操作ログ格納ディレクトリのパスに、ショートネームを使用しないでください。
- 操作ログ格納ディレクトリのパスで、「”」（半角ダブルクォーテーション）を使用する場合、「”」（半角ダブルクォーテーション）を正しく使用してください。
- 操作ログ格納ディレクトリのパスに、次に示す半角文字以外の半角文字を含めないでください。
 - 「 」 (半角スペース)
 - 「¥」 (半角円マーク)
 - 「:」 (半角コロン)
 - 「.」 (半角ピリオド)
- このコマンドを実行している間は、操作ログファイルにアクセスしないでください。
- 操作ログファイルの最終更新日時は変更しないでください。
- このコマンドが異常終了した場合は、ほかの操作はしないで、再度このコマンドを実行してください。

戻り値

戻り値	説明
0	操作ログのファイル名変更に成功した。
1	操作ログのファイル名変更に失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（<Ctrl>キーと<C>キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

使用例

操作ログ格納ディレクトリが「C:*temp*oplog」の場合の例です。

> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npconvertoplog C:¥temp¥oplog

9.4 npdashboardremoveolddata コマンド (解析情報削除)

機能

蓄積された解析情報のうち、コマンド実行時点から6か月前より古い解析情報を削除します。また、引数を指定することで、削除する期間を指定できます。

参考

コマンド実行後に、処理続行の確認メッセージ (KDCZ50847-Q) が出力されます。処理を続行する場合は「Y」を、中止する場合は「Y」以外を入力してください。処理を中止した場合は、戻り値が0で終了します。

このコマンドは、ダッシュボードサーバの起動中に、Windowsの管理者権限を持つユーザが実行してください。

形式1

```
npdashboardremoveolddata Δ[-y]
```

コマンド実行時点から6か月前を起点とし、それより古い解析情報を削除する場合に指定します。

形式2

```
npdashboardremoveolddata Δ[期間|--all] Δ[-y]
```

期間を指定してそれより古い解析情報を削除するかすべての解析情報を削除するかを指定します。

オプション

期間|--all

- 期間
削除する期間を1~6の整数で指定します。
- --all
すべての解析情報を削除する場合に指定します。

-y

処理続行の確認を省略する場合に指定します。

戻り値

戻り値	説明
0	コマンドが正常終了した。
1	コマンドが異常終了した。

戻り値	説明
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

使用例

コマンド実行時点から3か月前より古い解析情報を削除する場合の例です。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdashboardremoveolddata 3
```

9.5 npdashboardsetstoragememory コマンド (ストレージメモリ設定変更)

機能

ダッシュボードサーバのストレージサービスに必要なメモリ容量の設定を変更します。

参考

変更を反映するには、このコマンドを実行したあとに、ダッシュボードサーバの再起動が必要です。

このコマンドは、ダッシュボードサーバの起動中に、Windows の管理者権限を持つユーザが実行してください。

このコマンドを実行する前に、次に示すファイルを参照して、変更前の設定内容を確認してください。

- 参照先ディレクトリ

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥Elastic¥elasticsearch¥config
```

- ファイル名

```
jvm.options.npsettings.txt
```

- ファイルの内容

```
-XmsJavaVMのヒープメモリの最小サイズ (単位 : MB) m  
-XmxJavaVMのヒープメモリの最大サイズ (単位 : MB) m
```

例として、JavaVM のヒープメモリの最小サイズが 1024MB、最大サイズが 1024MB の場合のファイルの内容を次に示します。

(例)

```
-Xms1024m  
-Xmx1024m
```

形式

```
npdashboardsetstoragememory△最小サイズ△最大サイズ
```

最小サイズには、JavaVM のヒープメモリの最小サイズを 512~2048 の整数で指定します。

最大サイズには、JavaVM のヒープメモリの最大サイズを 1024~2048 の整数で指定します。

戻り値

戻り値	説明
0	コマンドが正常終了した。

戻り値	説明
1	コマンドが異常終了した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

使用例

JavaVMのヒープメモリの最小サイズが1024MB、最大サイズを2048MBの場合の例です。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdashboardsetstoragememory
1024 2048
```


9.6 npdatabackup コマンド (環境退避)

機能

ナビゲーション プラットフォームの環境を退避 (バックアップ) します。

このコマンドは、実行環境および編集環境でだけ実行できます。開発環境では実行しないでください。

このコマンドは、システムが停止している状態で実行する必要があります。

このコマンドで退避できるデータを次に示します。

表 9-3 バックアップされるデータ

項番	データ	格納先
1	業務コンテンツのデータ	バックアップ先ディレクトリ¥contents.zip
2	業務コンテンツのデータの一覧	バックアップ先ディレクトリ¥contentslist.txt
3	業務コンテンツで使用している静的ファイル	バックアップ先ディレクトリ¥HNP¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs
4	ナビゲーション プラットフォームに関する設定ファイル (プロパティファイルなど)	バックアップ先ディレクトリ¥HNP¥conf
	ダッシュボード機能のアクセスユーザ管理ファイル	
5	ナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリのパス情報	バックアップ先ディレクトリ¥installpath.txt
6	ナビゲーション プラットフォームのバージョン情報	バックアップ先ディレクトリ¥HNP¥sysconf ¥ucnpversion.properties
7	ユーザプラグインおよび設定ファイル*	バックアップ先ディレクトリ¥plugin_files
8	ユーザ認証の設定ファイル	バックアップ先ディレクトリ¥auth_conf¥PP¥uCPF¥conf ¥Repository.xml
		バックアップ先ディレクトリ¥auth_conf¥PP¥uCPSB¥manager ¥conf¥ua.conf

注

- バックアップ先ディレクトリには、この表に示した以外のディレクトリやファイルも格納されますが、編集しないでください。
- バックアップされたファイルおよびディレクトリは、元のデータの属性 (読み取り属性など) を引き継ぎます。ただし、ファイルのアーカイブ属性、ファイルおよびディレクトリの非インデックス対象ファイル属性は引き継がれません。

注※

ユーザプラグインが前提とするファイルや、データベースなどのユーザプログラムと連携するシステムのデータは、npdatabackup コマンドでは取得できません。それらのデータは、バックアップ取得時に個別に取得することを推奨します。

形式

```
npdatabackup△バックアップ先ディレクトリのパス
```

ディレクトリは、絶対パス・相対パスのどちらでも指定できます。パスが長過ぎると処理に失敗することがあるため、パスの長さはナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリよりも短くなるように指定することを推奨します。

また、区切り文字には「¥」を使用します。パスに半角スペースが含まれる場合は、パス全体を「"」で囲んでください。ディレクトリのパスで使用できる記号は、これら以外には半角のコロン (:) と相対パスを表す半角ピリオド (.) だけです。

注意事項

- バックアップ先には、30MB 以上の空き容量がある、空のディレクトリを指定する必要があります。次のように運用している場合は、それらの容量分も空き容量として確保してください。
 - 業務コンテンツで静的ファイルを使用している場合
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥httpsd¥htdocs 以下の容量分
 - ユーザプラグインを使用している場合
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥plugin_files 以下の容量分
- コマンド実行中は、作業フォルダとして環境変数 TMP のフォルダを使用します。環境変数 TMP のフォルダには、550MB 以上の空き容量を確保してください。
- バックアップ先ディレクトリのパスには、ネットワークドライブ以外を指定してください。
- バックアップ先ディレクトリのパスに、ショートネームは使用できません。
- コマンドが正常終了した場合（戻り値が 0 の場合）も、ナビゲーション プラットフォームは停止したままとなるため、npstart コマンド（起動）でナビゲーション プラットフォームを起動してください。
- バックアップ処理完了後は、バックアップ先ディレクトリ内のディレクトリおよびファイルの内容や属性を変更しないでください。変更した場合、環境復元（リストア）の動作は保証されません。
- バックアップのデータを移動する場合、属性や空のディレクトリを保持できるツールを利用して、圧縮してから移動してください。

戻り値

戻り値	説明
0	ナビゲーション プラットフォームの環境退避（バックアップ）に成功した。
1	ナビゲーション プラットフォームの環境退避（バックアップ）に失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

使用例

バックアップ先ディレクトリが「C:¥temp¥backupdata」の場合の例です。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdatabackup C:¥temp  
¥backupdata
```

9.7 npdatarestore コマンド (環境復元)

機能

npdatabackup コマンド (環境退避) でバックアップしたデータを利用して、ナビゲーション プラットフォームの環境を復元 (リストア) します。このコマンドはシステムが停止している状態で実行してください。

このコマンドは、実行環境および編集環境でだけ実行できます。開発環境では実行しないでください。

また、バックアップ時とリストア時のナビゲーション プラットフォームのバージョンは、同じである必要があります。

このコマンドを実行すると、既存のデータが削除または上書きされて、npdatabackup コマンドでバックアップしたデータに置き換わります。npdatabackup コマンドでバックアップされるデータについては、表 9-3 を参照してください。

npdatarestore コマンドで復元しないデータ

なお、ユーザプラグインおよびユーザ認証の設定ファイルは、ほかのシステムと同期して復元する必要があるため、このコマンドでは復元しません。

また、個別に取得した、ユーザプラグインが前提とするファイルや、データベースなどのユーザプログラムと連携するシステムのデータも、このコマンドでは復元できません。このデータは、必要に応じてユーザプラグインと同期して復元してください。

形式

```
npdatarestore△バックアップデータの格納ディレクトリのパス
```

npdatabackup コマンド実行時に指定したバックアップ先ディレクトリを、そのままバックアップデータの格納ディレクトリ (リストア元ディレクトリ) として使用することを推奨します。

ディレクトリは、絶対パス・相対パスのどちらでも指定できます。パスが長過ぎると処理に失敗することがあるため、パスの長さはナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリよりも短くなるように指定することを推奨します。

また、区切り文字には「¥」を使用します。パスに半角スペースが含まれる場合は、パス全体を「"」で囲ってください。ディレクトリのパスで使用できる記号は、これら以外には半角のコロン (:) と相対パスを表す半角ピリオド (.) だけです。

注意事項

- リストアする環境に必要な空き容量は、業務コンテンツの数および内容によって異なります。業務コンテンツで静的ファイルを使用している場合は、ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥https¥htdocs 以下の容量以上の空き容量を確保する必要があります。
- リストア元ディレクトリのパスには、ネットワークドライブ以外を指定してください。

- リストア元ディレクトリのパスに、ショートネームは使用できません。
- リストア元に、npdatabackup コマンドで取得したデータ以外のデータが格納されたディレクトリを指定した場合は、エラーとなります。
- バックアップ時とリストア時のナビゲーション プラットフォームのバージョン、リビジョン、および限定コードは、すべて同じである必要があります。
バックアップ時のバージョン情報については、バックアップ先ディレクトリ¥HNP¥sysconf ¥ucnpversion.properties で確認できます。
- バックアップ時とリストア時のナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリは、同じである必要があります。
バックアップ時のインストールディレクトリは、バックアップ先ディレクトリ¥installpath.txt で確認できます。
- コマンドが正常終了した場合（戻り値が0の場合）、ナビゲーション プラットフォームは自動的に起動するため、npstart コマンド（起動）を実行する必要はありません。
- ナビゲーション プラットフォームのバージョンアップ後に、バージョンアップ前に取得したバックアップデータを復元する場合、バックアップ取得時と復元先のバージョンが異なるため、npdatarestore コマンドは使用できません。この場合、「3.7.3 バージョンアップ手順」の説明を参照して、バックアップデータを復元してください。
- このコマンドを実行するとナビゲーション プラットフォームが起動します。詳細については、「5.1.1 コマンドを実行してナビゲーション プラットフォーム（システム）を起動する」の注意事項を参照してください。

戻り値

戻り値	説明
0	ナビゲーション プラットフォームの環境復元（リストア）に成功した。
1	ナビゲーション プラットフォームの環境復元（リストア）に失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

使用例

リストア元ディレクトリが「C:¥temp¥backupdata」の場合の例です。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npdatarestore C:¥temp
¥backupdata
```

9.8 npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート)

機能

保存された業務コンテンツ、およびアクセス権の設定情報 (アクセス権グループまたは JP1 資源グループ) をエクスポートします。

このコマンドは、過去に公開した版も含め、業務コンテンツのすべての版をエクスポートします。公開版だけをエクスポートしたい場合は、nppubexport コマンド (公開版業務コンテンツのエクスポート) を使用してください。詳細は、「9.12 nppubexport コマンド (公開版業務コンテンツのエクスポート)」を参照してください。

このコマンドは、セットアップ完了後、システムが起動している状態で実行する必要があります。コマンドプロンプトは管理者として開いてください。

なお、業務コンテンツが作成されていない状態でこのコマンドを実行した場合、業務コンテンツ数が 0 のファイルがエクスポートされます。

参考

ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合は、アクセス権グループおよび標準アクセス権限によって業務コンテンツのアクセス権が決まります。一方、JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合は、JP1 資源グループの設定によって業務コンテンツのアクセス権が決まります。ただし、このコマンドでエクスポートできる JP1 資源グループの情報は、JP1 資源グループ名だけです。JP1 資源グループの設定をインポート時に変更するための情報はエクスポートされないため、注意してください。

形式

```
npexport [-c Δエクスポートしたい業務コンテンツID | -i Δ業務コンテンツID一覧ファイルのパス] [-x] [-l Δエクスポート一覧ファイルのパス] Δエクスポート先のファイルのパス
```

エクスポート先のファイルのパスは、200 文字以内の絶対パスまたは相対パスで指定します。出力されるファイルの形式は ZIP 形式です。

また、区切り文字には「¥」を使用します。パスに半角スペースが含まれる場合は、パス全体を「"」で囲ってください。ディレクトリのパスで使用できる記号は、これら以外には半角のコロン (:) と相対パスを表す半角ピリオド (.) だけです。

ポイント

業務コンテンツが 1 件も登録されていない場合にこのコマンドを実行すると、業務コンテンツ数が 0 のファイルが作成されます。このファイルを npimport コマンド (業務コンテンツのインポート) に -d オプションを指定してインポートすると、登録されているすべての業務コンテンツが削除されます。多数の業務コンテンツを一括で削除したい場合に便利です。

オプション

-c エクスポートしたい業務コンテンツ ID

特定の業務コンテンツだけエクスポートしたい場合に、エクスポートしたい業務コンテンツの業務コンテンツ ID を指定します。

-i 業務コンテンツ ID 一覧ファイルのパス

業務コンテンツ ID 一覧ファイルのパスを絶対パスまたは相対パスで指定します。

なお、-c オプションおよび-i オプションを省略した場合は、すべての業務コンテンツをエクスポートします。

-i オプションに指定した業務コンテンツ ID 一覧ファイルに、存在しない業務コンテンツ ID が含まれている場合は、存在する業務コンテンツとアクセス権の設定情報だけがエクスポートされます。その際、対応する業務コンテンツがないことを示す警告メッセージが出力されます。

-X

業務コンテンツだけを出力する場合に指定します。

なお、JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合は、このオプションを指定しても無視されます。

-l エクスポート一覧ファイルのパス

エクスポート一覧ファイルのパスを絶対パスまたは相対パスで指定します。

このオプションを指定すると、エクスポートされた業務コンテンツの一覧がテキストファイルとして出力されます。

業務コンテンツ ID 一覧ファイルの形式

改行区切りで業務コンテンツ ID を指定します。業務コンテンツ ID 一覧ファイルはテキストファイルで作成してください。テキストファイル以外の場合は、コマンド実行時にエラーメッセージ (KDCZ10147-E) が表示されます。

各行の前後の空白 (半角スペース, または全角スペース) を削除した文字列を業務コンテンツ ID として読み込みます。各行の前後の空白を削除した結果、業務コンテンツ ID が空文字になる行は読み込みません。

行の途中で EOF になっている場合、EOF までの文字列を業務コンテンツ ID として読み込みます。

なお、「#」などの記号でコメント行を追加することはできません。

エクスポート一覧ファイルの形式

ファイルの先頭にヘッダ情報が出力され、続いて、次の形式でメッセージが出力されます。

```
[結果種別]<T>[業務コンテンツID]<T>[業務コンテンツバージョンID]<T>[更新日時([タイムゾーン])]<T>[公開日時([タイムゾーン])]<T>[公開状態]<T>[業務コンテンツ名称]<T>[グループ名]<T>[アクセス権グループ名またはJP1資源グループ名1]<T>
...
[アクセス権グループ名またはJP1資源グループ名10]<CR><LF>
[結果種別]<T>[アクセス権グループ名1]<T>[アクセス権グループID1]<CR><LF>
...
[結果種別]<T>[アクセス権グループ名10]<T>[アクセス権グループID10]<CR><LF>
```


<T>：タブ文字

<CR><LF>：終端文字 (0x0D, 0x0A)

メッセージの詳細を次の表に示します。

表 9-4 エクスポート一覧ファイルに出力されるメッセージの詳細

項目	説明
結果種別	npexport コマンド（業務コンテンツのエクスポート）の実行結果の種別が出力されます。 exported 業務コンテンツまたはアクセス権グループがエクスポートされました。
業務コンテンツ ID	エクスポートした業務コンテンツ ID が出力されます。
業務コンテンツバージョン ID	エクスポートした業務コンテンツの版の ID が出力されます。
更新日時	エクスポートした業務コンテンツの版を最後に更新した日時が出力されます。 形式：YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS 業務編集画面で、業務コンテンツの保存または編集完了の操作をした日時が出力されます。
公開日時	エクスポートした業務コンテンツの版を最後に公開した日時が出力されます。 形式：YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS なお、エクスポート時には非公開となっている業務コンテンツでも、最後に公開した日時が出力されます。一度も公開されていない業務コンテンツの場合は、「----/--/--△--:--:--」と出力されます。
公開状態	エクスポートした業務コンテンツの公開状態が出力されます。公開状態には次の 2 種類があります。 公開中 公開されている業務コンテンツの、最新の公開版です。 空文字 公開中の条件に当てはまらない状態の業務コンテンツです。
業務コンテンツ名称	エクスポートした業務コンテンツの名称が出力されます。
グループ名	エクスポートした業務コンテンツのグループ名が出力されます。
アクセス権グループ名	業務コンテンツ名称と同じ行には、エクスポートした業務コンテンツに設定されているアクセス権グループ名が出力されます。それ以外の行には、エクスポートしたアクセス権グループ名が出力されます。 アクセス権グループは、はじめに標準アクセス権限が出力されたあと、名称の昇順で出力されます。
JP1 資源グループ名	業務コンテンツ名称と同じ行には、エクスポートした業務コンテンツに設定されている JP1 資源グループ名が出力されます。
アクセス権グループ ID	エクスポートしたアクセス権グループの ID が出力されます。

エクスポート一覧ファイルの出力例を次に示します。

結果種別 (JST)	業務コンテンツID 公開状態	業務コンテンツバージョンID 業務コンテンツ名称 グループ名	更新日時(JST)	公開日時
exported	268e3592-0133-1000-8002-00000ad23cbb-0			
fe6dcb35-0145-1000-8000-0000ac11510b		2014/05/15 14:49:39.524	----/--/--	
--:--:--.---		[sample01]Webアプリバージョンアップ		サンプルコンテンツ
exported	268e3592-0133-1000-8002-00000ad23cbb-0			
fe6db084-0145-1000-8000-0000ac11510b		2014/05/15 14:49:37.793	----/--/--	
--:--:--.---		[sample01]Webアプリバージョンアップ		サンプルコンテンツ
exported	268e3592-0133-1000-8002-00000ad23cbb-0			
fe6cfabc-0145-1000-8000-0000ac11510b		2014/05/15 14:48:48.979	2014/05/15	
14:49:26.935	公開中	[sample01]Webアプリバージョンアップ		サンプルコンテンツ
exported	268e3592-0133-1000-8002-00000ad23cbb-0			
fa07860b-0145-1000-8000-0000ac11510b		2012/08/21 14:15:56.940	2014/05/14	
18:19:28.283		[sample01]Webアプリバージョンアップ		サンプルコンテンツ
exported	357a2f3a-0133-1000-8001-00000ad23cbb-0			
fe6cbcd5-0145-1000-8000-0000ac11510b		2014/05/15 14:48:36.094	----/--/--	
--:--:--.---		[sample01解説]Webアプリバージョンアップ		サンプルコンテンツ
exported	357a2f3a-0133-1000-8001-00000ad23cbb-0			
fa078688-0145-1000-8000-0000ac11510b		2012/08/21 14:16:02.550	2014/05/14	
18:19:28.408	公開中	[sample01解説]Webアプリバージョンアップ		サンプルコンテンツ
exported	fe6eb084-0145-1000-8000-0000ac11510b-0			
fe6eb0c2-0145-1000-8000-0000ac11510b		2014/05/15 14:50:38.227	----/--/--	
--:--:--.---		新規入会		新規手順

注意事項

- 業務コンテンツで使用している画像やHTMLなどの静的ファイルは、このコマンドではエクスポートされません。静的ファイルは手動でコピーし、移動させてください。静的ファイルの取り扱いの詳細は、「[6.9 業務コンテンツで使用する静的ファイルの管理](#)」を参照してください。
- 出力先として指定したファイルと同じ名前のファイルがすでにそのディレクトリに存在している場合はエラーとなり、エクスポートできません。存在していないファイルを指定してください。
- ファイルのパスには、ネットワークドライブを指定しないでください。
- エクスポートする業務コンテンツの容量に対して、エクスポート先のディスクの空き容量が不十分だった場合、このコマンドは異常終了します。
また、コマンド実行中は作業フォルダとして環境変数 TMP または TEMP のフォルダを使用します。このため、環境変数 TMP および TEMP のフォルダのディスク容量に余裕を持たせてからコマンドを実行するようにしてください。
- 出力したファイルの内容を変更しないでください。出力したファイルの内容を変更してインポートした場合、動作は保証されません。

戻り値

戻り値	説明
0	コマンドが正常終了した。または警告終了した。
1	コマンドが異常終了した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。

戻り値	説明
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 (< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など) の戻り値は不定となります。

使用例

例 1

次の条件で業務コンテンツをエクスポートする場合の使用例を次に示します。

- エクスポート先のファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- 業務コンテンツとアクセス権の設定情報をエクスポートする。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npexport C:¥work
¥repository.zip
```

例 2

次の条件で業務コンテンツをエクスポートする場合の使用例を次に示します。

- エクスポート先のファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- エクスポート後に出力するエクスポート一覧ファイルのパスを「C:¥work¥list.csv」とする。
- 業務コンテンツとアクセス権の設定情報をエクスポートする。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npexport -l C:¥work
¥list.csv C:¥work¥repository.zip
```

例 3

次の条件で業務コンテンツをエクスポートする場合の使用例を次に示します。

- エクスポート先のファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- 指定した業務コンテンツ ID (85D412B4-BB5D-4a14-A331-B0D31B7E1297-1) の業務コンテンツとアクセス権の設定情報をエクスポートする。
- JP1/Base によるユーザ認証を利用していない。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npexport -c 85D412B4-
BB5D-4a14-A331-B0D31B7E1297-1 C:¥work¥repository.zip
```

例 4

次の条件で業務コンテンツをエクスポートする場合の使用例を次に示します。

- エクスポート先のファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- 業務コンテンツ ID 一覧ファイルのパスが「C:¥work¥contentsId.txt」である。
- 業務コンテンツとアクセス権の設定情報をエクスポートする。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npexport -i C:¥work  
¥contentsId.txt C:¥work¥repository.zip
```

例 5

次の条件で業務コンテンツをエクスポートする場合の使用例を次に示します。

- エクスポート先のファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- すべての業務コンテンツだけをエクスポートする。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npexport -x C:¥work  
¥repository.zip
```

9.9 npextendrdarea コマンド (データベースの拡張)

機能

データベースの容量を拡張します。

データベースの容量の拡張が必要かどうかは、データベースの利用状況を確認して判断してください。このコマンドを実行すると、業務コンテンツ 500 個分の容量 (約 10GB) を拡張します。

このコマンドは、ナビゲーションプラットフォームが起動している状態で実行する必要があります。コマンドプロンプトは管理者として開いてください。

形式

npextendrdarea

オプション

なし。

注意事項

ナビゲーションプラットフォームの運用中にこのコマンドを実行すると、ナビゲーションプラットフォームの動作が遅くなるおそれがあります。そのため、このコマンドはナビゲーションプラットフォームへのアクセス頻度が低いときに実行することを推奨します。

戻り値

戻り値	説明
0	コマンドが正常終了した。
1	コマンドが異常終了した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 (< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など) の戻り値は不定となります。

使用例

データベースの容量を拡張します。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npextendrdarea
```

9.10 npimport コマンド (業務コンテンツのインポート)

機能

ナビゲーション プラットフォームのコマンドでエクスポートした業務コンテンツ、およびアクセス権の設定情報 (アクセス権グループまたは JP1 資源グループ) をインポートします。

このコマンドは、セットアップ完了後、システムが起動している状態で実行する必要があります。コマンドプロンプトは管理者として開いてください。

npupdatesearchdata コマンドを実行すると、インポートした最新の業務コンテンツが検索の対象になります。コマンドの詳細は、「9.20 npupdatesearchdata コマンド (検索用データの更新)」を参照してください。

なお、このコマンドで業務コンテンツを更新する場合、過去に公開した版も含めて、すべての業務コンテンツの版を更新します。公開中の業務コンテンツの内容だけを更新したい場合は、nppubimport コマンド (公開版業務コンテンツのインポート) を使用してください。コマンドの詳細は、「9.13 nppubimport コマンド (公開版業務コンテンツのインポート)」を参照してください。

業務実行画面の [検索] タブを表示している場合は、このコマンドを実行したあとに、npupdatesearchdata コマンド (検索用データの更新) を実行することを推奨します。

参考

ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合は、アクセス権グループおよび標準アクセス権限によって業務コンテンツのアクセス権が決まります。JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合は、JP1 資源グループの設定によって業務コンテンツのアクセス権が決まります。ただし、このコマンドでは、JP1 資源グループの設定は変更されません。JP1 資源グループの設定は、業務編集画面から変更する必要があります。

デフォルトではインポート対象の業務コンテンツを既存の業務コンテンツに追加します。既存の業務コンテンツの中に、同じ名称の業務コンテンツがすでに存在していた場合はエラーとなります。

既存データへの追加ではなく、既存データをインポートするデータに置き換える場合には、-d オプションを指定してください。既存データを強制上書きするには、-f オプションを指定します。また、アクセス権グループをインポートする必要がない場合は、-x オプションを指定すると、業務コンテンツだけをインポートできます。

JP1/Base によるユーザ認証以外の環境で、すべての業務コンテンツをまとめてエクスポートしている場合 (-c オプション指定なしで npexport コマンドを実行)、インポート時には -d オプション、-f オプション、または -x オプションを必ず指定してください。

ディレクトリサーバによるユーザ認証を使用している場合は、次のどちらかの条件を満たすと、インポートした業務コンテンツに標準アクセス権限が設定されます。ただし、ID が同じ既存の業務コンテンツを上書きする場合 (-f オプション指定) は、既存の業務コンテンツのアクセス権の設定情報が有効となります。

- アクセス権グループをインポートしないで、業務コンテンツだけをインポート対象とした (-x オプション指定ありで npimport コマンドを実行した)
- 特定の業務コンテンツだけをエクスポートした (-c オプション指定ありで npexport コマンドを実行した) ファイルをインポート対象とした

インポート時に公開開始待ちの業務コンテンツを公開した状態でインポートしたい場合には、-o オプションを指定してください。例えば、公開開始待ちの業務コンテンツをテスト環境（実行環境）へインポートし、業務コンテンツの内容確認を行う場合などに利用します。

形式

```
npimport Δ[-d] Δ[-f] Δ[-x] Δ[-o] Δ[-l Δインポート一覧ファイルのパス] Δインポートしたいファイルのパス
```

インポートしたいファイルのパスは、絶対パスまたは相対パスで指定します。ナビゲーションプラットフォームのコマンドで取得したファイルを指定してください。それ以外のファイルは、指定できません。

オプション

-d

インポートする前に、すべての業務コンテンツおよびアクセス権の設定情報を削除します。

既存の業務コンテンツをインポートした業務コンテンツで置き換える場合は、このオプションを指定してください。このオプションを指定しない場合は、既存のデータにインポートしたデータを追加します。オプション「-d」「-f」を同時に指定した場合、「-f（強制登録）」は実行されません。

業務コンテンツにアクセス権グループを設定する場合は、-d オプションまたは-f オプションを指定してください。インポート先に同名のアクセス権グループが存在する場合、インポート時に-d オプションまたは-f オプションの指定がないとエラーになります。

オプション「-d」「-x」を同時に指定した場合、すべての業務コンテンツに標準アクセス権限を設定します。また、すべてのアクセス権グループを削除して、標準アクセス権限の定義をセットアップ時の状態にリセットします。なお、npexport コマンド（業務コンテンツのエクスポート）実行時に-x オプションを指定して、このコマンドで-d オプションを指定した場合も同じ状態になります。

また、-d オプション指定時に、標準アクセス権限を含まない業務コンテンツをインポートすると、標準アクセス権限の定義がセットアップ時の状態にリセットされます。

ポイント

- このオプションを指定して、npexport コマンド（業務コンテンツのエクスポート）の-x オプションでエクスポートしたファイルをインポートした場合、追加した業務コンテンツには標準アクセス権限が設定されます。上書きする業務コンテンツのアクセス権の設定情報は変更されません。
- このオプションを指定して、業務コンテンツ数が0のファイルをインポートすると、登録されているすべての業務コンテンツが削除されます。多数の業務コンテンツを一括で削除したい場合に便利です。

-f

インポート先に、インポート元と同じ名称のアクセス権グループ、または、同じ ID の業務コンテンツがすでに保存されている場合は、必ずこのオプションを指定してください。インポート元のアクセス権グループと業務コンテンツをインポート先に上書きします（強制登録）。

業務コンテンツにアクセス権グループを設定する場合は、-d オプションまたは-f オプションを指定してください。

-f オプションを指定しないと、同じ名称のアクセス権グループまたは同じ ID の業務コンテンツがすでに保存されている場合はエラーとなり、インポートできません。オプション [-d] [-f] を同時に指定した場合、[-f (強制登録)] は実行されないので、注意してください。

オプション [-f] [-x] を同時に指定した場合、インポート先のアクセス権グループを業務コンテンツに設定します。業務コンテンツに設定するアクセス権グループがインポート先に一つも存在しない場合は、標準アクセス権限を設定します。

ポイント

npimport コマンドを実行する場合は、業務コンテンツの名称だけではなく、ID も意識する必要があります。業務コンテンツの ID は、次の方法で確認できます。

- オプション [-l] を指定して npexport コマンドを実行して、出力される一覧ファイルを確認する。
- 業務編集画面で ID を確認したい業務コンテンツを選択して、メニュー領域の [ID 取得] メニューをクリックする。

-x

アクセス権グループをインポートしないで、業務コンテンツだけをインポートします。業務コンテンツにアクセス権グループを設定しない場合に指定してください。

このオプションを指定してインポートした業務コンテンツには、インポート元のアクセス権グループの設定にかかわらず、インポート先ではすべて標準アクセス権限が設定されます。ただし、-f オプションも同時に指定している場合で、ID が同じ業務コンテンツを上書きするときは、インポート先のアクセス権グループが有効となります。

なお、npexport コマンドで-x オプションを指定してエクスポートした業務コンテンツをインポートする場合、-x オプションの指定有無に関係なく、業務コンテンツだけがインポートされます。

オプション [-d] [-x] を同時に指定した場合、すべての業務コンテンツに標準アクセス権限を設定します。また、すべてのアクセス権グループを削除して、標準アクセス権限の定義をセットアップ時の状態にリセットします。

オプション [-f] [-x] を同時に指定した場合、インポート先のアクセス権グループを業務コンテンツに設定します。業務コンテンツに設定するアクセス権グループがインポート先に一つも存在しない場合は、標準アクセス権限を設定します。

オプション [-x] [-l] を同時に指定した場合、アクセス権グループはインポート一覧ファイルに出力されません。

なお、JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合は、このオプションを指定しても無視されます。

-O

インポート時に公開開始待ちの業務コンテンツを公開した状態でインポートします。公開開始待ちの業務コンテンツをテスト環境（実行環境）へインポートし、業務コンテンツの内容確認を行う場合などに利用します。

┆ インポート一覧ファイルのパス

追加，更新，または削除された業務コンテンツの一覧をテキストファイルとして出力します。

インポート一覧ファイルのパスは，絶対パスまたは相対パスで指定します。

インポート一覧ファイルの形式

ファイルの先頭にヘッダ情報が出力され，続いて，次の形式でメッセージが出力されます。

```
[結果種別]<T>[業務コンテンツID]<T>[業務コンテンツバージョンID]<T>[更新日時([タイムゾーン])]<T>[公開日時([タイムゾーン])]<T>[公開状態]<T>[公開予約状態]<T>[公開開始日時([タイムゾーン])]<T><T>[公開終了日時([タイムゾーン])]<T>[業務コンテンツ名称]<T>[グループ名]<T>[アクセス権グループ名またはJP1資源グループ名1]<T>
...
[アクセス権グループ名またはJP1資源グループ名10]<CR><LF>
[結果種別][アクセス権グループ名1]<T>[アクセス権グループID1]<CR><LF>
...
[結果種別][アクセス権グループ名10]<T>[アクセス権グループID10]<CR><LF>
```

<T>：タブ文字

<CR><LF>：終端文字（0x0D, 0x0A）

メッセージの詳細を次の表に示します。

表 9-5 インポート一覧ファイルに出力されるメッセージの詳細

項目	説明
結果種別	npimport コマンド（業務コンテンツのインポート）の実行結果の種別が出力されます。 <ul style="list-style-type: none">• added 業務コンテンツまたはアクセス権グループが新規に追加されました。• modified 公開中の業務コンテンツの内容が変更されました。* 同じ名称のアクセス権グループが上書き，または-d オプションによって削除されたあとにインポートされました。• merged 公開中の業務コンテンツ以外の業務コンテンツの内容が変更されました。* 同じ名称のアクセス権グループが上書き，または-d オプションによって削除されたあとにインポートされました。• deleted 業務コンテンツまたはアクセス権グループが削除されました。
業務コンテンツ ID	インポートした業務コンテンツ ID が出力されます。

項目	説明
業務コンテンツバージョン ID	インポートした業務コンテンツの版の ID が出力されます。
更新日時	<p>インポートした業務コンテンツの版を最後に更新した日時が出力されます。日付の形式は、次のユーザプロパティの設定によって変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ucnp.base.client.dateformat ucnp.base.client.timeformat.hmsm <p>業務編集画面で、業務コンテンツの保存または編集完了の操作をした日時が出力されます。</p>
公開日時	<p>インポートした業務コンテンツの版を最後に公開した日時が出力されます。日付の形式は、次のユーザプロパティの設定によって変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ucnp.base.client.dateformat ucnp.base.client.timeformat.hmsm <p>なお、インポート時には非公開となっている業務コンテンツでも、最後に公開した日時が出力されます。一度も公開されていない業務コンテンツの場合は、「-」（半角ハイフン）が出力されます。</p>
公開状態	<p>インポートした業務コンテンツの公開状態が出力されます。公開状態には次の 2 種類があります。</p> <p>公開中 公開されている業務コンテンツの、最新の公開版です。</p> <p>空文字 公開中の条件に当てはまらない業務コンテンツです。</p>
公開予約状態	<p>業務コンテンツの公開予約状態が出力されます。</p> <p>予約中 業務コンテンツが公開開始待ちまたは公開終了待ちです。</p> <p>空文字 公開予約されていません。</p>
公開開始日時	<p>インポートした業務コンテンツが公開される日時が出力されます。日付の形式は、次のユーザプロパティの設定によって変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ucnp.base.client.dateformat ucnp.base.client.timeformat.hmsm <p>公開開始日時を設定していない場合は、「-」（半角ハイフン）が出力されます。</p>
公開終了日時	<p>インポートした業務コンテンツの公開が終了する日時が出力されます。日付の形式は、次のユーザプロパティの設定によって変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ucnp.base.client.dateformat ucnp.base.client.timeformat.hmsm <p>公開開始日時を設定していない場合は、「-」（半角ハイフン）が出力されます。</p>
業務コンテンツ名称	インポートした業務コンテンツの名称が出力されます。
グループ名	インポートした業務コンテンツのグループ名が出力されます。

項目	説明
アクセス権グループ名	業務コンテンツ名称と同じ行には、インポートした業務コンテンツに設定されているアクセス権グループ名が出力されます。それ以外の行には、インポートしたアクセス権グループ名が出力されます。 アクセス権グループは、はじめに標準アクセス権限が出力されたあと、名称の昇順で出力されます。
JP1 資源グループ名	業務コンテンツ名称と同じ行には、インポートした業務コンテンツに設定されている JP1 資源グループ名が出力されます。
アクセス権グループ ID	インポートしたアクセス権グループの ID が出力されます。

注※

- d オプションを指定すると、業務コンテンツはいったん削除されてからインポートされますが、結果種別は「modified」または「merged」となります。「deleted」または「added」は表示されません。
- 次に示す項目だけを変更した場合、業務コンテンツの結果種別は「modified」または「merged」にはなりません。
業務コンテンツ名称
業務コンテンツのグループ名
業務コンテンツに設定するアクセス権グループ（または JP1 資源グループ）
- タイムゾーンは、ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.client.timezone プロパティで設定したタイムゾーンの短縮名が表示されます。

インポート一覧ファイルの出力例を次に示します。

結果種別 (JST)	業務コンテンツID 公開状態	業務コンテンツバージョンID 公開予約状態	更新日時 (JST) 公開開始日時 (JST)	公開終了日時 (JST)	公開日時 業務コン
modified	268e3592-0133-1000-8002-0000ad23cbb-0	fe6dcb35-0145-1000-8000-0000ac11510b	2014/05/15 14:49:39.524	-	予約中
	2016/04/01 08:00:00.000	2016/9/30 18:00:00.000	[sample01]Webアプリバージョンアップ		
modified	268e3592-0133-1000-8002-0000ad23cbb-0	fe6db084-0145-1000-8000-0000ac11510b	2014/05/15 14:49:37.793	-	予約中
	2016/04/01 08:00:00.000	2016/9/30 18:00:00.000	[sample01]Webアプリバージョンアップ		
modified	268e3592-0133-1000-8002-0000ad23cbb-0	fe6cfabc-0145-1000-8000-0000ac11510b	2014/05/15 14:48:48.979	2014/05/15	
	14:49:26.935 公開中	-	[sample01]Webアプリバージョンアップ		サンプル
modified	268e3592-0133-1000-8002-0000ad23cbb-0	fa07860b-0145-1000-8000-0000ac11510b	2012/08/21 14:15:56.940	2014/05/14	
	18:19:28.283	-	[sample01]Webアプリバージョンアップ		サンプルコン
					텐츠
merged	357a2f3a-0133-1000-8001-0000ad23cbb-0	fe6cbcd5-0145-1000-8000-0000ac11510b	2014/05/15 14:48:36.094	-	-
			[sample01]Webアプリバージョンアップ		サンプルコンテンツ
merged	357a2f3a-0133-1000-8001-0000ad23cbb-0				

fa078688-0145-1000-8000-0000ac11510b	2012/08/21 14:16:02.550	2014/05/14
18:19:28.408 公開中 [sample01解説]Webアプリバージョンアップ		サンプルコンテンツ
deleted fe6eb084-0145-1000-8000-0000ac11510b-0		
fe6eb0c2-0145-1000-8000-0000ac11510b	2014/05/15 14:50:38.227	-
- 新規入会 新規手順		-

注意事項

- このコマンドを実行する前に、npexport コマンド（業務コンテンツのエクスポート）で自環境の業務コンテンツのバックアップを取得しておくことを推奨します。
- 業務コンテンツで使用している画像や HTML などの静的ファイルは、このコマンドではインポートされません。静的ファイルは手動でコピーし、移動させてください。静的ファイルの取り扱いの詳細は、「6.9 業務コンテンツで使用する静的ファイルの管理」を参照してください。
- ファイルのパスには、ネットワークドライブを指定しないでください。
- インポートする業務コンテンツの容量に対して、インポート先のディスクの空き容量が不十分だった場合、このコマンドは異常終了します。
また、コマンド実行中は作業フォルダとして環境変数 TMP または TEMP のフォルダを使用します。このため、環境変数 TMP および TEMP のフォルダのディスク容量に余裕を持たせてからコマンドを実行するようにしてください。
- サーバ運用中にこのコマンドを実行すると、コマンドのデータ処理がサーバのデータ処理をブロックするため、性能が低下します。
- uCosminexus Navigation Developer 09-50 より前のバージョンで作成したユーザプラグイン（旧プラグイン）が関連づけられた業務コンテンツを含むファイルをインポートしようとする時、エラーが発生します。該当する業務コンテンツをインポートしたい場合は、あらかじめ旧プラグインの関連づけを削除しておく必要があります。
- コマンド実行時にエラーが発生した場合は、インポート処理が一部だけ反映された状態になっています。エラーの原因を取り除いて再度コマンドを実行してください。
-d オプション、-f オプションを指定してコマンドを実行した場合は、同じオプションを指定して、再度コマンドを実行してください。-d オプション、-f オプションの両方とも指定していなかった場合は、-f オプションを指定して、再度コマンドを実行してください。
- -l オプションを指定してコマンドを実行し、エラーが発生した場合は、次のファイルの内容を合わせて、インポート一覧ファイルとして利用してください。
 - エラー発生時に出力されたインポート一覧ファイル
 - エラーの原因を取り除いて再度コマンドを実行したときに出力されたインポート一覧ファイル
- 業務コンテンツの名称が一意にならないときはエラーとなります。
- 次のプログラムのバージョンより前のバージョンで作成した業務コンテンツをインポートすると、グループ名は空白となります。
 - uCosminexus Navigation Platform 09-00
 - JP1/Integrated Management - Navigation Platform 10-00

- npexport コマンド（業務コンテンツのエクスポート）で-x オプションを指定してエクスポートしたファイルをインポートした場合、追加した業務コンテンツには標準アクセス権限を設定します。上書きする業務コンテンツのアクセス権は変更されません。
- Hitachi Navigation Platform 10-00 または JP1/Integrated Management - Navigation Platform 10-50 より前の環境で作成した業務コンテンツをインポートする場合、機能の差異によって、次のように設定されてインポートします。
 - 編集中グループに所属している業務コンテンツは、非公開の状態となります。
 - 業務コンテンツの編集者の情報は空欄となります。

戻り値

戻り値	説明
0	コマンドが正常終了した。または警告終了した。
1	コマンドが異常終了した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（<Ctrl>キーと<C>キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

使用例

例 1

次の条件で業務コンテンツをインポートする場合の使用例を次に示します。

- インポートしたいファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- インポート先に同じ名称のアクセス権グループ、または同じ ID の業務コンテンツが保存されている場合、強制登録しない。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npimport C:¥work
¥repository.zip
```

例 2

次の条件で業務コンテンツをインポートする場合の使用例を次に示します。

- インポートしたいファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- インポート先に同じ名称のアクセス権グループ、または同じ ID の業務コンテンツが保存されている場合、強制登録する。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npimport -f C:¥work
¥repository.zip
```

例 3

次の条件で業務コンテンツをインポートする場合の使用例を次に示します。

- インポートしたいファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- すべてのアクセス権グループと業務コンテンツを削除してからインポートする。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npimport -d C:¥work¥repository.zip
```

例 4

次の条件で業務コンテンツをインポートする場合の使用例を次に示します。

- インポートしたいファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- インポート後に出力するインポート一覧ファイルのパスを「C:¥work¥list.txt」とする。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npimport -l C:¥work¥list.txt C:¥work¥repository.zip
```

例 5

次の条件で業務コンテンツをインポートする場合の使用例を次に示します。

- インポートしたいファイルのパスが「C:¥work¥repository.zip」である。
- アクセス権グループをインポートしない。
- インポート先に ID が同じ業務コンテンツが保存されている場合、強制登録しない。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npimport -x C:¥work¥repository.zip
```

9.11 nppddbst コマンド (データベースの利用状況確認)

機能

データベースの利用状況を確認します。

このコマンドの出力結果でデータベースの利用状況を確認し、必要に応じてデータベースの容量を拡張してください。

このコマンドは、システムが起動している状態で実行する必要があります。コマンドプロンプトは管理者として開いてください。

形式

nppddbst

オプション

なし。

データベースの利用状況の出力形式

データベースの利用状況は、次の形式で出力されます。

```
業務コンテンツ数△[コンテンツ利用率]%( $\frac{[コンテンツ数]}{[コンテンツ最大数]}$ )
バージョン数△[バージョン利用率]%( $\frac{[全バージョン数]}{[全バージョン最大数]}$ )
利用率△[データベース容量の利用率]%
[メッセージ]
-----
```

(凡例) △：半角スペース

出力される項目の詳細を次に示します。

表 9-6 コマンドで出力されるデータベースの利用状況の詳細

項目	説明
コンテンツ利用率	次の計算式の結果をパーセントで表した数です。 $\text{コンテンツ数} \div \text{コンテンツ最大数}$
コンテンツ数	コマンド実行時に存在する業務コンテンツの数です。
コンテンツ最大数	作成できる業務コンテンツの上限数です。
バージョン利用率	次の計算式の結果をパーセントで表した数です。 $\text{全バージョン数} \div \text{全バージョン最大数}$
全バージョン数	コマンド実行時に存在する業務コンテンツのバージョン数の合計値です。
全バージョン最大数	作成できる業務コンテンツの上限数×1つの業務コンテンツで作成できるバージョンの数*
データベース容量の利用率	データベース容量の利用率をパーセントで表した数です。

項目	説明
メッセージ	データベースの拡張が必要かどうかを示します。 データベースの拡張が必要な状態の場合 次のメッセージが出力されます。 KDCZ10371-W データベースの拡張を推奨します。 データベースの拡張が不要な場合 メッセージは出力されません。

注※

1つの業務コンテンツで作成できるバージョンの数は7個です。数の内訳は次のとおりです。

公開版：5個

編集版（編集開始または編集完了）：1個

編集版（編集中）：1個

戻り値

戻り値	説明
0	コマンドが正常終了した。
1	コマンドが異常終了した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（<Ctrl>キーと<C>キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

使用例

データベースの利用状況を出力します。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥nppddbst
```

9.12 nppubexport コマンド (公開版業務コンテンツのエクスポート)

機能

このコマンドでは、公開中および公開開始待ちの業務コンテンツの内容およびアクセス権の設定情報をエクスポートします。

業務コンテンツのすべての版をエクスポートしたい場合は、npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート) を使用してください。詳細は、「9.8 npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート)」を参照してください。

形式

```
nppubexport Δ[-c Δエクスポートしたい業務コンテンツID|-i Δ業務コンテンツID一覧ファイルのパス]
Δ[-x] Δ[-l Δエクスポート一覧ファイルのパス] Δエクスポート先のファイルのパス
```

オプションや注意事項などの説明については、「9.8 npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート)」の説明を参照してください。参照先では、コマンド名を nppubexport コマンドに読み替えてください。

9.13 nppubimport コマンド (公開版業務コンテンツのインポート)

機能

nppubexport コマンド (公開版業務コンテンツのエクスポート) でエクスポートしたファイルをインポートして、公開中および公開開始待ちの業務コンテンツの内容を更新します。

形式

```
nppubimport Δ[-d] Δ[-f] Δ[-x] Δ[-o] Δ[-l Δインポート一覧ファイルのパス] Δインポートしたいファイルのパス
```

オプションや戻り値などの詳細は、「9.10 npimport コマンド (業務コンテンツのインポート)」の説明を参照してください。参照先では、コマンド名を nppubimport コマンドに読み替えてください。

注意事項

nppubimport コマンドだけの注意事項について次に示します。npimport コマンドと共通の注意事項は、「9.10 npimport コマンド (業務コンテンツのインポート)」の注意事項を参照してください。

- -f オプション指定時に、インポート先の環境に同じ業務コンテンツ ID を持つ業務コンテンツが存在した場合、既存の版は更新されません。インポートした業務コンテンツが、最新の公開版として追加されます。ただし、インポートによる版の追加で、公開版の数が上限 (5 個) を超えた場合は、いちばん古い公開版が削除されます。

インポートする業務コンテンツが公開開始待ちの場合、インポート先の業務コンテンツの既存の編集版を削除およびロック状態を解除し、インポートするデータを公開開始待ちの版として追加します。

インポートする業務コンテンツが非公開、かつ編集版が存在しない業務コンテンツの場合、インポートするデータを編集版としてインポート先の業務コンテンツに追加します。そのため、次の 2 つのデータが不一致になるので注意してください。

- エクスポート元で nppubexport コマンドでエクスポートしたデータ
- インポート後にインポート先で nppubexport コマンドでエクスポートしたデータ
- 次の条件のどちらかでコマンドを実行した場合、nppubexport コマンドでエクスポートした業務コンテンツに置き換えます。
 - インポート先の環境に、同じ業務コンテンツ ID を持つ業務コンテンツが存在しない
 - インポート先の環境に、同じ業務コンテンツ ID を持つ業務コンテンツが存在する状態で、-d オプションを指定した

9.14 npreorg コマンド (データベース再編成)

機能

ナビゲーション プラットフォームのデータベースを再編成します。なお、このコマンドを実行する前に、次のことを実施してください。

- npstop コマンド (停止) を実行、または Navigation Platform Start Service サービスを停止して、ナビゲーション プラットフォームを停止する。
- ナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリのドライブに 3.0GB 以上の空き容量を確保する。

形式

```
npreorg
```

オプション

なし。

注意事項

- コマンドが異常終了した場合 (戻り値が 0 以外の場合) は、ほかの操作をする前に再度 npreorg コマンドを実行してください。ほかの操作をしてしまうと、データベースの状態が不正になるおそれがあります。
- このコマンドを実行してから 180 分以上が経過すると、タイムアウトエラーが発生します。
- このコマンドは、ほかのアプリケーションが起動していない状態で実行してください。

戻り値

戻り値	説明
0	ナビゲーション プラットフォームのデータベース再編成に成功した。
1	ナビゲーション プラットフォームのデータベース再編成に失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 (<Ctrl>キーと<C>キーを同時に押して強制終了した場合など) の戻り値は不定となります。

使用例

ナビゲーション プラットフォームのデータベースを再編成します。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ%bin%npreorg
```

9.15 npsetup コマンド (セットアップ)

機能

ナビゲーション プラットフォームをセットアップします。再セットアップの場合は、このコマンドを実行する前に、一度ナビゲーション プラットフォームを停止して、npunsetup コマンドでアンセットアップをしてください。セットアップ完了後は、自動的にナビゲーション プラットフォームが起動します。

このコマンドを実行する前に、次のことを実行してください。

- ユーザ認証を使用する場合やポート番号を変更する場合は、ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) を編集する。
詳細は、「[8.3 ユーザセットアッププロパティファイル \(ucnp_setup_user.properties\) の設定](#)」を参照してください。
- セットアップ時に使用されるポート番号が別のプログラムなどで使用されていないことを確認する。
セットアップ時に使用されるポート番号は、ユーザセットアッププロパティファイルで確認できます。
- インストール後に、セットアップ対象のナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリおよびファイルが移動、編集または削除されていないことを確認する。

形式

```
npsetup
```

オプション

なし。

注意事項

- このコマンドを実行すると、デフォルト値のユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) およびユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) が設定されます。そのため、これらのプロパティファイルの編集はこのコマンドの実行後に実施してください。再セットアップの場合は、これらのプロパティファイルの既存ファイルをバックアップしておくことをお勧めします。プロパティファイルの詳細は、「[8. プロパティ](#)」を参照してください。
- セットアップに失敗した場合は、npunsetup コマンド (アンセットアップ) を実行し、要因を取り除いてからコマンドを再実行してください。

戻り値

戻り値	説明
0	ナビゲーション プラットフォームのセットアップに成功した。
1	ナビゲーション プラットフォームのセットアップに失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。

戻り値	説明
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

使用例

ナビゲーション プラットフォームをセットアップします。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npsetup
```

9.16 npsnapshotlog コマンド (トラブルシューティング情報の収集)

機能

トラブルの対処に必要なトラブルシューティング情報 (ログや環境設定ファイル) をまとめて、ZIP 形式のファイルで取得します。なお、ここで説明していない情報は、このコマンドでは取得しません。

トラブルシューティング情報は、1 次資料と 2 次資料に分類されます。1 次資料と 2 次資料は、それぞれ別のファイルに出力されます。

1 次資料のファイル

npsnapshotlog_yyyyMMddhhmmssSSS_1.zip

2 次資料のファイル

npsnapshotlog_yyyyMMddhhmmssSSS_2.zip

このコマンドで取得できるトラブルシューティング情報のうち、1 次資料としてデフォルトで取得される情報を次の表に示します。

表 9-7 トラブルシューティング情報 (1 次資料)

項番	トラブルシューティング情報	内容
1	OS のイベントログ	システム、アプリケーション、およびセキュリティのイベントログです。
2	マシンのホスト名	OS のインストールディレクトリ¥system32¥drivers¥etc¥hosts
3	マシンのサービスとポート	OS のインストールディレクトリ¥system32¥drivers¥etc¥services
4	プロセスの一覧	tasklist /V の実行結果です。
5	マシンのシステム情報	systeminfo の実行結果です。
6	バインド状況	netstat -ao の実行結果です。
7	NIC の実装状況	ipconfig /all の実行結果です。
8	起動サービス一覧	net start の実行結果です。
9	環境変数の一覧	set の実行結果です。
10	各種設定ファイル	ナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリ下のディレクトリのファイルが取得されます。対象となるファイルを次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• conf ディレクトリ以下のファイル• sysconf ディレクトリ以下のファイル• setup¥conf ディレクトリ以下のファイル• lib ディレクトリ以下の ucnpbaseversion.properties ファイル

項番	トラブルシューティング情報	内容
10	各種設定ファイル	<ul style="list-style-type: none"> • lib ディレクトリ以下の ucnpdkversion.properties ファイル • pluginSDK ディレクトリ直下のファイル • pluginSDK¥plugin¥プラグイン名¥dd¥META-INF ディレクトリ以下の cosminexus.xml ファイル • pluginSDK¥plugin¥プラグイン名ディレクトリ以下の build.xml ファイル • pluginSDK¥plugin¥プラグイン名¥WEB-INF¥conf ディレクトリ以下の ioaction.xml ファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPF¥conf ディレクトリ以下のファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥DB¥CONF ディレクトリ以下のファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥DB¥plugin¥_phdxml¥conf ディレクトリ以下のファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥DB¥plugin¥_phjxml¥conf ディレクトリ以下のファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB 以下の PSBVRSMNG.INI ファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥Elastic¥elasticsearch¥config ディレクトリ以下のファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥Elastic¥kibana¥config ディレクトリ以下のファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥Elastic¥kibana¥data ディレクトリ以下のファイル
11	各種ログファイル	<p>ナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリ下のディレクトリのファイルが取得されます。対象となるファイルを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • logs ディレクトリ以下のファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPF¥log ディレクトリ以下のファイル* • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥DB 以下の PATCHLOG.TXT ファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB 以下の install.log ファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB 以下の SPKMANAGE.LOG ファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥Elastic¥elasticsearch¥logs ディレクトリ以下のファイル • ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥Elastic¥kibana¥logs ディレクトリ以下のファイル

項番	トラブルシューティング情報	内容
12	ナビゲーション プラットフォームの状態	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥spool 以下のファイル

注※
ここに示したのは、デフォルトのディレクトリです。ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.portal.trace.dir プロパティの指定値によって、実際には異なるディレクトリが指定されていることがあります。

このコマンドで取得できるトラブルシューティング情報のうち、2次資料としてデフォルトで取得される情報を次の表に示します。

表 9-8 トラブルシューティング情報 (2次資料)

項番	トラブルシューティング情報	内容
1	レジストリの一覧	reg query HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE ¥HITACHI /s の実行結果です。 また、ダッシュボードサーバのレジストリの一覧も取得します。取得する内容を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> reg query "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE ¥Wow6432Node¥Apache Software Foundation" /s の 実行結果
2	各種設定ファイル	ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ ¥PP¥uCPSB 以下の各種設定ファイル情報
3	各種ログファイル	ナビゲーション プラットフォームのインストールディレクトリ下のディレクトリのファイルが取得されます。対象となるファイルを次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥DB¥SPOOL ディレクトリ以下のファイル ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥DB¥plugin¥_phdxml¥spool ディレクトリ以下のファイル ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥DB¥plugin¥_phdxml¥tmp ディレクトリ以下のファイル ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥DB¥plugin¥_phjxml¥spool ディレクトリ以下のファイル ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥DB¥plugin¥_phjxml¥tmp ディレクトリ以下のファイル

形式

npsnapshot log△トラブルシューティング情報を出力するディレクトリ

ディレクトリは、絶対パス・相対パスのどちらでも指定できます。パスが長くなり過ぎないように、200文字以内で指定することを推奨します。

また、区切り文字には「¥」を使用します。パスに半角スペースが含まれる場合は、パス全体を「"」で囲ってください。ディレクトリのパスで使用できる記号は、これら以外には半角のコロン(:)と相対パスを表す半角ピリオド(.)だけです。

注意事項

- トラブルシューティング情報を出力するディレクトリは、次の条件を満たしている必要があります。
 - 500MB以上の空き容量がある。
 - ネットワークドライブではない。

なお、トラブルシューティング情報として取得される各種ログファイルの最大出力ファイルサイズおよび最大面数をデフォルト値から増やしている場合は、500MB以上の空き容量が必要になります。

- サポートサービスをご利用の場合、障害の原因を調査するために、表 9-7 および表 9-8 に出力されるトラブルシューティング情報を送付していただく必要があります。送付されたトラブルシューティング情報は、障害の原因調査以外の目的に使用することはありません。

戻り値

戻り値	説明
0	トラブルシューティング情報の取得に成功した、または警告レベルのエラーが発生してコマンドが正常に終了した。
1	トラブルシューティング情報の取得に失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 (<Ctrl>キーと<C>キーを同時に押して強制終了した場合など) の戻り値は不定となります。

使用例

トラブルシューティング情報の出力先ディレクトリが「C:¥work¥npsnapshotlog」の場合の例です。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npsnapshotlog C:¥work  
¥npsnapshotlog
```

9.17 npstart コマンド (起動)

機能

ナビゲーション プラットフォームを起動します。このコマンドは、npsetup コマンドで構築した環境で実行できます。

なお、npstart コマンドでは、Navigation Platform Start Service サービスは起動しません。

形式

```
npstart
```

オプション

なし。

戻り値

戻り値	説明
0	起動に成功した。
1	起動に失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 (< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など) の戻り値は不定となります。

使用例

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstart
```

9.18 npstop コマンド (停止)

機能

ナビゲーション プラットフォームを停止します。OS をシャットダウンする前には、必ずこのコマンドを実行してください。このコマンドは、Navigation Platform Start Service サービスが停止状態で実行する必要があります。Navigation Platform Start Service サービスが停止状態であれば、このコマンドは、ナビゲーション プラットフォームの起動または停止に失敗した状態で使用することもできます。

なお、npstop コマンドでは、Navigation Platform Start Service サービスは停止しません。

形式

```
npstop
```

オプション

なし。

戻り値

戻り値	説明
0	停止に成功した。
1	停止に失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 (<Ctrl>キーと<C>キーを同時に押して強制終了した場合など) の戻り値は不定となります。

使用例

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npstop
```

9.19 npunsetup コマンド (アンセットアップ)

機能

すべての業務コンテンツのデータ（静的ファイルは除く）を削除し、ナビゲーション プラットフォームをアンセットアップします。このコマンドは、npsetup コマンドで構築した環境で実行できます。

形式

```
npunsetup
```

オプション

なし。

戻り値

戻り値	説明
0	ナビゲーション プラットフォームのアンセットアップに成功した。
1	ナビゲーション プラットフォームのアンセットアップに失敗した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

使用例

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npunsetup
```

9.20 npupdatesearchdata コマンド (検索用データの更新)

機能

コマンド実行時の業務コンテンツの内容を、検索用のデータに反映します。このコマンドは、業務実行画面に [検索] タブを表示している環境で使用してください。

このコマンドは、次の場合に使用します。

- 業務コンテンツを新規に公開した場合
- 公開版の業務コンテンツを編集した場合
- 公開版の業務コンテンツを削除、または非公開にした場合
- npimport コマンドまたは nppubimport コマンドで業務コンテンツを更新した場合

なお、サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) でこのコマンドを自動実行するよう設定している場合、手動での実行は不要です。ただし、npimport コマンドおよび nppubimport コマンドの実行後は、更新される業務コンテンツの数が多いことが想定されるため、これらのコマンドの実行後に npupdatesearchdata コマンドを実行することを推奨します。

コマンド実行時には、ナビゲーション プラットフォームが起動している必要があります。

なお、このコマンドは、npstop コマンド (停止) が実行中の場合は実行できません。また、ナビゲーション プラットフォームで検索処理が実施されている間も実行できます。

形式

```
npupdatesearchdataΔ[-r]
```

オプション

-r

検索用データを更新したあと、検索用データベースを再編成します。

ポイント

定期的に検索用データベースの再編成を行う必要があります。Windows のタスクにこのコマンドを登録して、1 日 1 回を目安に実行することを推奨します。なお、検索用データベースの再編成は時間が掛かる場合があるため、ナビゲーションプラットフォームへのアクセスが少ない時刻に実行することを推奨します。

また、検索用データを自動で更新する設定にしている場合、自動更新と Windows のタスクで設定した再編成の処理のタイミングが重なり、コマンドの排他エラーになることがあります。再編成処理が実行できていない場合は、再編成処理を再度実行してください。

トレースファイル

このコマンドを実行すると、次に示すトレースファイルが出力されます。

出力先ディレクトリ

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥logs

ファイル名

ucnp_search_trace/[N].log ([N]: ファイル面数)

サイズ

ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.trace.size プロパティに指定したサイズ

面数

ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.server.trace.backup.number プロパティに指定した面数

内容

- コマンドが出力するメッセージ
- 処理の開始/終了情報
- エラー発生時のエラー情報

なお、トレースが初期化される前にエラーが発生した場合は、標準エラー出力に出力され、トレースには出力されません。

注意事項

- npimport コマンド (業務コンテンツのインポート) および nppubimport コマンド (公開版業務コンテンツのインポート) の実行中に、このコマンドを実行しないでください。実行すると、業務コンテンツと検索用データの整合性が取れなくなることがあります。その場合、インポートコマンドが終了したあと、もう一度このコマンドを実行してください。
- このコマンド実行中に更新対象の検索用データを含む業務コンテンツが削除、または非公開に変更された場合、該当する業務コンテンツの検索用データが更新できなかったことを示すメッセージが出力されることがあります。その場合、業務コンテンツの更新が終了したあと、もう一度このコマンドを実行してください。
- 更新する検索用データが多い場合、コマンドの実行に数分掛かる場合があります。

戻り値

戻り値	説明
0	コマンドが正常終了した。
1	コマンドが異常終了した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	コマンドの実行権限エラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合（< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など）の戻り値は不定となります。

使用例

検索用のデータを更新します。

```
> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npupdatesearchdata
```

9.21 npuploadoplog コマンド (操作ログのアップロード)

機能

ナビゲーション プラットフォームの操作ログを zip 形式のファイルに変換し、静的コンテンツ格納先フォルダに出力します。

このコマンドを実行すると、ナビゲーション プラットフォームの動作が遅くなるおそれがあります。そのため、このコマンドはナビゲーション プラットフォームへのアクセス頻度が低いときに実行することを推奨します。

このコマンドを実行する前に、次のことを実行してください。

- 静的コンテンツ格納先フォルダは、現状の操作ログの総容量と同じ分だけの空き容量を確保する。
- 一時ディレクトリも静的コンテンツ格納先フォルダ同様の空き容量を確保する。

形式

```
npuploadoplog△[-c] △[アップロード先zipファイルパス]
```

オプション

-c

操作ログを更新日付でソートして連結し、1 ファイルにする場合に指定します。

省略した場合は連結しないで、複数の操作ログファイルをそのまま zip 形式に変換します。

アップロード先 zip ファイルパス

zip 形式に変換したファイルの出力先を指定します。

出力先は、ローカルディスクのパスを指定してください。ローカルディスク以外のパスを指定した場合、動作は保証されません。

省略した場合、次に示すパスに出力します。

```
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥PP¥uCPSB¥https¥htdocs  
¥ucnoperationlogs¥operationlogs.zip
```

ファイルパスは、絶対パスでも相対パスでも指定できます。

ファイルパスに半角スペースを含める場合、パスを半角の引用符 (") で囲ってください。

Windows のパス名に使用できない文字は、ファイルパスに指定できません。

予約デバイス名を含むパスは、ファイルパスに指定できません。

ファイルパスの長さが OS の最大パス長を超えた場合、正しく動作しないことがあります。

戻り値

戻り値	説明
0	コマンドが正常終了した。または警告終了した。

戻り値	説明
1	コマンドが異常終了した。
2	コマンドの排他エラーが発生した。
9	実行権限のエラーが発生した。

注

コマンド制御外のタイミングで終了した場合 (< Ctrl >キーと< C >キーを同時に押して強制終了した場合など) の戻り値は不定となります。

使用例

次の条件で操作ログをアップロードする場合の例です。

- アップロード先はデフォルトディレクトリである。
- アップロードする操作ログは連結しない (複数の操作ログファイルをそのまま zip 形式に変換する)。

> ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥bin¥npuploadoplog

10

トラブルシューティング

この章では、ナビゲーションプラットフォームの使用時に発生するトラブルと対処について説明します。また、トラブルが発生したときに取得するファイルについても説明します。

10.1 インストール、セットアップ中に発生するトラブル

ナビゲーション プラットフォームのインストール、およびセットアップ中にトラブルが発生した場合は、次に説明する内容に従って対処してください。

10.1.1 ファイアウォールでブロックされているというメッセージが表示された場合の対処

npsetup コマンド (セットアップ) の実行中に、「このプログラムの機能の幾つかが Windows ファイアウォールでブロックされています」という警告メッセージがダイアログに表示される場合があります。

この場合の要因と対処について説明します。

要因

Windows ファイアウォールを有効にしている環境では、構成ソフトウェアの機能の一部がファイアウォールによってブロックされて、使用できないことがあります。

対処

ダイアログの [アクセスを許可する] ボタンをクリックして、ブロックを解除してください。

10.1.2 セットアップ後に起動エラーが発生する場合の対処

ナビゲーション プラットフォームを起動すると、エラーメッセージが出力されて起動に失敗する場合があります。

- 自動起動のとき
 - ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスすると、404 エラーが表示される
 - トレースファイル (ucnp_setup_trace/[N].log) にエラーメッセージ (KEOS24124-E) が出力される
- npstart コマンド (起動) を実行して起動したとき
 - コマンドプロンプトにエラーメッセージ (KEOS24124-E) が出力される
 - トレースファイル (ucnp_setup_trace/[N].log) にエラーメッセージ (KEOS24124-E) が出力される

この場合の要因と対処について説明します。

要因

ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port プロパティの値をデフォルト値の「80」に設定している場合、ほかの Web サーバなどとポート番号が重複していることがあります。

対処

ほかの Web サーバのポート番号を変更するか、またはナビゲーションプラットフォームのポート番号をデフォルトから変更してください。

それぞれの対処の詳細を次に示します。

ほかの Web サーバのポート番号を変更する場合

次の手順でナビゲーションプラットフォームと重複しているほかの Web サーバのポート番号を変更できます。

1. npunsetup コマンド (アンセットアップ) を実行する。
2. 重複しているポート番号を使用しているプロセスを、netstat コマンドなどで特定する。
3. 特定したプロセスを終了させて、ほかの Web サーバのポート番号を変更する。
4. npsetup コマンド (セットアップ) を再度実行する。

ナビゲーションプラットフォームのポート番号を変更する場合

次の手順でナビゲーションプラットフォームのポート番号を変更できます。

1. npunsetup コマンド (アンセットアップ) を実行する。
2. ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) の ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port プロパティを変更する。
3. npsetup コマンド (セットアップ) を再度実行する。

なお、ポート番号を変更すると URL が変更になります。URL についての詳細は「[2.1.3 ナビゲーションプラットフォームの画面にアクセスするための URL](#)」を参照してください。

10.2 運用開始後に発生するトラブル

ナビゲーション プラットフォームの運用開始後にトラブルが発生した場合は、次の情報を参照してください。

- 標準出力、標準エラー出力、またはトレースファイルに出力されたメッセージ
- トレースファイル
- npsnapshotlog コマンド（トラブルシュート情報の収集）で取得する情報

npsnapshotlog コマンドで取得する情報は、1次資料と2次資料に分類できます。

1次資料

トラブルの概要を把握するためのログと、システムの主要な設定ファイルが含まれます。簡単なトラブルであれば、1次資料だけで対処できます。

なお、1次資料にはユーザ情報が記述されている次のファイルも含まれます。

- マシンのシステム情報およびシステムファイル
- ナビゲーション プラットフォームの各種設定ファイル

2次資料

レジストリ情報や、1次資料では取得されないシステムの詳細な設定ファイルが含まれます。1次資料だけでは解決できない、難易度の高いトラブルの場合は、2次資料も活用します。

メッセージの出力先、要因、および対処については、マニュアル「ナビゲーション プラットフォーム メッセージ」を参照してください。

トレースファイルの出力先については、「[10.4 トレースファイルの出力先](#)」を参照してください。

また、npsnapshotlog コマンドの使用方法については、「[9.16 npsnapshotlog コマンド（トラブルシュート情報の収集）](#)」を参照してください。

10.3 ダッシュボード機能を利用中に発生するトラブル

ダッシュボード機能を利用中にトラブルが発生した場合は、次の情報を参照してください。

10.3.1 ダッシュボードサーバの起動または停止に失敗した場合の対処

(1) Navigation Platform Dashboard Web Service サービスの場合

起動または停止に失敗した場合、イベントログ（アプリケーション）に出力されたエラーメッセージを参照して対処してください。

(2) Navigation Platform Dashboard Storage Service サービスの場合

- 起動に失敗した場合、ユーザセットアッププロパティファイル（ucnp_setup_user.properties）の次に示すプロパティに指定したポート番号がすでに利用されているおそれがあるため、ポートの利用状況を確認してください。
 - ucnp.setup.server.dashboard.storage.http.port
 - ucnp.setup.server.dashboard.storage.transport.tcp.port

ポートの利用状況に問題がない場合は、npdashboardsetstoragememory コマンド（ストレージメモリ設定変更）で設定したメモリ容量に対して、OS の利用可能なメモリ容量が不足しているおそれがあります。ダッシュボードサーバのストレージサービスに必要なメモリ容量の設定（npdashboardsetstoragememory コマンドの設定値）を見直してください。

ダッシュボード機能を利用するときに必要なメモリ容量の見積もりについては、「[5.4.4\(2\) ダッシュボード機能を利用するときのメモリ容量の見積もり](#)」を参照してください。また、npdashboardsetstoragememory コマンドの使用方法については、「[9.5 npdashboardsetstoragememory コマンド（ストレージメモリ設定変更）](#)」を参照してください。解決しない場合は、トラブルシュート情報を収集し、問い合わせ窓口に連絡してください。

- 停止に失敗した場合、トラブルシュート情報を収集し、問い合わせ窓口に連絡してください。

10.3.2 操作ログの解析情報の収集に失敗した場合の対処

イベントログ（アプリケーション）のソース「HNP」のログに KDCZ50689-E が出力された場合、操作ログの解析情報の収集に失敗した可能性があります。

次に示す要因が考えられるため、それぞれの要因に合わせた対処をしてください。

要因 1

ダッシュボード機能のストレージのメモリが不足しています。

対処

ダッシュボード機能のストレージのメモリ容量を変更してください。

変更方法については、「[5.4.4\(7\) ダッシュボードサーバのストレージサービスで必要なメモリ容量の変更](#)」を参照してください。

要因 2

ダッシュボード機能で内部エラーが発生しています。

対処

トラブルシューティング情報を収集し、問い合わせ窓口に連絡してください。

10.4 トレースファイルの出力先

トレースファイルの出力先とファイル名を次に示します。出力先のパスにある[N]は、ファイル面数を示します。

- ナビゲーション プラットフォームの J2EE サーバのトレースファイル
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥logs¥ucnp_trace[N].log
- npaclexport コマンド (アクセス権グループのエクスポート), npexport コマンド (業務コンテンツのエクスポート) および npimport コマンド (業務コンテンツのインポート) のトレースファイル
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥logs¥ucnp_cmd_trace[N].log
- セットアップとアンセットアップで使用するコマンドのトレースファイル
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥logs¥ucnp_setup_trace[N].log
このトレースファイルには, npsetup コマンド (セットアップ), npstart コマンド (起動), npstop コマンド (停止), および npunsetup コマンド (アンセットアップ) の実行結果が出力されます。セットアップ後のシステム自動起動のトレースもこのファイルに出力されます。
- npsnapshotlog コマンド (トラブルシュート情報の収集) のトレースファイル
トラブルシュート情報の出力先ディレクトリ (コマンドで指定したディレクトリ)
¥npsnapshotlog_YYYYMMddhhmmssSSS.log
- そのほかのトレースファイル
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥logs

付録

付録 A 検索の対象となる項目

業務コンテンツの検索機能を使用する場合、業務フローの名称および業務編集画面の「属性の設定」画面で設定した項目の一部を検索できます。公開版の業務コンテンツの項目が検索の対象となります。

業務編集画面で設定した項目が検索の対象となるかどうかを、領域ごとに次の表に示します。

表 A-1 業務編集画面での設定項目一覧（メニュー領域）

項番	メニュー名	項目名	検索の対象かどうか
1	名称変更	業務コンテンツの名称	○
2	グループ変更	グループ名	×
3	リンク設定	アンカーの文字列	○
		URL	×

(凡例)

○：検索の対象となる

×：検索の対象外

表 A-2 業務編集画面での設定項目一覧（フロー領域）

項番	パーツ名	項目名	検索の対象かどうか
1	ターミナルノード	ノードの名称	○※1
2		ノード ID	×
3		前のノードの「完了」ボタンの名称	×
4		前面／背面の並び順	×
5	プロセスノード	ノードの名称	×※2
6		ノード ID	×
7		このノードの「戻る」ボタンの名称	×
8		前のノードの「次へ」ボタンの名称	×
9		画像 URL	×
10		前面／背面の並び順	×
11	分岐合流ノード	ノードの名称	○※3
12		ノード ID	×
13		前面／背面の並び順	×
14	画像	URL	×
15		ツールチップ	×
16		前面／背面の並び順	×

項番	パーツ名	項目名	検索の対象かどうか
17	固定テキスト	表示文字列	○※3
18		文字列の色	×
19		文字のサイズ (px)	×
20		前面／背面の並び順	×

(凡例)

○：検索の対象となる

×：検索の対象外

注※1

設定によってフロー領域が表示されていない場合は、検索の対象外となります。また、フロー領域が表示されている場合でも、設定によってターミナルノードが表示されていない場合は、検索の対象外となります。

注※2

プロセスノードの名称としては検索の対象外ですが、ガイド領域のガイド名称として検索対象となります。詳細は表 A-3 を参照してください。

注※3

フロー領域を表示しない設定になっている場合は、検索の対象外となります。

表 A-3 業務編集画面での設定項目一覧 (ガイド領域)

項番	パーツ名	項目名	検索の対象かどうか
1	ガイド名称※	—	○
2	固定テキスト	表示文字列	○
3		文字列の色	×
4		文字のサイズ (px)	×
5	画像	URL	×
6		ツールチップ	×
7	テキストボックス	最大入力文字数	×
8		初期値	○
9		入力規則	×
10		エラーメッセージ	×
11	テキストエリア	初期値	○
12		入力規則	×
13		エラーメッセージ	×
14	チェックボックス	表示文字列	○
15	ラジオボタン	表示文字列	○
16		値	×

項番	パーツ名	項目名	検索の対象かどうか
17	ラジオボタン	グループ名	×
18	ドロップダウン	ガイドパーツ ID	×
19		親のガイドパーツ ID	×
20		親の値	×
21		[選択項目一覧] テキストボックスの上段：ラベル	○
22		[選択項目一覧] テキストボックスの下段：値	×
23		ハイパーリンク	アンカーの文字列
24	URL		×
25	ツールチップ		×
26	インラインフレーム	URL	×
27	HTML パーツ	HTML ソース文字列	×
28		検索キーワード	○

(凡例)

- ：検索の対象となる
- ×：検索の対象外
- －：該当しない

注※

ガイド名称とは、プロセスノードのノード名称として設定された値のことです。

付録 B ポート番号一覧

ここでは、ナビゲーション プラットフォームで使用するポート番号について説明します。

付録 B.1 ナビゲーション プラットフォームのポート番号

ナビゲーション プラットフォームをデフォルト値でセットアップした場合、ポート番号は、80、24701～24707、および 24710～24713 を使用します。

ナビゲーション プラットフォームで使用するポート番号と、その説明を次に示します。

表 B-1 ナビゲーション プラットフォームで使用するポート番号

項番	ポート番号	説明
1	80(TCP)	Hitachi Web Server がリクエストを受け付けるポート番号
2	24701(TCP)	簡易 Web サーバのポート番号
3	24702(TCP)	J2EE サーバが利用する RMI レジストリのポート番号
4	24703(TCP)	Web サーバとの通信に使用するポート番号
5	24704(TCP)	データベースサーバのポート番号
6	24705(TCP)	ダッシュボードストレージサービスの HTTP ポート番号
7	24706(TCP)	ダッシュボードストレージサービスのノード間通信のポート番号
8	24707(TCP)	ダッシュボード Web サービスの HTTP ポート番号
9	24710(TCP)	Portal Manager の簡易 Web サーバのポート番号
10	24711(TCP)	Portal Manager の Web コンテナとの通信用ポート番号
11	24712(TCP)	Portal Manager が利用する RMI レジストリのポート番号
12	24713(TCP)	Portal Manager がネーミングサービスとして利用する CORBA ネーミングサービスのポート番号

ほかのアプリケーションがこれらのポート番号を使用している場合は、そのアプリケーションのポート番号の設定を変更するか、セットアップ時にナビゲーション プラットフォームのポート番号をデフォルトから変更する必要があります。ナビゲーション プラットフォームのポート番号の指定については、「[8.3.3 ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ詳細](#)」を参照してください。

付録 B.2 ファイアウォールの通過方向

表 B-2 ファイアウォールの通過方向

サービス名	ポート番号	ファイアウォールの通過方向
http	80/tcp	Web ブラウザから HTTP サーバ (片方向)
jplbsplugin※	マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のファイアウォールの通過方向に関する説明を参照してください。	マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のファイアウォールの通過方向に関する説明を参照してください。
http/https	ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) の ucnp.base.client.jplao.portnum プロパティの設定値/tcp	HTTP サーバから JP1/AO サーバ (片方向)

注※

JP1 イベント対処状況変更プラグインを使用する場合に設定してください。

付録 C 制限値一覧

ここでは、ナビゲーション プラットフォームの制限値について説明します。

付録 C.1 ナビゲーション プラットフォームのインストール時の制限値

ナビゲーション プラットフォームのインストール時の制限値について次に示します。

表 C-1 ナビゲーション プラットフォームのインストール時の制限値

項番	項目	制限値
1	インストール先ディレクトリのパスの最大長	100 文字

付録 C.2 ナビゲーション プラットフォームの運用時の制限値

ナビゲーション プラットフォームの運用時の制限値について次に示します。

表 C-2 ナビゲーション プラットフォームの運用時の制限値

項番	項目	制限値
1	ナビゲーション プラットフォームに同時にログインできる数 (サーバ 1 台当たりの利用者数)	300 人
2	ナビゲーション プラットフォームを同時に実行できる数	10 人
3	作成できる業務コンテンツの上限数	500* ¹
4	ナビゲーション プラットフォームのログインに使用するユーザ ID の最大長	31 バイト* ²
5	ナビゲーション プラットフォームにログインするユーザの所属グループ名の最大長 (ディレクトリサーバによるユーザ認証の場合)	64 バイト
6	ナビゲーション プラットフォームにログインするユーザの表示名の最大長 (ディレク トリサーバによるユーザ認証の場合)	255 バイト
7	業務実行画面のヘッダ領域のリンク 1~9 メニューに表示するリンクの最大数	9

注※1

ucnp.base.client.menu.maxnum プロパティの値によって、1~2,000 の範囲で変更できます。詳細は「[5.11 業務コンテンツの上限数を増やす手順](#)」を参照してください。

注※2

指定できる文字は半角英数字だけです。

付録 C.3 業務コンテンツの運用時の制限値

業務コンテンツの運用時の制限値について、業務コンテンツの操作や使用するパーツごとに分けて次に示します。

表 C-3 業務コンテンツの作成または複製時の制限値

項番	項目	制限値
1	業務コンテンツの名称の最大長	UTF-8 換算で 128 バイト
2	業務コンテンツが所属するグループの名称の最大長	128 文字
3	1 業務コンテンツに設定できるアクセス権グループの数	10
4	1 業務コンテンツに設定できる JPI 資源グループの数	10
5	業務フロー領域およびガイド領域に作成できるパーツの数	100
6	[元に戻す] ボタンの対象となる操作履歴の最大保持数の上限値	10*

注※

ucnp.base.client.undo.max.count プロパティの値によって、1~100 の範囲で変更できます。

表 C-4 業務コンテンツの [属性の設定] 画面の制限値

項番	項目	制限値
1	関連リンクの [アンカーの文字列] の最大長	1,024 文字
2	関連リンクの [URL] の最大長	1,024 文字
3	サイズの設定の [文字のサイズ] の最大値	128px
4	サイズの設定の [ボタンの高さ] の最大長	130px
5	サイズの設定の [戻るボタンの幅] の最大長	260px
6	サイズの設定の [次へボタンの幅] の最大長	260px
7	サイズの設定の [完了ボタンの幅] の最大長	260px
8	サイズの設定の [条件分岐ボタンの幅] の最大長	260px

表 C-5 フローパーツの [属性の設定] 画面の制限値

項番	項目	制限値
1	フローパーツの [前面/背面の並び順] の最大値	100
2	プロセスノード、ターミナルノード、分岐合流ノードの [ノード ID] の最大長	20 文字
3	プロセスノードの [ノードの名称] の最大長	UTF-8 換算で 128 バイト
4	プロセスノードの [画像 URL] の最大長	UTF-8 換算で 1,024 バイト

項番	項目	制限値
5	プロセスノードの [次へボタン名称] の最大長	40 文字
6	プロセスノードの [戻るボタン名称] の最大長	40 文字
7	ターミナルノードの [ノードの名称] の最大長	UTF-8 換算で 128 バイト
8	ターミナルノードの [完了ボタン名称] の最大長	40 文字
9	分岐合流ノードの [ノードの名称] の最大長	UTF-8 換算で 128 バイト
10	業務フロー領域の固定テキストパーツの [表示文字列] の最大長	65,535 文字
11	業務フロー領域の固定テキストパーツの [文字列の色] の最大長	UTF-8 換算で 128 バイト
12	業務フロー領域の固定テキストパーツの [文字のサイズ(px)] の最大値	128px
13	業務フロー領域の画像パーツの [URL] の最大長	UTF-8 換算で 1,024 バイト
14	業務フロー領域の画像パーツの [ツールチップ] の最大長	UTF-8 換算で 128 バイト

表 C-6 ガイドパーツの [属性の設定] 画面の制限値

項番	項目	制限値
1	ガイドパーツの [ガイドパーツ ID] の最大長	20 文字
2	ガイド領域の固定テキストパーツの [表示文字列] の最大長	65,535 文字
3	ガイド領域の固定テキストパーツの [文字列の色] の最大長	UTF-8 換算で 128 バイト
4	ガイド領域の固定テキストパーツの [文字のサイズ(px)] の最大値	128px
5	ガイド領域の画像パーツの [URL] の最大長	UTF-8 換算で 1,024 バイト
6	ガイド領域の画像パーツの [ツールチップ] の最大長	UTF-8 換算で 128 バイト
7	ガイド領域のテキストボックスパーツの [最大入力文字数] の最大値	65,535
8	ガイド領域のテキストボックスパーツの [初期値] の最大長	ガイド領域のテキストボックスパーツの [最大入力文字数] に入力した値
9	ガイド領域のテキストボックスパーツの [入力規則] の最大文字数	1,024 文字
10	ガイド領域のテキストボックスパーツの [エラーメッセージ] の最大長	200 文字
11	ガイド領域のテキストエリアパーツの [初期値] の最大長	65,535 文字

項番	項目	制限値
12	ガイド領域のチェックボックスパーツの [表示文字列] の最大長	UTF-8 換算で 1,024 バイト
13	ガイド領域のラジオボタンパーツの [表示文字列] の最大長	UTF-8 換算で 1,024 バイト
14	ガイド領域のラジオボタンパーツの [値] の最大長	UTF-8 換算で 128 バイト
15	ガイド領域のラジオボタンパーツの [グループ名] の最大長	UTF-8 換算で 128 バイト
16	ガイド領域のハイパーリンクパーツの [アンカーの文字列] の最大長	UTF-8 換算で 1,024 バイト
17	ガイド領域のハイパーリンクパーツの [URL] の最大長	UTF-8 換算で 1,024 バイト
18	ガイド領域のハイパーリンクパーツの [ツールチップ] の最大長	UTF-8 換算で 128 バイト
19	ガイド領域のインラインフレームパーツの [URL] の最大長	UTF-8 換算で 1,024 バイト
20	ガイド領域の HTML パーツの [HTML ソース文字列] の最大長	65,535 文字
21	ガイド領域の HTML パーツの [検索キーワード] の最大長	65,535 文字
22	ガイド領域のドロップダウンパーツの [親のパーツ ID] の最大長	20 文字
23	ガイド領域のドロップダウンパーツの [親の値] の最大長	300 文字
24	ガイド領域のドロップダウンパーツの [ラベル] の最大長	20,299 文字
25	ガイド領域のドロップダウンパーツの [値] の最大長	60,299 文字

表 C-7 ガイドパーツの入力値チェック時の制限値

項番	項目	制限値
1	ガイド領域のテキストボックスパーツで、同時にエラー強調表示されるパーツの上限数	10*
2	ガイド領域のテキストボックスパーツで、同時にエラーメッセージが出力されるパーツの上限数	10
3	ガイド領域のチェックボックスパーツで、同時にエラー強調表示されるパーツの上限数	10*

注※

11 個目以降のエラーは、強調表示されません。

表 C-8 静的ファイルの制限値

項番	項目	制限値
1	静的ファイルまたはフォルダの名称の最大長	次の値を比較して、小さい方が制限値になります。

項番	項目	制限値
1	静的ファイルまたはフォルダの名称の最大長	<ul style="list-style-type: none"> 250 から静的ファイル格納先フォルダのパス長とカレントディレクトリのフォルダ名^{*1} 長の文字数を引いた値 250 から静的ファイル登録時の一時フォルダのパス^{*2} 長の文字数を引いた値
2	1 ファイルの容量の上限値	10MB
3	[ファイル管理/登録] 画面の各ディレクトリに登録できる静的ファイルとフォルダの総数	200

注※1

ucnpuserstaticfiles フォルダのあとの区切り文字も含まれます。

注※2

ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ¥spool¥upload¥10 文字のランダム文字列
(ランダム文字列のあとの区切り文字も含む)

表 C-9 業務コンテンツの版の制限値

項番	項目	制限値
1	履歴として表示できる公開済みの版の最大数	業務コンテンツ 1 個当たり 5 版
2	版に設定するコメントの最大長	256 文字

表 C-10 ほかの JP1 製品との連携時の制限値

項番	項目	制限値
1	JP1 資源グループの名称の最大長	64 文字
2	JP1 ユーザ名の最大長	31 文字
3	JP1 ユーザ名に対応するパスワードの最大長	32 文字
4	JP1 イベント関連づけファイルに記載する項目の最大長	<ul style="list-style-type: none"> イベント ID : 8 バイト 発行元イベントサーバ名 : 255 バイト プロダクト名 : 255 バイト メッセージ : 1,023 バイト 業務コンテンツ ID : 255 バイト
5	JP1 イベント関連づけファイルに記載できる行数	1,000 行
6	JP1/AO URL 出力プラグインで作成する場合の URL [*] の長さ	1,024 バイト

注※

UTF-8 で URL エンコードした文字列です。

表 C-11 アクセス権を設定するときの制限値

項番	項目	制限値
1	作成できるアクセス権グループの上限数	100
2	1 アクセス権グループに設定できるユーザまたはグループの上限数	64
3	1 業務コンテンツに設定できるアクセス権グループの数	10
4	1 業務コンテンツに設定できる JP1 資源グループの数	10

付録 D バージョンアップ時に確認が必要なプロパティ一覧

バージョンアップ前の製品が uCosminexus Navigation Platform なのか JP1/Integrated Management - Navigation Platform なのか Hitachi Navigation Platform なのかによって、バージョンアップ時に確認する必要があるプロパティは異なります。

付録 D.1 バージョンアップ時に確認が必要なプロパティ (uCosminexus Navigation Platform の場合)

バージョンアップ前の製品が次の場合に、確認が必要なプロパティを説明します。

- uCosminexus Navigation Platform
- uCosminexus Navigation Platform - User License
- uCosminexus Navigation Platform - Authoring License
- uCosminexus Navigation Developer

表の読み方

1. 「サポートしているバージョン」列に、次のどれかが記載されている行を確認します。

– (ハイフン)

バージョンアップ前の製品のバージョンと同じバージョン

バージョンアップ前の製品のバージョンよりも古いバージョン

2. 「変更があったバージョン」列が、次の条件に当てはまる行のプロパティ名と変更内容を確認します。

バージョンアップ前の製品のバージョンよりも新しいバージョン

表 D-1 バージョンアップ前後で違いがあるユーザセットアッププロパティ (uCosminexus Navigation Platform の場合)

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
1	–	09-50	ucnp.setup.server.ldap.directory.kind	追加
2	09-00 以前	09-50	ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.principal	デフォルト値変更 変更前：cn=Directory Manager 変更後：cn=user1, cn=Users, dc=hitachi, dc=jp
3	09-00 以前	09-50	ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.credentials	デフォルト値変更 変更前：directorymanager 変更後：password

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
4	09-00 以前	09-50	ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.basedn	デフォルト値変更 変更前： ou=people,o=hitachi,c=jp 変更後：cn=Users,dc=hitachi,dc=jp
5	09-00 以前	09-50	ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.attr.us erid	デフォルト値変更 変更前：uid 変更後：sAMAccountName
6	09-00 以前	09-50	ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.attr.pa ssword	デフォルト値変更 変更前：userPassword 変更後：unicodePwd
7	—	09-50	ucnp.setup.server.ldap.group.bas edn	追加
8	—	09-50	ucnp.setup.server.jp1auth.virtual .hostname	追加
9	09-00 以前	09-50	ucnp.setup.server.portal.manage r.shutdown.port	廃止
10	—	09-50	ucnp.setup.server.portal.manage r.rmi.naming.port	追加
11	—	09-50	ucnp.setup.server.portal.manage r.naming.port	追加
12	09-00 以前	09-50	ucnp.setup.server.portal.manage r.http.port	デフォルト値変更 変更前：38080 変更後：24710
13	09-00 以前	09-50	ucnp.setup.server.portal.manage r.ajp13.port	デフォルト値変更 変更前：38007 変更後：24711
14	—	09-60	ucnp.setup.server.jp1auth.virtual .hostname	追加
15	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.docb.security. admin	廃止 (システム管理者は ucnp.setup.server.system.admin. userids プロパティで指定する)
16	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.db.rdarea.dir	廃止 (RD エリアはナビゲーション プラ ットフォームインストールディレクト リ下に自動的に生成され、変更はで きない)

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
17	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.db.user.id	廃止
18	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.db.user.password	廃止
19	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.db.middle.pd_max_users	廃止
20	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.docb.process	廃止
21	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.docb.dbconnection.pool.count	廃止
22	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.docb.osagent.port	廃止
23	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.ejbsserver.name	廃止
24	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.name	廃止
25	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.mngsvr.webserver.connector.http.port	廃止
26	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.mngsvr.webserver.shutdown.port	廃止
27	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.mngsvr.webserver.connector.ajp13.port	廃止
28	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.com.cosminexus.mngsvr.management.user.id	廃止
29	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.com.cosminexus.mngsvr.management.user.password	廃止
30	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.websystem.name	廃止
31	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.ejbsserver.naming.port	廃止
32	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.connector.ajp13.max_threads	廃止
33	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.portal.trace.dir	廃止 (ポータル用トレースはナビゲーションプラットフォームインストール)

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
33	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.portal.trace.dir	ディレクトリ¥PP¥uCPF¥logs に出力され、出力先は変更できない)
34	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.ucnp.portalproject.path	廃止
35	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.com.cosminexus.mngsvr.management.port	廃止
36	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.adminagent.adapter.port	廃止
37	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.connector.redirect_https.port	廃止
38	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.db.port	デフォルト値変更 変更前：22200 変更後：24704
39	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.ejbsserver.http.port	デフォルト値変更 変更前：8080 変更後：24701
40	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.ejbsserver.rmi.naming.port	デフォルト値変更 変更前：23152 変更後：24702
41	09-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.connector.ajp13.port	デフォルト値変更 変更前：8007 変更後：24703
42	—	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.debug.enable	追加
43	—	10-00	ucnp.setup.server.cosminexus.debug.jdwp.port	追加
44	—	10-00	ucnp.setup.server.system.admin.userids	追加
45	—	10-00	ucnp.setup.server.portal.user.displayname	追加
46	10-00 以前	10-00	ucnp.setup.server.ldap.directory.kind	有効値変更 「OD」は指定できない。※
47	—	10-50	ucnp.setup.server.dashboard.storage.http.port	追加
48	—	10-50	ucnp.setup.server.dashboard.storage.transport.tcp.port	追加

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
49	—	10-50	ucnp.setup.server.dashboard.web.server.port	追加
50	—	10-50	ucnp.setup.server.dashboard.web.userid	追加
51	—	10-50	ucnp.setup.server.dashboard.web.password	追加

(凡例)

—：変更があったバージョンで追加されたため、該当なし

注※

Oracle Directory Server によるユーザ認証を利用したい場合は、弊社にお問い合わせください。

表 D-2 バージョンアップ前後で違いがあるユーザプロパティ (uCosminexus Navigation Platform の場合)

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
1	09-00 以前	09-50	ucnp.base.server.command.adminid	廃止
2	09-00 以前	09-50	ucnp.base.server.trace.size	デフォルト値変更 変更前：4096 変更後：32768
3	09-00 以前	09-50	ucnp.base.client.menu.frame.width	デフォルト値変更 変更前：190 変更後：250
4	09-00 以前	09-50	ucnp.base.client.flow.frame.width	デフォルト値変更 変更前：500 変更後：450
5	09-00 以前	09-50	ucnp.base.client.guide.frame.width	デフォルト値変更 変更前：500 変更後：540
6	—	09-50	ucnp.base.server.print.link.display	追加
7	09-00 以前	09-50	ucnp.base.client.operationlog.enable	デフォルト値変更 変更前：false 変更後：true
8	09-00 以前	09-50	ucnp.base.server.operationlog.size	デフォルト値変更 変更前：8192 変更後：10240

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
9	09-00 以前	09-50	ucnp.base.server.geturl.link.display	デフォルト値変更 変更前：false 変更後：true
10	09-00 以前	09-50	ucnp.base.client.back.button.width	デフォルト値変更 変更前：60 変更後：100
11	09-00 以前	09-50	ucnp.base.client.next.button.width	デフォルト値変更 変更前：60 変更後：130
12	09-00 以前	09-50	ucnp.base.client.complete.button.width	デフォルト値変更 変更前：60 変更後：130
13	09-00 以前	09-50	ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable	デフォルト値変更 変更前：false 変更後：true
14	—	09-60	ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.group	追加
15	—	09-60	ucnp.base.server.jp1auth.virtual.hostname	追加
16	—	09-60	ucnp.base.client.node.checkmark.position	追加
17	—	09-60	ucnp.base.client.flow.connector.color	追加
18	—	09-60	ucnp.base.client.auditlog.enable	追加
19	—	09-60	ucnp.base.server.auditlog.path	追加
20	—	09-60	ucnp.base.server.auditlog.backup.number	追加
21	—	09-60	ucnp.base.server.auditlog.size	追加
22	—	09-60	ucnp.base.server.auditlog.encoding	追加
23	—	09-60	ucnp.base.client.jp1imss.hostname	追加
24	—	09-60	ucnp.base.client.jp1imss.portnum	追加
25	—	09-60	ucnp.base.client.jp1ao.hostname	追加
26	—	09-60	ucnp.base.client.jp1ao.portnum	追加

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
27	—	09-60	ucnp.base.client.jp1ao.submittask.passwordfile.path	追加
28	—	09-60	ucnp.base.client.jp1ev.association.enable	追加
29	09-50	10-00	ucnp.base.server.command.legacy	廃止
30	09-50	10-00	ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.group	デフォルト値変更 変更前：UCNP 変更後：HNP
31	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.trace.path	廃止
32	09-00 以前	10-00	ucnp.base.client.frame.resize.target	デフォルト値変更 変更前：guide 変更後：flow
33	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.custom.login.main	デフォルト値変更 変更前：/ucnpBase/images/login.png 変更後：/ucnpBase/images/login.jpg
34	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.custom.login.background	デフォルト値変更 変更前：/ucnpBase/images/background.gif 変更後：/ucnpBase/images/background.jpg
35	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.custom.browser.title	デフォルト値変更 変更前：uCosminexus Navigation Platform 変更後：Navigation Platform
36	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.search.accesscontrol.enable	廃止
37	09-00 以前	10-00	ucnp.base.client.menu.group.enable	廃止
38	09-00 以前	10-00	ucnp.base.client.menu.group.default	デフォルト値変更 変更前：!editing 変更後：空文字
39	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.custom.menu	廃止
40	09-00 以前	10-00	ucnp.base.client.suspend.confirm.load.enable	廃止

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
41	09-00 以前	10-00	ucnp.base.client.erroritem.emphasis.regexp.enable	廃止
42	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.acl.group.type	廃止
43	09-00 以前	10-00	ucnp.base.client.contentsname.uniquecheck.enable	廃止
44	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.cosminexus.httpsd.documentroot.path	廃止
45	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.dropdown.csv.dir	廃止
46	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.operationlog.dateformat	廃止
47	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.operationlog.encoding	廃止
48	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.operationlog.format	廃止
49	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.operationlog.path	指定値変更 変更前：操作ログのファイルの絶対パス 変更後：操作ログの格納フォルダの絶対パス
50	—	10-00	ucnp.base.client.operation.editor.enable	追加
51	—	10-00	ucnp.base.server.system.admin.userids	追加
52	—	10-00	ucnp.base.server.search.word.numberstr.num	追加
53	—	10-00	ucnp.base.server.search.word.numberstr.length	追加
54	—	10-00	ucnp.base.server.search.abort.count	追加
55	—	10-00	ucnp.base.client.parts.fontsize	追加
56	—	10-00	ucnp.base.server.operationlog.ranking.num	追加
57	—	10-00	ucnp.base.client.node.transition.button.height	追加
58	—	10-00	ucnp.base.client.editor.name.display.type	追加

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
59	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.operationlog.backup.number	デフォルト値変更 変更前：16 変更後：40
60	09-00 以前	10-00	ucnp.base.server.operationlog.size	デフォルト値変更 変更前：10240 変更後：40960
61	09-60	10-10	ucnp.base.client.jp1ao.submittask.passwordfile.path	廃止
62	—	10-10	ucnp.base.client.jp1ao.https.enable	追加
63	—	10-10	ucnp.base.server.acl.defaultacl.name.japaneseonly	追加
64	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.1	追加
65	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.2	追加
66	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.3	追加
67	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.4	追加
68	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.5	追加
69	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.6	追加
70	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.7	追加
71	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.8	追加
72	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.9	追加
73	—	10-10	ucnp.base.client.timezone	追加
74	—	10-10	ucnp.base.client.timezone.display	追加
75	—	10-10	ucnp.base.client.dateformat	追加
76	—	10-10	ucnp.base.client.timeformat.hms	追加
77	—	10-10	ucnp.base.client.timeformat.hmsm	追加
78	—	10-10	ucnp.base.server.maintenance.enable	追加
79	—	10-10	ucnp.base.server.operationlog.ranking.user.num	追加
80	—	10-10	ucnp.base.server.operationlog.report.target	追加

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
81	09-60	10-11	ucnp.base.client.jp1ao.portnum	デフォルト値変更 変更前：23015 変更後：22015
82	－	10-50	ucnp.base.server.dashboard.link.display	追加

(凡例)

－：変更があったバージョンで追加されたため、該当なし

付録 D.2 バージョンアップ時に確認が必要なプロパティ (JP1/Integrated Management - Navigation Platform の場合)

表 D-3 バージョンアップ前後で違いがあるユーザセットアッププロパティ (JP1/Integrated Management - Navigation Platform の場合)

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
1	－	10-50	ucnp.setup.server.cosminexus.debug.enable	追加
2	－	10-50	ucnp.setup.server.cosminexus.debug.jdwp.port	追加
3	－	10-50	ucnp.setup.server.system.admin.userids	追加
4	10-00 以前	10-50	ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port	デフォルト値変更 変更前：24700 変更後：80
5	10-00 以前	10-50	ucnp.setup.server.docb.osagent.port	廃止
6	－	10-50	ucnp.setup.server.ldap.hostname	追加
7	－	10-50	ucnp.setup.server.ldap.port	追加
8	－	10-50	ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.principal	追加
9	－	10-50	ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.credentials	追加
10	－	10-50	ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.basedn	追加

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
11	－	10-50	ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.attr.userid	追加
12	－	10-50	ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.auth.ldap.attr.password	追加
13	－	10-50	ucnp.setup.server.ldap.group.basedn	追加
14	－	10-50	ucnp.setup.server.portal.manager.http.port	追加
15	－	10-50	ucnp.setup.server.portal.manager.ajp13.port	追加
16	－	10-50	ucnp.setup.server.portal.manager.rmi.naming.port	追加
17	－	10-50	ucnp.setup.server.portal.manager.naming.port	追加
18	－	10-50	ucnp.setup.server.portal.user.displayname	追加
19	10-00 以前	10-50	ucnp.setup.server.ldap.directory.kind	有効値変更 「LoginSkip」は指定できない。 「AD」および「PasswordSkip」が新規に指定できるようになった。
20	－	11-50	ucnp.setup.server.dashboard.storage.http.port	追加
21	－	11-50	ucnp.setup.server.dashboard.storage.transport.tcp.port	追加
22	－	11-50	ucnp.setup.server.dashboard.web.server.port	追加
23	－	11-50	ucnp.setup.server.dashboard.web.userid	追加
24	－	11-50	ucnp.setup.server.dashboard.web.password	追加

(凡例)

－：変更があったバージョンで追加されたため、該当なし

表 D-4 バージョンアップ前後で違いがあるユーザプロパティ (JP1/Integrated Management - Navigation Platform の場合)

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
1	—	10-10	ucnp.base.client.confirm.page.unload.enable	追加
2	—	10-10	ucnp.base.client.terminal.display	追加
3	—	10-10	ucnp.base.client.viewer.confirm.discardinput.enable	追加
4	—	10-10	ucnp.base.client.auditlog.enable	追加
5	—	10-10	ucnp.base.server.auditlog.path	追加
6	—	10-10	ucnp.base.server.auditlog.backup.number	追加
7	—	10-10	ucnp.base.server.auditlog.size	追加
8	—	10-10	ucnp.base.server.auditlog.encoding	追加
9	—	10-10	ucnp.base.client.jp1imss.hostname	追加
10	—	10-10	ucnp.base.client.jp1imss.portnum	追加
11	—	10-10	ucnp.base.client.jp1ao.hostname	追加
12	—	10-10	ucnp.base.client.jp1ao.portnum	追加
13	—	10-10	ucnp.base.client.jp1ao.submittask.passwordfile.path	追加
14	—	10-10	ucnp.base.client.jp1ev.association.enable	追加
15	10-00 以前	10-50	ucnp.base.server.jp1auth.legacy	廃止
16	10-00 以前	10-50	ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.group	デフォルト値変更 変更前：JP1_IMNP 変更後：HNP
17	10-00 以前	10-50	ucnp.base.client.frame.resize.target	デフォルト値変更 変更前：guide 変更後：flow
18	10-00 以前	10-50	ucnp.base.server.close.button.setting	デフォルト値変更 変更前：close_only 変更後：none

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
19	10-00 以前	10-50	ucnp.base.server.custom.browser.title	デフォルト値変更 変更前：JP1/Integrated Management - Navigation Platform 変更後：Navigation Platform
20	10-00 以前	10-50	ucnp.base.client.confirm.page.unload.enable	デフォルト値変更 変更前：false 変更後：true
21	10-00 以前	10-50	ucnp.base.client.menu.group.default	デフォルト値変更 変更前：!editing 変更後：空文字
22	10-00 以前	10-50	ucnp.base.client.terminal.display	デフォルト値変更 変更前：true 変更後：false
23	10-00 以前	10-50	ucnp.base.client.viewer.confirm.discardinput.enable	デフォルト値変更 変更前：false 変更後：true
24	10-00 以前	10-50	ucnp.base.client.erroritem.emphasis.regexp.enable	廃止
25	10-10	10-50	ucnp.base.client.jp1ev.association.enable	デフォルト値変更 変更前：true 変更後：false
26	10-00 以前	10-50	ucnp.base.server.fileupload.link.display	デフォルト値変更 変更前：all 変更後：admin
27	10-00 以前	10-50	ucnp.base.server.operationlog.dateformat	廃止
28	10-00 以前	10-50	ucnp.base.server.operationlog.encoding	廃止
29	10-00 以前	10-50	ucnp.base.server.operationlog.format	廃止
30	10-00 以前	10-50	ucnp.base.server.operationlog.path	指定内容の変更 変更前：操作ログのファイルの絶対パスを指定 変更後：操作ログの格納フォルダの絶対パスを指定
31	—	10-50	ucnp.base.client.editor.jp1plugin.toolpalette.display	追加

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
32	—	10-50	ucnp.base.client.suspend.enable	追加
33	—	10-50	ucnp.base.server.custom.login.background	追加
34	—	10-50	ucnp.base.server.custom.login.main	追加
35	—	10-50	ucnp.base.server.search.enable	追加
36	—	10-50	ucnp.base.server.trace.backup.number	追加
37	—	10-50	ucnp.base.server.trace.size	追加
38	—	10-50	ucnp.base.server.system.admin.usersids	追加
39	—	10-50	ucnp.base.server.search.word.nearstr.num	追加
40	—	10-50	ucnp.base.server.search.word.nearstr.length	追加
41	—	10-50	ucnp.base.server.search.abort.count	追加
42	—	10-50	ucnp.base.client.parts.fontsize	追加
43	—	10-50	ucnp.base.server.operationlog.ranking.num	追加
44	—	10-50	ucnp.base.client.node.transition.button.height	追加
45	—	10-50	ucnp.base.client.editor.name.display.type	追加
46	10-00 以前	10-50	ucnp.base.server.operationlog.backup.number	デフォルト値変更 変更前：16 変更後：40
47	10-00 以前	10-50	ucnp.base.server.operationlog.size	デフォルト値変更 変更前：10240 変更後：40960
48	10-00 以前	10-50	ucnp.base.server.custom.menu	廃止
49	10-10	11-00	ucnp.base.client.jp1ao.submittask.passwordfile.path	廃止
50	—	11-00	ucnp.base.client.jp1ao.https.enable	追加

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
51	－	11-00	ucnp.base.server.acl.defaultacl.name.japaneseonly	追加
52	－	11-00	ucnp.base.server.custom.link.1	追加
53	－	11-00	ucnp.base.server.custom.link.2	追加
54	－	11-00	ucnp.base.server.custom.link.3	追加
55	－	11-00	ucnp.base.server.custom.link.4	追加
56	－	11-00	ucnp.base.server.custom.link.5	追加
57	－	11-00	ucnp.base.server.custom.link.6	追加
58	－	11-00	ucnp.base.server.custom.link.7	追加
59	－	11-00	ucnp.base.server.custom.link.8	追加
60	－	11-00	ucnp.base.server.custom.link.9	追加
61	－	11-00	ucnp.base.client.timezone	追加
62	－	11-00	ucnp.base.client.timezone.display	追加
63	－	11-00	ucnp.base.client.dateformat	追加
64	－	11-00	ucnp.base.client.timeformat.hms	追加
65	－	11-00	ucnp.base.client.timeformat.hmsm	追加
66	－	11-00	ucnp.base.server.maintenance.enable	追加
67	－	11-00	ucnp.base.server.operationlog.ranking.user.num	追加
68	－	11-00	ucnp.base.server.operationlog.report.target	追加
69	11-00	11-01	ucnp.base.client.jp1ao.portnum	デフォルト値変更 変更前：23015 変更後：22015
70	－	11-50	ucnp.base.server.dashboard.link.display	追加

(凡例)

－：変更があったバージョンで追加されたため、該当なし

付録 D.3 バージョンアップ時に確認が必要なプロパティ (Hitachi Navigation Platform の場合)

表 D-5 バージョンアップ前後で違いがあるユーザプロパティ (Hitachi Navigation Platform の場合)

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
1	10-00	10-10	ucnp.base.client.jp1ao.submittask.passwordfile.path	廃止
2	—	10-10	ucnp.base.client.jp1ao.https.enable	追加
3	—	10-10	ucnp.base.server.acl.defaultacl.name.japaneseonly	追加
4	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.1	追加
5	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.2	追加
6	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.3	追加
7	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.4	追加
8	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.5	追加
9	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.6	追加
10	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.7	追加
11	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.8	追加
12	—	10-10	ucnp.base.server.custom.link.9	追加
13	—	10-10	ucnp.base.client.timezone	追加
14	—	10-10	ucnp.base.client.timezone.display	追加
15	—	10-10	ucnp.base.client.dateformat	追加
16	—	10-10	ucnp.base.client.timeformat.hms	追加
17	—	10-10	ucnp.base.client.timeformat.hmsm	追加
18	—	10-10	ucnp.base.server.maintenance.enable	追加
19	—	10-10	ucnp.base.server.operationlog.ranking.user.num	追加
20	—	10-10	ucnp.base.server.operationlog.report.target	追加

項番	サポートしているバージョン	変更があったバージョン	プロパティ名	変更内容
21	10-00	10-11	ucnp.base.client.jp1ao.portnum	デフォルト値変更 変更前：23015 変更後：22015
22	－	10-50	ucnp.base.server.dashboard.link. display	追加

(凡例)

－：変更があったバージョンで追加されたため、該当なし

付録 E このマニュアルの参考情報

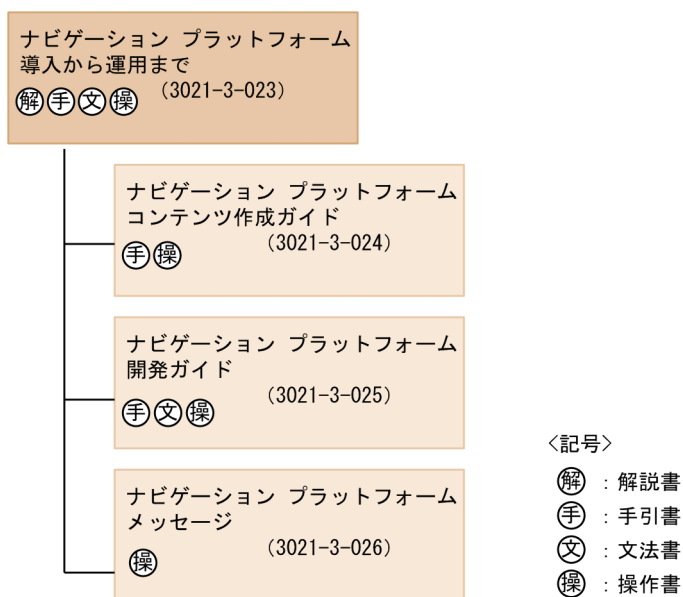
このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 E.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

(1) ナビゲーション プラットフォームのマニュアル

ナビゲーション プラットフォームのマニュアルを次に示します。なお、このマニュアルの本文中では「Hitachi Navigation Platform」を省略して表記しています。



- Hitachi Navigation Platform ナビゲーション プラットフォーム 導入から運用まで (3021-3-023)
このマニュアルです。ナビゲーション プラットフォームの概要、機能、構築、および運用について説明しています。
ナビゲーション プラットフォームの使用に当たっては、このマニュアルを最初にお読みください。
- Hitachi Navigation Platform ナビゲーション プラットフォーム コンテンツ作成ガイド (3021-3-024)
ナビゲーション プラットフォームを使用して業務コンテンツを作成、変更、削除したり、コンテンツのアクセス権を管理したりする方法について説明しています。
- Hitachi Navigation Platform ナビゲーション プラットフォーム 開発ガイド (3021-3-025)
ナビゲーション プラットフォームのプラグインを開発する方法について説明しています。
- Hitachi Navigation Platform ナビゲーション プラットフォーム メッセージ (3021-3-026)
ナビゲーション プラットフォームを使用しているときに出力されるメッセージについて説明しています。

(2) 関連ソフトウェアのマニュアル

ナビゲーション プラットフォームの関連ソフトウェアのマニュアルを次に示します。なお、このマニュアルの本文中では「JP1 Version 9」、「JP1 Version 10」、または「JP1 Version 11」を省略して表記しています。

- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R)用) (3020-3-S81)
- JP1 Version 10 JP1/Base 運用ガイド (3021-3-001)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド (3021-3-007)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド (3021-3-009)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3021-3-011)
- JP1 Version 10 JP1/Audit Management - Manager 構築・運用ガイド (3021-3-165)
- JP1 Version 11 JP1/Base 運用ガイド (3021-3-A01)
- JP1 Version 11 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド (3021-3-A07)
- JP1 Version 11 JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド (3021-3-A09)
- JP1 Version 11 JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3021-3-A11)
- JP1 Version 11 JP1/Audit Management - Manager 構築・運用ガイド (3021-3-A17)

付録 E.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記	正式名称
Cosminexus*	uCosminexus Primary Server Base
JP1/AO	JP1/Automatic Operation
JP1/IM	JP1/IM-M JP1/IM-V
JP1/IM-SS	JP1/Integrated Management - Service Support JP1/Service Support
Oracle Directory Server	Oracle Directory Server Enterprise Edition 11.0
インテル Corei5	インテル Corei5 プロセッサ
組み込みデータベース	HiRDB Embedded Server Version 8

注※

uCosminexus Navigation Platform について説明している場合は、「Cosminexus」は uCosminexus Application Server と uCosminexus Developer の総称です。

付録 E.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
EAR	Enterprise ARchive
J2EE	Java 2 Platform, Enterprise Edition
JAAS	Java Authentication and Authorization Service
JAR	Java ARchive
JIS	Japanese Industrial Standards
JSP	Java Server Pages
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
RMI	Remote Method Invocation
URI	Uniform Resource Identifier
URL	Uniform Resource Locator
UTC	Universal Time Coordinated
UTF	UCS Transformation Format

付録 E.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ $1,024$ バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

(英字)

JP1/AO

JP1/AO とは、JP1 製品の JP1/Automatic Operation の略です。高度化・複雑化するシステム運用を自動化するための製品です。

JP1/AO URL 出力プラグイン

JP1/AO の URL を取得して、業務コンテンツから JP1/AO のメイン画面または [サービス実行] ダイアログボックスにアクセスするために、ナビゲーション プラットフォームが提供しているプラグインです。

JP1/AO サービス実行プラグイン

業務コンテンツから JP1/AO のサービスを即時実行するために、ナビゲーション プラットフォームが提供しているプラグインです。

JP1/Base

イベントサービス機能を提供するプログラムです。ナビゲーション プラットフォームでは、ユーザ認証に JP1/Base を使用します。

JP1/IM-M

JP1/IM-M とは、JP1 製品の JP1/Integrated Management - Manager の略です。システム全体の一元的な監視と操作を実現し、システムを統合管理するためのプログラムです。なお、このマニュアルでは JP1/IM-M と JP1/IM-V を総称して JP1/IM と呼びます。

JP1/IM-SS

JP1/IM-SS とは、JP1 製品の JP1/Service Support および JP1/Integrated Management - Service Support の略です。ITIL (IT インフラストラクチャ・ライブラリ) の考えに基づき、IT サービス管理でのサービスサポートに沿った運用の負荷軽減、効率向上を目的として開発された製品です。

JP1/IM-SS URL 出力プラグイン

ナビゲーション プラットフォームが提供している、JP1/IM-SS の URL を取得するためのプラグインです。このプラグインを使うと、業務コンテンツから次の画面へアクセスできます。

- JP1/IM-SS の案件をプレビューする画面
- JP1/IM-SS の [案件編集] 画面

JP1/IM-V

JP1/IM-Vとは、JP1製品のJP1/Integrated Management - Viewの略です。JP1/IMでのシステム統合管理を実現するためのビューアー機能を提供するプログラムです。JP1/IM-Mに接続し、システムの監視や管理をします。

JP1 イベント情報出力プラグイン

JP1/IMまたはJP1/IM-SSが管理しているイベントIDやプロダクト名などのJP1イベント情報を表示するために、ナビゲーションプラットフォームが提供しているプラグインです。

JP1 イベント対処状況変更プラグイン

JP1/IMが管理しているJP1イベントの対処状況を変更するために、ナビゲーションプラットフォームが提供しているプラグインです。

JP1 連携プラグイン

JP1/IMやJP1/AOなどのJP1製品とデータをやり取りして、業務コンテンツと外部プログラムであるJP1製品を相互に連携するために、ナビゲーションプラットフォームが提供しているプラグインです。

Web サーバ

Webブラウザからのリクエスト受信、およびWebブラウザへのデータ送信に関連する処理を実行するサーバです。

(ア行)

アプリケーションサーバ

Webブラウザからのユーザの操作を処理し、データベースなどの業務システムに反映させるためのサーバです。

インポート

エクスポートされたデータを自環境に取り込むことです。

業務コンテンツ、およびアクセス権の設定情報をインポートできます。

エクスポート

業務コンテンツ、およびアクセス権の設定情報をZIP形式で出力することです。エクスポートしたデータは、ほかの環境にインポートできます。

(力行)

ガイド

業務コンテンツのうち、業務で実施する個々の作業の説明のことです。

ガイドパーツ

ガイドを作成するための部品です。[Guide] パレットから選択して、ガイド領域に配置します。

開発環境

プラグインを開発するための環境です。Hitachi Navigation Platform for Developers, または JP1/Navigation Platform for Developers が必要です。

業務コンテンツ

業務を遂行するために必要な情報のことです。業務コンテンツは、ナビゲーション プラットフォームの画面で作成、表示できます。

業務実行画面

業務コンテンツを利用して業務を実行するための画面です。

業務フロー

業務コンテンツのうち、業務の流れをフローチャート化した図のことです。

業務編集画面

ナビゲーション プラットフォームで、次の操作を実施するための画面です。

- 業務コンテンツの作成・変更・複製・削除
- 業務コンテンツの公開・非公開
- 入出力プラグインの関連づけ
- 業務コンテンツに対するアクセス権の設定

組み込みデータベース

このマニュアルでは、ナビゲーション プラットフォームに含まれている HiRDB Embedded Server Version 8 のことを指します。

公開版

一度でも公開されたことがある業務コンテンツのことです。

コンテンツ管理者

業務コンテンツに対して管理者のアクセス権を持つユーザのことです。

コンテンツ編集者

業務コンテンツに対して編集者のアクセス権を持つユーザのことです。

(サ行)

システムプラグイン

外部プログラムまたはガイドパーツ間の連携に必要なプラグインのうち、ナビゲーションプラットフォームが提供しているプラグインのことです。

実行環境

業務コンテンツを利用して業務を実行する際に、利用者のアクセス先となる環境です。Hitachi Navigation Platform または JP1/Integrated Management - Navigation Platform が必要です。

セットアップ

ナビゲーションプラットフォームのコマンドを使用したセットアップのことです。簡単な手順でナビゲーションプラットフォームをセットアップできます。

(タ行)

ターミナルノード

業務の開始または終了を表すノードです。業務フローの最初と最後に配置します。ナビゲーションプラットフォームの画面では、丸で表示されます。

中断再開プラグイン

利用者が業務の途中にほかの業務を参照したり、ログアウトしたりしても、一時保存した状態から業務を再開できるようにするために必要なプラグインです。

中断情報

中断再開プラグインを使用している環境で、利用者が画面操作を中断したときに、一時保存される情報です。画面操作を再開すると、中断情報が復元されます。

ディレクトリサーバ

LDAP 認証に必要なユーザ ID、パスワードなどのユーザ情報を管理するサーバです。ナビゲーションプラットフォームでは、Active Directory を使用できます。

データストアプラグイン

ガイドパーツ間でデータをやり取りするために、ナビゲーションプラットフォームが提供しているプラグインです。

(ナ行)

ナビゲーション プラットフォーム

Hitachi Navigation Platform, JP1/Integrated Management - Navigation Platform, Hitachi Navigation Platform for Developers, および JP1/Navigation Platform for Developers の総称です。

入出力プラグイン

ナビゲーション プラットフォームの画面に入力された情報を処理したり、画面に出力する情報を決定したりするためのプラグインです。入出力プラグインを使用すると、ガイドに入力された値の整合性をチェックしたり、外部プログラムへ出力したり、ログとして記録したりできます。

ノード

業務の工程を表す部品であり、業務フローに表示されます。ノードには、ターミナルノード、プロセスノード、および分岐合流ノードの3種類があります。

(ハ行)

パーツ

ナビゲーション プラットフォームの画面に配置する部品です。

プラグイン

ナビゲーション プラットフォームと外部プログラムとを連携したり、ナビゲーション プラットフォームの拡張機能を使用したりするためのユーザプログラムです。ナビゲーション プラットフォームでは、プラグインを開発するために必要なインタフェースを提供しています。

プラグインパーツ

業務コンテンツにプラグインを関連づけるための部品です。[Plugins] パレットから選択して、ガイド領域に配置します。

フローパーツ

業務フローを作成するための部品です。[Flow] パレットから選択して、フロー領域に配置します。

プロセスノード

業務の途中の工程を表すノードです。ターミナルノードの間には1個以上のプロセスノードが必要です。画面上では長方形で表示されます。

分岐合流ノード

業務の工程が分岐する場合に必要なノードです。ナビゲーション プラットフォームの画面では、ひし形で表示されます。

編集環境

業務コンテンツを作成、編集したり、業務コンテンツに対するアクセス権を設定したりするための環境です。Hitachi Navigation Platform または JP1/Integrated Management - Navigation Platform が必要です。

編集版

コンテンツ編集者が編集中または編集が完了した業務コンテンツのことです。

ポータル用設定ファイル

ナビゲーション プラットフォームに含まれる uCosminexus Portal Framework のファイルです。ディレクトリサーバ、およびデータベースサーバとの連携に必要な情報を定義します。

(ヤ行)

ユーザセットアッププロパティファイル

セットアップを実行する場合に、セットアップ情報を定義するファイルです。ディレクトリサーバとの連携に必要な情報やポート番号などを定義します。

ユーザプラグイン

ナビゲーション プラットフォームが提供する API を使用して、開発者が開発したプラグインのことです。

ユーザプロパティファイル

ナビゲーション プラットフォームの動作環境を定義するファイルです。ナビゲーション プラットフォームのシステム管理者権限を持つユーザ ID、画面の見映えに関する情報、トレース情報などを定義します。

ユーザメッセージプロパティファイル

業務実行画面で業務コンテンツを操作しているとき、または操作を終了するときなどに表示されるメッセージを定義するファイルです。

索引

数字

- 1 次資料〔トラブルシュート情報〕 337
- 1 次資料のファイル 322
- 2 次資料〔トラブルシュート情報〕 337
- 2 次資料のファイル 322

A

- Active Directory の接続パスワードを変更した場合の設定変更の流れ 152
- Active Directory のユーザ表示名の種別 226

C

- Cosminexus HTTP Server がリクエストを受け付けるポート番号 225

E

- Eclipse のリモートデバッグの設定有無 221

H

- Hitachi Navigation Platform 10-00 以降からバージョンアップする場合 79
- Hitachi Navigation Platform 10-00 より前からバージョンアップする場合 69
- HTML パーツで使用する CSS ファイルのパス 255
- HTML マニュアルのパス 246

I

- Internet Explorer 8〔注意事項〕 57
- Internet Explorer 9〔注意事項〕 57
- IPv4 64
- IP アドレスの変更手順 151
- IP アドレスを変更する手順 151

J

- J2EE サーバが利用する RMI レジストリのポート番号 224
- JAAS 対応ユーザ管理でのレジストリのベース DN 223

- JP1/AO URL 出力プラグイン〔用語解説〕 373
- JP1/AO サービス実行プラグイン〔用語解説〕 373
- JP1/AO の設定条件〔ほかの JP1 製品と連携するための設定〕 160
- JP1/AO〔用語解説〕 373
- JP1/Base の論理ホスト名 235
- JP1/Base〔用語解説〕 373
- JP1/IM の設定条件〔ほかの JP1 製品と連携するための設定〕 159
- JP1/IM-M〔用語解説〕 373
- JP1/IM-SS URL 出力プラグイン〔用語解説〕 373
- JP1/IM-SS のホスト名 268
- JP1/IM-SS〔用語解説〕 373
- JP1/IM-V〔用語解説〕 374
- JP1 イベント関連づけファイル (ucnp_jp1event_mapping.txt) 161
- JP1 イベント関連づけファイルの使用可否 270
- JP1 イベント情報関連づけファイルの形式 162
- JP1 イベント情報関連づけファイルの項目 161
- JP1 イベント情報出力プラグイン〔用語解説〕 374
- JP1 イベント情報と業務コンテンツを関連づける 161
- JP1 イベント情報の一致判定 162
- JP1 イベント対処状況変更プラグイン〔用語解説〕 374
- JP1 権限レベル 98
- JP1 資源グループ 97
- JP1 資源グループと JP1 権限レベルの組み合わせ 99
- JP1 ユーザの登録手順 101
- JP1 連携プラグイン〔用語解説〕 374
- JP1 連携プラグインを使用するためのユーザプロパティファイルの設定 160

K

- KDCZ00146-W のメッセージ例 276

N

- Navigation Platform 23
- Navigation Platform for Developers 23

npaclexport コマンド 283
NPANLTIME 229
npconvertoplog コマンド 287
NPDASHBOARDANLTIME 229
npdashboardremoveolddata コマンド 290
npdashboardsetstoragememory コマンド 292
npdatabackup コマンド 294
npdatarestore コマンド 297
npexport コマンド 299
npextendrdarea コマンド 305
npimport コマンド 306
nppdbbst コマンド 315
nppubexport コマンド 317
nppubimport コマンド 318
npreorg コマンド 319
npsetup コマンド 320
npsnapshotlog コマンド 322
npstart コマンド 326
npstop コマンド 327
npunsetup コマンド 328
npupdatesearchdata コマンド 329
NPUPDIVAL 228
npuploadoplog コマンド 332

P

[Plugins] パレットに表示するアイコン 273
Portal Manager がネーミングサービスとして利用する CORBA ネーミングサービスのポート番号 226
Portal Manager が利用する RMI レジストリのポート番号 226
Portal Manager の Web コンテナとの通信用ポート番号 225
Portal Manager の簡易 Web サーバのポート番号 225

U

ucnp_jp1event_mapping.txt 161
ucnp_label_user.properties 278
ucnp_message_user.properties 275
ucnp_service.ini 228

ucnp_service.ini [プロパティ一覧] 228
ucnp_setup_user.properties 218
ucnp_setup_user.properties [プロパティ一覧] 218
ucnp_user.properties 230
ucnp_user.properties [プロパティ一覧] 230
ucnp.base.client.auditlog.enable 265
ucnp.base.client.autoscroll 260
ucnp.base.client.back.button.width 270
ucnp.base.client.branch.button.width 271
ucnp.base.client.complete.button.width 271
ucnp.base.client.complete.button.window.close 261
ucnp.base.client.confirm.page.unload.enable 253
ucnp.base.client.currentnode.color 257
ucnp.base.client.dateformat 251
ucnp.base.client.directjump.design 259
ucnp.base.client.directjump.enable 256
ucnp.base.client.editingarea.height 239
ucnp.base.client.editingarea.width 238
ucnp.base.client.editor.jp1plugin.toolpalette.display 273
ucnp.base.client.editor.name.display.type 273
ucnp.base.client.erroritem.emphasis.border.color 262
ucnp.base.client.flow.connector.color 260
ucnp.base.client.flow.frame.visible 255
ucnp.base.client.flow.frame.width 237
ucnp.base.client.frame.resize.target 237
ucnp.base.client.grid.size 272
ucnp.base.client.guide.frame.width 238
ucnp.base.client.jp1ao.hostname 268
ucnp.base.client.jp1ao.https.enable 269
ucnp.base.client.jp1ao.portnum 269
ucnp.base.client.jp1ev.association.enable 270
ucnp.base.client.jp1imss.hostname 268
ucnp.base.client.jp1imss.portnum 268
ucnp.base.client.menu.frame.visible 254
ucnp.base.client.menu.frame.width 237

ucnp.base.client.menu.group.default 254
ucnp.base.client.menu.maxnum 274
ucnp.base.client.next.button.width 270
ucnp.base.client.node.checkmark.position 259
ucnp.base.client.node.color 258
ucnp.base.client.node.transition.button.height
271
ucnp.base.client.operation.editor.enable 272
ucnp.base.client.operationlog.enable 263
ucnp.base.client.parts.fontSize 253
ucnp.base.client.suspend.enable 262
ucnp.base.client.terminal.display 256
ucnp.base.client.timeformat.hms 252
ucnp.base.client.timeformat.hmsm 252
ucnp.base.client.timezone 250
ucnp.base.client.timezone.display 251
ucnp.base.client.undo.max.count 273
ucnp.base.client.viewer.confirm.discardinput.en
able 261
ucnp.base.server.acl.defaultacl.name.japanese
only 236
ucnp.base.server.auditlog.backup.number 266
ucnp.base.server.auditlog.path 266
ucnp.base.server.auditlog.size 266
ucnp.base.server.close.button.setting 240
ucnp.base.server.custom.browser.title 246
ucnp.base.server.custom.head.logo 241
ucnp.base.server.custom.help 246
ucnp.base.server.custom.link.[N] 247
ucnp.base.server.custom.login.background 244
ucnp.base.server.custom.login.main 242
ucnp.base.server.custom.login.string 245
ucnp.base.server.dashboard.link.display 268
ucnp.base.server.fileupload.link.display 273
ucnp.base.server.geturl.link.display 267
ucnp.base.server.htmlpart.css 255
ucnp.base.server.jp1auth.system.resource.grou
p 235
ucnp.base.server.jp1auth.virtual.hostname 235
ucnp.base.server.keeppsession.interval 236
ucnp.base.server.logoutbutton.display 239
ucnp.base.server.maintenance.enable 253
ucnp.base.server.operationlog.backup.number
263
ucnp.base.server.operationlog.path 263
ucnp.base.server.operationlog.ranking.num 265
ucnp.base.server.operationlog.ranking.user.nu
m 265
ucnp.base.server.operationlog.report.target 267
ucnp.base.server.operationlog.size 264
ucnp.base.server.operationlog.user.analyze.info
264
ucnp.base.server.print.link.display 241
ucnp.base.server.search.abort.count 250
ucnp.base.server.search.enable 248
ucnp.base.server.search.word.nearstr.length
249
ucnp.base.server.search.word.nearstr.num 249
ucnp.base.server.system.admin.userids 234
ucnp.base.server.trace.backup.number 236
ucnp.base.server.trace.size 236
ucnp.setup.server.cosminexus.debug.enable
221
ucnp.setup.server.cosminexus.debug.jdwp.port
221
ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.http.p
ort 224
ucnp.setup.server.cosminexus.ejbserver.rmi.na
ming.port 224
ucnp.setup.server.cosminexus.hws.http.port
225
ucnp.setup.server.cosminexus.webserver.conne
ctor.ajp13.port 225
ucnp.setup.server.dashboard.storage.http.port
226
ucnp.setup.server.dashboard.storage.transport.
tcp.port 227
ucnp.setup.server.dashboard.web.password
227
ucnp.setup.server.dashboard.web.server.port
227

ucnp.setup.server.dashboard.web.userid 227
ucnp.setup.server.db.port 224
ucnp.setup.server.jp1auth.virtual.hostname 220
ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.
auth.ldap.attr.password 223
ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.
auth.ldap.attr.userid 223
ucnp.setup.server.ldap.com.cosminexus.admin.
auth.ldap.basedn 223
ucnp.setup.server.ldap.directory.kind 220
ucnp.setup.server.ldap.group.basedn 224
ucnp.setup.server.ldap.hostname 222
ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.cre-
dentials 223
ucnp.setup.server.ldap.java.naming.security.pri-
ncipal 222
ucnp.setup.server.ldap.port 222
ucnp.setup.server.portal.manager.ajp13.port
225
ucnp.setup.server.portal.manager.http.port 225
ucnp.setup.server.portal.manager.naming.port
226
ucnp.setup.server.portal.manager.rmi.naming.p
ort 226
ucnp.setup.server.portal.user.displayname 226
ucnp.setup.server.system.admin.userids 221
uCosminexus Portal Framework 設定の変更手順
(Portal Manager で設定する場合) 152
uCosminexus Portal Framework 設定の変更手順
(設定ファイルで設定する場合) 154
URL 32
URL [カスタム画面にアクセスする場合] 34
URL [業務実行画面にアクセスする場合] 32
URL [業務編集画面にアクセスする場合] 33

W

Web サーバとの通信に使用するポート番号 225
Web サーバのディレクトリに直接静的ファイルを格
納する場合のファイル管理 210
Web サーバ [用語解説] 374
Web ブラウザ 55

Web ブラウザ動作 [[完了] ボタンをクリックしたと
き] 261
Web ブラウザのウィンドウサイズ変更時、およびメ
ニュー領域の折りたたみ時に幅を変更する領域 237
Web ブラウザのタイトルバーおよびタブ名の文字列
246
Windows サービス 114

あ

空き容量 [インストールディレクトリ] 64
空き容量 [バックアップ先ディレクトリ] 117
アクセス権グループ 174
アクセス権グループのエクスポート [コマンド] 283
アクセス権グループのエクスポートとインポート 191
アクセス権グループの作成例 192
アクセス権グループの定義内容を変更する手順 187
アクセス権グループを削除する手順 189
アクセス権グループを作成する手順 184
[アクセス権限] 画面の項目 (ディレクトリサーバに
よるユーザ認証を利用している場合) 177
アクセス権設定時の注意事項 (JP1/Base によるユー
ザ認証を利用している場合) 182
アクセス権設定時の注意事項 (ディレクトリサーバに
よるユーザ認証を利用している場合) 176
アクセス権の種別と実行できる操作 (JP1/Base によ
るユーザ認証を利用している場合) 181
アクセス権の種別と実行できる操作 (ディレクトリ
サーバによるユーザ認証を利用している場合) 174
アクセス権の種別と設定範囲 (JP1/Base によるユー
ザ認証を利用している場合) 181
アクセス権の種別と設定範囲 (ディレクトリサーバに
よるユーザ認証を利用している場合) 174
アクティブスクリプト 56
アプリケーションサーバ [用語解説] 374
アンインストール 92
アンインストール [ナビゲーション プラットフォー
ム] 92
アンセットアップ [コマンド] 328
アンセットアップ手順 107
アンセットアップ前の注意点 106

い

- 色を指定 262
- 印刷機能の使用有無 241
- インストール [JP1/Base] 97
- インストール, セットアップ中に発生するトラブル 335
- インストール [ナビゲーション プラットフォーム] 64
- インストール前に確認すること 64
- インポート 195
- インポート [コマンド] 306
- インポート [用語解説] 374

う

- 運用開始後に発生するトラブル 337
- 運用 [業務コンテンツ] 165
- 運用 [ナビゲーション プラットフォーム] 111

え

- エクスポート 194
- エクスポート [コマンド] 299
- エクスポート [用語解説] 374
- エスケープシーケンスの指定 216
- エラーのパーツを強調する枠の色 262

か

- 解析情報削除 [コマンド] 290
- ガイド 21
- ガイドパーツ [用語解説] 375
- ガイド [用語解説] 375
- ガイド領域に表示中のプロセスノードの色 257
- ガイド領域の幅 238
- 開発環境 23
- 開発環境から受け取るファイル 196
- 開発環境で作成したファイルの適用 196
- 開発環境で使用する製品 23
- 開発環境の Eclipse でリモートデバッグする際の待ち受けポート番号 221
- 開発環境 [用語解説] 375
- 外部プログラムとの連携 40

概要 19

- カスタマイズ 212
- 画面などに表示する日時項目の時刻フォーマット 252
- 画面などに表示する日時項目のタイムゾーン 250
- 画面などに表示する日時項目の日付フォーマット 251
- 画面のカスタマイズ 211
- 画面の遷移または画面を閉じるときの確認ダイアログの表示有無 253
- 簡易 Web サーバのポート番号 224
- 環境退避 [コマンド] 294
- 環境復元 [コマンド] 297
- 監査ログ 141
- 監査ログが出力されるタイミング 143
- 監査ログに出力される項目 141
- 監査ログの最大面数 266
- 監査ログの出力形式と出力例 144
- 監査ログの出力先 266
- 監査ログの使用有無 265
- 監査ログのファイルサイズの上限值 266
- 監査ログのファイル名 266
- 監査ログの見積もり 145
- 監査ログを取得するための設定 141
- 関連リンク 30

き

- 起動 112
- 起動 [コマンド] 326
- 起動順序定義ファイル 102
- 機能 28
- 旧バージョンのアクセス権との互換性 177
- 業務コンテンツ 21
- 業務コンテンツで使用する静的ファイルの管理 209
- 業務コンテンツのアクセス管理の流れ (ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合) 184
- 業務コンテンツのインポート [コマンド] 306
- 業務コンテンツのエクスポート [コマンド] 299
- 業務コンテンツのエクスポートとインポート 194
- 業務コンテンツの最大数 274
- 業務コンテンツの作成から運用までに必要な作業 166

業務コンテンツの操作ログの運用 128
業務コンテンツの利用と作成 29
業務コンテンツへのアクセス権の設定 (JP1/Base によるユーザ認証を利用している場合) 181
業務コンテンツへのアクセス権の設定 (ディレクトリサーバによるユーザ認証を利用している場合) 173
業務コンテンツ [用語解説] 375
業務コンテンツをエクスポートまたはインポートする場合の注意事項 210
業務実行画面 29
業務実行画面でできること 29
業務実行画面にアクセスするための基本 URL 32
業務実行画面のカスタマイズ 30
業務実行画面のヘッダ領域の [URL 取得] メニューの表示有無 267
業務実行画面のボタンの高さ 271
業務実行画面の文字サイズのシステム設定値 253
業務実行画面 [用語解説] 375
業務フロー 21
業務フローの直接遷移 256
業務フロー [用語解説] 375
業務フロー領域とガイド領域の高さの最大値 239
業務フロー領域とガイド領域の幅の最大値 238
業務フロー領域の関連線の色 260
業務フロー領域の自動スクロール可否 260
業務フロー領域の幅 237
業務フロー領域の表示有無 255
業務編集画面 29
業務編集画面から静的ファイルを格納する場合のファイル管理 209
業務編集画面でできること 31
業務編集画面にアクセスするための基本 URL 33
業務編集画面のグリッド間隔 272
業務編集画面の表示有無 272
業務編集画面 [用語解説] 375

<

組み込みデータベース [用語解説] 375

け

検索機能の使用有無 248
検索の対象となる項目 342
検索ヒット件数の最大値 250
検索用データの更新 208
検索用データの更新間隔 228
検索用データの更新 [コマンド] 329
限定コード 298

こ

公開版業務コンテンツのインポート [コマンド] 318
公開版業務コンテンツのエクスポート [コマンド] 317
公開版 [用語解説] 375
更新対象の項目 207
コマンド 280
コマンド一覧 281
コマンドの概要 281
コマンドを実行してナビゲーション プラットフォーム (システム) を起動する 112
コマンドを実行してナビゲーション プラットフォーム (システム) を停止する 113
コンテンツ管理者 98, 174
コンテンツ管理者 [用語解説] 375
コンテンツ編集者 98, 174
コンテンツ編集者の名前の表示有無 273
コンテンツ編集者 [用語解説] 376

さ

サービス起動順序 102
サービスプロパティファイル (ucnp_service.ini) のプロパティ一覧 228
サービスプロパティファイルの格納先 228
サービスプロパティファイルの詳細 228
サービスプロパティファイルの設定 [ucnp_service.ini] 228
サイズ [監査ログ] 144
作業の流れ 24

し

- システム管理者 ID [ユーザセットアッププロパティファイル] 221
- システム管理者の ID 234
- システム管理者の変更 156
- システム構成 47
- システム構成の検討 47
- システム構成例 48
- システム構築の前提条件 53
- システム全体の JP1 資源グループ名 235
- システムの起動と停止 112
- システムの見積もり 60
- システムフォントのサイズ 54
- システムプラグイン 40
- システムプラグイン [用語解説] 376
- 実行環境 23
- 実行環境で使用する製品 23
- 実行環境 [用語解説] 376
- 修正パッチ 91
- 修正パッチの適用手順 91
- 出力先 [監査ログ] 144
- 所属グループ情報のベース DN 224
- 新規インストール手順 65

す

- スクロール 260
- ストレージメモリ設定変更 [コマンド] 292

せ

- 制限値 347
- 製品体系 23
- セットアップ 94
- セットアップが完了してから運用を開始するまでに必要な作業 [開発環境で開発したプラグインやカスタム画面を使用しない場合] 166
- セットアップが完了してから運用を開始するまでに必要な作業 [開発環境で開発したプラグインやカスタム画面を使用する場合] 169
- セットアップ完了後 320

セットアップ後に起動エラーが発生する場合の対処 335

- セットアップ後にホスト名を変更する 150
- セットアップ後にユーザ認証を導入する手順 109
- セットアップ後の作業の流れ 108
- セットアップ [コマンド] 320
- セットアップ準備 [Active Directory によるユーザ認証を利用する場合] 96
- セットアップ準備 [JP1/Base によるユーザ認証を利用する場合] 97
- セットアップ手順 103
- セットアップ前に確認すること 95
- セットアップまでの流れ 46
- セットアップ [用語解説] 376
- 選択状態のプロセスノードの色 257

そ

- 操作ログ 128
- 操作ログ機能の使用有無 263
- 操作ログのアップロード 138
- 操作ログのアップロード [コマンド] 332
- 操作ログの解析時刻 229
- 操作ログの解析情報の収集に失敗した場合の対処 338
- 操作ログの解析情報の定期的な削除 138
- 操作ログの解析にダッシュボード機能を利用する 135
- 操作ログの最大面数 263
- 操作ログの出力項目の設定 264
- 操作ログの出力先 263
- 操作ログの出力先, 面数, サイズ 133
- 操作ログのダッシュボード表示リンクの表示条件 268
- 操作ログの内容 129
- 操作ログのファイルサイズの上限值 264
- 操作ログのファイル容量の見積もり 60
- 操作ログファイル名変更 287
- 操作ログをダッシュボード機能で解析する時刻 229

た

- ターミナルノードの表示有無 256
- ターミナルノード [用語解説] 376

ダッシュボード Web サービスの HTTP ポート番号 227
ダッシュボードアクセスユーザのパスワード 227
ダッシュボードアクセスユーザのユーザ ID 227
ダッシュボード機能を利用するための設定 135
ダッシュボード機能を利用するときのメモリ容量の見積もり 136
ダッシュボード機能を利用するユーザの管理 136
ダッシュボード機能を利用中に発生するトラブル 338
ダッシュボードサーバの起動および停止 137
ダッシュボードサーバの起動または停止に失敗した場合の対処 338
ダッシュボードサーバのストレージサービスに必要なメモリ容量の変更 139
ダッシュボードストレージサービスの HTTP ポート番号 226
ダッシュボードストレージサービスのノード間通信のポート番号 227

ち

注意事項 [Web ブラウザ操作時] 56
注意事項 [全コマンド共通] 282
中断再開プラグインの使用有無 262
中断再開プラグイン [用語解説] 376
中断再開プラグインを使用する場合の容量の見積もり 62
中断情報 44
中断情報の運用 148
中断情報の管理単位 62
中断情報の再見積もり 148
中断情報の削除 149
中断情報 [用語解説] 376
直接遷移できるプロセスノードのデザイン 259

て

停止 113
停止 [コマンド] 327
ディレクトリ構成 66
ディレクトリサーバにアクセスする際の認証者の識別子 222

ディレクトリサーバにアクセスする際のパスワード 223
ディレクトリサーバのポート番号 222
ディレクトリサーバのホスト名 222
ディレクトリサーバ [用語解説] 376
データストアプラグイン [用語解説] 376
データベースサーバのポート番号 224
データベースサーバの容量の見積もり 60
データベース再編成 319
データベースの運用 125
データベースの拡張 126
データベースの拡張 [コマンド] 305
データベースの再編成 126
データベースの利用状況確認 [コマンド] 315
データベースの利用状況の確認 126
デフォルトのグループ名 254

と

統合ユーザ管理のコンフィグレーションファイル (ua.conf) の変更手順 152
同時にログインしているユーザ数を確認する 164
導入から運用までの作業の概要 24
特長 20
トラブルシューティング 334
トラブルシュート情報 (1 次資料) 322
トラブルシュート情報 (2 次資料) 324
トラブルシュート情報の収集 [コマンド] 322
トレースファイルの最大面数 236
トレースファイルの出力先 340
トレースファイルのファイルサイズの上限值 236

な

ナビゲーション プラットフォーム (システム) を起動または停止するための Windows サービス 114
ナビゲーション プラットフォームインストールディレクトリ 67
ナビゲーション プラットフォームで使用するマシンの推奨マシンスペック 53
ナビゲーション プラットフォームで利用できる Web ブラウザ 55

ナビゲーション プラットフォームで使用できるユーザ認証の種類 54

ナビゲーション プラットフォームとは 20

ナビゲーション プラットフォームにログインするための ID とパスワード 38

ナビゲーション プラットフォームの画面にアクセスするための URL 32

ナビゲーション プラットフォームの環境ごとの作業内容 26

ナビゲーション プラットフォームのセットアップの準備 45

ナビゲーション プラットフォームのバージョンアップ 68

ナビゲーション プラットフォーム [用語解説] 377

ナビゲーション プラットフォームを呼び出すための URL 163

に

入出力プラグイン 40

入出力プラグイン [用語解説] 377

入力情報の破棄確認ダイアログの表示有無 261

の

ノード [用語解説] 377

は

バージョン 298

バージョンアップ後に確認すること 77

バージョンアップできる製品 68

バージョンアップできるデータ 70, 80

バージョンアップ手順 72, 81

バージョンアップの対象となる製品 [Hitachi Navigation Platform 10-00 以降からのバージョンアップ] 79

バージョンアップの対象となる製品 [Hitachi Navigation Platform 10-00 より前からのバージョンアップ] 69

バージョンアップ前に確認すること 69, 80

パーツ [用語解説] 377

パスワード [ディレクトリサーバ] 223

バックアップ先ディレクトリ 294

バックアップするタイミングとデータ 116

パラメタ [基本 URL に指定する場合] 35

ひ

非選択状態/直接遷移可能状態のプロセスノードの色 258

ヒットした検索ワードの前後文字列の表示文字数 249

標準アクセス権限とは 175

標準アクセス権限の名称について, Hitachi Navigation Platform 10-00 以前との互換性設定 236

ふ

ファイアウォールでブロックされているというメッセージが表示された場合の対処 335

ファイアウォールの通過方向 346

[ファイル管理/登録] メニューの表示有無 273

フォントのサイズ 54

複数の実行環境の操作ログ解析結果をまとめて表示する 134

複数ヒットした検索ワードの表示個数の最大値 249

[プラグインパーツ更新] 画面 (更新処理完了) の項目 205

[プラグインパーツ更新] 画面 (更新処理中) の項目 204

[プラグインパーツ更新] 画面 (更新対象の選択) の項目 203

プラグインパーツ [用語解説] 377

プラグインやカスタム画面を使用しない場合に必要な作業 166

プラグインやカスタム画面を使用する場合に必要な作業 169

プラグイン [用語解説] 377

フローパーツ [用語解説] 377

プログラムと機能 [Windows のコントロールパネル] 92

プロセスノードに表示するチェックマークの位置 259

プロセスノード [用語解説] 377

プロパティ 213

プロパティファイル 214

プロパティファイルの記述形式 215

プロパティファイルを記述する際の注意事項（サービスプロパティファイル以外の場合） 215

プロパティファイルを記述する際の注意事項（サービスプロパティファイルの場合） 215

プロパティファイルを編集する 158

分岐合流ノード〔用語解説〕 378

へ

ヘッダ領域のタイムゾーン表示有無 251

ヘッダ領域の〔閉じる〕ボタンの表示有無 240

ヘッダ領域の〔ログアウト〕ボタンの表示有無 239

ヘッダ領域のロゴ画像のパス 241

編集環境 23

編集環境で使用する製品 23

編集環境〔用語解説〕 378

編集版〔用語解説〕 378

ほ

ポータル用設定ファイル〔用語解説〕 378

ポート番号 345

ポート番号〔簡易 Web サーバ用〕 224

ポート番号〔ディレクトリサーバ〕 222

ポート番号〔データベース〕 224

ほかの JP1 製品と連携するための設定 159

ホスト名〔ディレクトリサーバ〕 222

ホスト名を変更した場合 150

ボタンの幅〔〔完了〕ボタン〕 271

ボタンの幅〔〔次へ〕ボタン〕 270

ボタンの幅〔〔戻る〕ボタン〕 270

ボタンの横幅〔分岐合流ノードを経由して次のノードへ遷移するためのボタン〕 271

ま

マシンスペック 53

マニュアル〔関連ソフトウェア〕 371

マニュアル〔ナビゲーションプラットフォーム〕 370

み

見積もり 60

め

メニュー領域の幅 237

メニュー領域の表示有無 254

面数〔監査ログ〕 144

メンテナンス機能の可否 253

も

文字サイズ〔Web ブラウザ〕 56

〔元に戻す〕ボタンの対象操作履歴の最大保持数 273

ゆ

ユーザセットアッププロパティファイル (ucnp_setup_user.properties) のプロパティ一覧 218

ユーザセットアッププロパティファイルの格納先 219

ユーザセットアッププロパティファイルの記述例 220

ユーザセットアッププロパティファイルの設定〔ucnp_setup_user.properties〕 218

ユーザセットアッププロパティファイルのプロパティ詳細 220

ユーザセットアッププロパティファイル〔用語解説〕 378

ユーザ認証の種別 220

ユーザ認証用の論理ホストの名称 220

ユーザのパスワードを示す属性名 223

ユーザのログイン ID を示す属性名 223

ユーザプラグイン 42

ユーザプラグイン（入出力）の更新 202

ユーザプラグイン（入出力）を更新する 202

ユーザプラグイン〔用語解説〕 378

ユーザプロパティファイル (ucnp_user.properties) のプロパティ一覧 230

ユーザプロパティファイルの格納先 234

ユーザプロパティファイルの設定〔ucnp_user.properties〕 230

ユーザプロパティファイルのプロパティ詳細 234

ユーザプロパティファイル〔用語解説〕 378

ユーザメッセージプロパティファイル (ucnp_message_user.properties) の設定 275

ユーザメッセージプロパティファイルの格納先 275

- ユーザメッセージプロパティファイルの記述例 276
- ユーザメッセージプロパティファイル〔用語解説〕
378
- ユーザラベルプロパティファイル
(ucnp_label_user.properties) の設定 278
- ユーザラベルプロパティファイルの格納先 278
- ユーザラベルプロパティファイルの記述例 278

り

- リクエスト発信間隔 236
- リストアするタイミングとデータ 118
- リビジョン 298
- リモートインストール 65
- リンク 1~9 メニューに表示するリンクのパス 247

れ

- レポート画面に解析結果を表示する業務コンテンツ数 265
- レポート画面に解析結果を表示するユーザ数
265
- レポート画面の解析対象の設定 267
- 連携先の JP1/AO が HTTPS 環境かどうか 269
- 連携先の JP1/AO のポート番号 269
- 連携先の JP1/AO のホスト名 268
- 連携先の JP1/IM-SS のポート番号 268

ろ

- ログイン画面に表示する文字列 245
- ログイン画面の背景画像のパス 244
- ログイン画面のメイン画像のパス 242